

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第94集

# 五庵II遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査

(財) 岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター

正 誤 表

ページ	行	誤	正
3	14	<u>投影</u> 図版	<u>拓影</u> 図版
3	22	<u>投影</u> 図	<u>拓影</u> 図
21	14	<u>IV 15</u> 住居跡	<u>IV F 15</u> 住居跡
64		III B 12 <u>住状</u> 遺構	III B 12 <u>住居状</u> 遺構
		III G 12 <u>住状</u> 遺構	III G 12 <u>住居状</u> 遺構
85	11	「五庵 <u>  </u> 遺跡発掘調査報告書」	「五庵 <u>I</u> 遺跡発掘調査報告書」
124	27	<u>IV F 15</u> 住居址	<u>IV F 15</u> 住居跡
177	1	<u>穀粒計測表</u> (2)	<u>穀粒計測表</u> (2)
178	1	<u>穀粒計測表</u> (3)	<u>穀粒計測表</u> (3)

# 五庵 II 遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査

# 序

本県は遺跡の宝庫といわれるほど、縄文時代文化を中心とする数多くの埋蔵文化財包蔵地を有しております。これら先人たちの残した文化財を保護し、保存していくことは我々県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本県は広大な面積を有し、その大部分が山地であります。現代生活を豊かにし、快適な生活をおくるための地域開発、特にもその基幹となる道路など交通網整備は、県民の切実な願いでもあります。

このように、保護保存と開発という相反する目的を有する事業の調和のとれた行政施策が今日的課題となってきております。

当文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとって参りました。

本報告書は、東北縦貫自動車道八戸線建設に伴う関連遺跡の発掘調査として昭和59年度に行った浄法寺町五庵Ⅱ遺跡の調査結果をまとめたものであります。

調査地のうち、丘陵部からは中・近世の竪穴住居址や掘立柱建物のもと思われる柱穴など多教発見されました。この丘陵部は谷を隔てて中世城館と対峙しており、陶磁器片や古銭・漆器製作関係遺物・武具など中・近世のもと思われる遺物が出土しております。中世城館との関連や浄法寺町の特産品である漆器製作など、当地方の歴史解明の貴重な資料になるものと考えられます。

この報告書が広く活用され、斯学の発展と埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後に、これまでの発掘調査や報告書作成に御援助、御協力を賜りました日本道路公団仙台建設局一戸工事事務所、浄法寺町教育委員会をはじめ関係各位に心から感謝申し上げますと共に今後の御指導、御協力をお願いいたします。

昭和60年9月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 中 村 直

## 例 言

1. 本報告書は、岩手県二戸郡浄法寺町大字駒ヶ嶺字五庵地内に所在する五庵II遺跡の発掘調査の結果を集録したものである。
2. 本遺跡の調査は、東北縦貫自動車道川口・八戸線建設に伴い、日本道路公団の委託を受け、(財)岩手県埋蔵文化財センターが記録保存を目的として行った緊急発掘調査である。
3. 調査対象面積は6,420㎡であり、野外調査は、昭和59年4月20～同年8月12日にわたって行われたものである。
4. 発掘調査の結果、検出された遺構は、竪穴住居跡21(古代1・中近世20)、掘立柱建物跡1、柱穴約380、土抗44、竪穴住居跡状遺構2、焼土遺構1である。
5. 出土した遺物は、以下のとおりである。
  - 〈原始時代〉 土器、石器、石製品 〈古代〉 土器
  - 〈中～近世〉 陶磁器、古銭、鉄器、鉄製品、銅製品、石器、石製品、漆器製作にかかわる遺物、鹿の角、貝殻、穀物等
6. 調査および本報告書で使用した地図類は、国土地理院の5万分の1、2万5千分の1の地形図、日本道路公団仙台建設局八戸工事事務所作成の千分の1の平面図および北上奥羽山系開発室作成の5千分の1の地形図等である。
7. 遺構配置図におけるグリッド設定は、日本道路公団作成の基準杭S T A 84+40 ( $X = 17535.0738 \cdot Y = 25354.5979 \cdot L = 248.776\text{m}$ )とS T A 84+80 ( $X = 17559.7576 \cdot Y = 25386.0711 \cdot L = 252.820\text{m}$ )を直線で結び、これを基準線として区画した。また、方位は磁北を示すが、グリッド設定の南一北軸線は約50°西に偏している。
8. 野外調査および室内整理は、大原一則・中村良一両専門調査員があたり、本報告書の執筆については、「1. 調査に至る経過」は近藤宗光、他は大原一則が担当した。
9. 各種鑑定等に当たっては、下記の方々に依頼した。
  - 陶磁器 井上喜久男氏 (愛知県陶磁資料館学芸員)
  - 石 質 佐藤二郎氏 (岩手県立大船渡農業高校教諭)
  - 漆 器 佐藤基三氏 (浄法寺町教育委員会)
  - 穀 物 佐藤敏也氏 (国分寺市文化財専門委員)
  - 火山灰 井上克弘氏 (岩手大学農学部助教授)
10. 野外調査にあたっては、浄法寺町役場、当町教育委員会および堀口慶四郎氏をはじめ地元の方々のご協力を得た。また、室内整理には、南館恭子以下5名の職員が当たった。
11. なお、本遺跡の調査で得られた一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

# 本文目次

序		(5) 焼土遺構	113
例言		2. 遺構外出土遺物	121
I. 調査に至る経過	1	(1) 原始時代	121
II. 調査と整理の方法	2	(2) 古代	124
1. 調査の方法	2	(3) 中・近世	124
2. 整理の方法	3	V. まとめ	151
III. 遺跡の環境	8	1. 遺構について	151
1. 位置	8	(1) 竪穴住居跡	151
2. 地形	8	①古代	151
3. 地質	11	②中・近世	151
4. 周辺の遺跡	13	(2) 掘立柱建物跡および柱穴群	155
IV. 検出遺構と出土遺物	21	(3) 土坑	155
1. 検出された遺構と遺物	21	2. 遺物について	157
(1) 竪穴住居跡	21	(1) 土器	157
①古代	21	①原始時代	157
②中・近世	24	②古代	158
(2) 掘立柱建物跡および柱穴群	49	(2) 陶磁器	158
(3) 竪穴住居状遺構	63	(3) その他	158
(4) 土坑	85	3. 調査を終えて	161
		VI. 分析と鑑定(穀物)	169

# 図版目次

第1図 岩手県全体図	第7図 周辺の遺跡②	17
第2図 調査範囲およびグリッド配置図	第8図 五庵II遺跡遺構配置図	19
第3図 遺跡の位置図	第9図 IV F 15住居跡	22
第4図 遺跡の周辺地形図	第10図 IV F 15住居跡出土遺物	23
第5図 基本層序図	第11図 II C 11住居跡	25
第6図 周辺の遺跡①	第12図 II C 13-1・2住居跡①	28

第13図	II C 13- 1 住居跡②	第44図	柱穴出土遺物④	82
	II D 10住居跡	第45図	柱穴出土遺物⑤	83
第14図	II D 12- 1・2 住居跡	第46図	柱穴出土遺物⑥	84
第15図	II D 13・II D 14住居跡	第47図	土坑①	86
第16図	II E 11・II F 10住居跡	第48図	土坑②	87
第17図	II F 13- 1・2・II F 14住居跡	第49図	土坑③	89
第18図	II G 11・II H 11- 1・2 住居跡	第50図	土坑④	90
第19図	III F 11住居跡	第51図	土坑⑤	93
第20図	III F 12住居跡	第52図	土坑⑥	95
第21図	III H 12住居跡	第53図	土坑⑦	97
第22図	III I 13住居跡	第54図	土坑⑧	98
第23図	II C 11掘立柱建物跡	第55図	土坑⑨	101
第24図	柱穴群①	第56図	土坑⑩	104
第25図	柱穴群②	第57図	土坑⑪	105
第26図	III B 12・III G 12住居状遺構	第58図	土坑⑫	108
第27図	住居跡出土遺物①	第59図	土坑⑬	110
第28図	住居跡出土遺物②	第60図	土坑⑭	112
第29図	住居跡出土遺物③	第61図	土坑出土遺物①	114
第30図	住居跡出土遺物④	第62図	土坑出土遺物②	115
第31図	住居跡出土遺物⑤	第63図	土坑出土遺物③	116
第32図	住居跡出土遺物⑥	第64図	土坑出土遺物④	117
第33図	住居跡出土遺物⑦	第65図	土坑出土遺物⑤	118
第34図	住居跡出土遺物⑧	第66図	土坑出土遺物⑥	119
第35図	住居跡出土遺物⑨	第67図	土坑出土遺物⑦	120
第36図	住居跡出土遺物⑩	第68図	遺構外の遺物(原始)①	126
第37図	住居跡出土遺物⑪	第69図	遺構外の遺物(原始)②	127
第38図	住居跡出土遺物⑫	第70図	遺構外の遺物(原始)③	128
第39図	住居跡出土遺物⑬	第71図	遺構外の遺物(原始)④	129
第40図	住居跡出土遺物⑭	第72図	遺構外の遺物(原始)⑤	130
第41図	柱穴出土遺物①	第73図	遺構外の遺物(原始)⑥	131
第42図	柱穴出土遺物②	第74図	遺構外の遺物(原始)⑦	132
第43図	柱穴出土遺物③	第75図	遺構外の遺物(原始)⑧	133

第76図 遺構外の遺物 (原始) ⑨……………	134	第85図 遺構外の遺物 (原始) ⑱……………	143
第77図 遺構外の遺物 (原始) ⑩……………	135	第86図 遺構外の遺物 (原始) ⑲……………	144
第78図 遺構外の遺物 (原始) ⑪……………	136	第87図 遺構外の遺物 (中・近世) ⑳……………	145
第79図 遺構外の遺物 (原始) ⑫……………	137	第88図 遺構外の遺物 (中・近世) ㉑……………	146
第80図 遺構外の遺物 (原始) ⑬……………	138	第89図 遺構外の遺物 (中・近世) ㉒……………	147
第81図 遺構外の遺物 (原始) ⑭……………	139	第90図 遺構外の遺物 (中・近世) ㉓……………	148
第82図 遺構外の遺物 (原始) ⑮……………	140	第91図 遺構外の遺物 (中・近世) ㉔……………	149
第83図 遺構外の遺物 (原始) ⑯……………	141	第92図 遺構外の遺物 (石器) ㉕……………	150
第84図 遺構外の遺物 (原始) ⑰……………	142		

## 写真図版目次

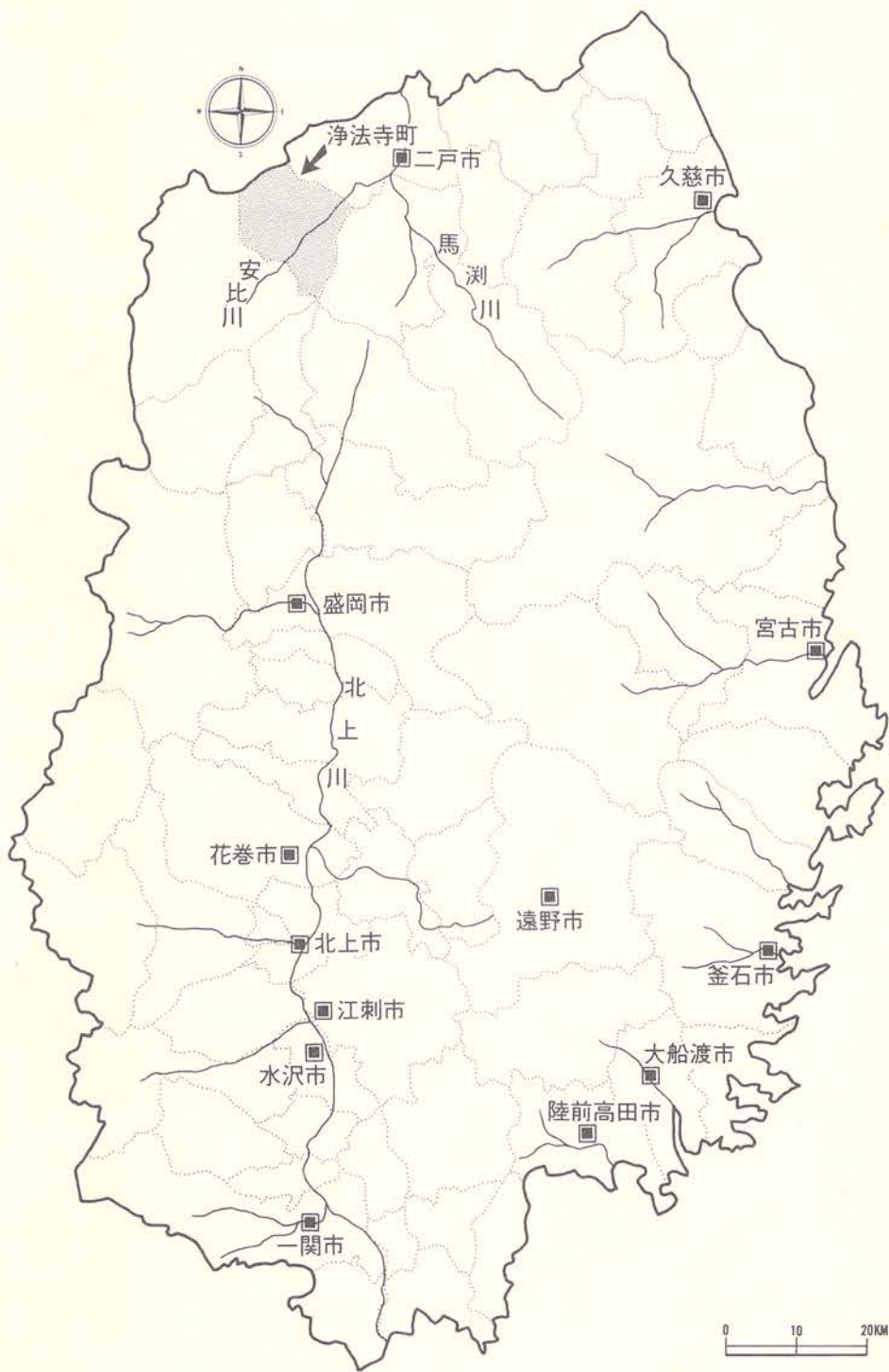
写真図版 1 遺跡全景 ……………	189	写真図版21 III I 13住居跡 ……………	209
写真図版 2 遺跡近景 ……………	190	写真図版22 II C 11掘立柱建物跡・柱穴群…	210
写真図版 3 発掘作業風景 ……………	191	写真図版23 III B 12住居状遺構 ……………	211
写真図版 4 基本土層 ……………	192	写真図版24 III G 12住居状遺構 ……………	212
写真図版 5 IV F 15住居跡① ……………	193	写真図版25 I J 14・I J 12・ I J 13-1 土坑……………	213
写真図版 6 IV F 15住居跡② ……………	194	写真図版26 I J 13-2・II A 14・ II B 13土坑 ……………	214
写真図版 7 II C 11住居跡 ……………	195	写真図版27 II C 11・II D 11・II D 12土坑	215
写真図版 8 II C 13-1 住居跡……………	196	写真図版28 II D 13・II D 15・II D 16土坑	216
写真図版 9 II C 13-2・II D 10住居跡…	197	写真図版29 II E 12-1・2・ II F 12-1 土坑……………	217
写真図版10 II D 12-1・2 住居跡……………	198	写真図版30 II F 12-2・II F 14・ II F 15土坑 ……………	218
写真図版11 II D 13住居跡 ……………	199	写真図版31 II F 16・II G 12・II G 13土坑 …	219
写真図版12 II D 14住居跡 ……………	200	写真図版32 II G 14-1・2・II H 14-2・ II H 13土坑 ……………	220
写真図版13 II E 11住居跡 ……………	201	写真図版33 II H 14-1・ II I 12-1・2 土坑……………	221
写真図版14 II F 10・II F 13-1 住居跡…	202	写真図版34 II I 13・II I 14-1・2 土坑…	222
写真図版15 II F 13-2・II F 14住居跡…	203		
写真図版16 II G 11・II H 11-1 住居跡…	204		
写真図版17 II H 11-2 住居跡……………	205		
写真図版18 III F 11住居跡 ……………	206		
写真図版19 III F 12住居跡 ……………	207		
写真図版20 III H 12住居跡 ……………	208		



写真図版35	II J 12-1・2・II J 13土坑……223	写真図版56	土坑出土遺物② ……244
写真図版36	II J 14・III A 11-1・2土坑……224	写真図版57	土坑出土遺物③ ……245
写真図版37	III A 12・III C 11-1・2土坑……225	写真図版58	土坑出土遺物④ ……246
写真図版38	III D 21・IV C 13-1・2土坑……226	写真図版59	土坑出土遺物⑤ ……247
写真図版39	IV D 13土坑 ……227	写真図版60	遺構外の遺物(石器)① ……248
写真図版40	住居跡出土遺物(古代)① ……228	写真図版61	遺構外の遺物(石器)② ……249
写真図版41	住居跡出土遺物(中・近世)②…229	写真図版62	遺構外の遺物(石器)③ ……250
写真図版42	住居跡出土遺物(中・近世)③…230	写真図版63	遺構外の遺物(石器)④ ……251
写真図版43	住居跡出土遺物(中・近世)④…231	写真図版64	遺構外の遺物(土器)① ……252
写真図版44	住居跡出土遺物(中・近世)⑤…232	写真図版65	遺構外の遺物(土器)② ……253
写真図版45	住居跡出土遺物(中・近世)⑥…233	写真図版66	遺構外の遺物(土器)③ ……254
写真図版46	住居跡出土遺物(中・近世)⑦…234	写真図版67	遺構外の遺物(土器)④ ……255
写真図版47	住居跡出土遺物(中・近世)⑧…235	写真図版68	遺構外の遺物(土器)⑤ ……256
写真図版48	住居跡出土遺物(中・近世)⑨…236	写真図版69	遺構外の遺物(土器)⑥ ……257
写真図版49	住居跡出土遺物(中・近世)⑩…237	写真図版70	遺構外の遺物(土器)⑦ ……258
写真図版50	住居跡出土遺物(中・近世)⑪…238	写真図版71	遺構外の遺物(土器)⑧ ……259
写真図版51	柱穴出土遺物① ……239	写真図版72	遺構外の遺物(土器)⑨ ……260
写真図版52	柱穴出土遺物② ……240	写真図版73	遺構外の遺物(中・近世)①…261
写真図版53	柱穴出土遺物③ ……241	写真図版74	遺構外の遺物(中・近世)②…262
写真図版54	柱穴出土遺物④ ……242	写真図版75	遺構外の遺物(中・近世)③…263
写真図版55	土坑出土遺物① ……243		

## 表 目 次

第1表	浄法寺町内の遺跡一覧(原始～古代) ……	14
第2表	浄法寺町周辺城館一覧 ……	16
第3表	五庵II遺跡遺構一覧 ……	18
第4表	柱穴群計測値一覧 ……	54
第5表	堅穴住居跡等出土遺物一覧 ……	159
第6表	土坑一覧 ……	162
第7表	石器・石製品一覧①(原始時代) ……	163
第8表	石器・石製品一覧②(中・近世) ……	165
第9表	古銭一覧…	166



第1図 岩手県全体図

## I . 調査に至る経過

東北自動車縦貫道八戸線は、二戸郡安代町で青森線と分岐し、青森県八戸市に至る約68kmの高速自動車専用道である。このうち本県にかかわる第7次施行命令区間は約27.6km、第8次施行命令区間は26.7kmである。第7次施行命令区間に所在する遺跡の調査は昭和58年度で全て終了しており、安代町の分岐点から浄法寺町・二戸市を通り一戸インターチェンジに至る第8次施行命令区間の発掘調査を終了すれば、八戸線関連の調査は全て終了することとなる。

昭和53年11月に第8次施行命令が出され、その後命令区間の埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて県教育委員会と日本道路公団仙台建設局との間で協議が重ねられた。そのなかで浄法寺町には天台宗の古寺で種々の重要文化財を有する天台寺が存在し、天台寺緑地保全地域となっていることから、路線はこの地を避けて設定されることとなった。

県教育委員会文化課では、昭和54年12月に日本道路公団の協力を得て、実施計画路線沿い500m幅で埋蔵文化財包蔵地の分布調査を行い、その結果をもとに更に両方で協議を重ねた。昭和56年5月の日本道路公団による路線発表後、文化課では路線敷地内における埋蔵文化財包蔵地の分布調査を行い約30の遺跡を確認した。昭和57年度には安代町分5遺跡の発掘調査範囲について確認調査を行った。

昭和58年度には安代町内4遺跡の発掘調査が当センターに委託され、湯の沢Ⅲ遺跡、繫沢Ⅱ遺跡、石神Ⅱ遺跡の調査と関沢口遺跡の粗掘遺構確認調査を行われ、関沢口遺跡は昭和59年度継続調査となった。またこの年度中に浄法寺町分12遺跡の発掘調査範囲の確認調査が行われた。

昭和59年度には、安代町2遺跡・関沢口遺跡の継続調査と水神遺跡の調査及び浄法寺町分9遺跡・柿ノ木平Ⅲ遺跡、五庵Ⅰ遺跡、五庵Ⅱ遺跡、海上Ⅰ遺跡、海上Ⅱ遺跡、大久保Ⅰ遺跡の調査と、沼久保遺跡、桂平遺跡、飛鳥台地Ⅰ遺跡の工事用道路分の調査が委託されて、調査を実施した。このうち沼久保・桂平・飛鳥台地Ⅰ遺跡の3箇所は昭和60年度継続調査となった。この年度中には、二戸市分と一戸町分それぞれ6遺跡の発掘調査範囲の確認調査が行われ、その際に浄法寺町分として五庵Ⅲ遺跡、広沖遺跡が新たに追加された。これで浄法寺町分の遺跡は前に確認された田余内Ⅰ・田余内Ⅱ・安比内Ⅰ遺跡を加え14遺跡となった。これらの発掘調査は昭和60年度に行われることとなった。

## II . 調査方法と整理方法

### 1. 調査方法

#### (1) 調査区の設定と遺構の呼称

日本道路公団が測量した中心杭 S T A 84+40 を基準点とし、この点と S T A 84+80 とを結ぶ直線を基準線とした。次に、その基準線に平行させ南—北方向に 20m 毎、同じく基準線に直交させ東—西に 20m 毎に区画し大グリットとし、調査区内を西から I ・ II …… のローマ数字を付した。さらにその中を 4 m 毎に区画し、東西には西から A ・ B …… を、南北には北から 01 ・ 02 …… を付し小グリットとした。

また、検出された遺構には、調査区内での占地をも判るように、遺構が位置する西北端のグリット名を付し、それを遺構名とした。したがって、遺構名は、II D 14 竪穴住居跡、II E 14 土坑のように呼称される。

なお、便宜上、調査区を南北に分断する沢を境に、沢の北側を北尾根部、南側を西側斜面部とも呼称することにした。

#### (2) 粗掘りと遺構検出

北尾根部については、試掘の結果、遺構の多いことが予想されたこと、出土遺物が多いこと、表土が薄いこと、地表部が柔かいこと等から人力によって粗掘りを行った。それに対して、西向き斜面部は、遺構の少ないことが予想されたこと、表土が厚いこと、遺物の出土地区が限定されていることから、ほとんどは重機によって表土を剝いだ。また、当地区の一部は、原始時代と古代の文化面が異なるために、二度に分けて粗掘りを行った。

遺構検出の作業は、すべて人力で行った。遺構検出面は、北尾根部では、基本層序第 II a 層上位面、西向き斜面部では、古代が基本層序第 II 層上位面、原始時代は、同 III 層上位面であることが確認された。

#### (3) 遺構精査

遺構の精査は、原則として、竪穴住居跡は 4 分法、土坑、中近世の柱穴群等は 2 分法によって行った。

遺物の取り上げは、遺構外のものについては、北尾根部ではすべて第 I 層、西向き斜面部では第 I ～ III 層からの出土であり、これらは層位ごとに、また、できるだけグリット名をも付記しながら取り上げた。一方、遺構内からのものについても、埋土の層位ごとに取り上げるとともに、必要に応じて、実測図に記入したり、出土状況の写真撮影も行いながら取り上げた。

#### (4) 記録

遺構の実測図は、平面図および断面図を一組として作成、縮尺は20分の1を原則とした。また、平面図の実測は、遣り方測量の方法を応用した。

埋土や基本層序における土層の色調は、「新版標準土色帳」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）によった。

写真による記録は、6 cm×7 cm、35mm・モノクロ、同カラーリバーサルの3種を一組として適宜使い分けた。

さらに、遺構の精査にあたっては、経過にしたがって、随時必要事項をフィールドカードにも記録した。

## 2. 室内整理の方法

### (1) 図版作成

遺構図版については、野外調査の際に作成した実測図をすべて整理・点検・合成等を行い、遺構ごとに第二原図を作成し、本書掲載の図版は、第二原図を基に作成した。

遺物図版については、実物大で実測し、それを基に作成した。投影図版も同様である。

写真図版については、遺構は縮尺不定、遺物は、その種類によって縮尺率は異なるが、同一種類のものではできるだけ縮少率を揃え、相互間の大小関係が判りやすいようにした。

なお、図版には、各々に縮少率を示してある。




### (2) 遺物整理




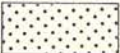






水洗い、記名作業は、ほとんど野外調査中に終了した。したがって、室内整理の段階では、これらの仕分け・登録作業から始めた。遺物の登録は、時代別・器種別に行った。しかし、報告書掲載にあたっては、時代・器種とも多様にわたるため、古代住居跡からの出土遺物から掲載図版順に連番を付した。なお、実測図・投影図と写真の番号を統一した。

### (3) その他

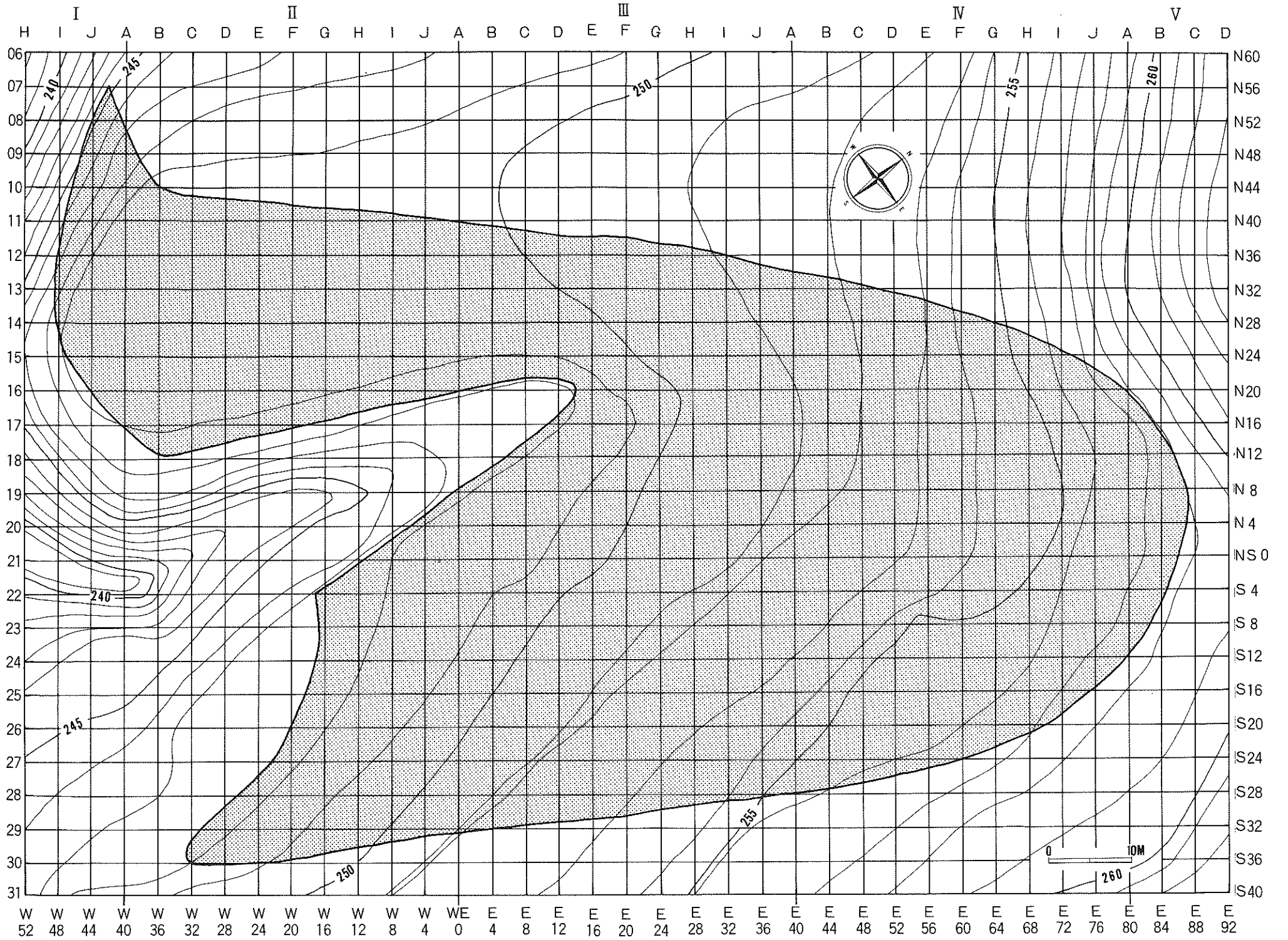
遺構図版、遺物図版作成にあたっては、より明確化するため、スクリーントーン・記号等を用い次のように示した。

#### 凡例

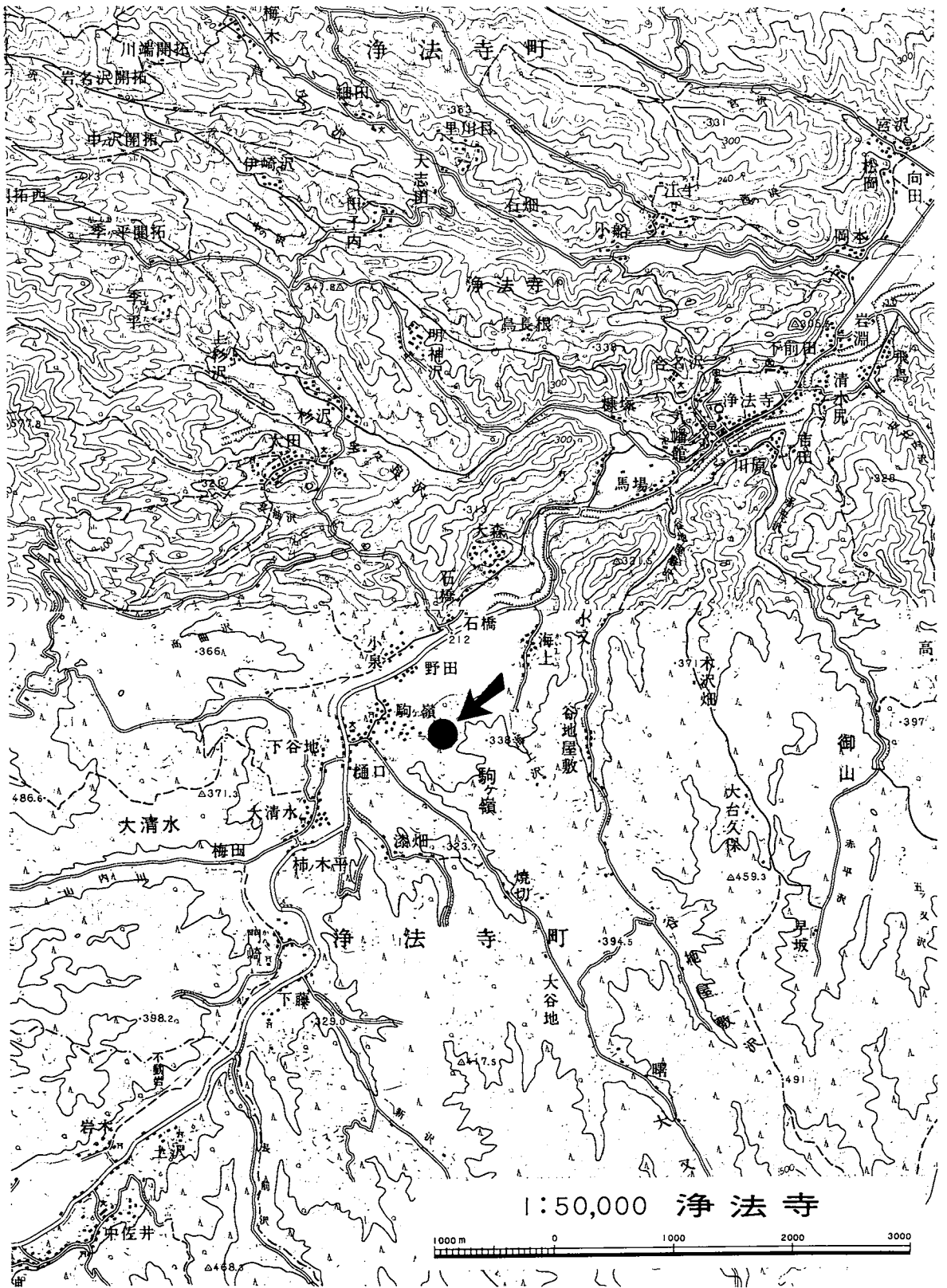
地山 .....		土器 .....	P
調査区外 .....		磔 .....	

当該遺構より古い		土師器の内黒処理	
当該遺構より新しい		砥石・平面的舟底型的使用痕	
柱穴	P <sub>1</sub> ・P <sub>2</sub>	砥石・溝状の使用痕	
貼床		礫・煤付着	
焼土			
炭化材			
朱色を呈する床面			





第2図 調査範囲およびグリッド配置図



第3図 遺跡の位置



### III. 遺跡の環境

#### 1. 位置

本遺跡の所在する二戸郡浄法寺町は、奥羽山系北部の東側裾野にあたる山間の地にある。北境は、青森県と接し、岩手県では二戸市や軽米町等と並び最北端に位置する。町域の範囲は、東西約17km、南北約17kmにわたり面積は約183.2km<sup>2</sup>である。町の中心部は、当町域のやや北東寄りにあるが、本遺跡はここに所在する当町役場から南西へ3.4kmの浄法寺町立大嶺小中学校から東へ約1kmに位置し、北西に稲庭岳が望まれる。本遺跡の東には、海上I・II遺跡、西には、縄文時代および平安時代を中心とする五庵I遺跡、さらに、至近の北西には中世に比定される駒ヶ嶺館跡が見下ろすようにある。

#### 2. 地形

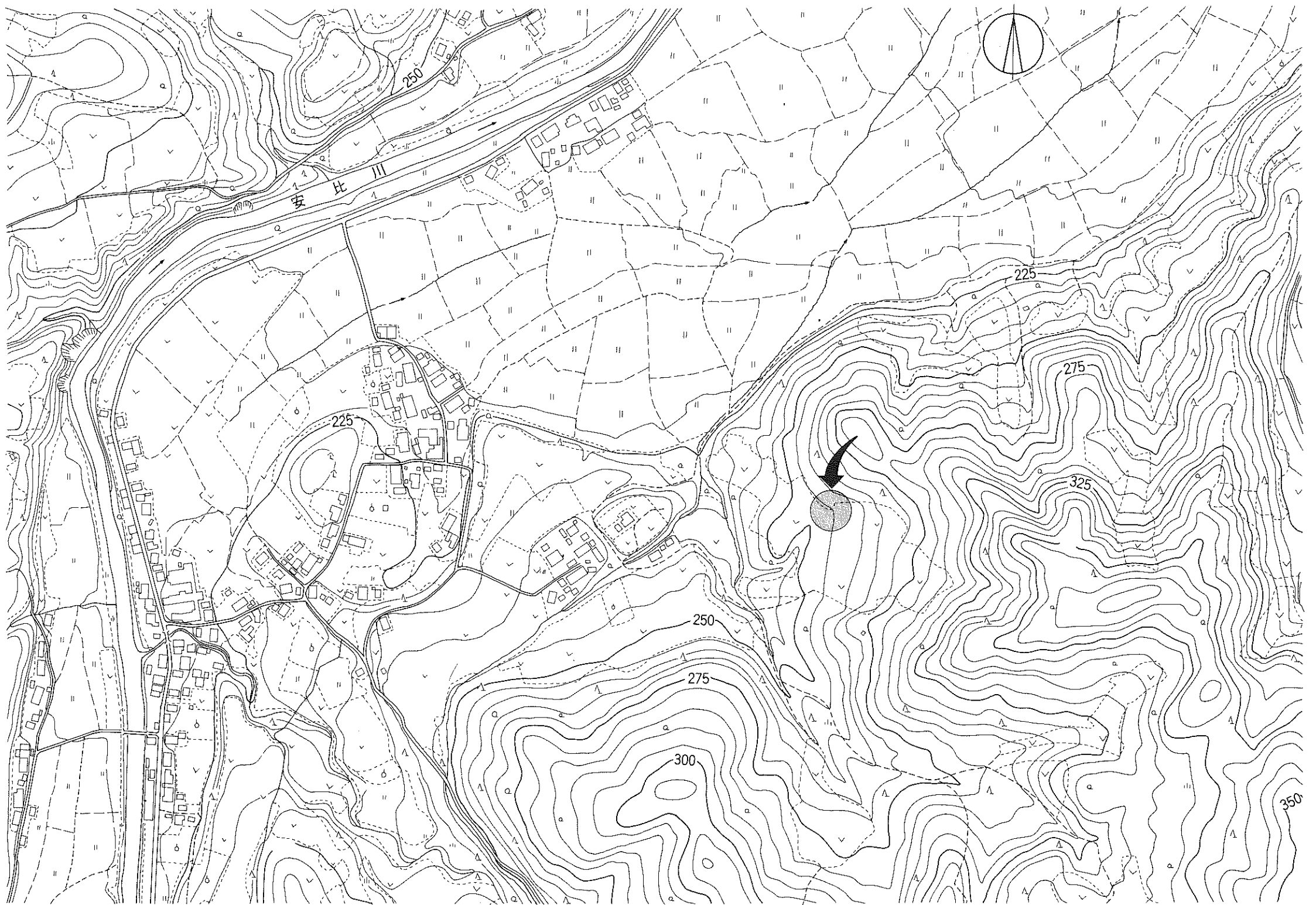
本遺跡は、前述のように奥羽山系の東側裾野に広がる山間地にある。ここには安比川が東北に向かって流れ、北上山地の西側を北上して太平洋に注ぐ馬淵川の支流となっている。安比川は、安代町の比山(1,458m)、安比岳(1,458m)、高倉山(1,051m)等の山々に源を発し、安代町の荒屋地区を東北に流れ下り、当町地内で稲庭岳を源流とする多数の小支流を合流させながら当町をほぼ北東に向い、二戸市境で馬淵川に合流する。

また、本遺跡の所在する当町は、この安比川の中流域沿岸に位置し、その両岸には広狭を繰返しながら谷底平野が形成されている。谷底平野は、安比川の多数の支流に沿ってもみられるが、安比川のそれに比してその発達は不良で幅が狭く小規模である。そのため、扇状地や扇状地性丘陵群の発達も貧弱である。

一方、河岸段丘も、安比川沿いに比較的顕著にみられるものの、ところどころで寸断され、河川の規模のわりには、それほど発達しているとはいえない。

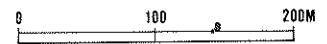
丘陵地は、安比川を境にして北西側の稲庭岳(1,078m)山麓丘陵と、南東側の七時雨山(1,060m)山麓丘陵とに大別され、当町域のほとんどは、この両丘陵によって占められている。そしてこの山麓に属する丘陵は、標高300~400mの範疇に収まるが、開析が進んでいるため幅の広い緩斜面はあまりみられず、畑地等に利用されているところも少ない。

本遺跡は、安比川の右岸(南側)に発達した山地性丘陵に立地する。遺跡が立地する丘陵の北側は急激な段丘崖を形成し、当町で最も発達した谷底平野が開けている。調査区は、ほぼ北に向かって切込む沢(一部は埋没している)を挟んで二つの地形からなっている。一つは、調



矢印：調査地域

第4図 五庵Ⅱ遺跡周辺地形図



査区の北側に位置し、東から西に張り出す尾根状の地形をなし、西端は急激に落ち込む段丘崖を形成する。尾根部は緩斜面で、遺構の集中する地区はほぼ平坦である。なお、この地区の調査範囲は、尾根鞍部の南側だけである。もう一つは、沢の南側に位置し、約20°の勾配を呈する西向き斜面で山地性丘陵にのる崖錐性扇状地をなしている。

調査区の標高は245m～257mで、現状は畑地に利用されていたところである。

### 3. 地 質

調査区を二分する沢を挟んだ南側の西向き斜面部では、表土下1m前後に達すると、5～30cmの円礫ないしは亜角礫が多量に含まれる層位をみることができ、この層は、地域によっては、耕作土直下あるいは部分的に残存するⅢ層黒色土直下に露出するところもみられる。

しかし、尾根部においては、この礫層はみられない。また、尾根部では西向き斜面部に比して、層位の区分が明瞭に現われない等の相違もみられる。

以下、両地区の基本層序の概略である。

#### (1) 尾根部

- |         |            |         |  |
|---------|------------|---------|--|
| I 層     | Hue10YR3/4 | 暗褐色土    | 現表土であり耕作土である。したがって、絶えず攪乱を受けている層でもある。                         |
| II a 層  | Hue10YR5/6 | 黄褐色土    | 全体的にしまりに欠けるシトル質土である。浅黄橙色の浮石粒(径3mm～30mm)が多量に含まれている。           |
| II b 層  | Hue10YR5/6 | 黄褐色土    | II a 層に比してしまっている。土質的にはII a 層と起源を同じくすると思われるが、浅黄橙色浮石の含有率が低い。   |
| III a 層 | Hue10YR5/4 | にぶい黄褐色土 | 全体的にしまりに欠ける粘土質土である。灰黄褐色浮石粒(3mm～30mm)が含まれている。                 |
| III b 層 | Hue10YR5/4 | にぶい黄褐色土 | III a 層に比してしまっている。土質的にはIII a 層と起源を同じくすると思われるが、灰黄褐色浮石の含有率が高い。 |

#### (2) 西向き斜面部

- |      |            |      |   |
|------|------------|------|---|
| I 層  | Hue10YR2/3 | 暗褐色土 | 現表土であり耕作土である。したがって絶えず攪乱を受けている層でもある。     |
| II 層 | Hue10YR2/2 | 黒褐色土 | 旧表土であるが、元来I層と同起源であろう。極小礫、砂、炭化物等が含まれている。 |

- III層 Hue10YR2/1 黒褐色土
- IV層 Hue10YR3/4 暗褐色土
- V層 Hue10YR4/6 褐色土
- VI層 Hue10YR4/6 褐色土
- VII層 Hue10YR4/6 褐色土

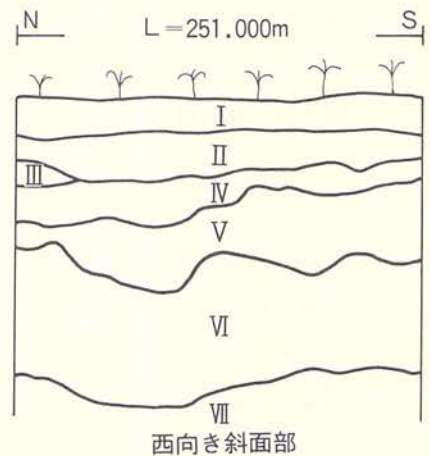
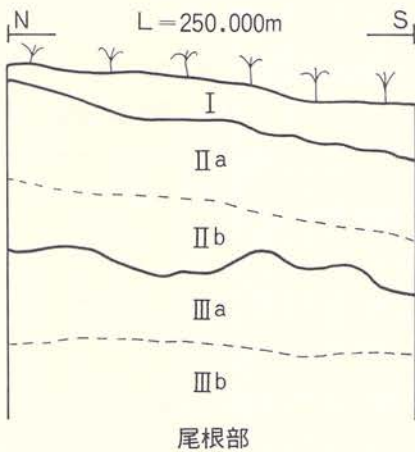
浅黄橙色浮石細粒、炭化物のほか、一部では、十和田a火山灰が塊状に含まれている。再堆積層であるが、古代の遺構検出面でもある。

全体的にシルト質土で、III層相当の小土塊が若干含まれている。

全体的に粘土質である。いわゆる「南部浮石」に酷似する浮石、小礫、灰白色浮石粒等が含まれている。

粘土である。III層にみられる浅黄橙色浮石が微量に含まれている。

粘土で、土質はVI層と酷似する。しかし、5cm～30cmの円礫や亜角礫が多量に含まれており、全体的には礫層といえる。地域によっては、本層は、表土直下やIII層直下に露出するところもある。



第5図 基本土層図

#### 4. 周辺の遺跡

第1表に示したように、浄法寺町内において確認されている遺跡は、城館を除いて63を数える。これらのうち、調査された遺跡は伝天台寺遺跡を含めて数遺跡にすぎない。また、これらの遺跡の多くは<sup>(注1)</sup>、東北縦貫自動車道建設に伴って確認されたものである。したがって、第6図からも伺われるように、多くの遺跡は、縦貫道の路線となっている安比川の右岸に集中する。しかし、この地区の地形・湧水等の自然条件を考えると、むしろ、安比川左岸域に多くの遺跡が包蔵されている可能性がある。

また、確認されているこれらの遺跡の時期をみると、縄文時代から近世に至るまで、ほとんどの時代が網羅されているといえる。しかし、この中からいくつかの特色を挙げると、弥生、古墳時代の遺跡が確認されていないこと<sup>(注2)</sup>（岩手県全体でも発見例は少ない）、縄文時代においては、後・晩期が多く、早・中期に比定される遺跡が少ないこと等がある。さらに、古代においては、本年度（昭和59年度）当センターの調査において、浄法寺町内の五庵Ⅰ・Ⅱ、海上Ⅰ、大久保Ⅰ、桂平・沼久保、飛鳥台地Ⅰの各遺跡から住居跡が検出されている。しかし、これらは、いずれも平安期に比定され、奈良期のものは皆無である。そして、これまでの安代町内の遺跡の調査結果からみても、安比川流域においては平安期の集落が圧倒的に多いと予想することもできる。いずれ、このことは、今後の調査に興味のもたれることである。中・近世の城館は、第2表に示したように確認されている。これらについても、調査が行われているのは、九戸城・一戸城等ほんの一部であり、他については<sup>(注3)</sup>、築城時期・築城者等不明のものが多い。

いずれ、当町における本格的な発掘調査は開始されたばかりであり、実体の把握は、今後の調査を待たなければならない。

注1．岩手県教育委員会事務局文化課の遺跡台帳による。

注2．第1表 浄法寺町内の遺跡一覧。

注3．岩手県教育委員会事務局文化課の調査による。

第1表 浄法寺町内の遺跡一覧

原始～古代

No	遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	備考
1	J E-16-1023	馬洗場	大字浄法寺字馬洗場		散布地
2	J E-16-2246	鏡田	大字漆沢字鏡田		集落跡
3	J E-17-1060	川又古墳	大字漆沢字川又		古墳
4	J E-27-2213	伝天台寺	大字御山字御山久保		寺院跡
5	J E-27-1341	上野 I	大字御山字上野	縄文前期	散布地
6	J E-27-1342	上野 II	大字御山字上野	縄文	散布地
7	J E-27-1361	上野 III	大字御山字上野	縄文前期～後期	集落跡
8	J E-27-1371	上野 IV	大字御山字上野	縄文後期	集落跡
9	J E-27-1372	上野 V	大字御山字上野	縄文後・晩期	集落跡
10	J E-27-1372'	上野 VI	大字御山字上野	縄文晩期	集落跡
11	J E-27-1373	上野 VII	大字御山字上野	縄文	散布地
12	J E-27-1374	上野 VIII	大字御山字上野	縄文後期	散布地
13	J E-27-2213	天台寺跡	大字御山字御山久保		寺院跡
14	J E-28-1050	溢沢	大字御山字溢沢	平安	故布地
15	J E-35-0322	上杉沢	大字浄法寺字上杉沢	縄文晩期	散布地
16	J E-36-0353	上外野	大字浄法寺字外野	平安	集落跡
17	J E-36-1100	明神沢	大字浄法寺字明神沢	縄文晩期	散布地
18	J E-36-2058	小泉	大字大清水字小泉	縄文	散布地
19	J E-36-1277	馬場向 I	大字駒ヶ嶺字馬場向	縄文後期	散布地
20	J E-36-1284	馬場向 II	大字駒ヶ嶺字馬場向	縄文後・晩期	散布地
21	J E-36-1293	馬場向 III	大字駒ヶ嶺字馬場向	縄文前・中期	散布地
22	J E-36-1336	大坊	大字御山字大坊	縄文後・晩期	散布地
23	J E-36-1348	桂平 I	大字御山字桂平	縄文後・晩期	集落跡
24	J E-36-1357	桂平 II	大字御山字桂平	縄文後・晩期	散布地
25	J E-36-2282	海上 I	大字駒ヶ嶺字海上	縄文後・晩期	散布地
26	J E-37-1174	飛鳥	大字御山字飛鳥	縄文後・晩期	散布地
27	J E-37-0069	館	大字御山字館	縄文後・晩期	散布地
28	J E-37-0086	吉田館	大字御山字吉田館	縄文中～晩期・堀土塁	館・集落跡
29	J E-37-0103	名越 I	大字御山字名越	縄文前～後期・土師器	散布地
30	J E-37-0113	飛鳥台地 II	大字御山字飛鳥台地	縄文・土師	散布地
31	J E-37-0122	飛鳥台地 I	大字御山字飛鳥台地	縄文後期・土師器	集落跡
32	J E-37-0124	名越 II	大字御山字名越	縄文後期	散布地
33	J E-37-0140	安比内 I	大字御山字安比内	縄文後・晩期・土師器	集落跡
34	J E-37-0151	安比内 II	大字御山字安比内	縄文	散布地
35	J E-37-1010	大手	大字御山字大手	土師器	集落跡
36	J E-37-1015	大久保 I	大字御山字大久保	縄文後・晩期・土師器	集落跡
37	J E-37-1024	大久保 II	大字御山字大久保	縄文前後	散布地
38	J E-37-1033	大久保 III	大字御山字大久保	縄文後・晩期	散布地
39	J E-45-2395	門崎	大字大清水字門崎	縄文	散布地
40	J E-45-2397	下藤 I	大字大清水字下藤	縄文後・晩期	散布地
41	J E-45-2399	下藤館	大字大清水字下藤	縄文	散布地(館跡)
42	J E-46-0062	下谷地	大字大清水字下谷地	縄文後期	散布地
43	J E-46-0080	大清水	大字大清水字大清水	縄文後期	散布地
44	J E-46-0226	小又	大字駒ヶ嶺字小又	縄文中・晩期	散布地
45	J E-46-1279	沼久保	大字御山字沼久保	縄文中・晩期	散布地
46	J E-46-0087	田余内 I	大字駒ヶ嶺字田余内	縄文後・晩期・土師器	集落跡
47	J E-46-0096	漆畑	大字駒ヶ嶺字漆畑	縄文前期	散布地
48	J E-46-0098	田余内 III	大字駒ヶ嶺字田余内	縄文後・晩期	散布地
49	J E-46-0099	田余内 II	大字駒ヶ嶺字田余内	縄文後・晩期	散布地
50	J E-46-0118	山根	大字駒ヶ嶺字山根	縄文後・晩期	散布地
51	J E-46-0125	前谷地	大字駒ヶ嶺字前谷地	縄文中～晩期・土師器	散布地
52	J E-46-0139	海上 III	大字駒ヶ嶺字海上	縄文後・晩期	散布地
53	J E-46-0143	五庵 II	大字駒ヶ嶺字五庵	縄文後・晩期・土師器、中近世	集落跡
54	J E-46-0151	五庵 I	大字駒ヶ嶺字五庵	縄文後・晩期・土師器、中近世	集落跡
55	J E-46-0159	海上 V	大字駒ヶ嶺字海上	縄文	散布地
56	J E-46-0201	海上 II	大字駒ヶ嶺字海上	縄文後・晩期	散布地
57	J E-46-0241	海上 IV	大字駒ヶ嶺字海上	縄文	散布地
58	J E-46-1093	柿の木平 I	大字大清水字柿の木平	縄文後・晩期	散布地
59	J E-46-2025	柿の木平 II	大字大清水字柿の木平	縄文	散布地
60	J E-46-2053	柿の木平 III	大字大清水字柿の木平	縄文中～晩期	散布地
61	J E-46-2074	柿の木平 IV	大字大清水字柿の木平	縄文	散布地
62	J E-55-0318	下藤 II	大字大清水字下藤	縄文	散布地
63	J E-55-0319	下藤 III	大字大清水字下藤	縄文後・晩期	散布地

※ 岩手県教育委員会文化課調べ(昭和59年度現在) ○は昭和59年度埋文センターが調査



第6図 浄法寺町内の遺跡(原始・古代)

第2表 浄法寺町周辺城館一覧

No	遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	備考
①	I E-79-1077	釜沢館	二戸市金田一字釜沢	中世 中世	釜沢氏
②	I E-79-2077	海上館	二戸市金田市字海上		
③	I E-79-2246	野々上館	二戸市野々上字野々上		
④	I E-88-0258	荒谷館	二戸市野々上字荒谷		
⑤	I E-88-0279	月折館	二戸市野々上字月折		
6	I E-96-1337	根森館	二戸市上斗米字野月平		
7	I E-96-1365	根森松屋敷館	二戸市上斗米字根森		
⑧	I E-98-0397	下斗米館	二戸市下斗米字寺久保		
9	I E-98-2091	上斗米古館	二戸市上斗米字梅木		
10	I E-98-2103	田中館	二戸市上斗米字田中		
⑪	I E-99-1249	佐々木館	二戸市米沢字家の上	戦国時代	九戸政実・国指定史跡
⑫	I E-99-2372	円館	二戸市米沢字上村		
⑬	I F-70-2024	下山井館	二戸市金田一字下山井		
⑭	I F-80-1061	四戸城	二戸市金田一字仲町秋葉		
⑮	I F-90-0091	堀野館	二戸市堀野字小四郎館		
⑯	J F-00-0053	九戸城	二戸市福岡字城の内		
⑰	J F-00-1070	村松館	二戸市石切所字槻木沢		
⑱	J F-00-1262	坂本館	二戸市白鳥字館		
19	J E-07-0291	米田(館)	二戸市上斗米字米田		
20	J E-07-0328	上斗米館	二戸市上斗米字前田		
21	J E-07-0346	前田館	二戸市上斗米字前田		
22	J E-07-1106	本田館	二戸市上斗米字本田		
23	J E-07-1228	米田館	二戸市上斗米字前田		
24	J E-07-2253	足沢館	二戸市上斗米字長畑		
25	J E-07-0292	米田館	二戸市上斗米字米田		
⑳	I E-09-1273	上里遺跡群	二戸市石切所	明応元年(1492年)	大清水氏
27	J E-18-0342	似鳥館	二戸市似鳥字寺上		
28	J E-18-2057	福田館	二戸市福田字館		
⑳	J E-19-1022	檜館	二戸市似鳥字檜館		
30	J E-16-1386	川又館	浄法寺町漆沢字八方口		
31	J E-27-0277	漆沢館	浄法寺町漆沢字館		
32	J E-27-1138	長渡路館	浄法寺町漆沢字長渡路		
33	J E-27-1079	松岡館	浄法寺町漆沢字松岡		
34	J E-36-1304	浄法寺城	浄法寺町浄法寺字八幡		
35	J E-36-2142	大森館	浄法寺町大清水字前田		
36	J E-36-2151	小泉館	浄法寺町大清水字前田		
37	J E-37-0086	吉田館	浄法寺町御山字館		
38	J E-45-2399	下藤館	浄法寺町大清水字下藤		
39	J E-46-1073	柿の木平館	浄法寺町大清水字柿の木平		
40	J E-46-0032	大清水館	浄法寺町大清水字下谷地		
41	J E-46-0140	駒ヶ嶺館	浄法寺町駒ヶ嶺字館		
④②	J E-42-1140	日泥館	安代町藍野々道の上		
④③	J E-42-1286	安保館跡	安代町藍野々道の下		
④④	J E-42-2206	沢口館 I	安代町田山字沢口		
④⑤	J E-42-2353	花館	安代町田山字花館		
④⑥	J E-43-1037	杉沢館	安代町字杉沢		
④⑦	J E-51-2182	館市館	安代町字館市		
④⑧	J E-53-0252	越戸館	安代町字越戸		
49	J E-54-1244	目名市館	安代町字目名市		
50	J E-54-2239	有矢野館	安代町字越戸		
51	J E-54-2312	五日市館	安代町字五日市		
52	J E-55-1186	八幡館跡	安代町字石神		
53	J E-55-1208	下ノ田館	安代町字中佐井下の田		
54	J E-55-1261	北ノ館	安代町字中佐井		
55	J E-64-0211	上の山館	安代町字上の山		
56	J E-65-0022	小屋畑館	安代町字小屋畑		

※岩手県教育委員会文化課調べ(昭和59年度現在)

※○は図外に位置するため掲載せず





第7図 浄法寺町内および周辺の城館

第3表 五庵II遺跡遺構一覽

	遺 構 名		遺 構 名
1	II C 11豎穴住居跡	36	II D 16土坑
2	II C 13- 1 豎穴住居跡	37	II E 12- 1 土坑
3	II C 13- 2 豎穴住居跡	38	II E 12- 2 土坑
4	II D 10豎穴住居跡	39	II F 12- 1 土坑
5	II D 12- 1 豎穴住居跡	40	II F 12- 2 土坑
6	II D 12- 2 豎穴住居跡	41	II F 14土坑
7	II D 13豎穴住居跡	42	II F 15土坑
8	II D 14豎穴住居跡	43	II F 16土坑
9	II E 11豎穴住居跡	44	II G 12土坑
10	II F 10豎穴住居跡	45	II G 13土坑
11	II F 13- 1 豎穴住居跡	46	II G 14- 1 土坑
12	II F 13- 2 豎穴住居跡	47	II G 14- 2 土坑
13	II F 14豎穴住居跡	48	II H 13土坑
14	II G 11豎穴住居跡	49	II H 14- 1 土坑
15	II H 11- 1 豎穴住居跡	50	II H 14- 2 土坑
16	II H 11- 2 豎穴住居跡	51	II I 12- 1 土坑
17	III F 11豎穴住居跡	52	II I 12- 2 土坑
18	III F 12豎穴住居跡	53	II I 13土坑
19	III H 12豎穴住居跡	54	II I 14- 1 土坑
20	III I 13豎穴住居跡	55	II I 14- 2 土坑
21	IV F 15豎穴住居跡	56	II J 12- 1 土坑
22	II C 11掘立柱建物跡	57	II J 12- 2 土坑
23	III B 12豎穴住居狀遺構	58	II J 13土坑
24	III G 12豎穴住居狀遺構	59	II J 14土坑
25	I I 14土坑	60	III A 11- 1 土坑
26	I J 12土坑	61	III A 11- 2 土坑
27	I J 13- 1 土坑	62	III A 12土坑
28	I J 13- 2 土坑	63	III C 11- 1 土坑
29	II A 14土坑	64	III C 11- 2 土坑
30	II B 13土坑	65	III D 21土坑
31	II C 11土坑	66	IV C 13- 1 土坑
32	II D 11土坑	67	IV C 13- 2 土坑
33	II D 12土坑	68	IV D 13土坑
34	II D 13土坑	69	III I 12燒土
35	II D 15土坑		



第8図 五庵II遺跡遺構配置図

## IV . 検出遺構と出土遺物

### 1. 検出された遺構

今回の調査で検出された遺構は、次のとおりである。

- 竪穴住居跡 21棟 (古代1・中～近世20棟)
- 掘立柱建物跡 1棟
- 竪穴住居状遺構 2遺構
- 柱穴 約380個
- 土坑 44基
- 焼土 1遺構

これらのうち、竪穴住居状遺構の1棟については、遺物の出土状況から中～近世に比定されるものである。また、約380個検出された柱穴についても出土遺物等から中～近世の掘立柱建物跡を構成するものと考えられる。

なお、これらの遺構のうち、西向き斜面からは、土坑1基が検出されたのみで、他はすべて尾根部からのものである。

#### (1) 竪穴住居跡

##### ① 古代 (平安時代)

#### IV 15住居跡

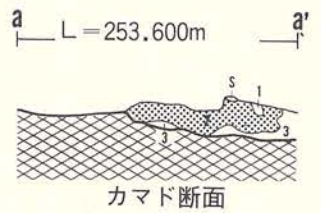
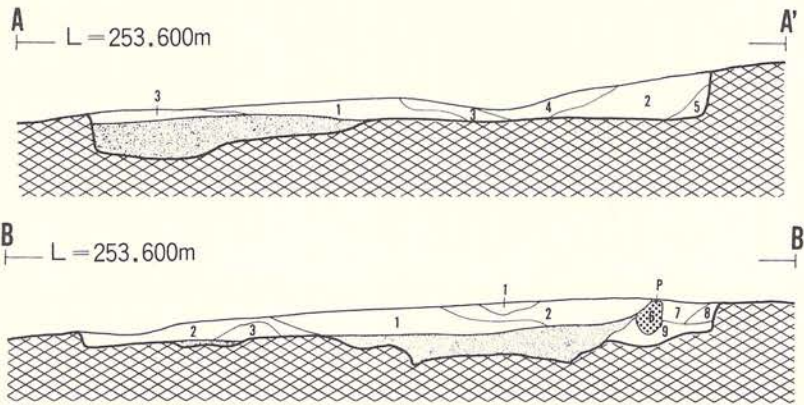
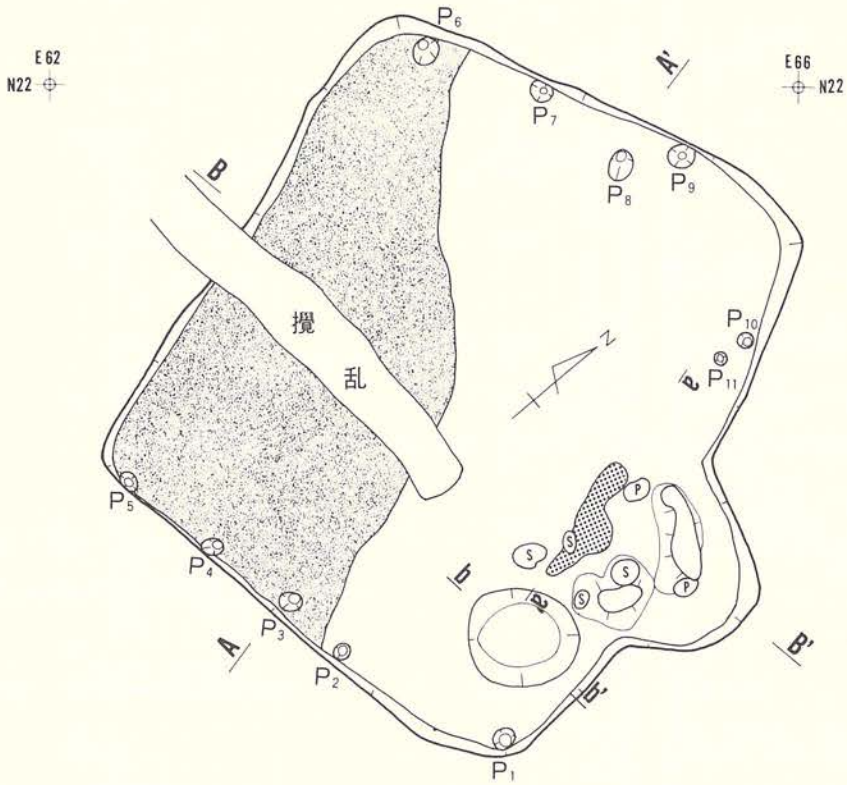
〈遺 構〉 第9図、写真図版5・6

本住居跡は、調査区の東端に近い南西向き緩斜面に占地する。検出面は、西向き斜面部の基本層序Ⅲ層上位面である。削平や攪乱のため全体的に遺存状況は良くない。規模は3.4m×2.7mで、やや北西—南東に長い。平面形は、隅丸台形に近い。

埋土は、地山小土塊、焼土を多量に含むほか、4層には十和田a火山灰が塊状に含まれている。堆積の状況からは、埋戻されたものと思われる。壁は直立し、壁高は20cm前後である。床面は、平坦であるがやや軟らかい。柱穴は、壁際の床面から11個が検出された。いずれも開口部の径が10cm前後、床面からの深さも10cm前後である。

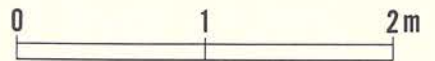
カマドは、南東壁中央部から若干南寄りに構築されている。遺存状況が悪く全容の把握は困難である。袖部は、礫、黄褐色気味のシルト質の粘土塊の出土状況から、これらの礫を芯材にしシルト質粘土を貼付けて構築されたものと思われる。燃焼部底面から焼土が確認されているが焼成は悪い。煙道部は、いわゆる煙道はなく、壁を半円状にえぐり込んで構築されたようである。

カマドの右から平面形円形、開口部径60cm、深さ約20cmの土坑が1基検出された。これは、



1. Hue10YR 2/1 黒色 地山小土塊、炭化材小片、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 2/1 黒褐色 地山小土塊、炭化材小片、焼土粒を含む。
3. Hue10YR 5/8 黄褐色 黒褐色シルト、焼土粒を含む。
4. Hue10YR 3/2 黒褐色 十和田a降下火山灰、炭化材小片、焼土粒を含む。
5. Hue10YR 2/2 黒褐色 焼土粒を含む。
6. Hue10YR 5/8 明褐色 焼土。
7. Hue10YR 2/1 黒色 焼土粒を含む。
8. Hue10YR 2/2 黒褐色 焼土粒を含む。
9. Hue10YR 5/8 黄褐色 焼土粒を含む。

- IVF15住 カマド断面
1. Hue10YR 2/3 黒褐色 焼土粒を含む。
  2. Hue10YR 5/4 にぶい黄褐色 焼土。
  3. Hue 5 YR 5/8 明赤褐色 地山IIa小土塊を含む。



第9図 IVF15住居跡

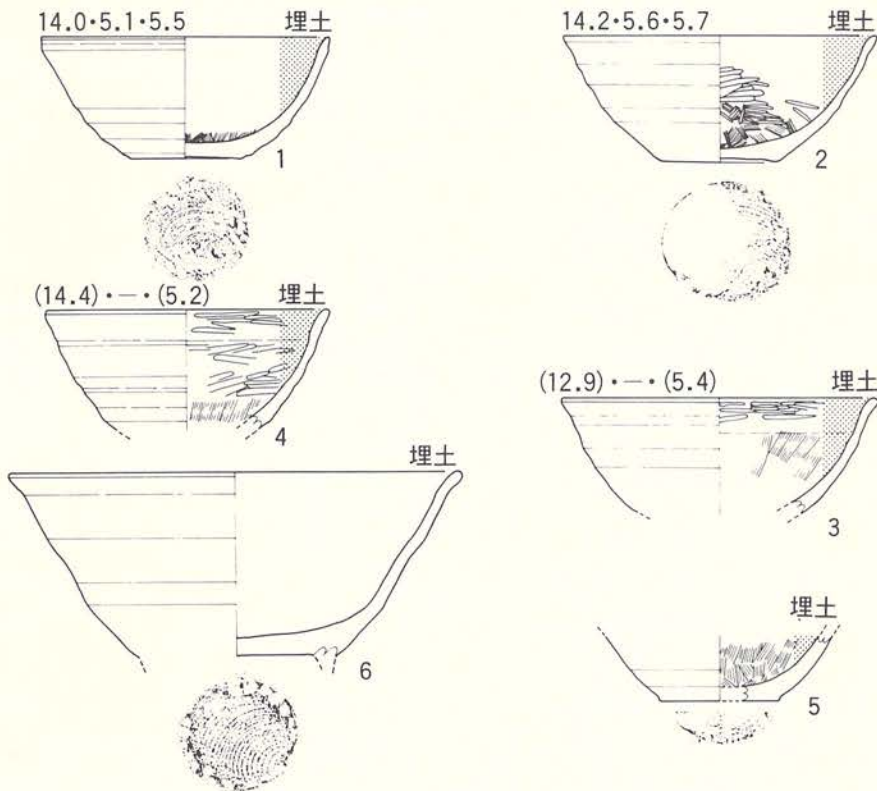
土器片の出土、土坑の位置・規模・形状から「貯蔵穴」と思われる。また、床の斜面下位部には貼床が施されている。

〈遺物〉 第10図、写真図版40

坏形土器5点、鉢形土器1点が出土している。いずれも床面および埋土からの出土である。これらは、すべてロクロ成形されており、坏形土器は内面黒色処理されている。底部は回転糸切り無調整である。なお、ロクロは右回転によるものである。

坏形土器のうち、1は、口縁部が1/3ほど欠損している。外面は底部付近に稜をもつ。器形は全体的には内彎する。口唇部は丸い。外面はほとんど無調整であるが、内面底部は放射状にナデが施されている。2は、全体の約1/2だけが残存する。外面には数か所に明瞭な稜をもつ。器形は、全体的に外傾気味で、口唇端部は平坦に殺がれている。外面は無調整、内面は、底部がナデ、体部はミガキが施されている。3・4は、全体の約1/4を残存するだけであるが、共に外面に稜をもち、内面には、ナデとミガキが施されている。特に内面の調整は念入りである。また、器形は、全体的には内彎気味であるが、4では、口縁部が若干外傾する。

6は鉢形土器で全体の約1/4が残存する。外面には数か所に稜をもつが、両面共に調整痕は認められない。器形は全体的には外傾して立つが、口唇部は外反する。



第10図 IVF15住居跡出土遺物

② 中～近世（戦国～江戸時代）

Ⅱ C 11住居跡

〈遺 構〉 第11図、写真図版7

本住居跡は、尾根部の西端に近い平坦地に占地する。検出面は、基本層序Ⅱ a 層上面である。Ⅱ C 11掘立柱建物跡の柱穴によって、本住居跡の床および壁の一部が切られている。また、本住居跡は、Ⅱ C 11土坑の上位を削平、さらに、Ⅱ D 11土坑の西半をも切っている。

規模は、5.6m×5.5mで、やや北西―南東に長いものの、平面形はほぼ隅丸方形である。壁は、急激に外傾して立つ。壁高は、15～30cmである。なお、南側壁の北寄りの一部が張り出しみえるが、これは、崩壊によるもので、本住居跡の施設ではない。埋土には、地山Ⅱ a 層相当の土塊が散見され、堆積の状況からも埋戻された様相を呈している。

床面は、平坦かつ水平で硬い。柱穴は、Ⅱ C 11掘立柱建物跡に伴うものを除いて32個が検出されたが、埋土、検出状況からすべての新旧関係を把握することはできなかった。いずれにしても、これらのうち、本住居跡に伴わないものも相当数あるようである。

柱穴中、P<sub>17</sub>～P<sub>19</sub>は、確実に本住居跡に伴うものであるが、他の柱穴に比してやや規模が大きく、棟持柱等特別な役割をもったものであろう。また、床については、床面の状況、柱穴の配置等からみれば板張りの施設はなく、土座間だったと思われる。

なお、西側壁近くの床面から長軸をほぼ壁に平行させる楕円形の土坑が検出されている。この土坑から、焼成を受けた大ぶりの亜角礫が数個出土している。したがって、この土坑は「炉」的性格をもつものとも推定されるが、焼土や木灰等は確認されず、あくまでも推定の域を出るものではない。

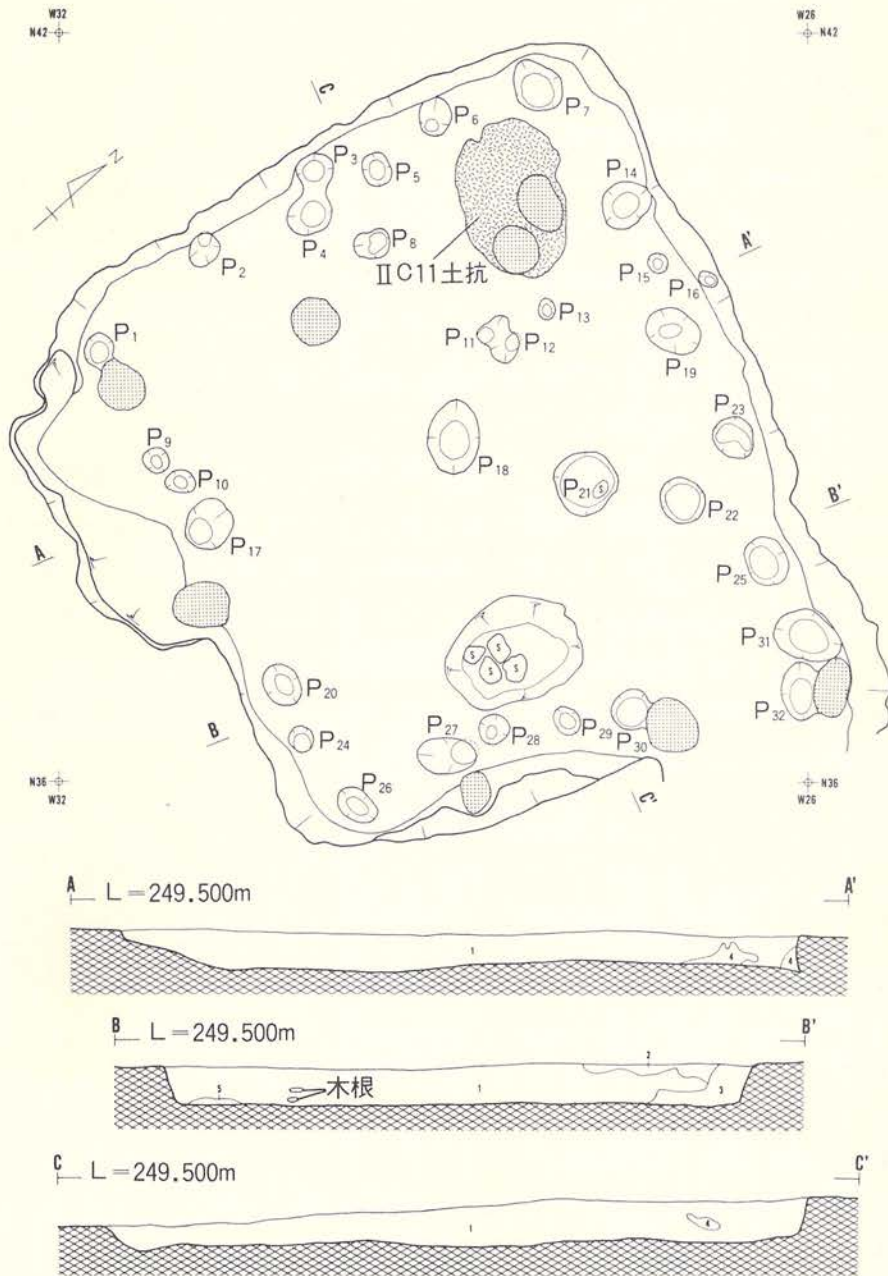
Ⅱ C 11 竪穴住居跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>	P <sub>12</sub>	P <sub>13</sub>
底面径	36×28	24×20	34×32	40×36	32×26	22×18	56×48	36×26	22×16	24×18	28×22	28×24	20×14
深 さ	71.0	63.3	88.0	74.0	33.5	46.8	85.5	21.0	57.0	78.0	17.5	14.0	19.0
	P <sub>14</sub>	P <sub>15</sub>	P <sub>16</sub>	P <sub>17</sub>	P <sub>18</sub>	P <sub>19</sub>	P <sub>20</sub>	P <sub>21</sub>	P <sub>22</sub>	P <sub>23</sub>	P <sub>24</sub>	P <sub>25</sub>	P <sub>26</sub>
底面径	46×36	18×16	18×14	40×36	60×48	28×20	38×24	84×80	58×54	56×32	30×26	54×42	40×22
深 さ	65.6	54.5		0.7	86.5	71.1	59.5	27.0	11.0	13.0	38.0	89.5	89.5
	P <sub>27</sub>	P <sub>28</sub>	P <sub>29</sub>	P <sub>30</sub>	P <sub>31</sub>	P <sub>32</sub>							
底面径	44×36	24×16	30×20	52×46	84×48	56×34							
深 さ	68.5	68.7	82.5	56.0	81.5	41.0							

〈遺 物〉 第27図、写真図版41

石製鉢・「手形」が各1点、埋土から出土した。石製品については、手水鉢のほか搦鉢としての機能も考えられる。手形は腐朽が著しく、残存するのは外側に付着した漆の膜だけである。



1. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山Ⅱa小土塊、炭化材小片を含む。
2. Hue10YR 3/4 暗褐色 混入物なし。
3. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅱa粒を含む。
4. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山Ⅱa土塊を含む。
5. Hue10YR 4/6 褐色 地山Ⅱb層に近似する。

第11図 II C11住居跡



## II C 13— 1 住居跡

〈遺構〉 第12・13図、写真図版8

本住居跡は、尾根部の西端に近い平坦地に占地する。検出面は、基本層序II a層上面である。本住居跡は、II C 13— 2・IID 12— 1・2住居跡を切り、IID 13住居跡に切られている。また、IID 13— 柱穴・IID 14— 柱穴の大型の柱穴に切られている。

規模は、6.7m×4.0mで長軸を北西—南東にもつ。平面形は、隅丸長方形である。壁はほぼ垂直に立ち、壁高は40～70cmである。埋土は単層で、地山II a層相当の小土塊、炭化材片を多量に含み、明らかに埋戻しの様相を呈している。

床面は、若干凹凸がみられるもののほぼ平坦で硬い。柱穴は、床面から22個が検出された。これらのうち、本住居跡の柱を構成する柱穴は、P<sub>1</sub>・P<sub>3</sub>・P<sub>6</sub>・P<sub>11</sub>・P<sub>14</sub>・P<sub>16</sub>・P<sub>21</sub>・P<sub>22</sub>・P<sub>17</sub>・P<sub>13</sub>・P<sub>10</sub>と考えられる。また、柱穴の配置からみると、桁柱を構成する柱穴は、P<sub>3</sub>とP<sub>22</sub>と考えられる。他については埋土および検出状況からは、本住居跡に伴うか否かについての確定はできなかった。また、柱穴の規模・形状から径が10～15cmの丸柱と考えられる。

なお、床面から焼土が確認されていること、多量の炭化材が埋土に含まれること、埋戻されていること等の状況から、本住居跡は、焼失した可能性もある。

II C 13— 1 住居跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>	P <sub>12</sub>	P <sub>13</sub>
底面径	30×28	32×30	38×24	34×32	38×30	30×24	18×14	24×20	22×16	44×26	24×22	54×48	20×18
深 さ	85.5	62.2	72.7	55.2	37.2	82.0	30.4	29.8	91.3	98.8	44.2	9.2	101.6
	P <sub>14</sub>	P <sub>15</sub>	P <sub>16</sub>	P <sub>17</sub>	P <sub>18</sub>	P <sub>19</sub>	P <sub>20</sub>	P <sub>21</sub>	P <sub>22</sub>				
底面径	28×22	18×18	32×24	16×12	38×36	28×24	16×14	32×24	28×22				
深 さ	67.3	105.8	78.0	88.3	95.8	29.6	77.7	87.9	10.7				

〈遺物〉 第27・28図、写真図版42

陶磁器・古銭・鉄器・鉄製品・砥石・「透漉」の漉殻が埋土および床面から出土した。陶磁器は、3点出土したがすべて細破片である。そのうち、18は染付丸皿、19は16世紀末とみられる灰釉皿、20は15世紀末から16世紀とみられた信楽壺である。古銭は、床面および埋土から13枚出土した。内訳は、永楽通寶8枚、無文3枚、不明2枚である。

鉄器・鉄製品には、甲冑の「小札」と思われるもの(24)、刀装具(23)、刀子(25～27)、釘(28～30)、鍋の類と思われる鋳物片(31～32)がある。

その他に、砥石2点、漆器製作にかかわる「透漉」の漉殻も出土している。砥石は、使用痕から漆器製作の工具(鉋の類)の研磨に用いたものと思われる。

## II C 13— 2 住居跡

〈遺 構〉 第12・13図、写真図版 9

本住居跡は、尾根部の西端に近い平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a 層相当面である。本住居跡は、II C 13— 1・IID 13住居跡に切られ、IID 12— 1・2 住居跡およびIID 13土坑を切っている。さらに、掘立柱建物跡を構成した大型の柱穴数個にも切られている。

規模は、6.9m×6.9m（張出し部を除く）で、平面形は、隅丸正方形を呈する。壁は、外傾して急激に立つ。壁高は、残存部では10cm前後である。埋土は数層からなるが、地山II a 層相当の小塊、炭化材小片等を含むことと堆積の状況から埋戻された可能性が強い。床面は、平坦で硬い。

柱穴は17個が検出されたが、本住居跡に伴うか否か不明のものが多い。しかし、この中で、規模・位置・埋土からみると、P<sub>25</sub>～P<sub>27</sub>・P<sub>29</sub>・P<sub>35</sub>・P<sub>37</sub>は、本住居跡の柱穴の一部であろうと思われる。また、P<sub>36</sub>についても、規模的には上記のものに比して小型であるが、本住居跡に伴うものと思われる。

本住居跡は、北側壁の南端に張出し部をもち、柱穴配置、形状、床面の硬さ等から出入口としての機能をもったものと思われる。この部分の床面は、奥に進むほど低くなる。

なお、遺物は出土しなかった。

II C 13— 2 住居跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>	P <sub>12</sub>	P <sub>13</sub>
底面径	28×26	24×22	38×38	38×34	20×20	22×20	40×36	26×18	44×30	34×28	32×28	22×18	28×24
深 さ	95.1	93.8	94.3	20.1	84.5	70.0	114.4	22.8	65.4	90.9	85.5	92.5	76.7

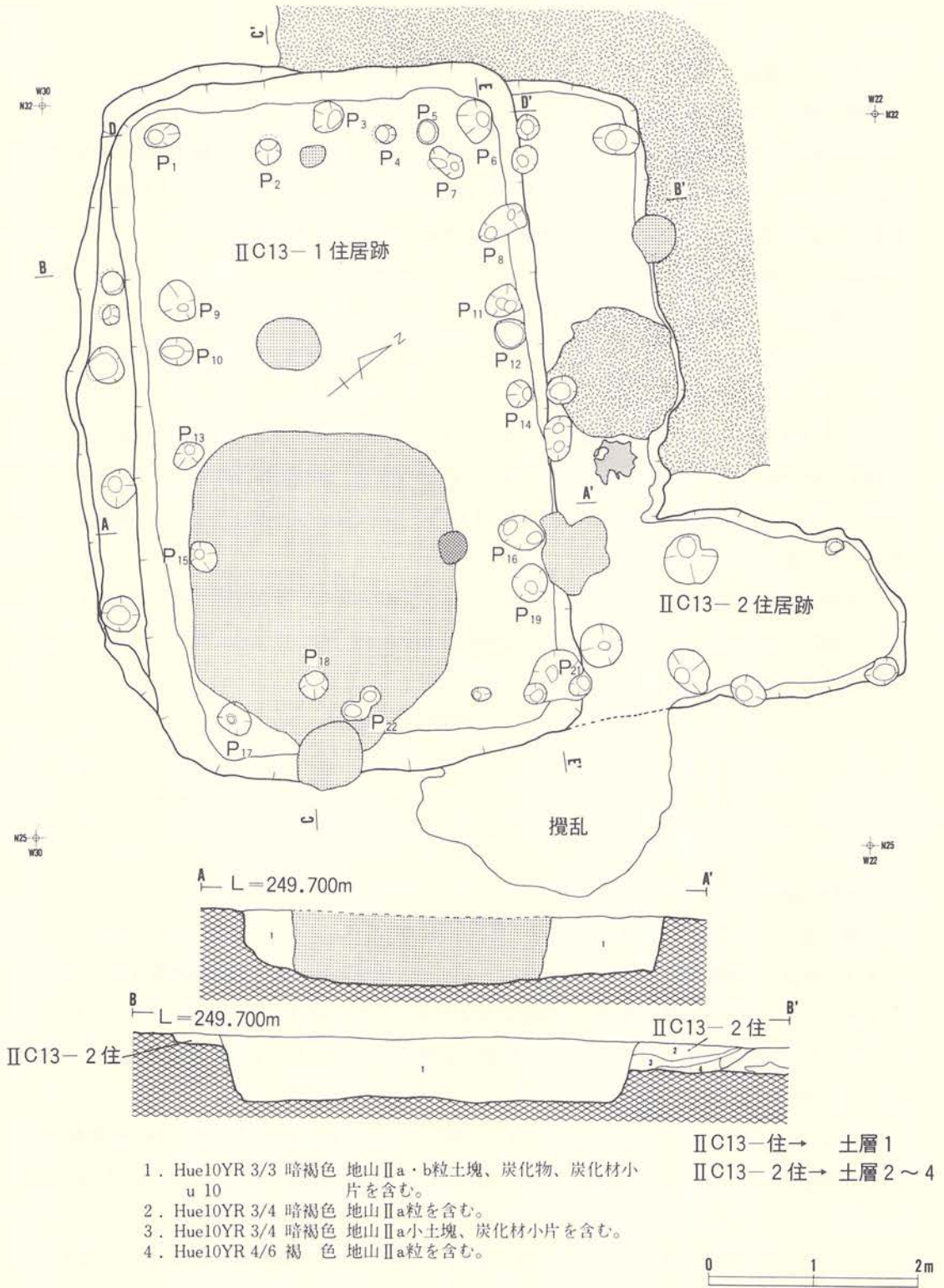
## II D 10住居跡

〈遺 構〉 第13図、写真図版 9

本住居跡は、尾根部の西端に近い平坦部に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a 層上面である。また、本住居跡の北半は、調査区外のため、全容を把握することはできなかった。さらに、本住居跡の南側壁の一部は、II C 11掘立柱建物跡の柱穴P<sub>5</sub>によって切られている。なお、II E 10— 柱穴 2 は、本住居跡に先行する。

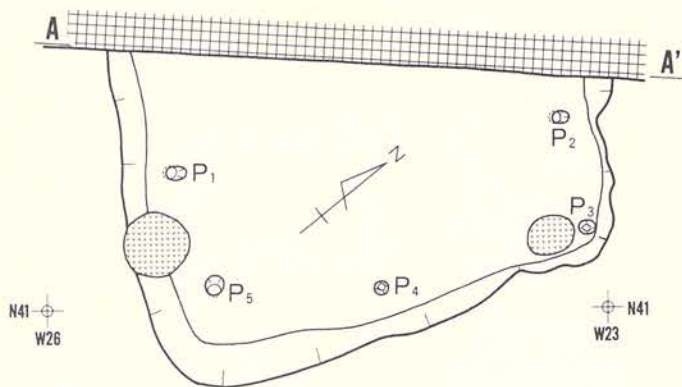
規模は、南—北で2.6mを測るものの一方は不明である。平面形は、隅丸方形ないしは隅丸長方形と推定される。壁は、ほぼ垂直に立つ。壁高は、約50cmである。埋土は5層に細分されるが、いずれにも地山相当の小土塊、炭化材小片等を含み、埋戻しの様相を呈する。

床面は硬い。柱穴は、壁際から5個が検出されている。これらの開口部の径はせいぜい10cm前後で、底面が平坦ではない。これらのことから、柱は、杭状のものを打込んで建てた可能性もある。なお、他の類似の住居跡の例からみると、柱穴は全体では7～8個になるものと予想



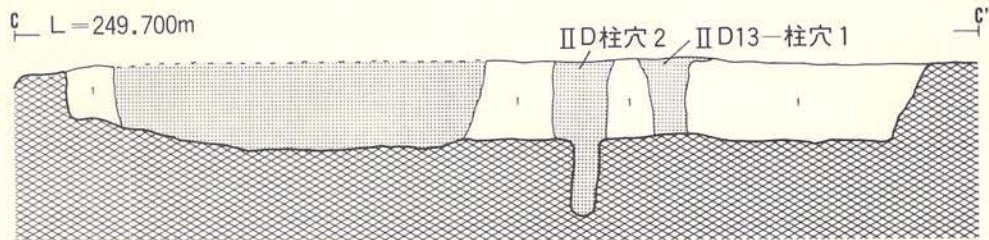
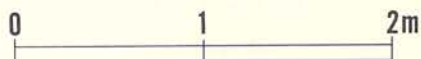
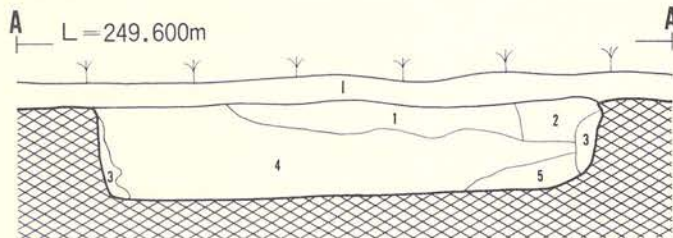
第12図 II C13-1・2住居跡①

ⅡD10住居跡



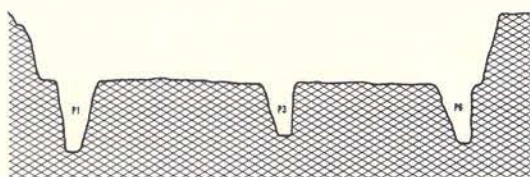
ⅡD10住居跡

1. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅱa・b小土塊、炭化材小片を含む。
2. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅱa・b粒、炭化材小片を含む。
3. Hue10YR 4/6 褐色 地山Ⅱa土塊を含む。
4. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅱa土塊、炭化材小片を含む。
5. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・b小土塊、炭化材片を含む。



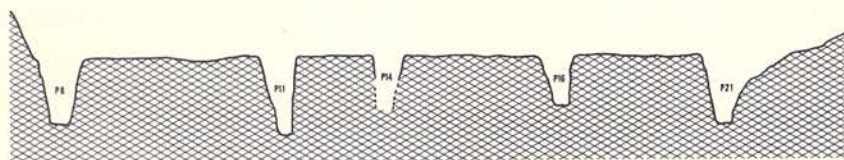
D L=249.700m

D'



E L=249.700m

E'



ⅡC13-1住居跡

第13図 ⅡC13-1住居跡②・ⅡD10住居跡



される。

II D 10住居跡柱穴一覧 単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>
底面径	16×14	8×8	6×6	12×12	14×12
深 さ	28.0	12.8	18.0	25.6	28.5

〈遺物〉 第29図、写真図版42

陶磁器・古銭・鉄製品・砥石が埋土および床面から出土した。陶磁器は7点あるが、すべて破片である。33～35は染付皿である。36は舶載（明）の白磁皿、39は16世紀前半と思われる美濃の灰釉皿である。なお、37と39は同一個体の可能性が強い。

古銭（40）は永楽通寶である。他に、41は甲冑の「小札」であろうか。42は砥石である。

## II D 12-1 住居跡

〈遺構〉 第14図、写真図版10

本住居跡は、尾根部の西端に近い平坦部に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a 層上面である。本住居跡は、II C 13-1・2住居跡、掘立柱建物跡を構成すると思われる数個の柱穴に切られ、II D 12-2住居跡、II D 12・II D 13・II E 11各土坑を切っている。また、本住居跡は、II D 12-2住居跡を縮小した可能性もある。

規模は、明確にはできないが、両軸約5mで、平面形は正方形の可能性が高い。壁は、北側壁だけの遺存で全容を把握することは困難であるが、外傾して急激に立ち、壁高は20cm前後であろう。埋土は、埋戻された様相を呈する。床面は、やや軟らかく、II D 12-2住居跡とほぼ同一比高である。

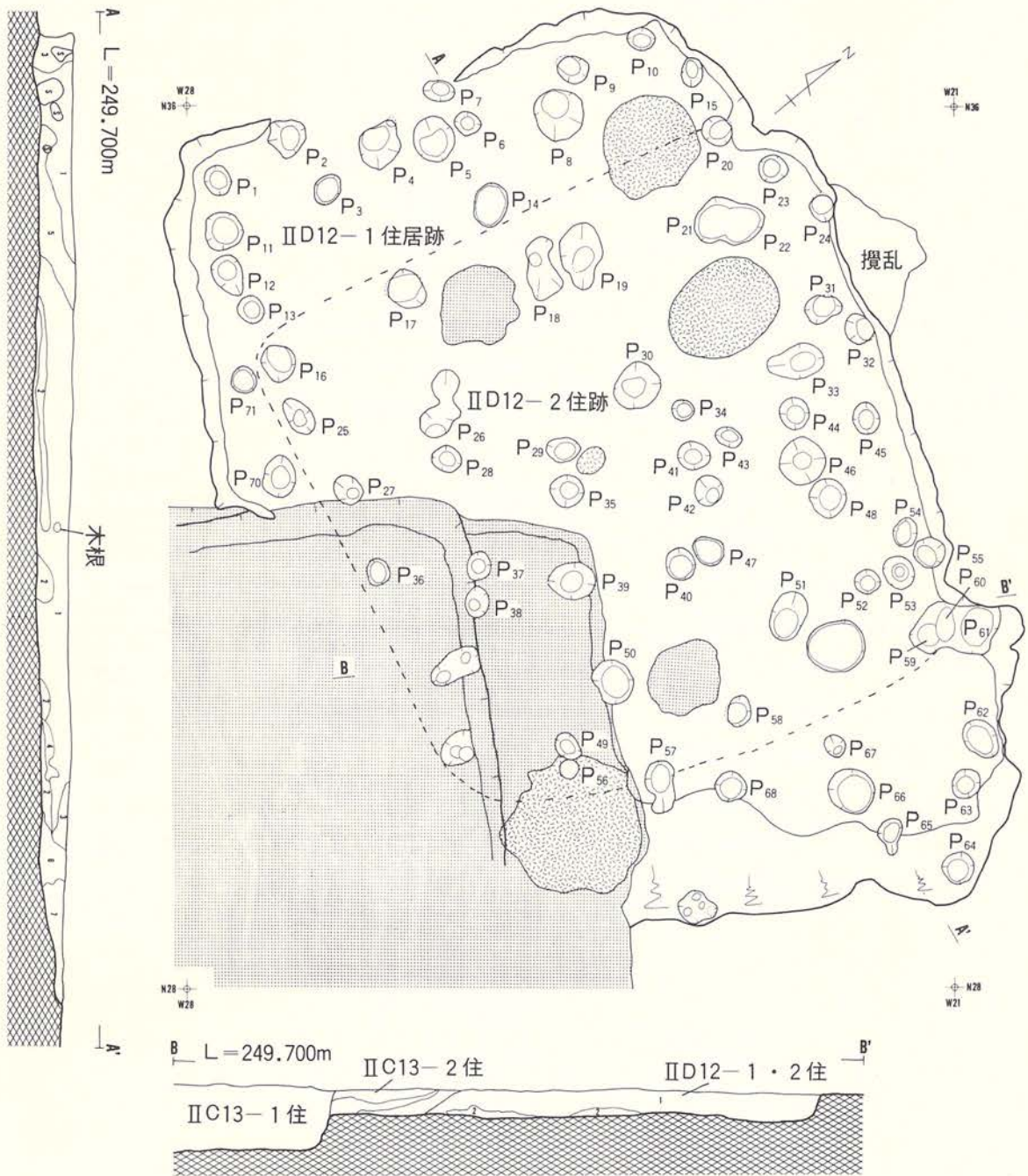
柱穴は、II D 12-2住居跡に伴うものと合わせて70個が検出されているが、これらは、調査段階では、埋土の状況・規模・配置等の点からは、いずれの住居跡に伴うものかすべてを明確にすることはできなかった。ただ、図上からみれば、P<sub>16</sub>・P<sub>17</sub>・P<sub>23</sub>・P<sub>31</sub>・P<sub>45</sub>・P<sub>54</sub>・P<sub>59</sub>・P<sub>58</sub>・P<sub>56</sub>の各柱穴は、本住居跡に伴うものとする。

〈遺物〉 第29～31図、写真図版43

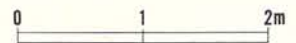
陶磁器・鉄器・鉄製品・銅製品・砥石・「手形」が埋土から出土した。

陶磁器は9点ある。そのうち、43・45・46は染付皿である。45・47・48・50は舶載（明）と思われる皿である。49は、16世紀中頃とみられる灰釉の施された「ひだ皿」である。51は、細片で器種等不明である。

その他に、刀子（58）、「手形」（56）、分銅型製品（55）、砥石（52～54）、釘（56）が各1点埋土から出土している。なお、P<sub>53</sub>からは、焼成を受けた扁平な円礫も出土した。



1. Hue10YR 3/2 黒褐色 地山Ⅱa粒小土塊、炭化材極小片を含む。
2. Hue10YR 5/6 黄褐色 地山Ⅱb土塊を含む。
3. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山Ⅱa粒小土塊を含む。
4. Hue10YR 3/4 褐色 地山Ⅱa粒を含む。
5. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅱa粒を含む。
6. Hue10YR 4/4 褐色 地山Ⅱa小土塊を含む。
7. Hue10YR 4/6 褐色 地山Ⅱa小土塊を含む。



第14図 II D12-1・2住居跡

## Ⅱ D12—2 住居跡

〈遺 構〉 第14図、写真図版10

本住居跡は、Ⅱ D12—1 住居跡等と重複して検出された。したがって、本住居跡は、Ⅱ D12—1 住居跡のほか、Ⅱ C13—1・2 住居跡および掘立柱建物跡を構成したと思われる数個の柱穴に切られている。また、Ⅱ D12・Ⅱ D13・Ⅱ E11の各土坑を切っている。検出面は、尾根部の基本層序Ⅱ a 上面である。

規模は、9.8m×6.0mで、平面形は、北西—南東に長い隅丸気味の長方形である。壁は、外傾して急激に立つ。壁高は、20cm前後である。埋土は、明らかに埋戻された様相を呈する。床面は、Ⅱ D12—1 住居跡同様やや軟らかい。なお、床面は、Ⅱ D12—1 住居跡とほぼ同一比高である。

柱穴は、Ⅱ D12—1 住居跡とからんで70個検出されているが、共伴関係、新旧関係不明のものが多い。そのうち、P<sub>11</sub>・P<sub>3</sub>・P<sub>5</sub>・P<sub>8</sub>・P<sub>15</sub>・P<sub>20</sub>・P<sub>22</sub>・P<sub>33</sub>・P<sub>53</sub>・P<sub>51</sub>・P<sub>50</sub>・P<sub>69</sub>・P<sub>36</sub>・P<sub>27</sub>・P<sub>13</sub>は、本住居跡に伴うものと思われる。なお、P<sub>53</sub>の底面直上からは、22cm×18cm×7cmほどの偏平な円礫（川原石）が出土している。そしてこの円礫の中心部は、径13cm前後に黒く「スス」が付着している。これは、柱が焼けた時のものと思われる。とすれば、本住居跡の柱は、他の柱穴の形状と合わせ、径13cm前後の丸柱であった可能性が強い。

〈遺 物〉 第31図、写真図版44

磁器・鉄器・鉄製品・古銭・「手形」が埋土および床面から出土した。

磁器（60）は、染付丸皿の口縁部である。古銭は5枚あるが欠損品が多い。このうち、64～66は永楽通寶、67～68は無文である。他に、釘（61）、刀子（62～63）も出土した。

Ⅱ D12—1・2 住居跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>	P <sub>12</sub>	P <sub>13</sub>
底面径	32×30	46×36	46×36	52×44	52×40	26×24	32×22	50×48	46×30	32×24	50×46	36×34	32×28
深 さ	79.5	80.0	23.0	76.0	30.5	74.0	82.5	88.	52.1	22.0	84.5	70.0	68.5
	P <sub>14</sub>	P <sub>15</sub>	P <sub>16</sub>	P <sub>17</sub>	P <sub>18</sub>	P <sub>19</sub>	P <sub>20</sub>	P <sub>21</sub>	P <sub>22</sub>	P <sub>23</sub>	P <sub>24</sub>	P <sub>25</sub>	P <sub>26</sub>
底面径	70×52	32×22	54×42	70×48	24×22	52×36	42×30	60×?	64×?	40×28	36×38	36×22	38×26
深 さ	4.4	82.5	68.5	80.5	63.0	99.5	27.0	82.0	86.5	62.5	78.0	50.0	41.5
	P <sub>27</sub>	P <sub>28</sub>	P <sub>29</sub>	P <sub>30</sub>	P <sub>31</sub>	P <sub>32</sub>	P <sub>33</sub>	P <sub>34</sub>	P <sub>35</sub>	P <sub>36</sub>	P <sub>37</sub>	P <sub>38</sub>	P <sub>39</sub>
底面径	22×20	30×24	38×32	44×34	42×40	40×32	46×30	26×26	32×32	36×28	24×26	24×22	42×32
深 さ	78.0	73.5	70.5	91.5	49.5	71.0	92.0	56.0	63.0	37.2	60.5	99.4	94.3
	P <sub>40</sub>	P <sub>41</sub>	P <sub>42</sub>	P <sub>43</sub>	P <sub>44</sub>	P <sub>45</sub>	P <sub>46</sub>	P <sub>47</sub>	P <sub>48</sub>	P <sub>49</sub>	P <sub>50</sub>	P <sub>51</sub>	P <sub>52</sub>
底面径	42×40	32×28	28×22	32×22	34×30	34×26	32×32	52×42	42×40	30×20	58×50	54×40	26×26
深 さ	85.5	56.5	39.0	81.5	94.0	74.0	0.6	51.1	74.0		105.0	65.0	92.0

	P <sub>53</sub>	P <sub>54</sub>	P <sub>55</sub>	P <sub>56</sub>	P <sub>57</sub>	P <sub>58</sub>	P <sub>59</sub>	P <sub>60</sub>	P <sub>61</sub>	P <sub>62</sub>	P <sub>63</sub>	P <sub>64</sub>	P <sub>65</sub>
底面径	34×34	40×28	40×36	36×32	48×34	40×36	40×?	62×34	70×54	56×40	32×30	40×38	38×24
深さ	12.0	81.0	24.5		71.0	61.5	17.5	51.0	65.0	97.0	33.5	18.0	45.0
	P <sub>66</sub>	P <sub>67</sub>	P <sub>68</sub>	P <sub>69</sub>	P <sub>70</sub>	P <sub>71</sub>							
底面径	60×58	20×12	38×36	26×26	52×42								
深さ	91.0	12.5	49.5	91.1	82.0								

## II D13住居跡

〈遺構〉 第15図、写真図版11

本住居跡は、尾根部の西端に近い平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上位相当面である。本住居跡は、II C13-1・2両住居跡に切られ、大型のII D14-柱穴2には東側壁の一部が切られている。

規模は、3.0m×2.5mで北西-南東に若干長い。したがって、平面形は、長方形に近い。壁はほぼ垂直に立つ。壁高は、70cm前後である。埋土は4層に細分され、いずれにも地山小土塊・炭化材小片等が多量に含まれており、明らかに埋戻された様相を呈している。床面は硬く、ほぼ平坦である。

柱穴は、9個が検出された。そのうち、P<sub>4</sub>・P<sub>8</sub>は、配置的には、不自然なあり方を示すが、埋土・規模の点からは本住居跡に関連するものとする。なお、柱は、規模・底面が平坦でないものもある等から、「打込み」式の丸柱と思われる。

### II D13住居跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>
底面径	20×18	12×10	14×10	10×10	22×20	12×10	16×12	16×14	14×14
深さ	14.3	6.8	9.4	5.6	41.8		48.6	57.5	41.1

〈遺物〉 第32図、写真図版44

陶磁器・鉄製品・「透漉」の漉殻が出土した。いずれも埋土からのものである。

陶磁器は5点あるが、69～73は、染付皿である。74は、唐津産の灰釉皿であるが、時期は不明である。75は、甲冑の「小札」であろうか。

## II D14住居跡

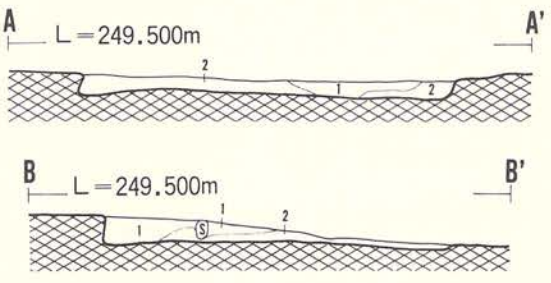
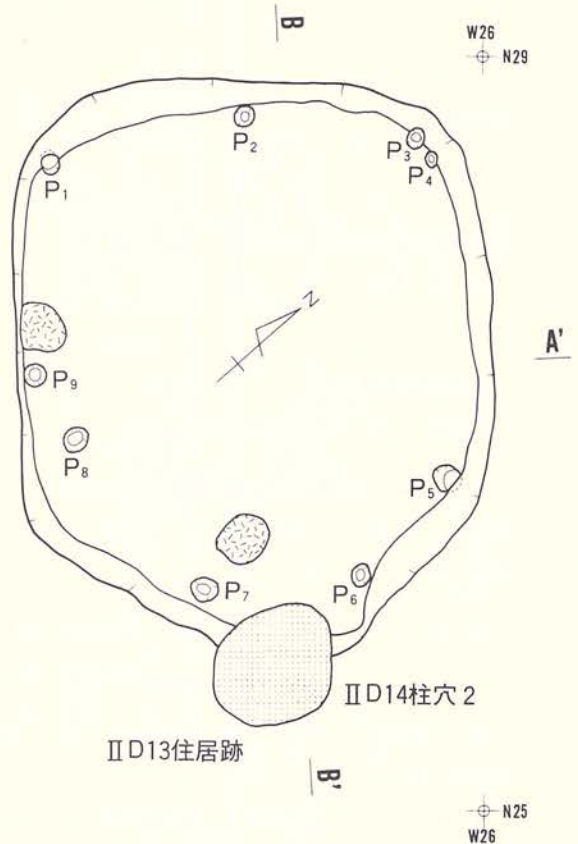
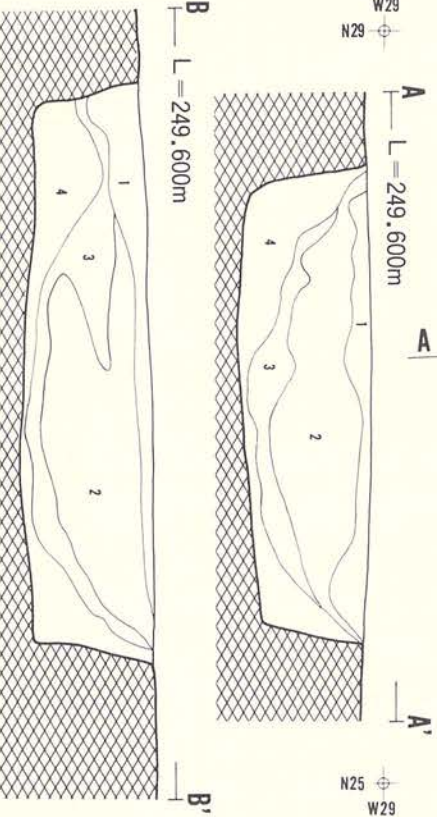
〈遺構〉 第15図、写真図版12

本住居跡は、尾根部の西端に近い、南向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。なお、本住居跡は、II D15土坑の一部を切っている。

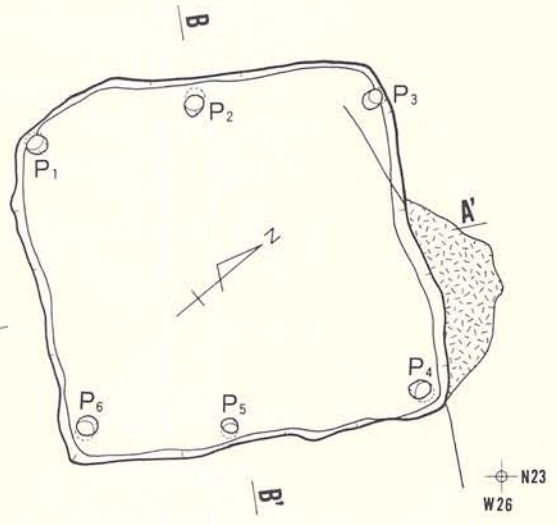
規模は、2.0m×1.9mで、平面形は、ほぼ隅丸正方形を呈する。壁は、ほぼ垂直に立つ。壁



1. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山II a・b/土壤、焼土粒、炭化材小片を含む。
2. Hue10YR 3/3 黒褐色 地山II a・b/土壤、炭化材小片を含む。
3. Hue10YR 4/3 黄褐色 地山II a・b・III a/土壤、焼土粒、炭化材小片を含む。
4. Hue10YR 2/2 黒褐色 地山II a・b、炭化材小片、焼土粒を含む。



1. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山II a小土塊、焼土粒、砂礫、炭化物を含む。
2. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山II a小土塊、焼土粒を含む。



第15図 II D13・II D14住居跡

高は、最高値で約15cmであるが、これは、削平を受けたもので、元来は、II D10・II E11住居跡と同様の掘込みであったと思われる。埋土は、地山II層小土塊・焼土等を多量に含んでおり、明らかに埋戻された様相を呈する。床面は、平坦であるが、やや軟らかい。

柱穴は、壁際から6個が検出された。これらは、いずれも平面形が円形で、床面からの深さは10cm前後である。さらに、これらは、底部が外方に向かって掘込まれ、柱を据えたと仮定すると、これらの柱は、床面中央で「X」に連結される。なお、これらの柱も、「打込み」式の丸柱と思われる。

II D14住居跡柱穴一覧 単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>
底面径	24×20	24×20	18×16	19×18	18×11	22×20
深さ	16.0	8.0	14.0	12.0	10.3	14.0

〈遺物〉 第32図、写真図版44

陶磁器・「透漉」の漉殻が出土した。磁器は1点で、16世紀末頃とみられる灰釉丸皿の破片である(72)。76は漉殻で床面から出土した。これは、漆液を精製するためのもので、材料は和紙である。

II E11住居跡

〈遺構〉 第16図、写真図版13

本住居跡は、尾根部の西端に近い平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。本住居跡は、掘立柱建物跡を構成すると思われる数個の新旧の柱穴と重複している。

規模は2.8m×2.3mで、南西―北東に長く、平面形は長方形を呈する。壁は、ほぼ垂直に立つ。壁高は、50cm前後である。埋土は、地山II層小土塊・炭化材小片等が含まれていることや堆積の状況から明らかに埋戻されたものである。床面は、平坦で硬い。

柱穴は、壁際の床面から14個が検出された。配置上からは、不自然なものもあるが、規模・形状・埋土の状況から、いずれも本住居跡に関連するものであると考える。

II E11竪穴住居跡柱穴一覧 単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>	P <sub>12</sub>	P <sub>13</sub>
底面径	10×8	10×8	10×10	6×4	10×8	10×8	20×18	18×14	18×12	12×10	14×12	12×10	12×10
深さ	20.0	8.0	5.0	8.5	18.0	11.5	11.5	13.0	20.0	13.5	18.5	21.5	21.0
	P <sub>14</sub>												
底面径	8×8												
深さ	19.5												

〈遺物〉 第32図、写真図版44

鉄製品・古銭・「透漉」の漉殻および殻物が埋土および床面から出土した。

鉄製品のうち77～79は釘、80・81は、鍋の類の鋳物の破片である。古銭は、埋土から2枚出土したが、いずれも永楽通寶である。

漉殻は、細片である。

II F 10住居跡

〈遺構〉 第16図、写真図版14

本住居跡は、尾根部の西端に近い平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。本住居跡は、掘立柱建物跡を構成すると思われる数個の新旧の柱穴と重複している。

規模は2.3m×2.0mで若干南西―北東に長い。平面形は隅丸長方形を呈する。壁はほぼ垂直に立つ。壁高は50cm前後である。埋土は6層に細分されるが、地山II層小土塊・炭化材小片・焼土等が含まれ、堆積の状況からも明らかに埋戻されたものである。床面は平坦で硬くしまっている。

柱穴は、壁際の床面から10個が検出された。いずれも平面形は円形、深さは10cm前後である。これに据えられた柱も、「打込み」式の丸柱と思われる。

II F 10住居跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>
底面径	14×12	20×16	10×10	14×14	12×?	16×14	14×10	12×12	16×14	14×14
深さ	14.0	24.0	25.0	24.5	38.4	19.4	17.4	15.0	3.8	14.9

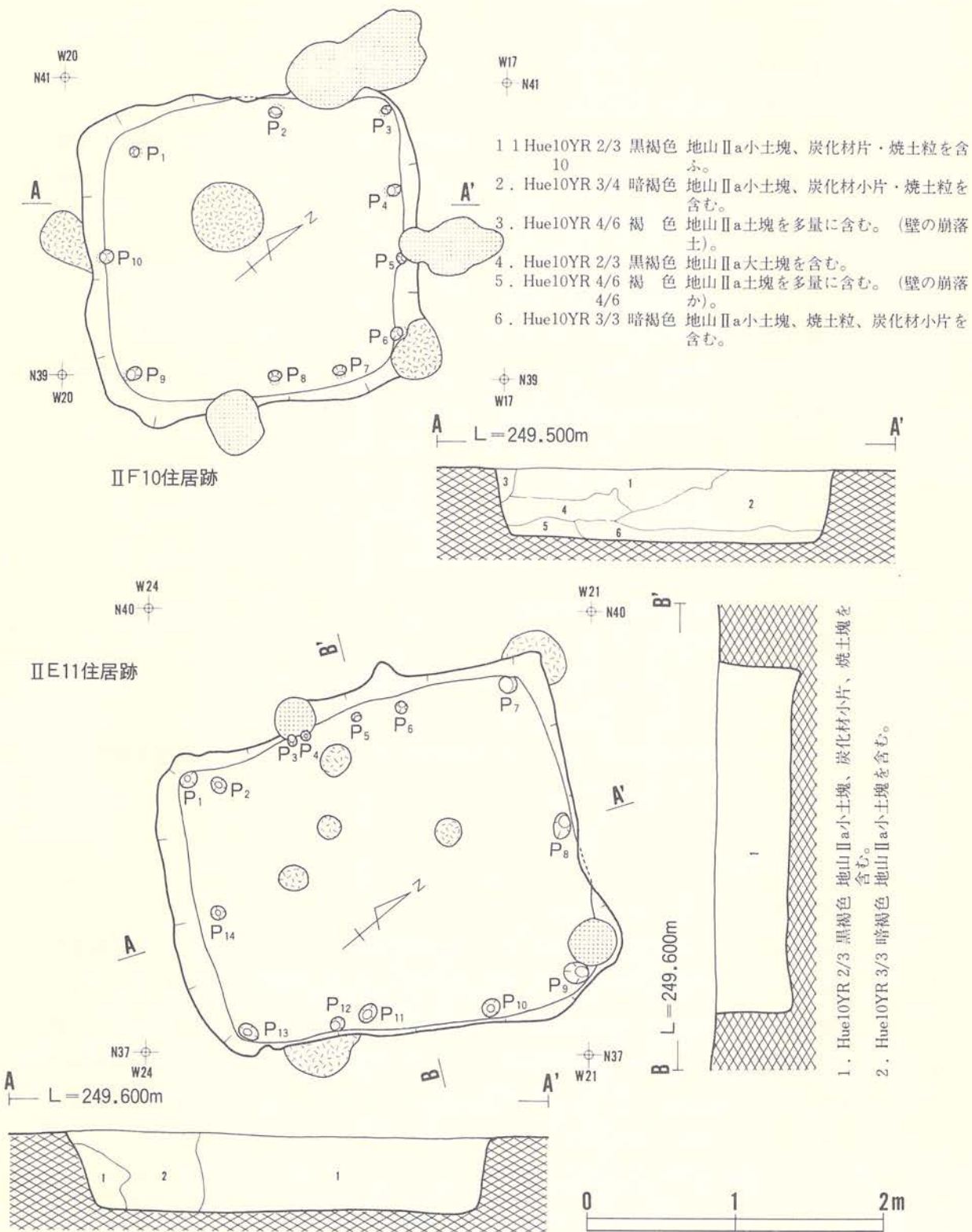
〈遺物〉 第33～35図、写真図版45～47

陶磁器・古銭・鉄製品・銅製品・「手形」が埋土した。

陶磁器は5点あり、84・85は染付皿、86は灰釉皿の底部である。87は、唐津産の皿で16世紀末頃と思われる。88は、信楽の壺の可能性が高い。

古銭は埋土から25枚出土した。永楽通寶17枚、無文4、不明4である。砥石は1点である。石材は、斜長石流紋岩が用いられ、平面的使用痕の他、多数の溝状の使用痕が観察され、鎌等の農具や平鉋の類の他に「丸突きノミ」等の研磨に用いた可能性が高い。

他に、特色的なものとして、「手形」(113)、分銅型銅製品(110)も各1点出土した。手形は、木質部は腐朽して残存しないが、漆器製作中に外面に付着した漆液が塗膜を形成し、それが残存している。色調は朱色を呈する。分銅型製品の機能は不明であるが、頭部に銅製の輪環が装着されている。IID12-2住居跡から出土したものよりはやや小型である、鉄製品は、鋳物の破片と釘である。



第16図 II E11・II F10住居跡

## II F 13— 1 住居跡

〈遺 構〉 第17図、写真図版14

本住居跡は、尾根部の南西端に近い南東向き緩斜面に占地する。検出面は、基本層序II a層上面である。なお、斜面下位にあたる本住居跡の南東側は、削平を受け、壁のほとんどは残存しない。したがって、本住居跡の全容は、把握できなかった。

規模は、1.8m×1.7m(推定)、平面形は、隅丸正方形に近いと思われる。壁は外傾して急激に立ち、壁高は、最高約20cmである。埋土は4層に細分されるが、地山II a層小土塊・炭化材小片・焼土等を含み、堆積の状況も埋戻しの様相を呈する。床面は、平坦ではあるが軟らかい。

柱穴は、壁際の床面から8個が検出された。このうち、P<sub>2</sub>は規模的に他に比して極端に小さく、配置上からも本住居跡に伴うものかどうか疑問である。柱は「打込み」式であろう。

II F 13— 1 住居跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>
底面径	6×3	2×2	2×2	4×4	6×6	8×6	6×6	14× 8
深 さ	—	—	—	—	—	—	—	—

〈遺 物〉 第35・36図、写真図版47

陶磁器・砥石が埋土から出土した。

陶磁器は2点あり、115は、舶載(明)の染付皿か碗と思われるが細片で確定しがたい。116は、壺あるいは甕と思われるが、産地・時期ともに不明である。砥石も2点出土しているが、117には、平面的使用痕のほかに溝状の使用痕も数条観察される。石材には、流紋岩質細粒凝灰岩、硬質泥岩が用いられている。

## II F 13— 2 住居跡

〈遺 構〉 第17図、写真図版15

本住居跡は、尾根部の南西端に近い南東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。本住居跡は、掘立柱建物を構成すると思われる数個の柱穴に切られている。

規模は、2.1m×1.7mで若干北西—南東に長い。したがって、平面形は長方形を呈する。壁はほぼ垂直に立つ。壁高は、25～30cmである。埋土は5層に細分されるが、地山II・III a層相当の小土塊・炭化材小片・焼土を含み、堆積の状況からも明らかに埋戻された様相を呈する。床面は、平坦かつ硬くしまっている。

柱穴は、壁際の床面から8個が検出されている。なお、これらの中には底面が平坦でないものも認められ、規模も小さい。したがって柱は、他にもみられなるように、杭状の柱を打込んだ可能性が強い。

II F 13— 2 住居跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>
底面径	8×7	6×5	5×4	8×8	8×7	8×8	8×6	8×6
深さ	17.0	15.5	21.0	22.0	17.0	13.0	10.0	13.5

〈遺物〉

遺物は出土しなかった。

II F 14住居跡

〈遺構〉 第17図、写真図版15

本住居跡は、尾根部の南西方向の南東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層面である。また、本住居跡は、II F 14土坑を切り、斜面下位にあたる南東側約半分は、削平を受け残存しない。

したがって、規模・形状の全容を把握することはできないが、北西—南東軸は2.2mである。平面形は、方形を基調とするであろう。壁は、外傾して急激に立つ。壁高は、最高10cmである。埋土は、単層である。この埋土は、混入物から埋戻されたものと考えられる。床面は、平坦ではあるが軟らかい。

柱穴は、壁に接するように19個が検出されている。これは、いずれも小型である。したがって、柱は、至近から検出されているII F 13— 1・2住居跡同様、杭状の柱を打込んだものと推定される。

II F 14住居跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>	P <sub>12</sub>	P <sub>13</sub>
底面径	8×8	14×13	6×5	6×3	22×13	8×8	5×4	10×9	11×8	5×3	3×3	2×2	2×2
深さ	30.0	?	?	?	26.0	?	?	?	?	?	?	?	?
	P <sub>14</sub>	P <sub>15</sub>	P <sub>16</sub>	P <sub>17</sub>	P <sub>18</sub>	P <sub>19</sub>							
底面径	2×2	2×2	2×2	4×4	11×11	9×8							
深さ	?	?	?	?	?	?							

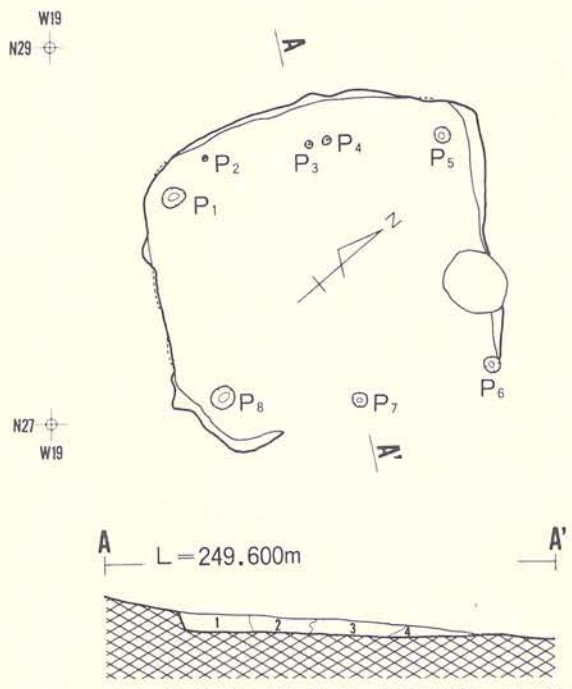
〈遺物〉 第36図、写真図版48

古銭が1枚（洪武通寶）埋土から出土した。

II G 11住居跡

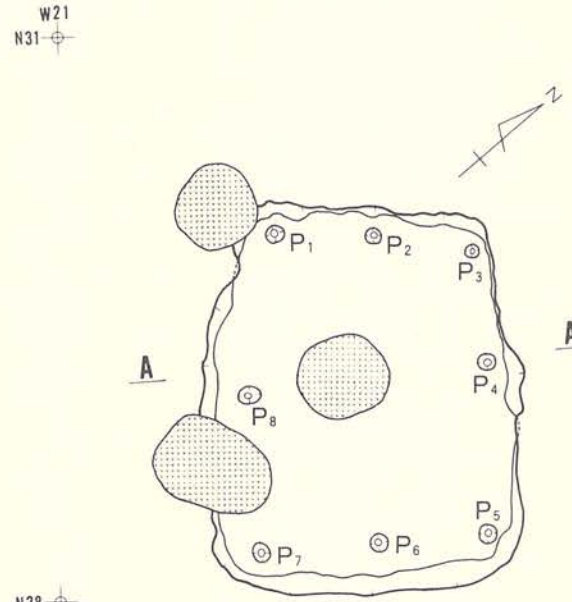
〈遺構〉 第18図、写真図版16

本住居跡は、尾根部の鞍部西寄りの平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層

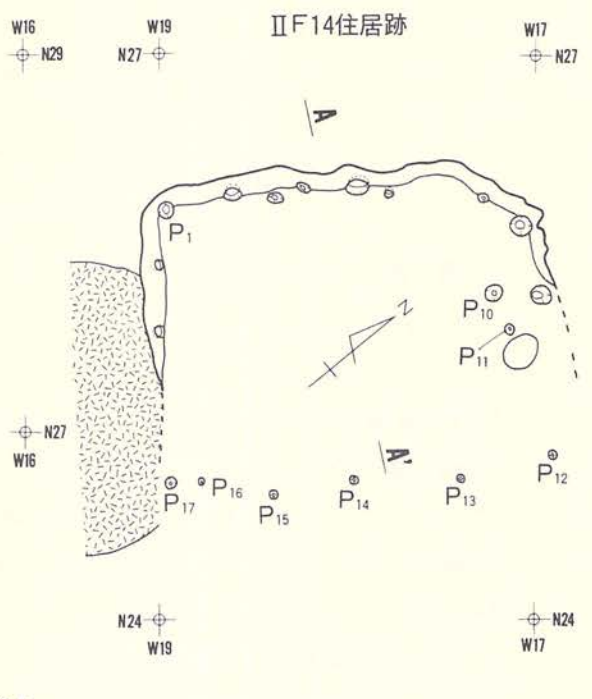


1. Hue10YR 5/6 黄褐色 地山IIa粒、炭化材小片、烧土粒を含む。
2. Hue10YR 4/4 褐色 炭化材小片、烧土粒を含む。
3. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山IIa小土塊、炭化材小片、烧土粒を含む。
4. Hue10YR 4/4 褐色 烧土粒、炭化物粒を含む。

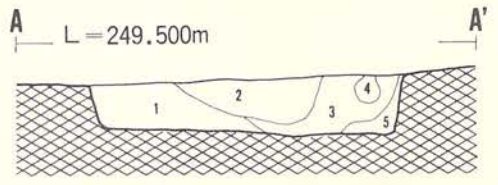
II F13-1 住居跡



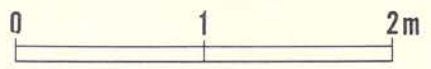
II F13-2 住居跡



1. Hue10YR 4/4 褐色 地山IIIa小土塊、炭化物粒、烧土粒を含む。



1. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山IIa・b・IIIa小土塊を含む。
2. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山IIa小土塊、烧土粒、炭化材小片を含む。
3. Hue10YR 4/4 褐色 地山IIa小土塊、炭化材小片、烧土粒を含む。
4. Hue10YR 5/6 黄褐色 IIa・b・IIIa小土塊を含む。
5. Hue10YR 4/4 褐色 IIa・b・IIIa小土塊を含む。



第17図 II F13-1、2・II F14住居跡

上面である。本住居跡は、II H11-1 住居跡によって西側の一部が切られている。また、掘立柱建物跡を構成すると思われる新・旧数個の柱穴とも重複している。

規模は、北西—南東軸は3.0m、南西—北東軸は2.9m（推定）である。したがって、平面形は、隅丸正方形と思われる。壁は、外傾して急激に立つ。壁高は40cm前後である。埋土は、単層で、地山II層小土塊・炭化材片・焼土を含み、明らかに埋戻されたものである。床面は、平坦かつ硬くしまっている。

柱穴は、壁際の床面から8個が検出されている。これらは、いずれも比較的小型で、底面が平坦でないものも認められる。したがって、柱は、他の住居跡でもみられるような、杭状の丸柱を打込んだものと思われる。

II G11住居跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>
底面径	9×9	14×13	13×12	12×12	12×9	14×10	10×7	8×8
深さ	68.1	31.5	24.0	14.8	35.0	50.7	25.5	39.1

〈遺物〉 第36図、写真図片48

陶器・古銭・鉄器が埋土から出土した。陶器は3点あるがいずれも細破片である。このうち、120・121は16世紀末の唐津産に近似する。器種は茶碗と思われる。

古銭は2枚あり、ともに永楽通寶である。他に刀子（122）が1点出土した。

## II H11-1 住居跡

〈遺構〉 第18図、写真図版16

本住居跡は、尾根部の鞍部西寄りの平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a 層上面である。本住居跡は、II G11・II H11-2 両住居跡を切っている。また、掘立柱建物跡を構成すると思われる若干の新・旧柱穴とも重複している。

規模は、3.4m×2.9mである。平面形は、II G11住居跡と重複する北西壁が若干脹らみ、不整隅丸方形を呈する。壁は概して外傾し急激に立つ。壁高は、70cm前後である。埋土は6層に細分されるが、地山II・III層相当小土塊、炭化材、焼土を多量に含み、堆積の状況からも明らかに埋戻されたものである。床面は、平坦かつ硬くしまっている。

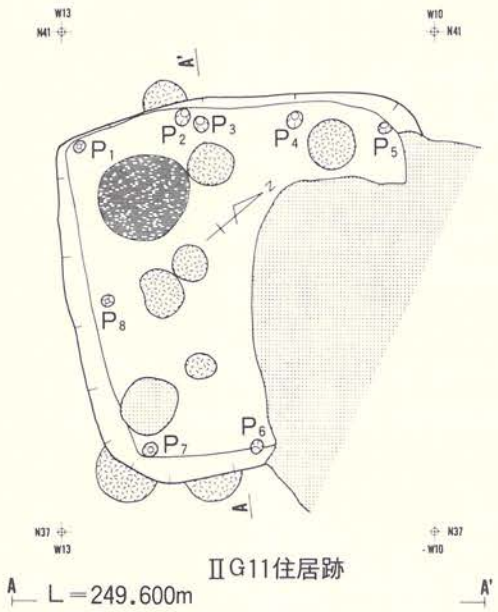
柱穴は、壁際の床面から9個検出された。これらは、規模・形状から、他の住居跡にもみられるように、杭状の丸柱を打込んだ可能性がある。

〈遺物〉 第36図、写真図版48

陶磁器・古銭・鉄器・鉄製品・「透漉」の漉殻・穀物が埋土から出土した。

陶磁器は青磁1点である（126）。なお、本遺跡から出土した青磁はこの1点だけである。器

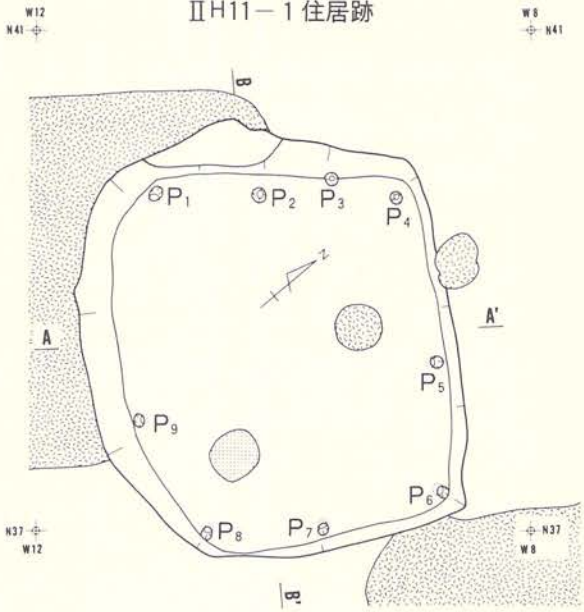




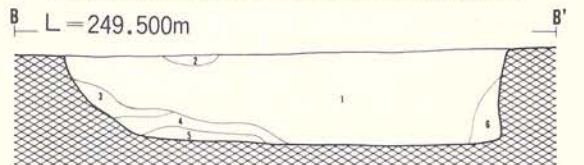
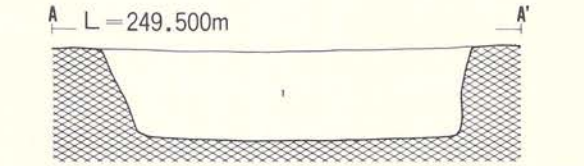
II G11住居跡



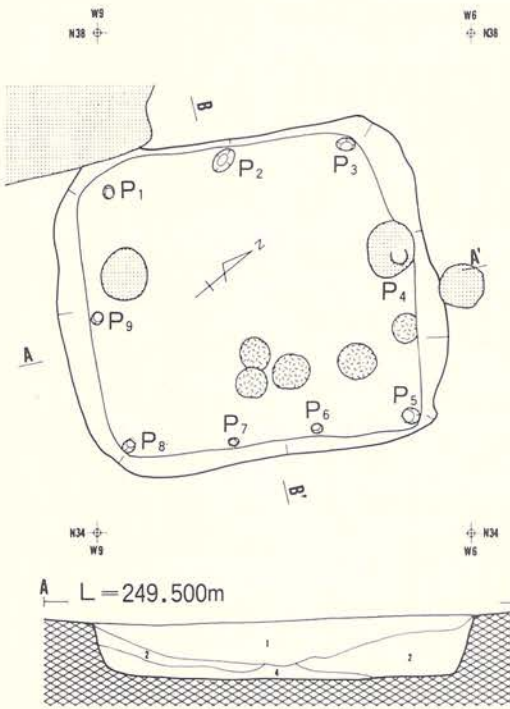
1. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山IIa小土塊、炭化材小片、焼土塊、焼土粒を含む。



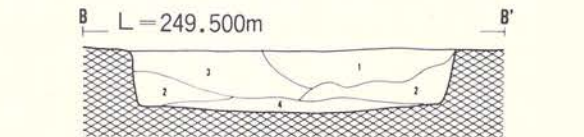
II H11-1 住居跡



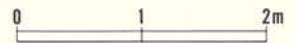
1. Hue10YR3/4 暗褐色 地山III層土塊が多量に含む。炭化物、焼土粒、炭化材小片を含む。
2. Hue10YR3/4 暗褐色 焼土塊、粒を含む。
3. Hue10YR3/4 暗褐色 地山IIa・b小土塊、炭化材小片を含む。
4. Hue10YR3/4 暗褐色 地山III層に含まれる浮石粒、地山IIa・b、炭化材小片を含む。
5. Hue10YR4/6 暗褐色 地山IIa・b、炭化材小片を含む。
6. Hue10YR4/6 褐色 地山II層土塊を多量に含む。



II H11-2 住居跡



1. Hue10YR3/3 暗褐色 地山IIa・b、地山IIIa小土塊、炭化材小片、焼土粒を含む。
2. Hue10YR6/6 明黄褐色 焼土粒、暗褐色土塊、炭化材小片を含む。
3. Hue10YR2/2 黒褐色 地山IIa・b、地山IIIa小土塊、炭化材小片、焼土粒を含む。
4. Hue10YR3/4 暗褐色 炭化材小片、焼土粒を含む。



第18図 II G11・II H-1、2 住居跡

種は丸皿と思われる。産地、時期は不明である。

古銭は永楽通寶 1 枚が出土した (125)。127・128は鋳物片、129は刀子である。

#### II H 11— 1 住居跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>
底面径	18×14	15×10	9×8	11×9	16×15	18×17	16×14	14×13	16×12
深さ	15.2	10.3	25.9	23.4	18.7	25.6	14.0	21.5	18.9

#### II H 11— 2 住居跡

〈遺構〉 第18図、写真図版17

本住居跡は、尾根部の鞍部西寄りの平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。本住居跡は、北西壁の一部が、II H 11— 1 住居跡に切られている。また、掘立柱建物跡を構成すると思われる数個の新旧の柱穴とも重複している。

規模は3.0m×2.6mで、若干南西—北東に長い。平面形は隅丸長方形を呈する。壁はほぼ垂直に立つ。壁高は50cm前後である。埋土は4層に細分されるが、地山II・III層相当小土塊・炭化材片・焼土を多量に含むこと、堆積の状況等から、埋戻されたものと思われる。床面は平坦かつ硬くしまっている。

柱穴は、壁際の床面から9個が検出された。これらも、規模・形状がII H 11— 1 住居跡等と酷似する。したがって、柱は、杭状の丸柱を打込んだものと考えられる。

#### II H 11— 2 住居跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>
底面径	16×13	20×13	14×10	28×?	20×20	15×11	14×12	18×15	16×12
深さ	56.4	46.0	45.0	35.0	37.0	46.4	49.2	47.0	52.8

〈遺物〉 第36図、写真図版48

陶器・鉄器・鉄製品・漉殻が埋土から出土した。

陶器 (130) は、16世紀末と思われる唐津産に酷似する茶碗である。その他、釘 (132) 刀子 (131) がある。漉殻は、少量かつ細片である。

#### III F 11住居跡

〈遺構〉 第19図、写真図版18

本住居跡は、尾根部の中央付近の南向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層である。また、本住居跡は、南東側壁がIII F 12住居跡の北西側壁と接するように検出された。

規模は3.0m×2.3mで北西—南東軸に長い。平面形は方形を基調とするが、北西側に張出し

をもつ。壁は垂直に立つ。壁高は30cm～55cmである。埋土は6層に細分されるが、地山Ⅱ・Ⅲ層相当小土塊・炭化材片・焼土等を多量に含むこと、堆積の状況等から埋戻されたものと考えられる。床面は、平坦であるが軟らかい。

柱穴は、壁際の床面から16個が検出された。これらのうち、張出し部のものを除く数個において、小型の柱穴の周囲が広く開口している柱穴がある。この地区は、地盤そのものが他地域に比してやや軟らかいため、元来小型の柱穴だったものの開口部が崩落したとも考えられる。そして、このような状況は、隣接するⅢF12住居跡にも観察される。しかし、一方、これらは、小型の柱穴とは元来別のものである可能性も考えられる。そして、このことと、床面が軟らかいこと、他の住居跡に比して床面の「ヨグレ」が少ないこと、大型の柱穴状土坑の広がり、小型柱穴の内側へ広がること等を考えると、本住居跡は板張り施設をもっていた可能性も十分考えられる。大型の柱穴状土坑は、その場合には「土台」の役割をもったであろう。

上屋構造を構成する柱は、他の多くの住居跡同様、杭状の丸柱を打込んだものであろう。張出し部の機能は、不明である。

〈遺物〉 第37図、写真図版48

鉄製品・砥石・「透漉」の漉殻・穀物が埋土から出土した。

砥石は、偏平な使用痕をもつ。漉殻は細片であるが朱色を呈する。穀物は、大麦、小豆、ソバである。

ⅢF11住居跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>	P <sub>12</sub>	P <sub>13</sub>
底面径	10×6	4×3	3×3	10×8	4×3	18×12	13×12	10×6	13×10	10×10	40×26	11×8	12×10
深さ	12.5	20.5	23.0	29.0	23.5	5.0	16.0	41.5	40.5	31.0	56.5	9.0	62.5
	P <sub>14</sub>	P <sub>15</sub>	P <sub>16</sub>	P <sub>17</sub>	P <sub>18</sub>	P <sub>19</sub>	P <sub>20</sub>	P <sub>21</sub>	P <sub>22</sub>				
底面径	10×10	4×2	4×4	12×9	28×?	42×?	7×6	40×24	43×29				
深さ	52.0	48.5	54.0	22.0	11.5	9.0	23.0	22.5	10.0				

ⅢF12住居跡

〈遺構〉 第20図、写真図版19

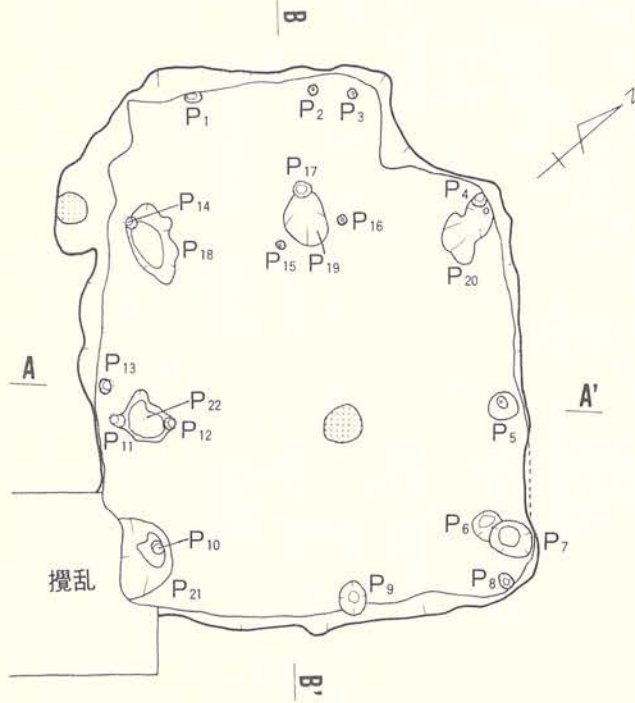
本住居跡は、尾根部の中央付近の南向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序Ⅱa層である。また、本住居跡は、北西側壁がⅢF11住居跡の南東側壁と接するように検出された。

規模は、2.5m×2.5mである。壁は、外傾して急激に立つ。壁高は、20～50cmである。埋土は単層で、堆積の状況、地山Ⅱ層相当小土塊・炭化材小片・焼土を含むことから埋戻されたものとみられる。床面は、平坦であるが軟らかい。

柱穴は、壁際の床面から大小セットで17個が検出された。なお、北西隅部は、攪乱を受けたが、ここにも一組みの柱穴があったと思われる。

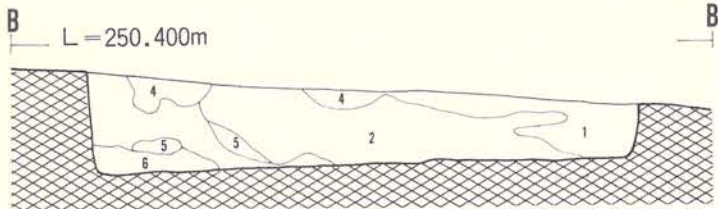
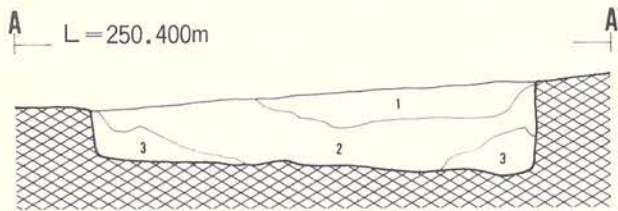
E19  
N38

E23  
N38

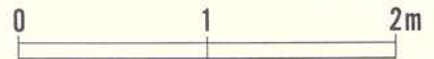


N34  
E19

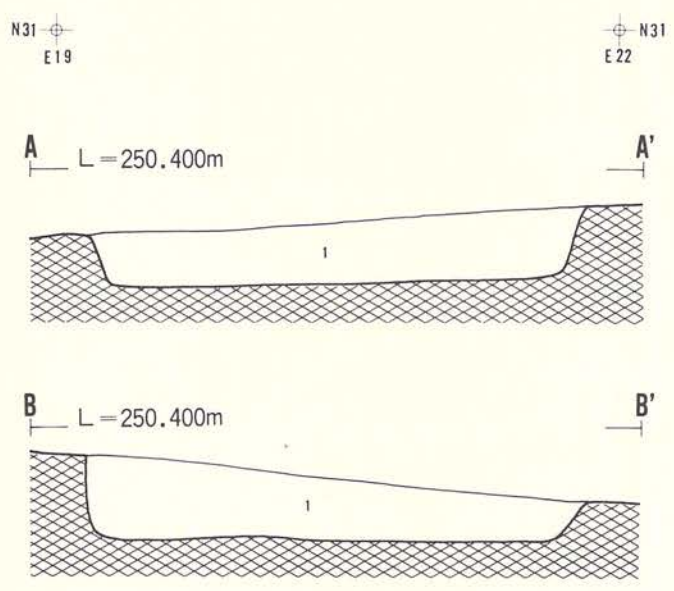
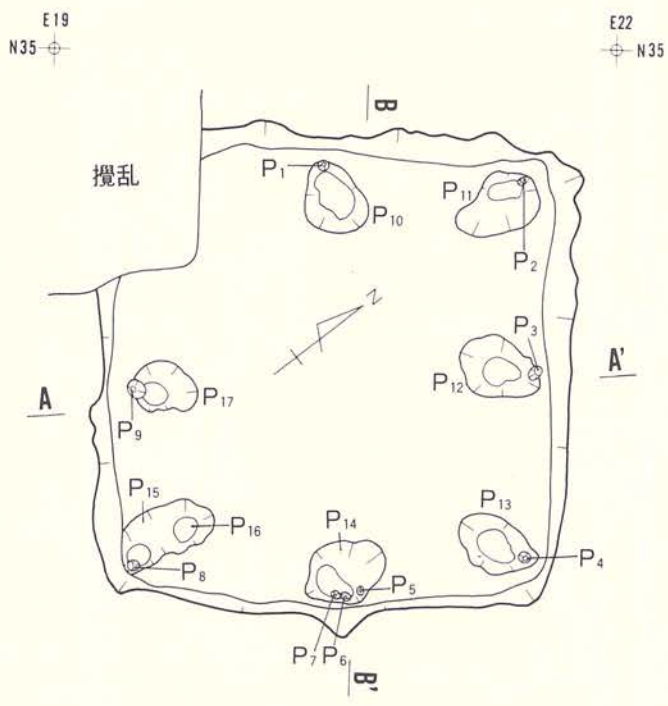
N34  
E23



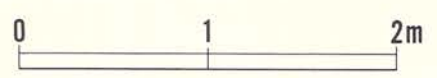
1. Hue10YR3/4 暗褐色 地山Ⅱa・b、地山Ⅲa小土塊、焼土を含む。
1. Hue10YR3/3 暗褐色 地山Ⅱa小土塊、炭化材小片、焼土粒を含む。
3. Hue10YR4/4 褐色 地山Ⅱb小土塊、炭化材小片を含む。
4. Hue10YR2/3 黒褐色 炭化材小片、焼土粒、地山に含まれる等石粒を含む。
5. Hue10YR3/2 黒褐色 地山Ⅱa小土塊、炭化材小片を含む。
6. Hue10YR5/6 黄褐色 砂質土。



第19図 III F11住居跡



1. Hue10YR3/4 暗褐色 地山 II a・b、炭化材小片、焼土粒を含む。



第20図 III F12住居跡

本住居跡は、III F 11住居跡と同様の検出状況から、板張り床であった可能性をもつ。柱もIII F 11住居跡と同様のものであったろう。

III F 12住居跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>	P <sub>12</sub>	P <sub>13</sub>
底面径	4×3	6×6	10×8	8×7	3×2	4×3	4×3	8×6	7×6	53×34	22×?	42×33	44×30
底面径	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	P <sub>14</sub>	P <sub>15</sub>	P <sub>16</sub>	P <sub>17</sub>									
底面径	26×?	25×?	30×23	26×?									
深さ	—	—	—	—									

〈遺物〉 第37図、写真図版48

砥石・「透漉」の漉殻・穀物が埋土から出土した。

砥石(135)は、偏平な使用痕をもつ。漉殻は細片で朱色を呈する。穀物は炭化しているが稗か粟の類である。

### III H 12住居跡

〈遺構〉 第21図、写真図版20

本住居跡は、尾根部の中央付近の南向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層である。

規模は、張出し部も含めて2.6m×1.9mで、北西—南東に長い。平面形は、方形を基調とし、張出し部は南東側にもつ。壁は、張出し部を除き垂直に立つ。壁高は20cm～60cmで、斜面下位の南側ほど低い。埋土は12層に細分されるが、堆積の状況、地山II層相当小土塊・焼土等を多量に含むことから、埋戻された可能性が強い。床面は、張出し部が高く硬くしまっている。

柱穴は、22個が検出されたが、そのうち、P<sub>18</sub>等は、直接本住居跡の上屋構造を構成するか否か確定できなかった。柱は、他の多くの住居跡同様、杭状の丸柱を打込んだと思われる。

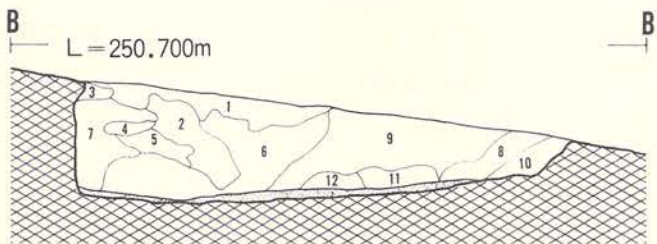
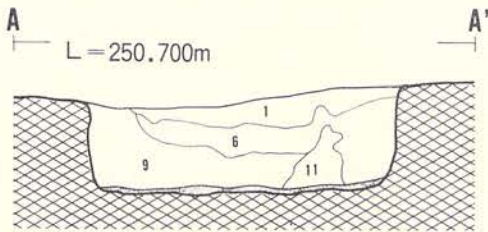
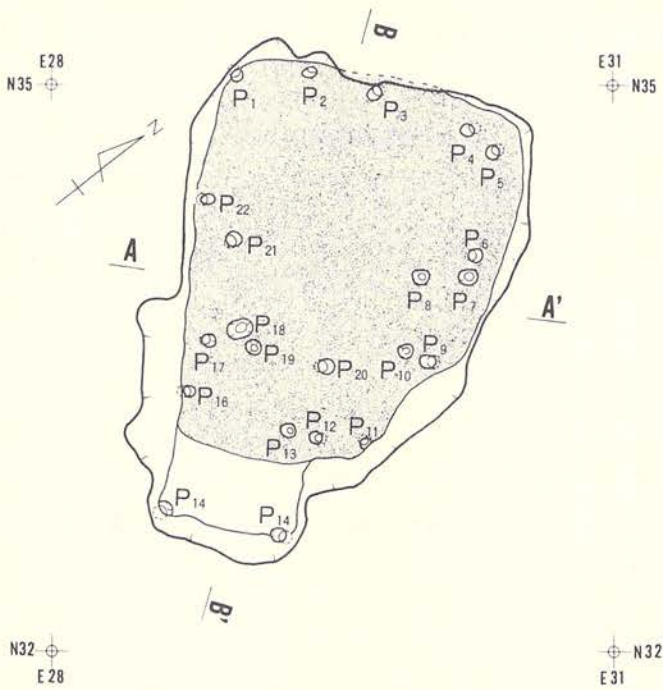
なお、本住居跡の張出し部は、出入口と考える。

III H 12住居跡柱穴一覧

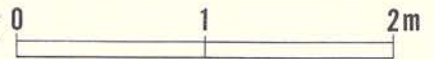
単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>	P <sub>12</sub>	P <sub>13</sub>
底面径	14×13	10×7	17×13	16×12	14×13	13×13	10×10	8×8	16×12	8×8	12×12	12×11	8×7
深さ	20.9	30.0	33.0	14.0	24.0	13.0	15.0	20.1	19.0	12.0	37.0	24.0	24.0
	P <sub>14</sub>	P <sub>15</sub>	P <sub>16</sub>	P <sub>17</sub>	P <sub>18</sub>	P <sub>19</sub>	P <sub>20</sub>	P <sub>21</sub>	P <sub>22</sub>				
底面径	13×13	16×16	14×13	11×11	12×10	8×8	14×12	16×13	14×13				
深さ	27.0	22.0	26.0	27.0	14.0	18.0	22.5	13.0	24.0				

〈遺物〉 第37図、写真図版48



- |                   |     |                      |
|-------------------|-----|----------------------|
| 1. Hue10YR 2/2    | 黒褐色 | 地山Ⅱ・Ⅲ層小土塊、砂質土を含む。    |
| 2. Hue10YR 3/2    | 黒褐色 | 地山Ⅱa小土塊、炭化物粒、焼土粒を含む。 |
| 3. Hue10YR 4/6    | 褐色  | 地山Ⅱa塊。               |
| 4. Hue10YR 3/2    | 黒褐色 | 炭化物粒を含む。             |
| 5. Hue10YR 2/1    | 黒色  | 地山Ⅱa小土塊を含む。          |
| 6. Hue10YR 3/2    | 黒褐色 | 地山Ⅱa小土塊、炭化物粒を含む。     |
| 7. Hue10YR 3/2    | 黒褐色 | 地山Ⅱa土塊を含む。           |
| 8. Hue10YR 3/2    | 黒褐色 | 地山Ⅱa土塊を含む。           |
| 9. Hue10YR 2/2    | 黒褐色 | 地山Ⅱa小土塊、炭化物粒を含む。     |
| 10. Hue10YR 2/2   | 黒褐色 | 地山Ⅱa小土塊、炭化物粒を含む。     |
| 11. Hue10YR 2/1   | 黒色  | 地山Ⅱa小土塊、炭化物粒を含む。     |
| 12. Hue10YR 1.7/1 | 黒色  | 地山Ⅱa粒を含む。            |



第21図 ⅢH12住居跡

永楽通寶（136）が1枚埋土から出土した。

### III I 13住居跡

〈遺 構〉 第22図、写真図版21

本住居跡は、尾根部の北寄りの奥に占地する。ここは、ほぼ南向き斜面を呈するところである。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。

規模は、張出し部も含めて3.2m×2.4mで、北西—南東軸が長い。平面形は方形を基調とし、張出し部は、北東側にもつ。壁は、ほぼ垂直である。壁高は、25cm～45cmで斜面上位の北側ほど高い。埋土は、8層に細分されるが、堆積の状況、地山II a小土塊・焼土粒等を含む等から、明らかに埋戻された様相を呈する。床面は、水平かつ硬いが、張出部がやや高い。

柱穴は、壁際の床面から11個が検出されている。柱は、他の多くの住居跡同様、杭状の丸柱を打込んだものと思われる。

張出し部の機能は不明であるが、出入口施設ではないかと思われる。なお、北西側壁には開口部から床面に達する幅5cm～10cmの「短冊」形の鋤の工具痕状の痕跡が観察されている。この痕跡は、本住居跡を構築する際の工具痕ないしは壁の崩落防止のための板材（矢板）の痕跡と思われるが、本遺構の場合は、これらの痕跡がほとんど破壊されていないこと、埋土が埋戻されている等から、壁の崩落防止のための板材の圧痕の可能性が強い。

III I 13住居跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>
底面径	30×20	19×17	25×23	18×17	16×16	13×10	15×14	23×19	20×20	26×24	26×17
深 さ	30.3	11.8	4.6	23.1	19.5	18.1	25.6	18.3	20.8	25.6	30.0

〈遺 物〉 第37図、写真図版48

寛永通寶（137）が1枚埋土から出土した。なお、本貨は古寛永であるが、背文はない。

### (2) 掘立柱建物跡および柱穴群

#### II C 11掘立柱建物跡

〈遺 構〉 第23図、写真図版22

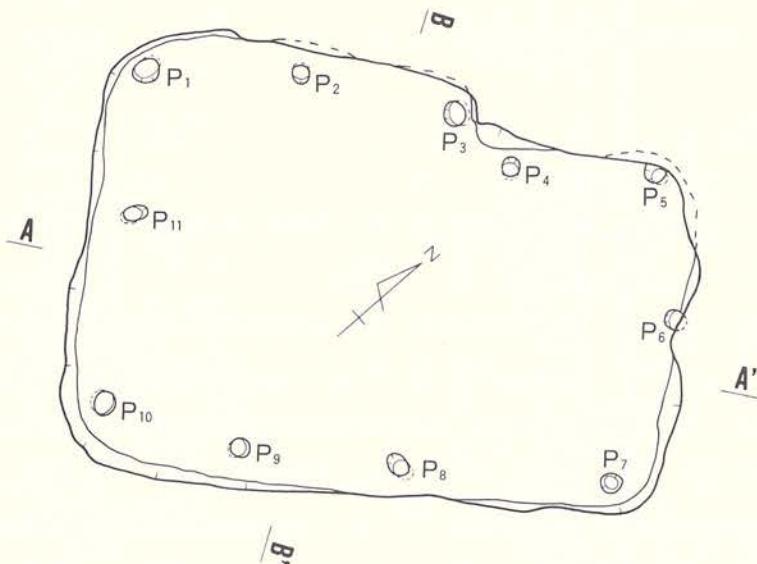
本建物跡は、尾根部の西端に近い平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。本建物跡は、II C 11・II D 10両住居跡を切っている。

平面形は、桁行4間梁行2間で、桁行柱筋がほぼ北北東に偏した建物跡である。規模は、柱穴掘り方芯々距離で計測すると、桁行北側柱筋で1.75m+1.57m+1.58m+1.55mの計6.47m、同じく南側柱筋で1.73m+1.62m+1.35m+1.81mの計6.51mである。また、梁行は、西側で



E34  
N31

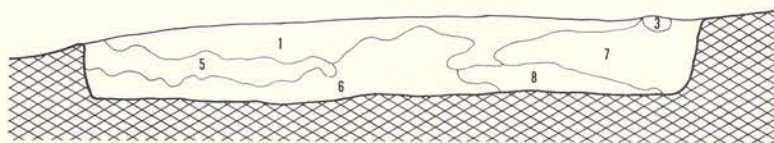
E39  
N31



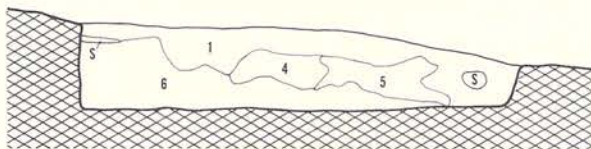
N28  
E34

N28  
E39

A L = 250.900m A'



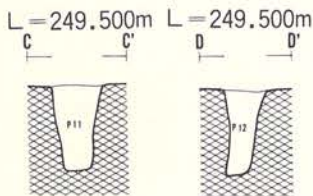
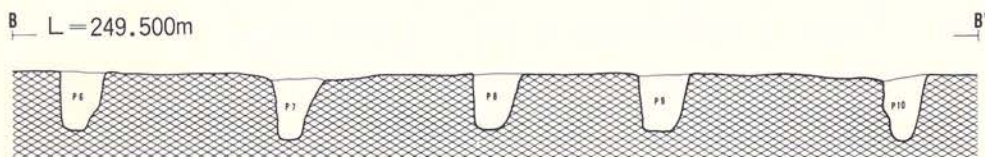
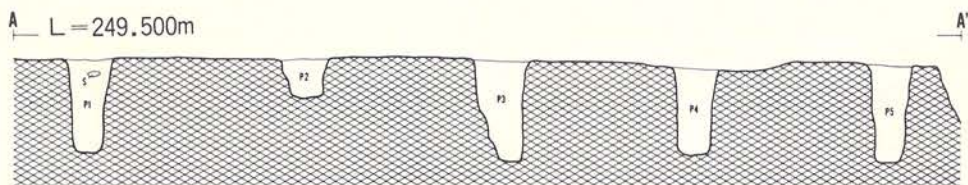
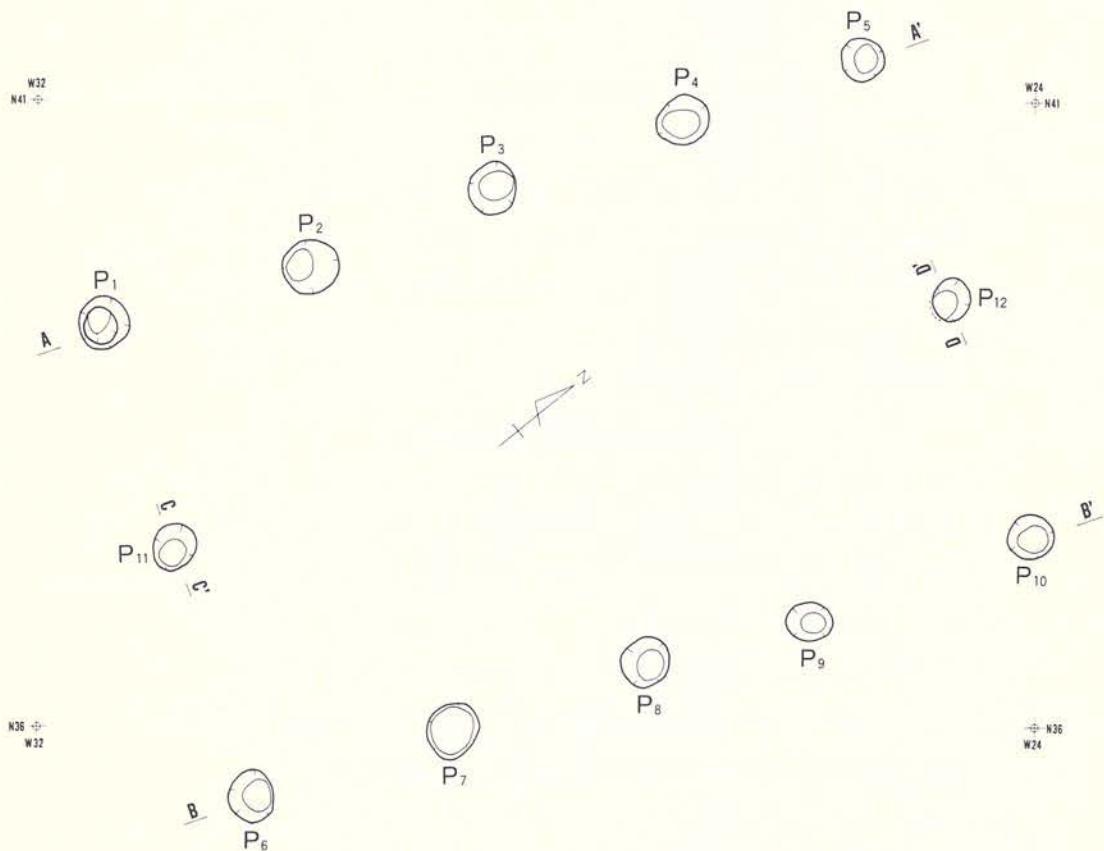
B L = 250.900m B'



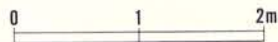
1. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa小土塊、炭化物粒を含む。
2. Hue10YR 4/6 褐色 地山Ⅱa土塊。
3. Hue10YR 2/2 黒褐色 混入物なし。
4. Hue10YR 3/2 黒褐色 地山Ⅱa小土塊、焼土粒を含む。
5. Hue10YR 2/2 黒褐色 地山Ⅱa小土塊、炭化物粒、焼土粒を含む。
6. Hue10YR 2/2 黒褐色 地山Ⅱa小土塊、炭化物粒、焼土粒を含む。
7. Hue10YR 2/2 黒褐色 地山Ⅱa小土塊、焼土粒を含む。
8. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa小土塊、焼土粒を含む。



第22図 Ⅲ113住居跡



- P<sub>1</sub> Hue10YR 2/3 暗褐色 灰白色粘土、焼土粒を含む。
- P<sub>2</sub> Hue10YR 3/3 暗褐色 灰白色粘土、地山Ⅱa・b粒、焼土を含む。
- P<sub>3</sub> Hue10YR 3/3 P<sub>2</sub>に同じ。
- P<sub>4</sub> Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・b小土塊、炭化材小片を含む。
- P<sub>5</sub> Hue10YR 2/3 P<sub>4</sub>に同じ。
- P<sub>6</sub> Hue10YR 2/3 P<sub>4</sub>に同じ。
- P<sub>7</sub> Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅱa・b小土塊、焼土塊を含む。
- P<sub>8</sub> Hue10YR 3/3 暗褐色 灰白色粘土、Ⅱa・b小土塊、焼土を含む。
- P<sub>9</sub> Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・b粒を含む。
- P<sub>10</sub> Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・b小土塊を含む。
- P<sub>11</sub> Hue10YR 2/3 暗褐色 P<sub>1</sub>に同じ。
- P<sub>12</sub> Hue10YR 2/3 暗褐色 P<sub>1</sub>に同じ。



第23図 IC11掘立柱建物跡

1.90m+2.05mの計3.95m、東側で2.05m+2.02mの計4.07mである。桁行柱筋と梁行柱筋は、ほぼ直交する。

柱穴の埋土は、暗褐色～黒褐色で、地山II・III a層相当小土塊・炭化材小片・焼土・灰白色粘土小土塊を含んでいる。柱の据え方は、埋土からは確認されなかった。柱穴の平面形は円形で、開口部径が35cm～45cmである。深さは、30cm～80cmと浅・深の差が著しい。柱は、柱穴底面径からは、50cm前後の丸柱と思われる。

なお、当建物跡にかかわる他の施設はなかった。

II C 11堀立柱建物跡柱穴一覧

単位：cm

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>15</sub>	P <sub>11</sub>	P <sub>12</sub>
底面径	44×33	51×42	58×46	62×47	47×38	53×46	65×63	50×40	40×33	48×39	43×40	43×38
深 さ	58.0	53.5	42.5	48.5	54.5	75.5	48.0	83.0	74.0	82.0	73.0	73.5

〈遺物〉 第37・38図、写真図版49

陶磁器・古銭・弾丸・砥石・鉄製品が、柱穴の埋土から出土した。

陶磁器のうち、139は、舶載（明）の白磁皿である。古銭は、永楽通寶（142）と無文（143）である。砥石には、平面的な使用痕の他に溝状の使用痕も観察される。

弾丸は、鉛製である。

#### 柱穴群

〈遺構〉 第24・25図、写真図版22

計37個が検出された。主としてII E 10～14・II I 11～14グリットに囲まれた平坦地に集中して検出された。形状（平面形）で観察すると、ほとんどが円形を呈するが、若干の柱穴で方形気味のものもある。規模的に大小多様にわたり、開口部の直径が60cm～80cm級のものも十数個にのぼる。平均的にみても開口部の直径が30cm台のものが中心を占める。また、柱穴の掘込みも深いもので1mに近いものもある。これらの大型の柱穴は、ほぼ原形で遺存しているものであることを考えると、一般的にみても大型であるといえる。

埋土には、木灰が混入するものがあるほか、特に直径50cmを越えるいわゆる大型の柱穴にはほとんどに、炭化材片・焼土塊・焼土粒が観察された。また、埋土断面には、柱据え方が認められるものが多くある。さらに、柱穴底面のほぼ中央部が円形の小土坑状に凹んでいるものも多くあり、これが、埋土断面の柱据え方の径とほぼ一致している。したがって、この「凹み」は、柱の太さを表すものであり、これらからみても柱は丸柱であったことが窺われる。

この柱穴群は、野外調査において、いくつかの「柱筋」が確認されている。しかし、調査対象区域が一部に限定されているため、掘立柱建物としての全容を把握できたものはない。これらの「柱筋」の方向には、特に傾向性は認められなかったが、尾根に直行するもの（ほぼ東西

方向に走る)、尾根に平行するもの(ほぼ南北に走る)とがある。

〈出土遺物〉 第41・42図、写真図版51～54

陶磁器・古銭・砥石・鉄製品・穀物・鹿の角・具殻が出土している。

陶磁器は30点ある。このうち、183は、II E 10柱穴1の埋土から出土した美濃の天目茶碗である。これは、約1/2が残存する欠損品であるが、黒釉が施されている。時期的には、近世初期(寛永年間)に比定される。184は、II E 12柱穴11の埋土から出土した美濃の小型壺である。口縁がわずかに欠けるだけでほぼ完形である。外面に白濁した釉が施されている。これも72の天目茶碗とほぼ同時期に比定される。その他に染付皿・白磁・施釉陶器・三彩1点(182)が出土している。染付はすべて皿であるが、そのうち171は角皿である。舶載(明)・国産共にみられる。施釉陶器のうち、187・191が信楽系の壺、190・186は、瀬戸あるいは美濃産と思われる壺で近世に比定されると思われる。192は、唐津の灰釉皿、185は16世紀末の美濃の灰釉皿である。193は、唐津産に酷似する皿の底部付近と思われる。白磁も細片で舶載(明)品である。

古銭は26枚出土した。これらの多くは埋土からの出土であるが、197・198・208・214の4枚は、柱穴の底面から出土したものである。銭文でみると、最も多いのは「永楽通寶」で14枚、ついで無文3枚、「洪武通寶」1枚、銭文不明8枚である。このうち、77は「元祐通寶」の可能性が高い。なお、いずれにも背文は無い。

鉄製品は10点出土した。いずれも埋土からの出土である。釘と鋳物の破片である。鋳物片は、鍋の類と思われるが確定はできなかった。

砥石は9点埋土から出土した。これらは堅穴住居跡から出土とした砥石と、石質、使用痕に共通する点が多い。つまり、石材には、斜長石流紋岩、流紋岩質細粒凝灰岩、輝石安山岩等が使用され、使用痕も、平坦な使用痕をもつもの(224等)、舟底形の使用痕をもつもの(223等)、溝状の使用痕をもつもの(225等)、これらの使用痕が混在するもの(223等)がある。なお、218・220は、軽石を石材としているが、砥石として使用されたものかどうかを確定することはできなかった。

穀物は、米、粟、稗、小豆等である。

第4表 柱穴一覧

柱	穴		平面形	規 模 (開口部)cm	底面高 m	出 土 遺 物	備 考
	グリット	番号					
II C 10		1	円形	20×17	248.78		
II C 11		1	円形	21×19	248.71		
		2	楕円形?	27×22	248.16		
II C 13		1	円形	48×40	248.89		
		2	?	41×?	248.83	石筥状石器・磁器	
		3	円形	42×41	247.87		
II C 14		1	円形	21×20	248.90		
		2	円形	22×21	248.85	古銭(銭文不明)	
		3	円形	21×20	248.85		
		4	円形	19×17	248.98		
II C 15		1	?	35×?	248.69		
		2	円形	46×43	248.79		
		3	?	37×?	248.69		
		4	円形	36×29	248.87		
II D 10		1	円形	18×17	248.75		
II D 11		1	円形	27×26	248.79		
		2	円形	21×20	248.94		
II D 12		1	円形	15×12	248.87		
		2	円形	21×17	249.04		
		3	円形	42×35	248.13		
		4	円形	15×12	249.08		
II D 13		1	円形	67×56	248.81		
		2	円形	60×59	248.19		
		3	円形	54×48	248.75		
		4	円形	46×42	248.16		
		5	円形	21×19	248.16		
II D 14		1	円形	58×52	248.71		
		2	円形	28×26	248.67		
		3	楕円形?	72×52	248.27		
		4	楕円形?	34×?	248.91		
		5	楕円形?	38×?	248.84		
		6	楕円形?	(14)×(11)	248.95		
		7	円形	(16)×(13)	248.50		
II D 15		1	円形	38×37	248.80		
		2	円形	59×57	248.48		
		3	円形	43×40	248.80		
		4	?	36×?	248.66		
		5	?	31×?	248.66		
		6	円形	39×37	248.63		
II E 10		1	円形	35×31	248.96	磁器(天目茶碗)	
		2	円形	28×26	248.75	古銭(銭文不明)	
		3	円形	42×35	248.86		
		4	?	27×?	249.06		
		5	?	51×?	248.77	縄文土器片	
		6	円形	48×47	248.54		
		7	円形	36×35	248.73		
		8	円形	34×31	248.91		
		9	?	34×?	248.82		
II E 11		1	楕円形?	32×25	249.17		
		2	楕円形?	21×?	248.98		
		3	?	(59)×(?)	249.00		
		4	円形	34×32	248.69		
		5	円形	29×28	248.75		
		6	?	44×?	248.96	古銭(無文)	
		7	円形	41×39	248.66	古銭(永楽)	
		8	円形	24×21	249.15	穀物	
		9	円形	(28)×(24)	248.67	古銭(永楽?)	
		10	円形	35×31	249.15		
		11	円形	33×32	248.77		
		12	円形	(14)×(12)	249.24		
		13	?	43×?	249.10		
		14	楕円形?	34×26	249.17		
		15	円形	19×18			
		16	円形	18×17	249.03		
		17	円形	21×20	249.04		
		18	円形	25×23	249.22		
		19	円形	47×40	248.79	磁器・穀物・	
		20	円形	33×31	249.20	鋳物片?	
		21	円形	32×30	249.02		
		22	?	(19)×(?)	248.80		
		23	?	(21)×(?)	248.66		
		24	楕円形?	23×17			
		25	円形	19×18			
		26	円形	24×20			
II E 12		1	円形	36×31	248.94		

第4表 柱穴一覽

柱 穴		平面形	規 模 (開口部)cm	底面高 m	出 土 遺 物	備 考
グリット	番号					
II E 12	2	円 形	36×33	248.78	磁器 鉄製品  磁器 磁器 釘  砥石 磁器(壺)  鋳物片	II E 12-2 土坑(旧) II E 12-2 土坑(旧)
	3	円 形	55×48	248.83		
	4	?	20×?	248.33		
	5	楕円形?	42×28	248.74		
	6	円 形	38×32	248.91		
	7	円 形	42×35	248.69		
	8	円 形	37×35	249.13		
	9	円 形	40×35	249.40		
	10	楕円形?	31×24	249.12		
	11	円 形	40×36	248.81		
	12	円 形	21×20	249.08		
	13	?	15×?	248.28		
	II E 13	1	楕円形?	47×35		
2		円 形	45×38	249.10		
3		?	40×?	248.94		
4		?	42×?	248.78		
5		円 形	54×53	249.12		
6		円 形	(40)×(36)	248.71		
7		?	(31)×(?)	249.09		
8		円 形	24×23	248.92		
9		円 形	27×26	248.83		
10		円 形	19×16	249.11		
11		円 形	76×66	248.28		
12		円 形	25×22	249.07		
13		円 形	13×12	249.02		
14		円 形	12×11	249.07		
15		円 形	17×15	249.13		
II E 14	1	?	22×?	?		
	2	?	40×?	248.82		
	3	?	22×?	248.94		
	4	円 形	39×32	249.02		
	5	楕円形?	48×38	248.70		
	6	円 形	32×26	249.06		
	7	円 形	32×27	248.35		
	8	楕円形?	46×30	248.40		
	9	楕円形?	46×35	248.67		
	10	円 形	30×26	248.70		
	11	円 形	36×35	248.89		
	12	楕円形?	39×31	248.78		
	13	円 形	32×26	248.91		
14	円 形	19×17	248.89			
II E 15	1	円 形	31×27	248.60		
	2	円 形	26×25	248.66		
	3	円 形	30×24	248.63		
II F 10	1	円 形	61×51	248.68		
	2	?	46×?	249.10		
	3	?	49×?	248.75		
	4	円 形	32×30	248.97		
II F 11	5	円 形	19×18	?		
	1	?	40×?	249.05		
	2	円 形	39×33	?		
	3	円 形	50×46	249.08		
	4	楕円形	44×34	249.05		
	5	円 形	41×33	248.78		
	6	円 形	50×47	248.75		
	7	?	34×?	?		
	8	円 形	48×46	248.93		
	9	楕円形?	34×27	249.15		
	10	円 形	41×36	249.20		
	11	円 形	46×44	248.84		
	12	?	56×?	248.90		
	13	?	47×?	248.80		
	14	円 形	(24)×(?)	248.51		
	15	円 形	(46)×(44)	248.58		
16	円 形	(17)×(15)	248.70			
17	円 形	(21)×(20)	248.68			
18	円 形	35×32	249.87			
19	?	24×?	249.15			
20	円 形	49×43	248.79			
21	?	46×?	249.08			
22	?	34×?	248.95			
23	?	(23)×(?)	248.67			
24	楕円形?	61×45	248.60			
25	?	52×?	248.91			
26	?	42×?	248.75			

第4表 柱穴一覧

柱 穴		平面形	規 模 (開口部)cm	底面高 m	出 土 遺 物	備 考
グリット	番号					
II F 11	27	円 形	55×48	248.71	磁器・古銭(銭文不明)	
II F 12	1	楕円形?	95×59	248.60	磁器・貝殻	
	2	円 形	54×46	248.91	釘	
	3	円 形	35×34	248.85	磁器	
	4	円 形	44×43	248.69		
	5	楕円形?	40×28	249.18		
	6	?	30×?	249.09		
	7	円 形	34×33	249.11		
	8	円 形	34×28	249.07		II F 12-1 土坑(旧)
	9	円 形	36×33	248.71	磁器・鉄製品古銭(洪武)	
	10	円 形	20×18	248.97		II F 12-1 土坑(旧)
	11	円 形	59×49	248.88	古銭(永楽)・釘	II F 12-1 土坑(旧)
	12	円 形	54×45	248.94		
	13	円 形	57×50	249.00		
	14	円 形	46×40	248.65		
II F 13	15	楕円形?	(19)×(15)	?		II F 12-2 土坑(旧)
	1	?	42×?	248.79		
	2	?	50×?	248.75	磁器	
	3	?	30×?	248.69	古銭(永楽)	
	4	円 形	37×35	248.95	磁器	
	5	?	28×?	249.13	磁器	
	6	円 形	32×31	249.09		
	7	円 形	50×46	249.11	磁器	
	8	円 形	55×53	248.94	砥石・古銭(永楽)	
	9	円 形	30×29	248.71		
	10	?	40×?	249.09		
	11	?	39×?	248.39		
	12	?	32×?	248.39		
	12	?	32×?	248.69		
	13	円 形	64×57	248.96		
	14	?	41×?	248.39		
	15	?	27×?	248.90		
	16	円 形	28×27	248.74	磁器	
	17	円 形	36×35	248.82		
	18	?	29×?	248.97		
	19	?	42×?	248.70		
II F 14	20	円 形	32×28	249.03		
	1	楕円形?	86×46	248.71		
	2	円 形	33×32	248.91		
II G 10	3	円 形	22×18	248.88	砥石	
	1	円 形	20×16	248.91		
	2	円 形	45×36	248.92		
	3	?	41×?	248.72		
	4	円 形	24×22	249.00	磁器	
	5	円 形	43×41	248.83		
	6	?	38×?	248.72		
II G 11	7	楕円形?	24×19	248.56		
	1	円 形	31×28	248.82		
	2	楕円形?	42×33	249.00		
	3	円 形	52×50	248.42		
	4	円 形	53×50	248.58		
	5	円 形	68×57	248.51	磁器・古銭(永楽・元祐)	
	6	円 形	43×37	248.79		
	7	楕円形?	39×29	248.92		
	8	円 形	38×36	249.12		
	9	円 形	37×32	249.14		
	10	円 形	56×54	248.74	鉄製品	
	11	円 形	36×35	248.94		
	12	楕円形?	62×27	249.06		
	13	円 形	38×34	249.15		
	14	円 形	30×29	248.83	鹿の角	
	15	円 形	46×43	248.85		
	16	?	(24)×(?)	248.76		II G 11柱穴17(旧)
	17	?	(32)×(?)	248.15		II G 11柱穴16(新)
	18	?	44×?	248.65		
	19	?	57×?	248.36		
	20	円 形	40×37	248.44	砥石	
	21	円 形	28×25	248.96		
	22	円 形	25×24	249.19		
II G 12	1	?	29×?	248.76		
	2	?	59×?	248.51		
	3	円 形	40×35	248.81		II G 12土坑(旧)
	4	円 形	29×25	248.97	砥石・古銭(永楽)	
	5	円 形	41×40	248.99		
	6	円 形	30×30	249.09		
	7	円 形	45×43	248.54		

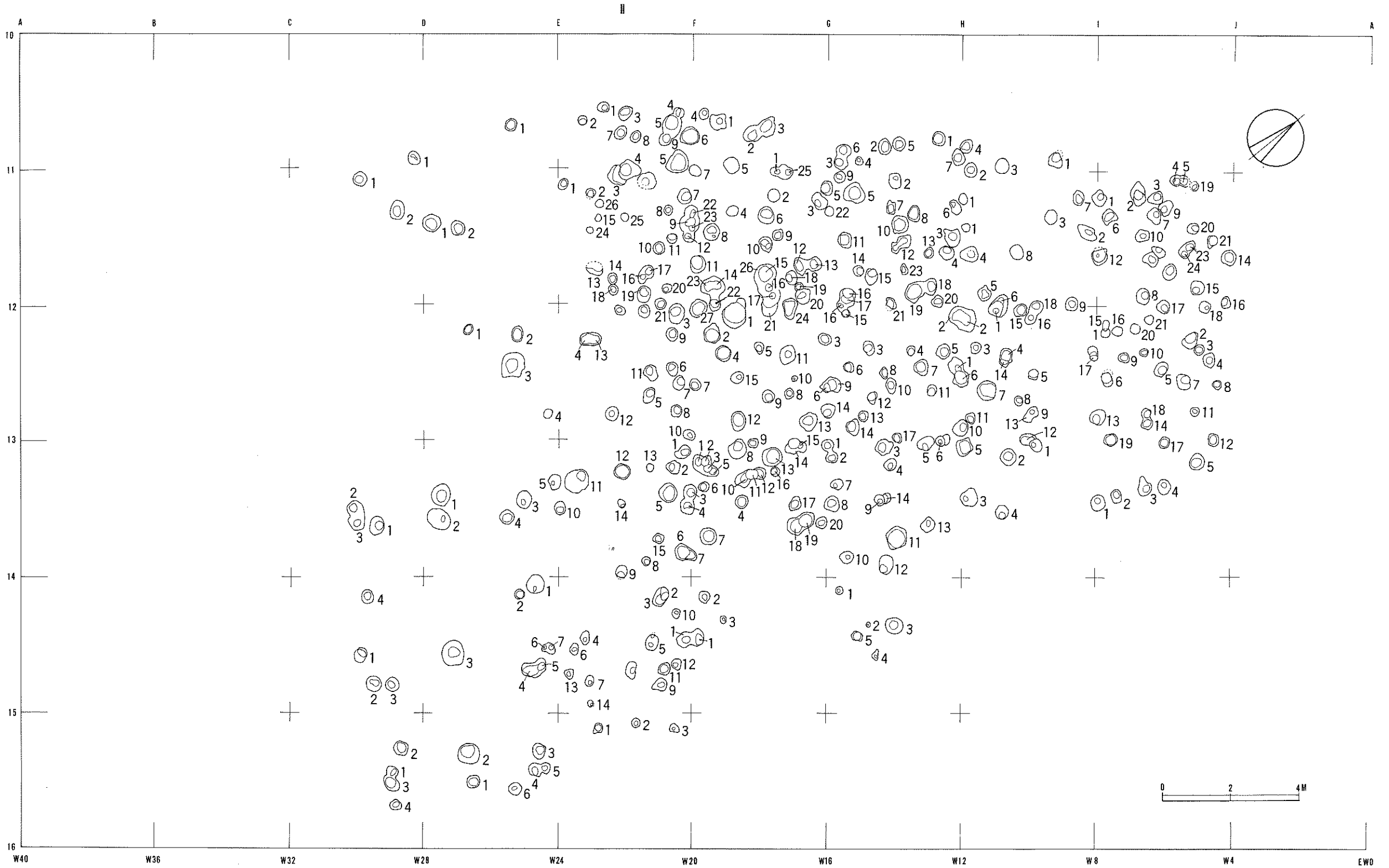
第4表 柱穴一覽

柱	穴		平面形	規 模 (開口部)cm	底面高 m	出 土 遺 物	備 考			
	グリット	番号								
II G 12		8	円 形	28×23	249.20	古銭(銭文不明)	II G 12土坑(旧) II G 12柱穴15(?) II G 11柱穴17(新) II G 12柱穴15(?) II G 11柱穴16(旧)			
		9	?	45×?	249.22					
		10	円 形	43×30	248.81	磁器				
		11	円 形	27×25	248.88					
		12	円 形	34×28	248.67	縄文土器片				
		13	円 形	30×29	248.99					
		14	円 形	48×39	249.37					
		15	?	31×?	248.79					
		16	?	(16)×(?)	248.96					
		17	円 形	30×24	249.07					
		II G 13		1	?			33×?	249.11	磁器・穀物
				2	?			40×?	249.03	
				3	円 形			46×44	248.72	古銭(無文)
				4	円 形			35×33	248.59	
				5	楕円形?	50×36		248.80		
				6	円 形	35×29		249.05		
				7	楕円形?	44×29		248.73		
8	円 形			46×42	249.05					
9	楕円形?			32×30	248.76					
10	円 形			41×33	248.43					
I 1		円形	66×63	248.64	248.88	II G 13土坑(旧)				
		楕円形?	55×41	248.88						
		楕円形?	40×39	248.42						
		円 形	27×?	248.94						
II G 14		1	円 形	24×23	248.95	II G 14-1土坑(新)				
		2	?	32×?	248.66					
		3	楕円形?	32×17	248.39					
		4	楕円形?	32×25	248.62					
		5	円 形	26×24	248.36					
II H 10		1	円 形	23×22	?	?				
		2	楕円形?	48×37	248.70					
		3	円 形	44×42	248.83					
		4	?	32×?	248.90					
II H 11		1	円 形	14×13	?	穀物				
		2	楕円形?	62×37	248.80					
		3	円 形	39×39	248.56					
		4	円 形	50×45	248.62					
		5	円 形	43×37	249.07					
		6	楕円形?	63×46	249.05					
		7	円 形	40×35	248.93					
		8	円 形	42×41	248.70					
II H 12		9	円 形	39×38	248.47	磁器				
		1	?	56×?	248.64					
		2	楕円形?	48×29	248.74					
		3	円 形	31×29	249.05					
		4	楕円形?	49×38	248.98					
		5	円 形	33×30	249.05					
		6	円 形	(19)×(?)	248.47					
		7	円 形	56×53	248.91					
		8	円 形	26×22	248.95					
		9	円 形	32×31	248.44					
		10	円 形	44×43	248.77					
		11	円 形	31×27	249.14					
		12	楕円形?	47×34	249.04					
		13	?	27×?	248.95					
		14	?	37×?	249.13					
		15	円 形	36×33	249.01					
16	?	33×?	248.65							
II H 13		17	円 形	(16)×(14)	248.84	貝殻				
		1	円 形	38×35	248.49					
		2	円 形	49×45	248.81					
		3	円 形	54×52	248.57					
		4	円 形	40×39	248.79					
III I 11		5	円 形	55×48	248.41	砥石				
		1	円 形	45×44	248.58					
		2	楕円形?	71×48	248.43					
		3	円 形	46×36	248.90					
		4	円 形	32×25	248.77					
		5	?	35×?	248.99					
		6	円 形	43×41	248.88					
		7	円 形	46×41	248.99					
		8	円 形	45×40	248.47					
		9	円 形	45×36	248.69					
		10	円 形	34×30	248.69					
11	?	40×?	248.79							

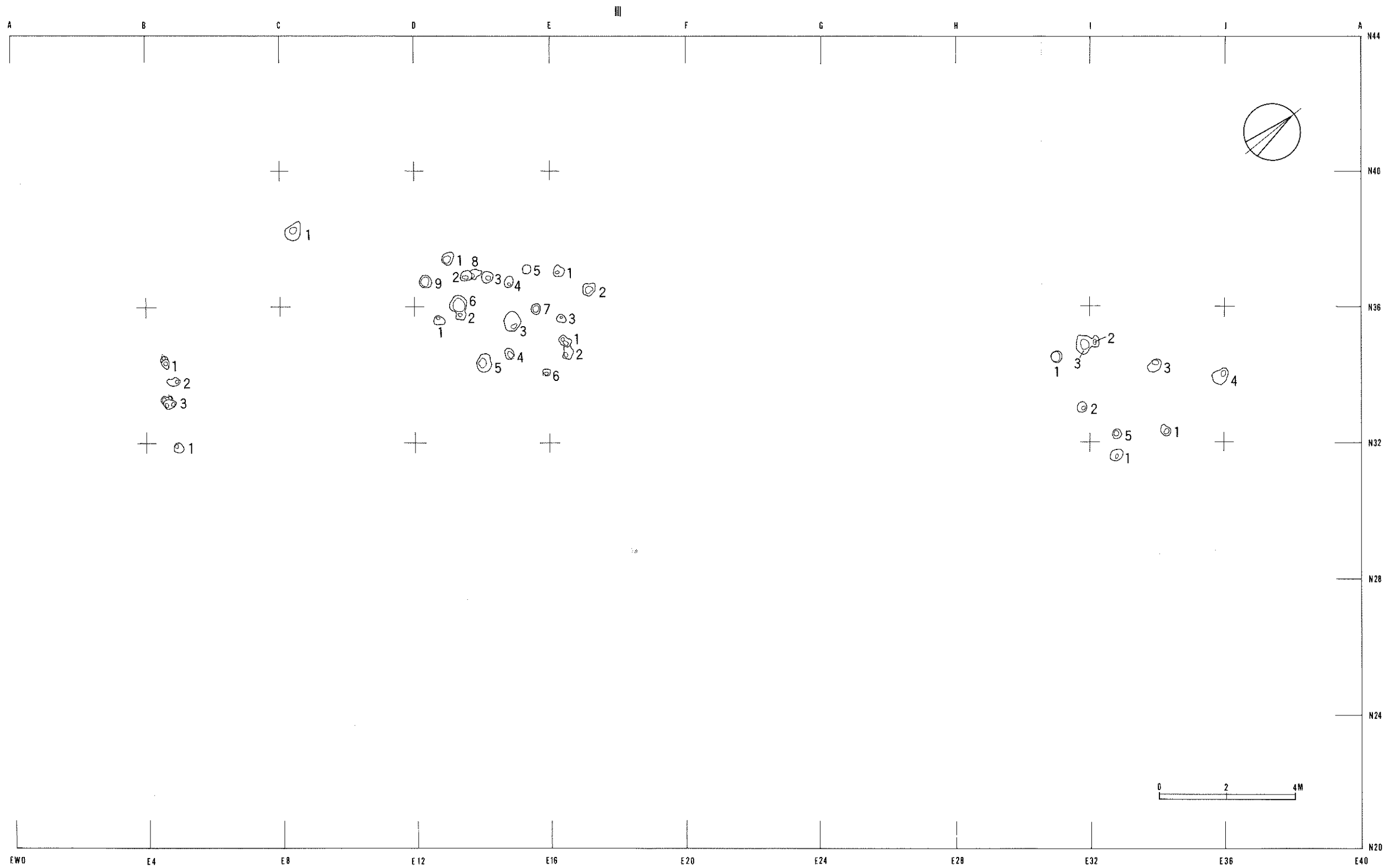


第4表 柱穴一覧

柱	穴		平面形	規模 (開口部)cm	底面高 m	出土遺物	備考
	グリット	番号					
		12	円形	56×45	248.38		
		13	楕円形?	45×33	248.59		
		14	円形	46×44	249.12		
		15	円形	40×38	248.66	磁器	
		16	円形	27×26	248.99		
		17	円形	39×35	248.44		
		18	円形	35×31	249.09		
		19	円形	34×30	248.92		
		20	円形	36×31	248.57		
		21	楕円形?	39×30	248.82		
		22	?	47×?	248.81		
		23	?	30×?	249.14		
		24	?	31×?	248.86		
II I 12		1	円形	27×26	248.84		
		2	円形	46×40	248.64	古銭(永楽)	
		3	円形	29×28	248.94		
		4	円形	40×32	248.93		
		5	円形	42×37	248.89		
		6	楕円形?	49×29	248.32		
		7	円形	48×44	248.49		
		8	円形	26×24	248.80		
		9	円形	32×28	249.11		
		10	円形	25×20	248.70		
		11	円形	30×26	248.98		
		12	円形	38×35	249.08		
		13	円形	48×42	248.87		
		14	?	37×?	248.97		
		15	?	28×?	?		
		16	円形	32×29	?		II I 13土坑(旧)
		17	円形	32×31	248.86		
		18	?	27×?	248.80		
		19	円形	36×35	248.34		
		20	円形	33×29	?		
		21	?	23×?	?		
II I 13		1	円形	48×41	248.87		II J 13土坑(旧)
		2	円形	39×32	248.82		
		3	円形	54×43	248.44		
		4	円形	41×38	248.72		
		5	円形	52×43	248.89		
III B 12		1	楕円形?	35×24	248.81		
		2	楕円形?	38×25	248.71		
		3	楕円形?	38×26	248.46		
III B 13		1	円形	26×25	248.55		
III C 11		1	楕円形?	58×44	249.29		
III D 11		1	円形	33×32	249.42		
		2	円形	30×29	248.21		
		3	円形	32×30	249.29		
		4	円形	28×26	249.44		
		5	円形	22×21	249.49		
		6	円形	51×48	249.37		
		7	円形	28×26	249.48	古銭(無文)	
		8	?	32×?	249.49		
III D 12		9	円形	34×31	249.47		
		1	円形	31×25	249.37		
		2	?	31×?	249.52		
		3	楕円形?	57×39	249.48		
		4	円形	33×28	249.26		
		5	円形	52×42	249.28		
		6	円形	22×20	249.54		
III E 11		1	円形	26×25	249.66		
		2	円形	36×36	249.64		
III E 12		1	円形	36×24	249.35		
		2	?	36×?	249.24		
		3	円形	26×25	249.64		
III H 12		1	円形	29×27	249.76		
		2	円形	28×27	249.92		
		3	?	48×?	249.81		
III I 12		1	円形	32×26	249.83		
		2	?	32×?	249.79		
		3	円形	33×32	249.86		
		4	楕円形?	51×39	249.90		
III I 13		5	円形	22×20	249.81		
II H 12		1	円形	32×30	249.92		
		18	円形	35×?	248.68		



第24図 柱穴群①



第25図 柱穴群②

### (3) 竪穴住居状遺構

#### III B 12竪穴住居状遺構

〈遺 構〉 第26図、写真図版23

本遺構は、尾根部中央付近の南東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層面である。

平面形は、不整長円形を呈し、長軸を斜面に直行させてある。規模は、5.4m×3.4mである。埋土は、13層に細分され、ほとんどの層に地山II・III層相当の土塊、大型の角礫、焼土、炭化物粒を含む。また、10層には、十和田a火山灰の塊も散見される。したがって、この埋土は、堆積の状況とも合わせ埋戻されたものとする。壁は、外傾して緩やかに立ち、断面形は皿状を呈する。したがって、本遺構は、床面（底面）と壁との判別が明確にできない。

なお、遺構内から柱穴状土坑が8個検出された。しかし、これらが本遺構に伴うか否かは確定できなかった。

〈遺 物〉 第38～40図、写真図版49・50

埋土から磁器・古銭・鉄器・鉄製品・銅製品・石器・石製品・「透漉」の漉殻が出土している。磁器(146)は、15～16世紀頃とみられる染付皿である。鉄器・鉄製品には、環状鉄製品(147)、「自在鉤」状製品(149)、刀子状製品(148)、刀子(150)、釘(151・152)、鋳物片(153)がある。古銭(155)は永楽通寶である。

石器・石製品では、砥石が5点、石臼が対で出土したほか、球状石製品が1個ある。砥石は平面的な使用痕のほか、溝状の使用痕のみられるもの(157・159)もある。

なお、154は銅製であるが、機能は不明である。漉殻は細片で朱色を呈している。

III B 12竪穴住居跡状遺構柱穴状土坑一覧

単位：cm

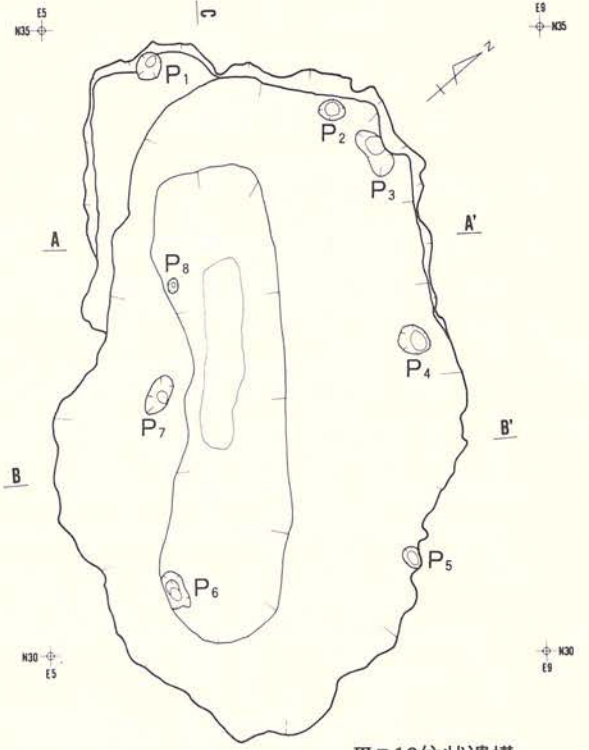
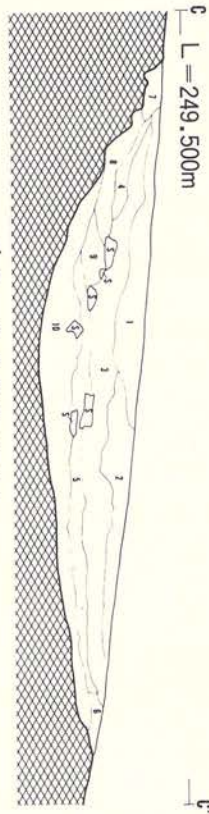
	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>
底面径	20×14	22×21	31×?	34×23	24×13	23×15	22×15	10×7
深 さ	46.0	41.0	61.2	37.5	8.1	29.1	23.1	28.2

#### III G 12竪穴住居状遺構 第26図、写真図版24

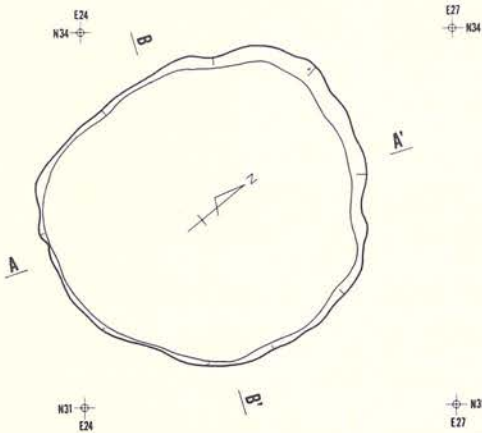
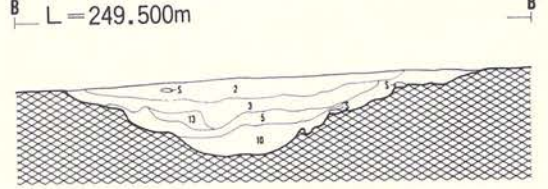
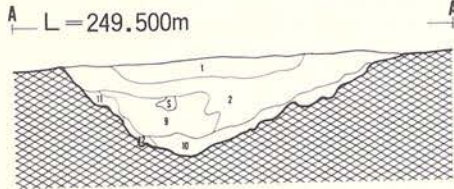
本遺構は、尾根部の奥の北端近くに占地する。ここは、地形的には、南東向き緩斜面を呈するところである。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。平面形は、不整な円形である。規模は、2.7m×2.4mである。壁は外傾して立つ。壁高は5cm～10cmである。埋土は、地山II a層相当土塊を多量に含み、埋戻しの様相を呈する。床面(底面)は、凹凸が激しく軟らかい。

なお、柱穴等他の施設・遺物はなかった。

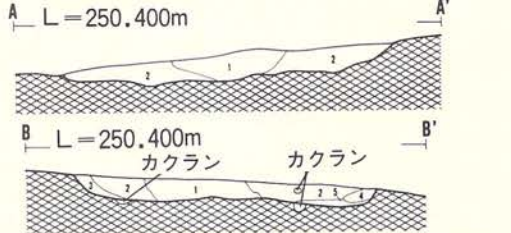
1. Hue10YR 4/4 褐色 地山Ⅱa層にみられる浮石、炭化材小片、炭化物、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 4/4 褐色 地山Ⅱa・b小土塊、炭化材小片、炭化物粒、焼土粒、角礫を含む。
3. Hue10YR 3/2 黒褐色 地山Ⅱa・b、Ⅲa小土塊、炭化材小片、炭化物粒、角礫を含む。
4. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山Ⅱa粒、炭化材極小片、焼土粒を含む。
5. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・b、Ⅲa小土塊、炭化物粒、焼土粒、角礫を含む。
6. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山Ⅲa小土塊、炭化物粒、焼土粒を含む。
7. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山Ⅱa小土塊、炭化材小片、炭化物粒を含む。
8. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・b小土塊、炭化物粒、焼土粒を含む。
9. Hue10YR 2/2 黒褐色 地山Ⅱa・b小土塊、炭化物粒、焼土粒、角礫を含む。
10. Hue10YR 2/3 黒褐色 十和田の酷似の降下火灰塊、炭化物、角礫を含む。
11. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅲa小土塊、炭化物を含む。
12. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅲa土塊が多量を含む。
13. Hue10YR 3/2 黒褐色 地山Ⅱa・b小土塊を含む。



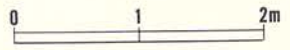
ⅢB12住状遺構



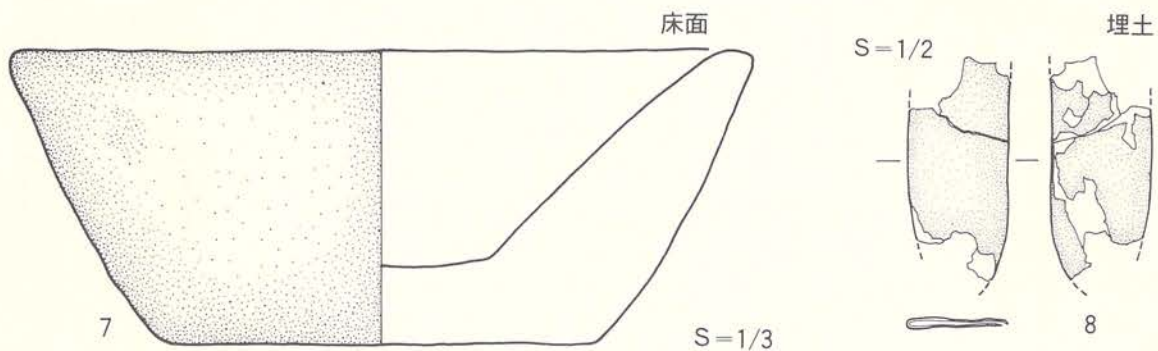
ⅢG12住状遺構



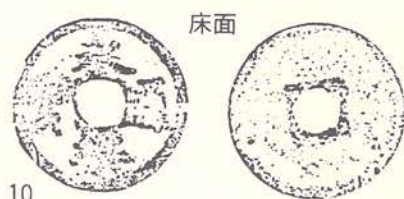
1. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅱa小土塊、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa小土塊を含む。
3. Hue10YR 5/6 黄褐色 地山Ⅱa土塊。
4. Hue10YR 4/6 褐色 地山Ⅱに層含まれる浮石、炭化物粒を含む。



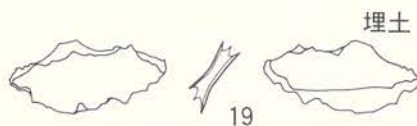
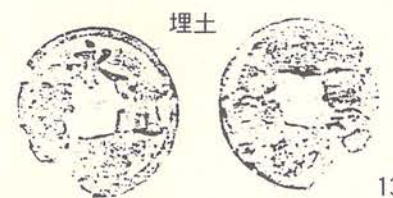
第26図 ⅢB12・ⅢG12竖穴住居状遺構



ⅡC11住居跡

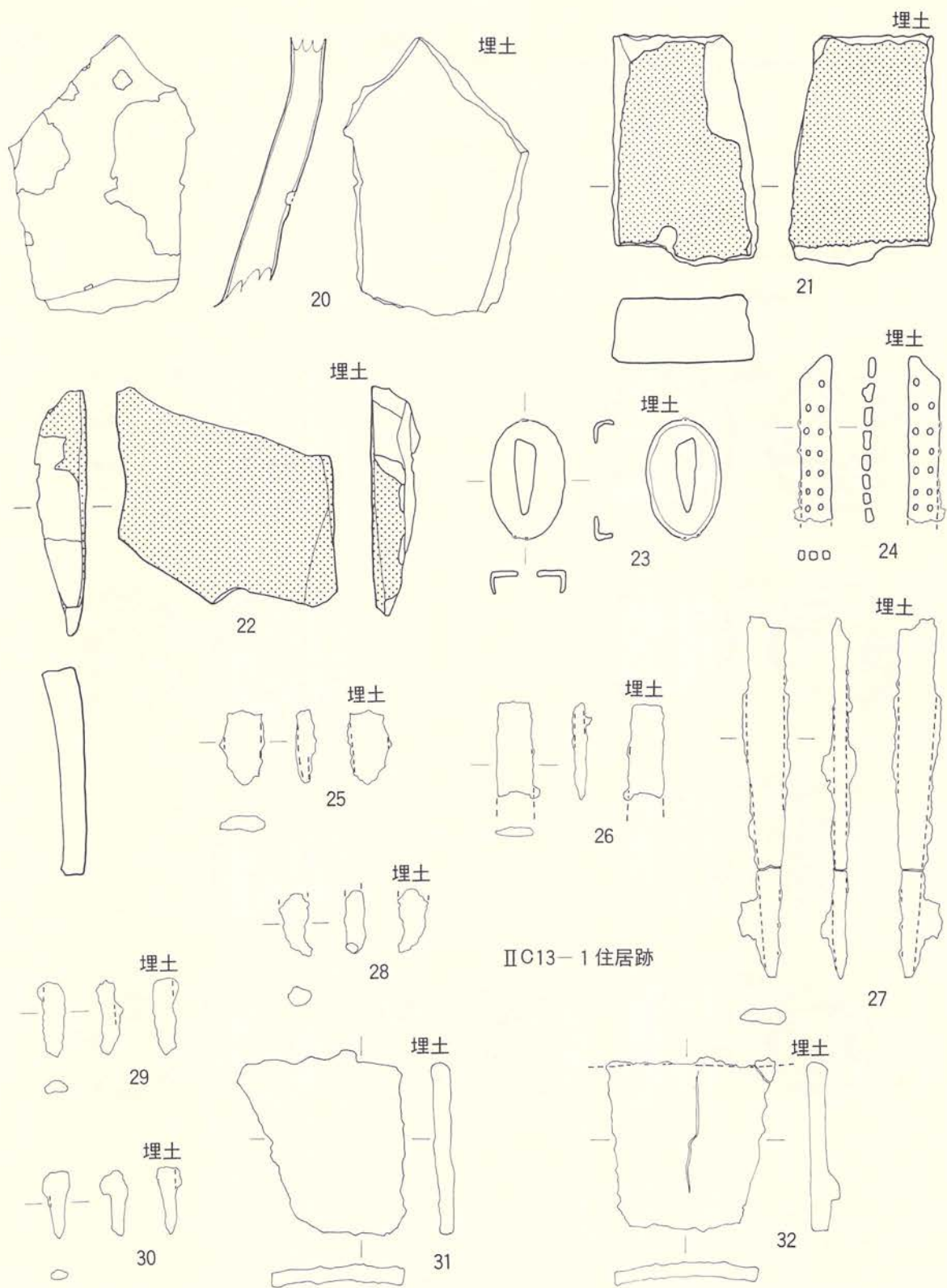


S=1/1



S=1/2

ⅡC13-1住居跡  
第27図 住居跡出土遺物①

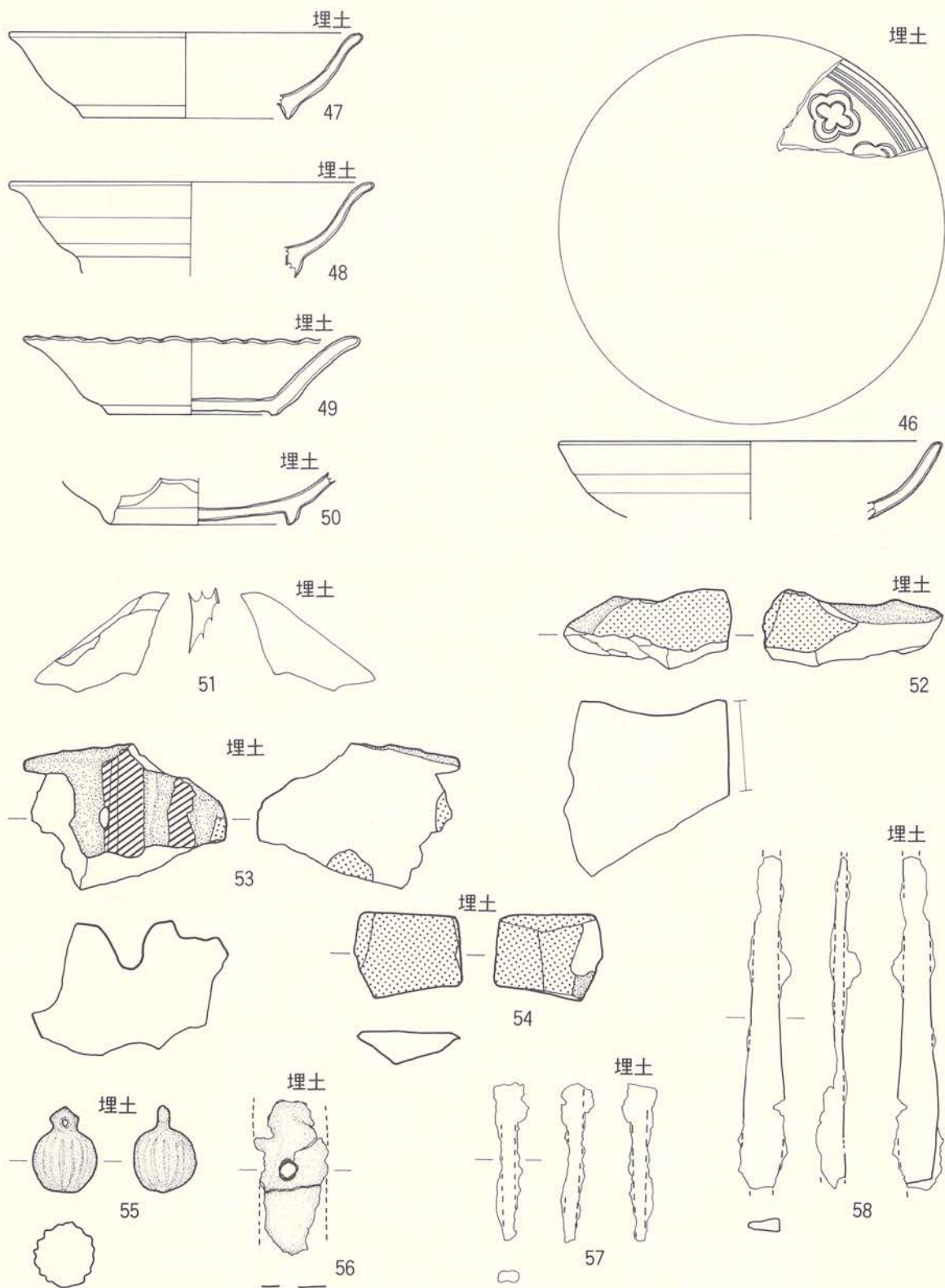


S=1/2

第28図 住居跡出土遺物②



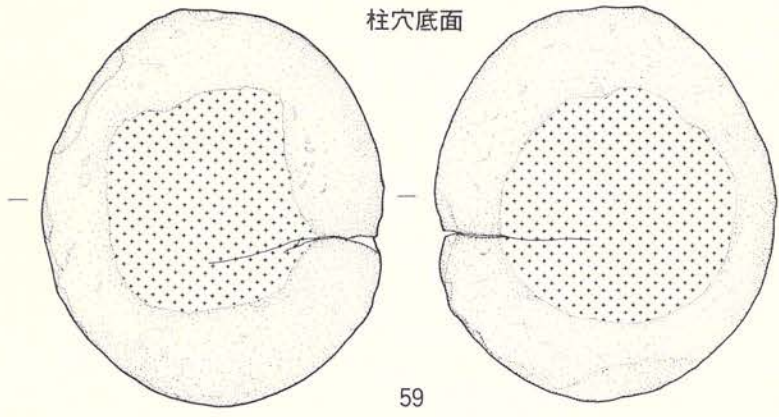




II D12-1 住居跡

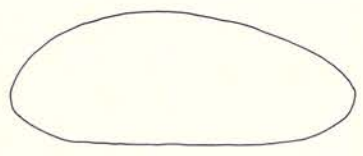
第30図 住居跡出土遺物④

柱穴底面

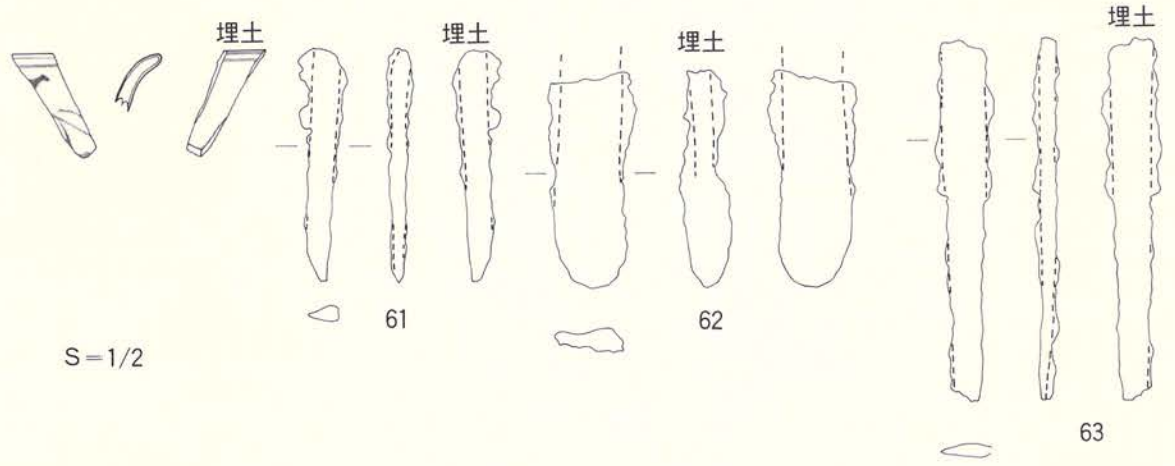


59

S=1/3

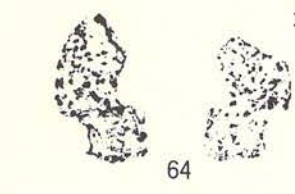


II D12-1 住居跡



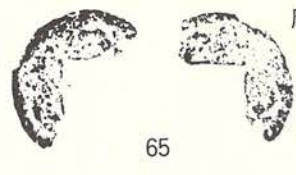
S=1/2

埋土



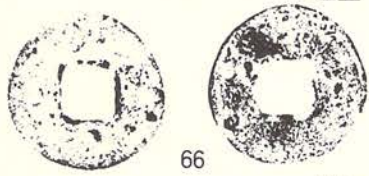
64

床面



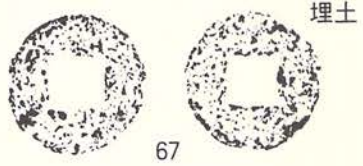
65

埋土



66

S=1/1



67

埋土

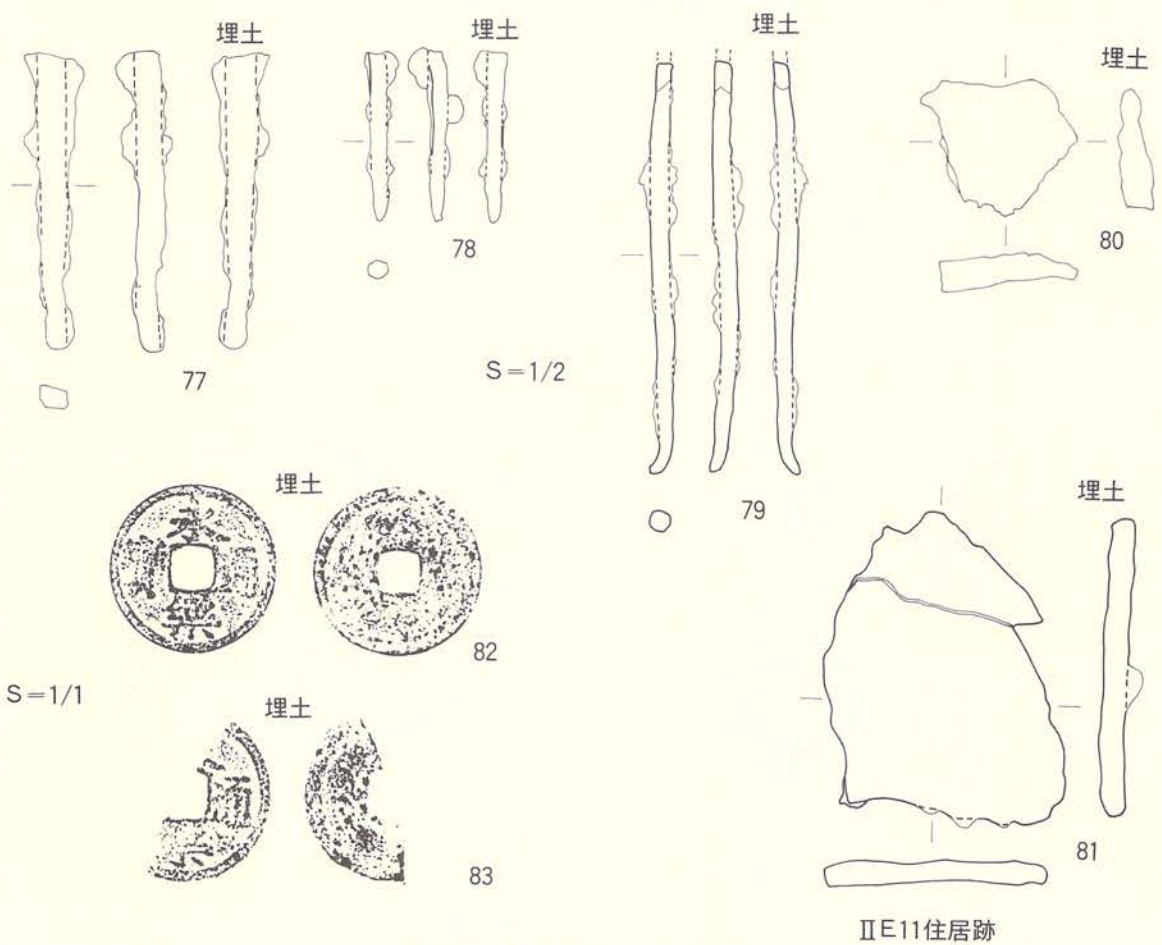
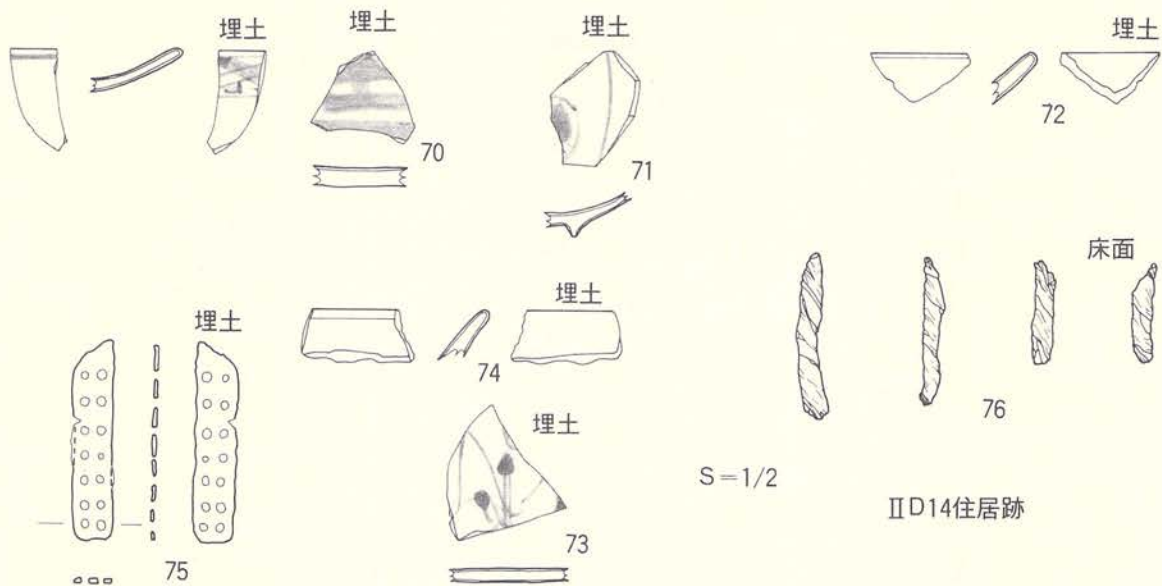
埋土



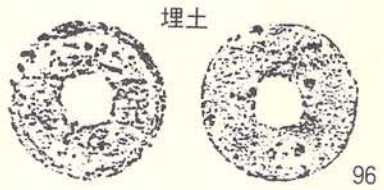
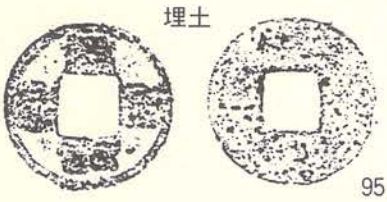
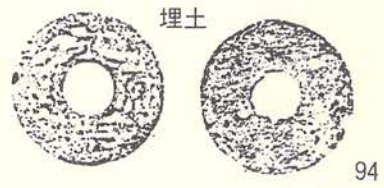
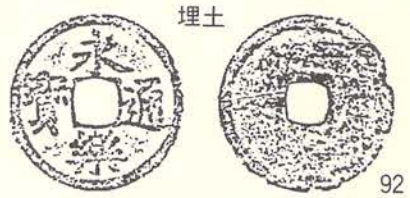
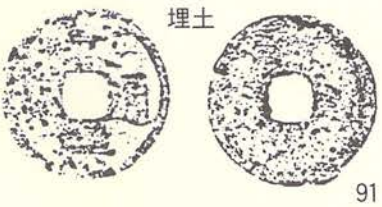
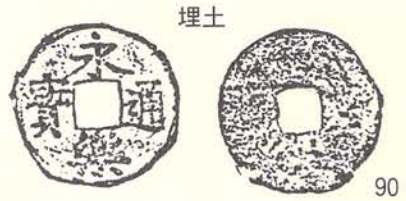
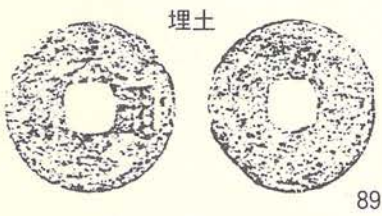
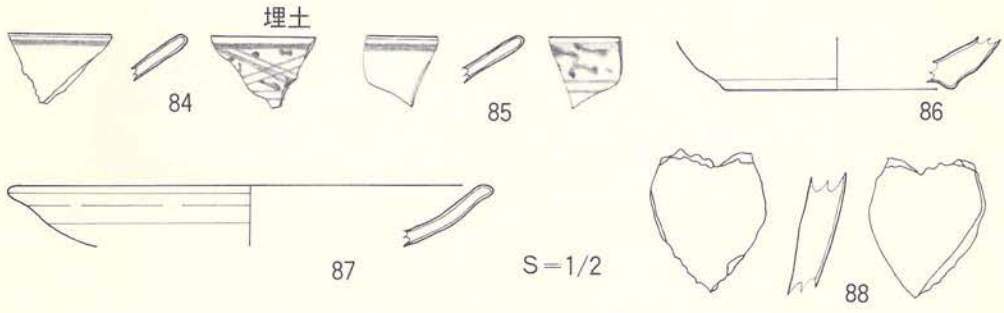
68

II D12-2 住居跡

第31圖 住居跡出土遺物 ⑤



第32図 住居跡出土遺物 ⑥

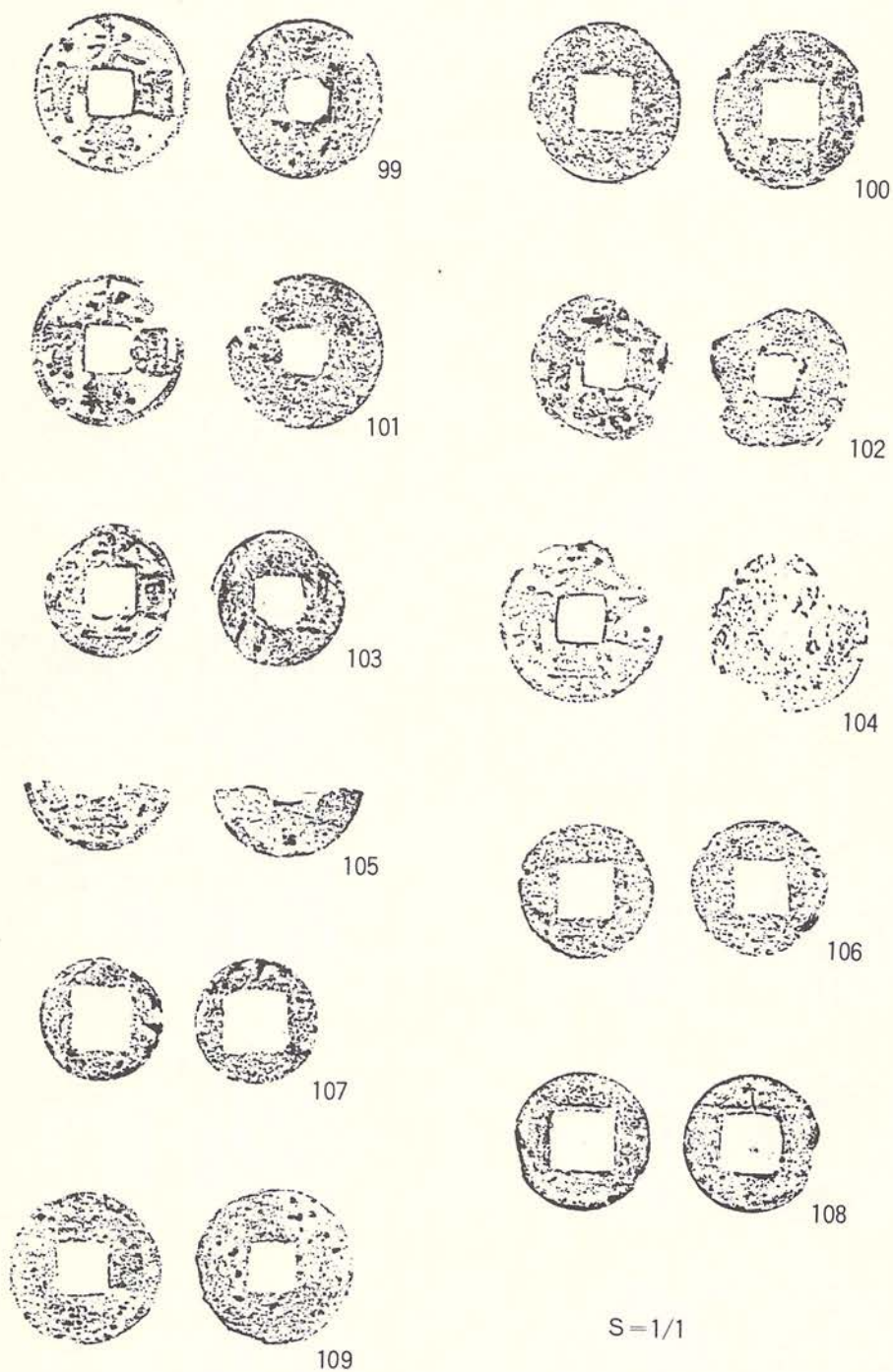


S=1/1



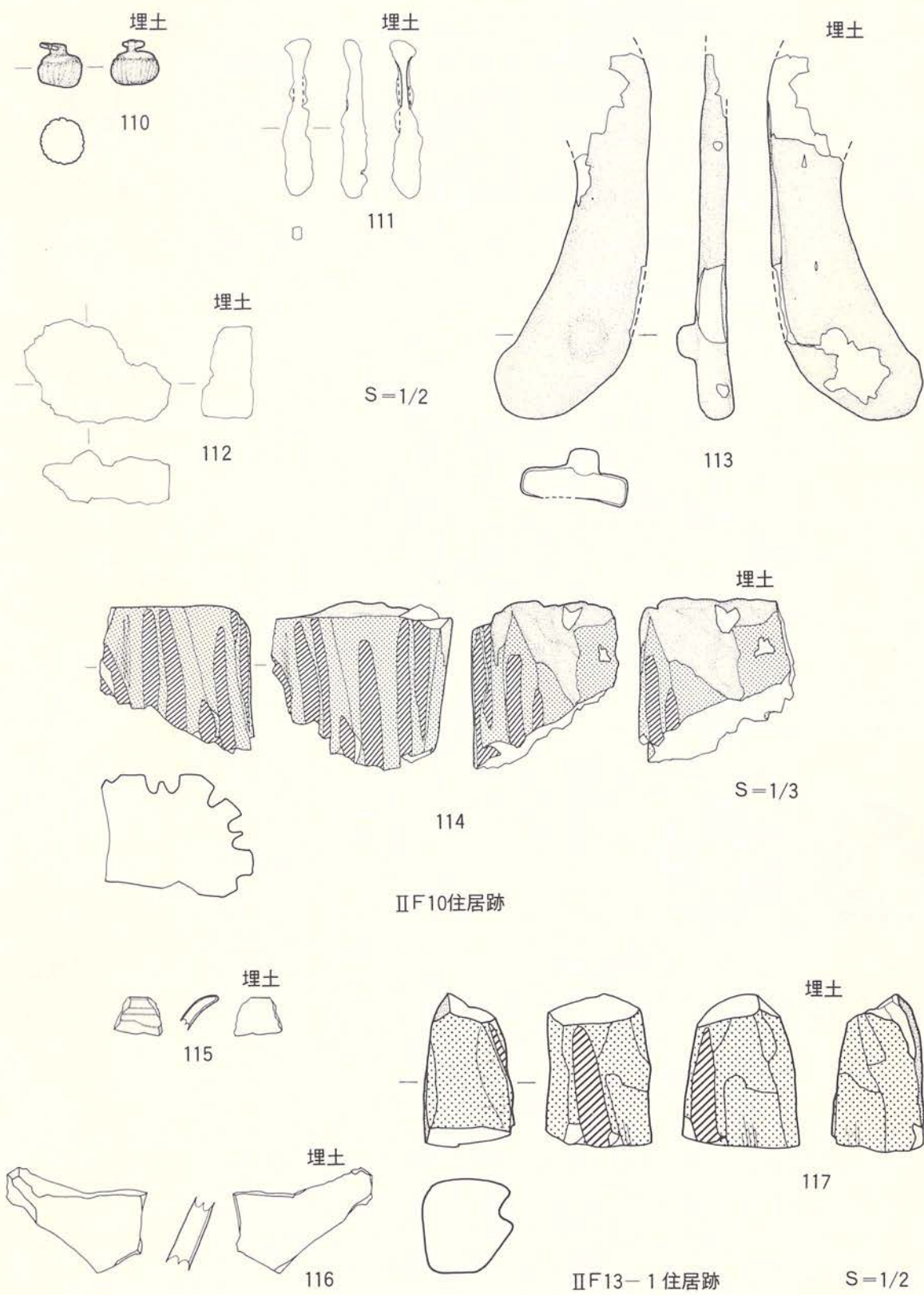
ⅡF10住居跡

第33圖 住居跡出土遺物⑦

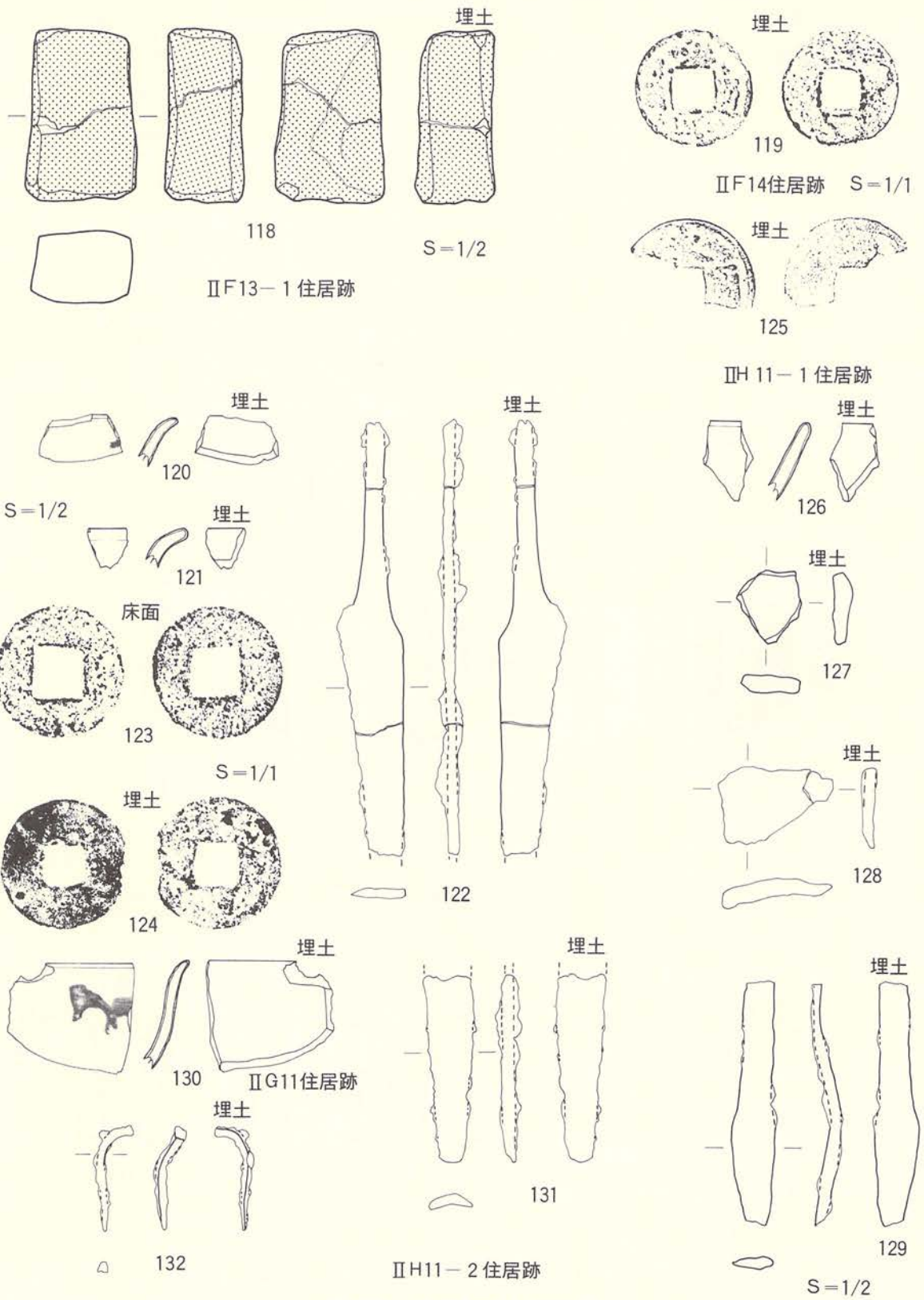


ⅡF10住居跡

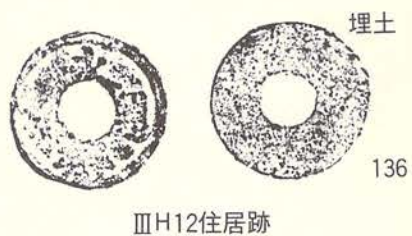
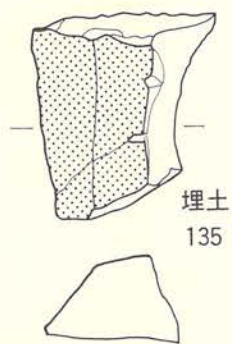
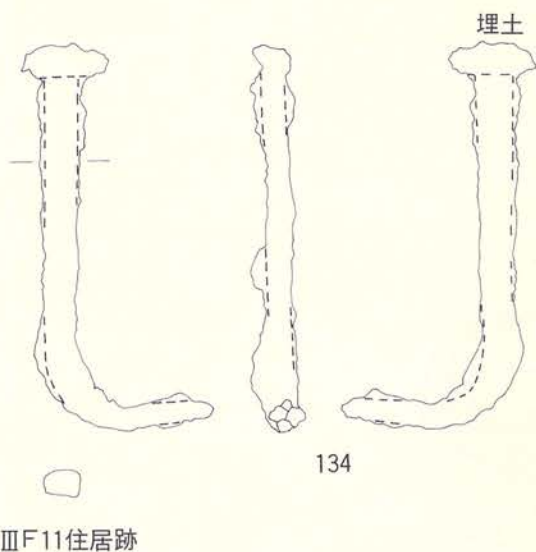
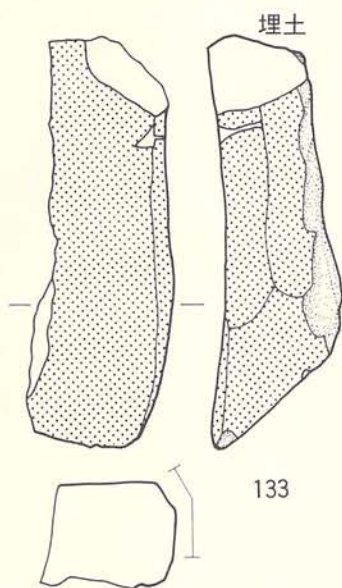
第34図 住居跡出土遺物⑧



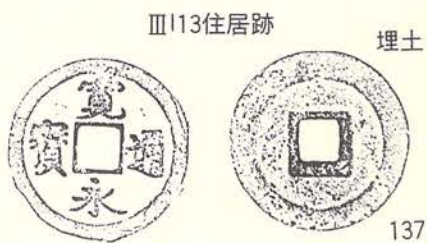
第35図 住居跡出土遺物 ⑨



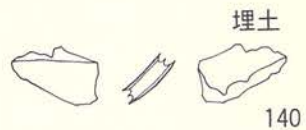
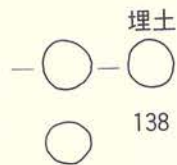
第36図 住居跡出土遺物 ⑩



S=1/1



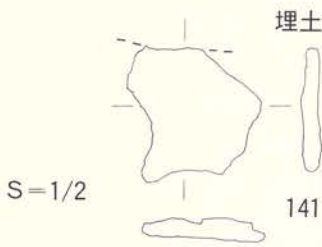
ⅡC11掘立柱建物跡



S=1/2

第37図 住居跡・掘立柱建物出土遺物 ⑪

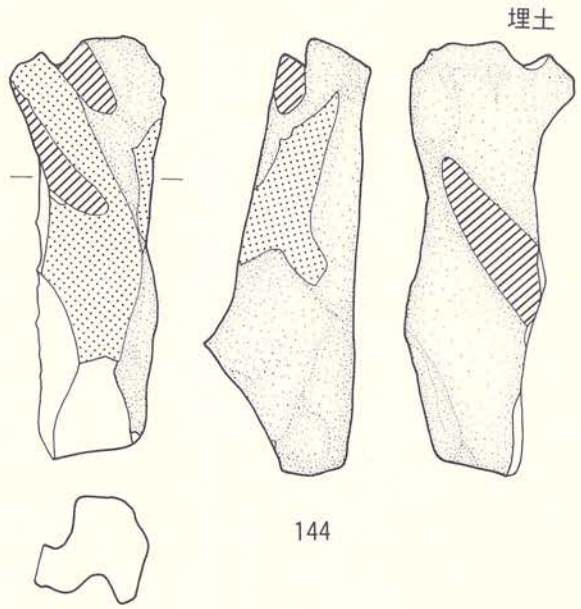




埋土

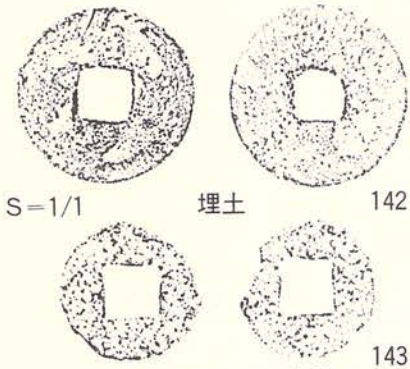
S=1/2

141



埋土

144



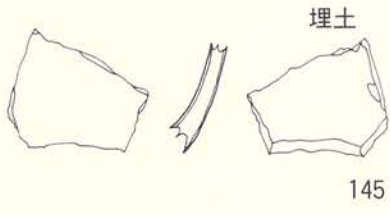
S=1/1

埋土

142

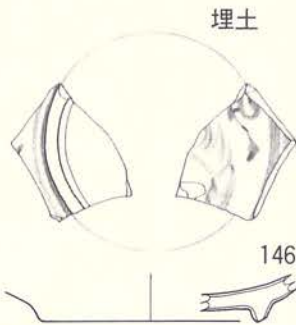
143

ⅡC11掘立柱建物跡



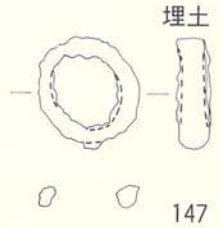
埋土

145



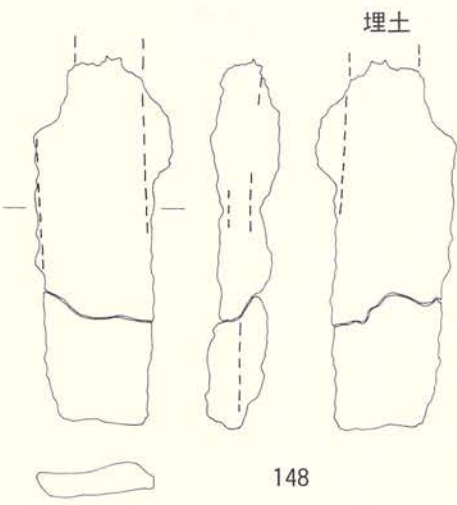
埋土

146



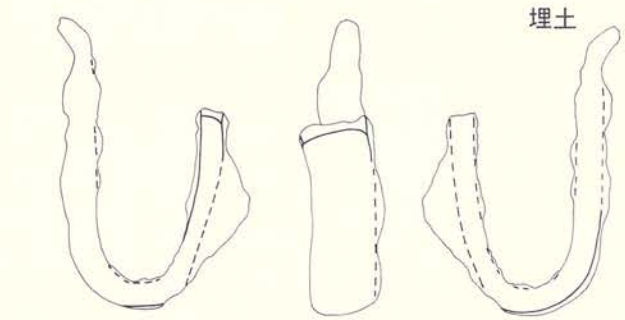
埋土

147



埋土

148



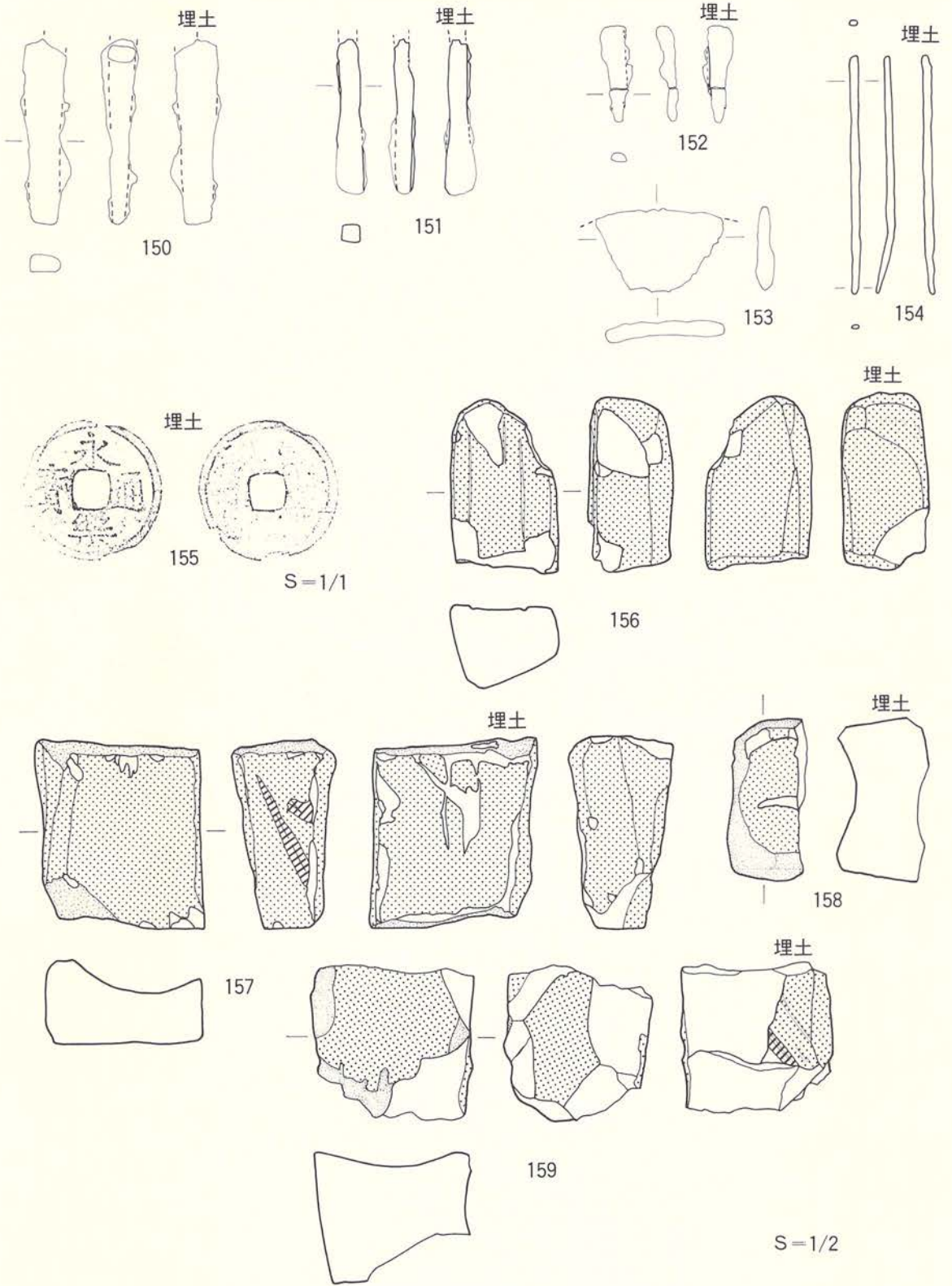
埋土

149

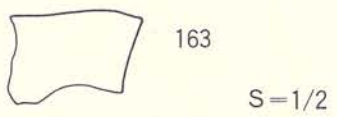
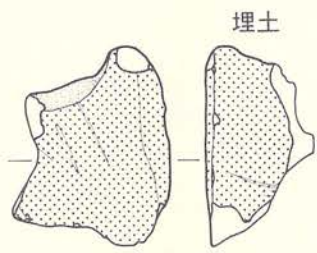
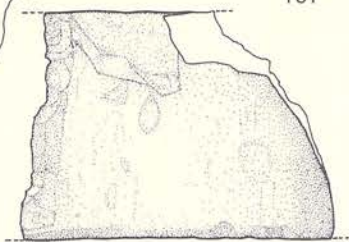
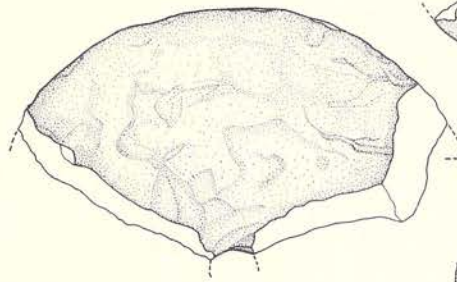
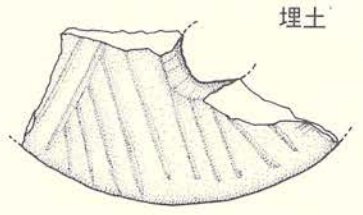
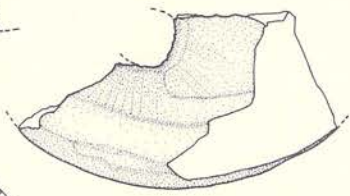
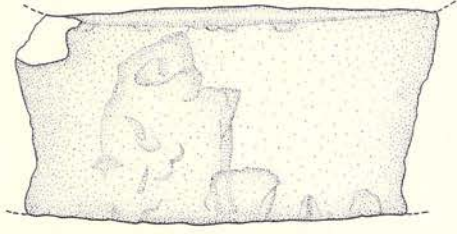
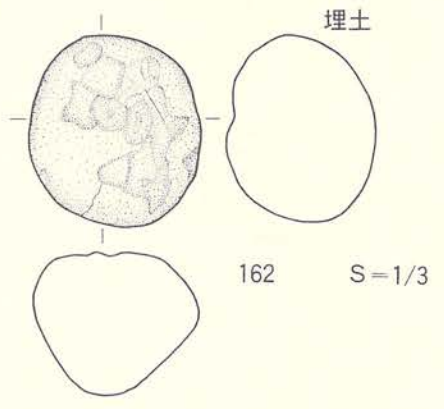
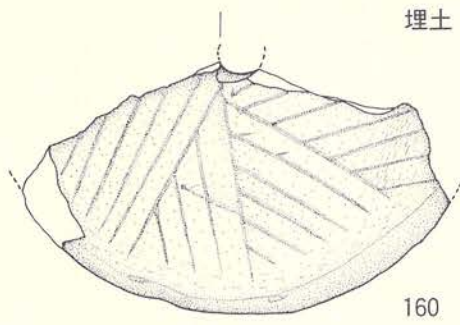
ⅢB12住居跡状遺構

S=1/2

第38図 掘立柱建物跡・住居跡状遺構出土遺物 ⑫

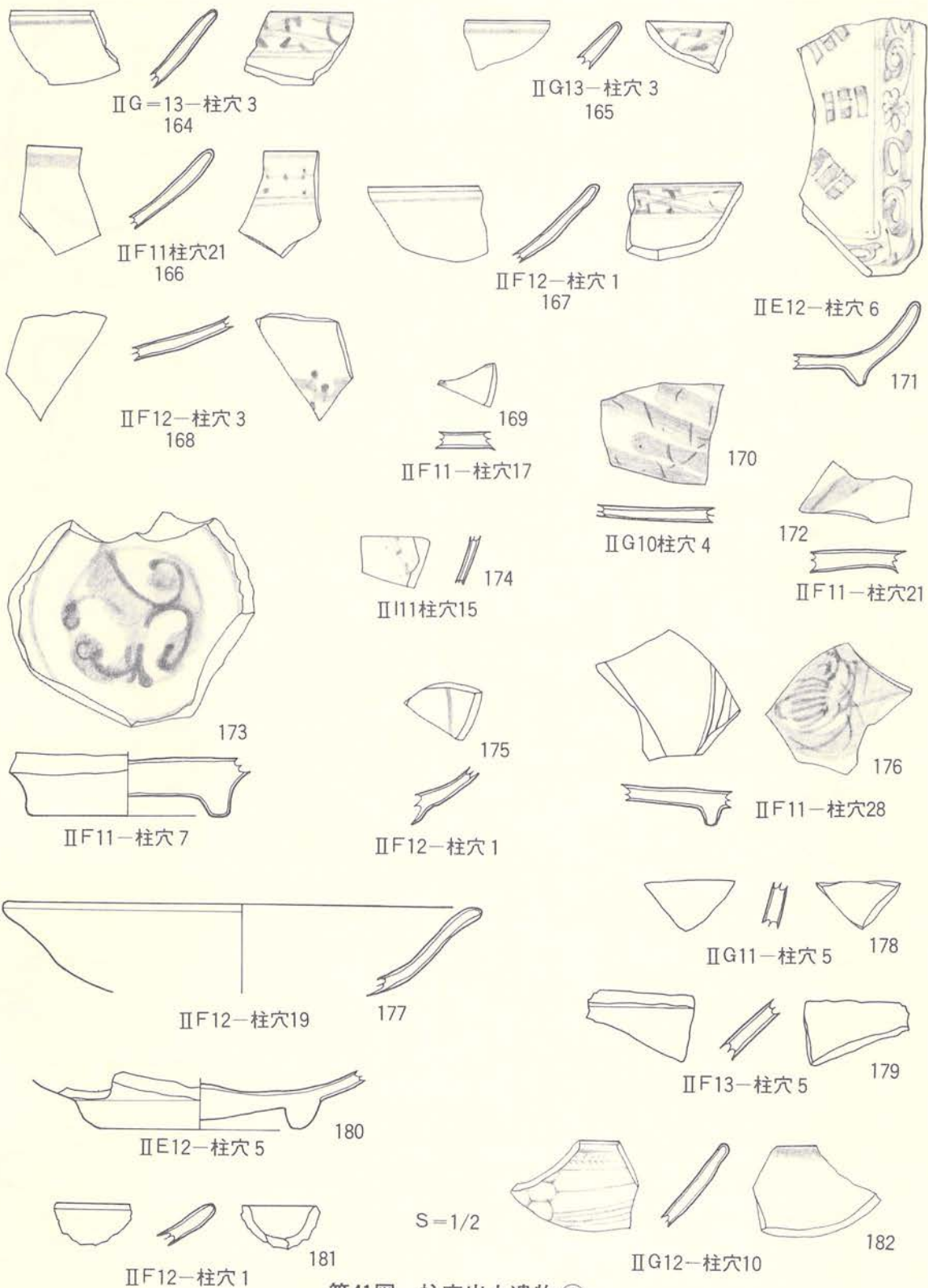


第39図 住居跡状遺構出土遺物 ⑬

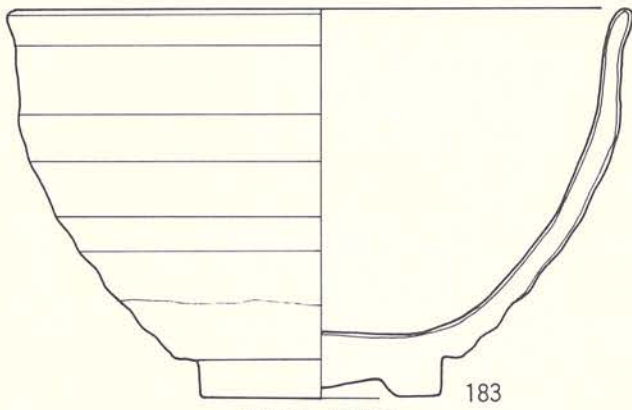


ⅢB12住居跡状遺構

第40図 住居跡状遺構出土遺物 ⑭

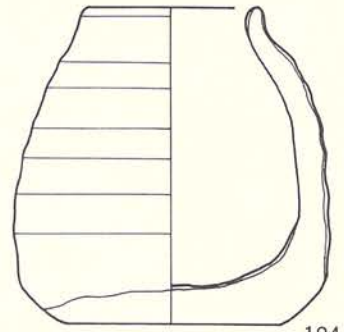


第41图 柱穴出土遺物 ①



ⅡE10—柱穴1

183



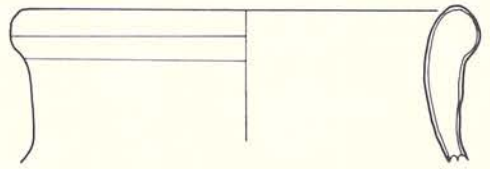
ⅡE12—柱穴11

184

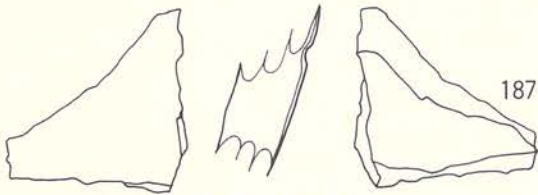


ⅡF13—柱穴7

185



186



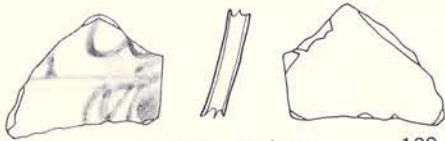
ⅡE12—柱穴3

187



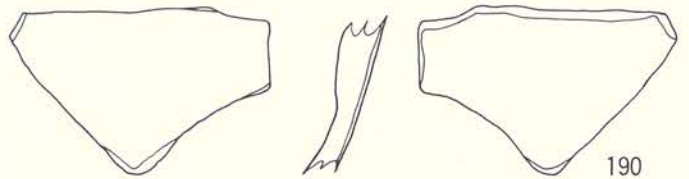
ⅡE11—柱穴11

188



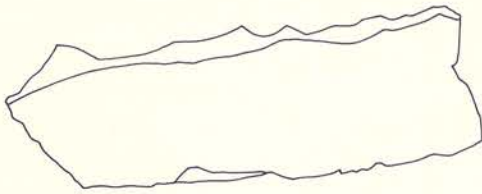
ⅡG12—柱穴10

189



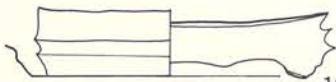
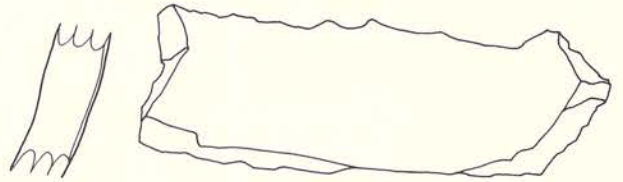
ⅡG13—柱穴2

190



ⅡE12—柱穴5

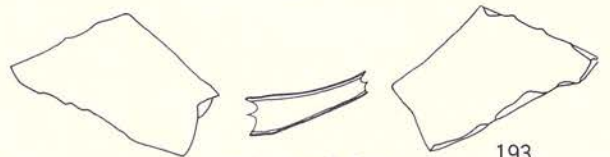
191



ⅡF13—柱穴13

192

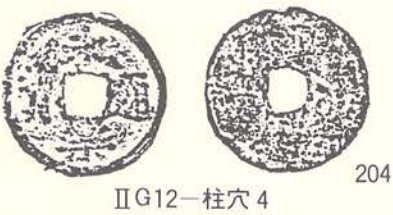
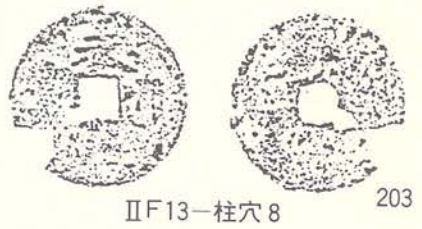
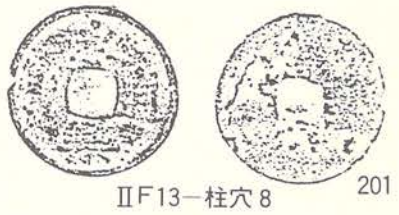
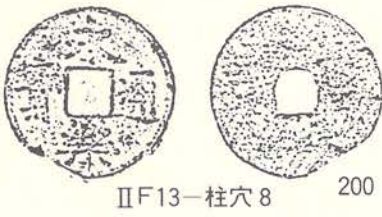
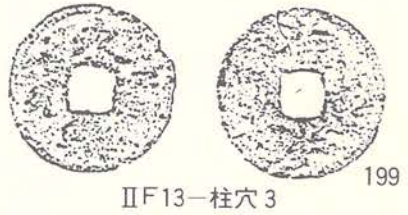
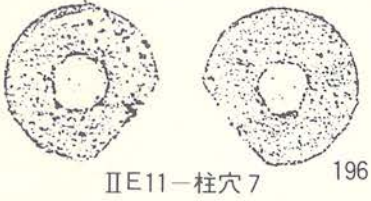
S=1/2



ⅡH12—柱穴22

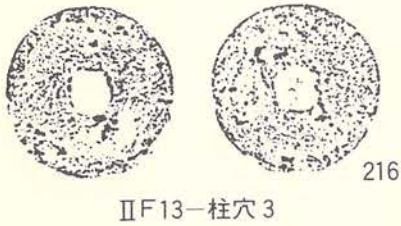
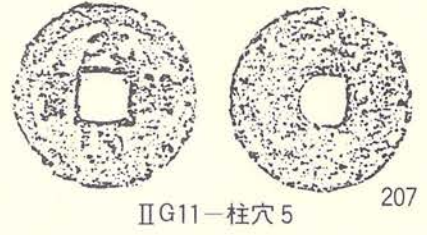
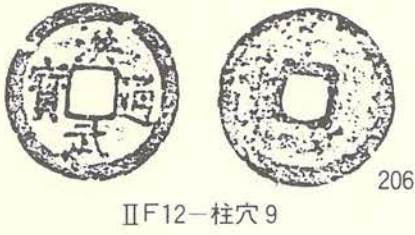
193

第42图 柱穴出土遺物②



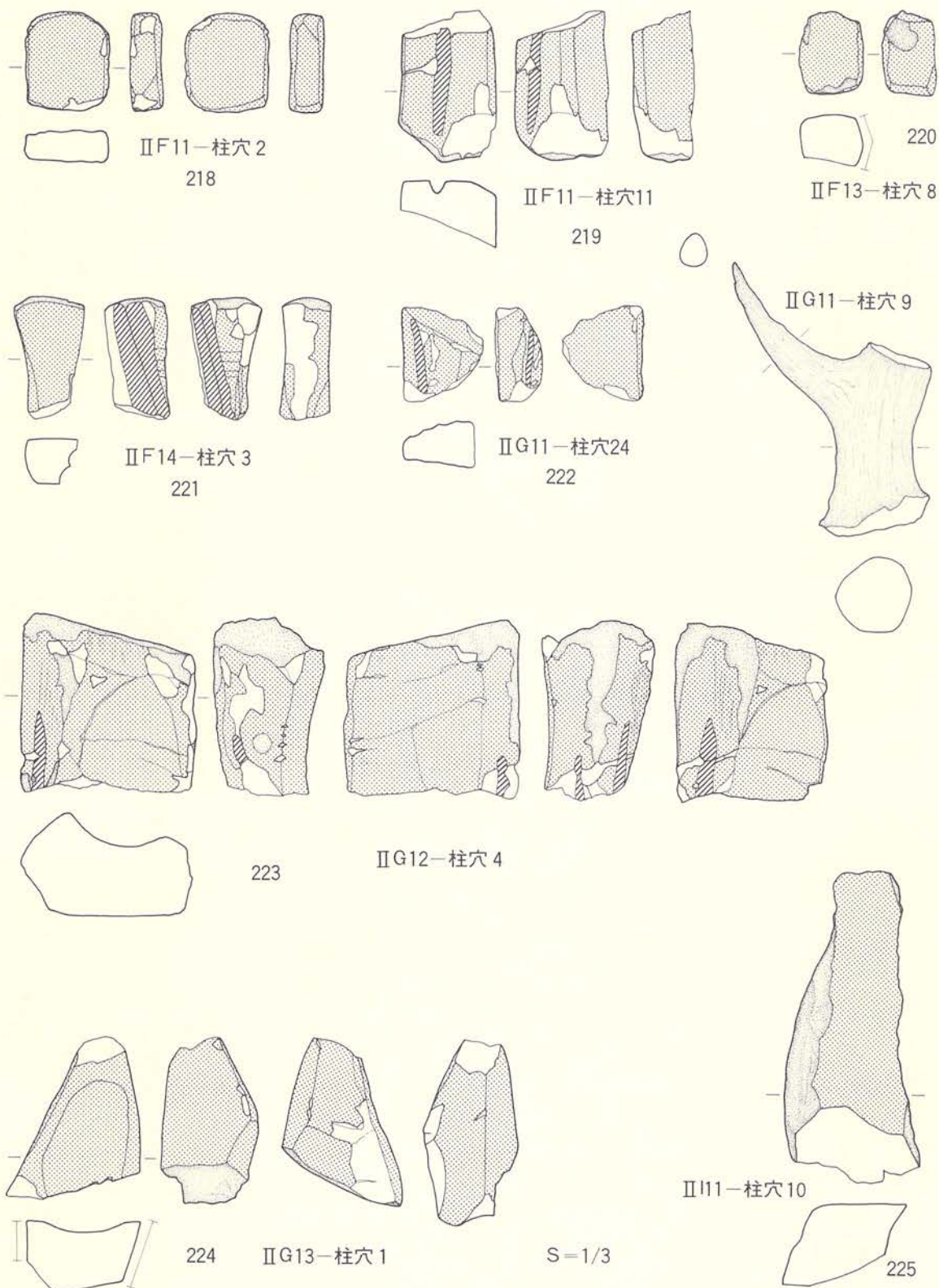
S=1/1

第43图 柱穴出土遺物 ③



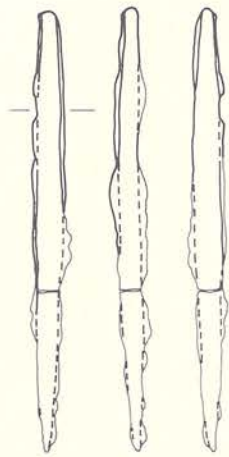
S=1/1

第44图 柱穴出土遺物 ④

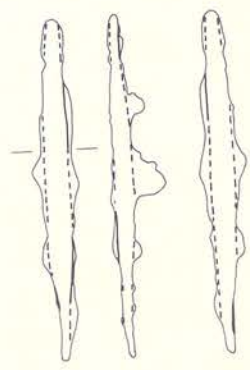


第45图 柱穴出土遺物 ⑤

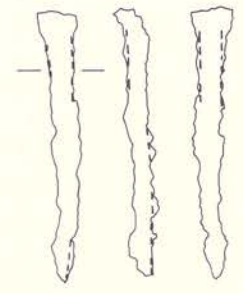




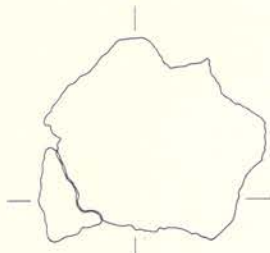
II F12-柱穴12  
227



II F12-柱穴20  
228



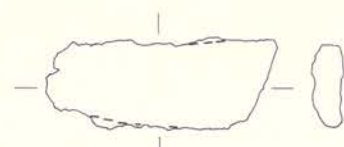
II G14柱穴3  
229



II E13-柱穴1

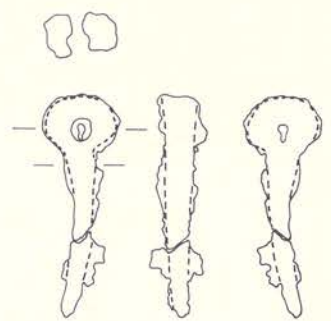


230



II G11-柱穴10

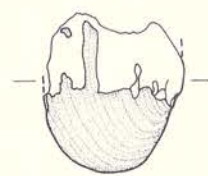
231



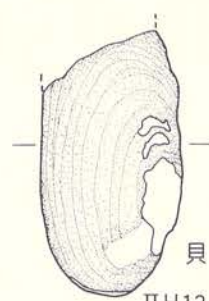
II E12-柱穴7  
232



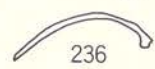
II F12-柱穴1  
234



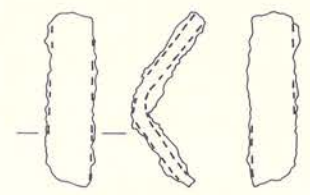
II F12-柱穴1  
235



II H13-柱穴1



236



II F11-柱穴17  
233

S=1/2

第46图 柱穴出土遺物 ⑥

#### (4) 土 坑

##### I I 14土坑 第47・61図、写真図版25・55

本土坑は、調査区南西端の尾根の突端部に占地する。また、本土坑は、今回検出された全遺構中、最南端に位置する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。

規模は、開口部で長径2.43m×2.36m、検出面からの深さは1.14mである。平面形は、円形を呈する。埋土には、地山II・III層にみられる浮石粒、極小礫のほか十和田a火山灰\*と思われるものが確認されている。この埋土には、堆積の状況、混入物から自然堆積と思われる。断面形は、開口部で開くが、基本的には「ビーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は、埋土から縄文土器が出土している。細片であるが、深鉢型土器の口縁部である。

なお、本土坑の時期は、火山灰の堆積から古代の可能性もある。

\*火山灰の鑑定結果については当センター発行予定「五庵 遺跡発掘調査報告書」に掲載する。

##### I J 12土坑 第47・61図、写真図版25・55

本土坑は、調査区西端の尾根の突端部に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。

規模は、開口部で長径2.77m×短径2.70m、検出面からの深さは1.44mである。平面形は、円形を呈する。埋土には、地山II層相当小土塊・焼土粒のほか、I層には十和田a火山灰と思われる塊が含まれている。この埋土には、堆積の状況からは、自然堆積の様相を呈する。断面形は、開口部に至るにしたがって開くが、おおむね「ビーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

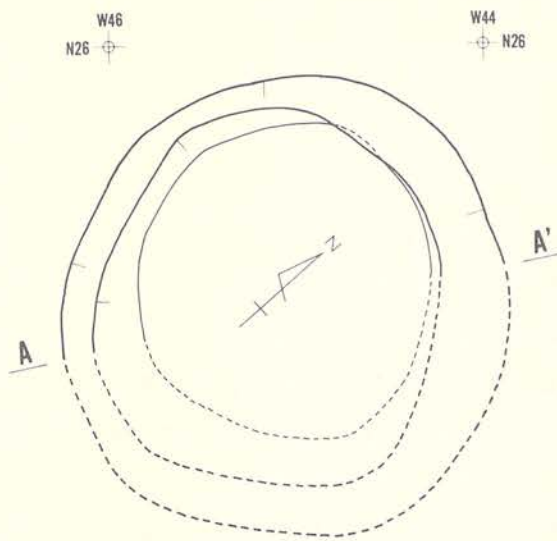
遺物は、埋土1～3層から縄文土器28点および石器2点が出土した。そのうち、240・241には不整撚糸の圧痕が付されている。242は、波状口縁で、口縁端部には、指圧痕をもち、外面には沈線が付されている。243・244は篋書き沈線による斜格子文をもつ。これらは、いずれも縄文時代後期前葉に比定されると思われる。石器は、石匙、石篋各1点出土した。

なお、本土坑の時期は、比定し得る決定的資料はないが、土器は縄文時代後期であるが、埋土上位に十和田a火山灰が堆積していることから古代まで下がる可能性もある。

##### I J 13-1土坑 第48図、写真図版25

本土坑は、調査区南西端の尾根の突端部に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。

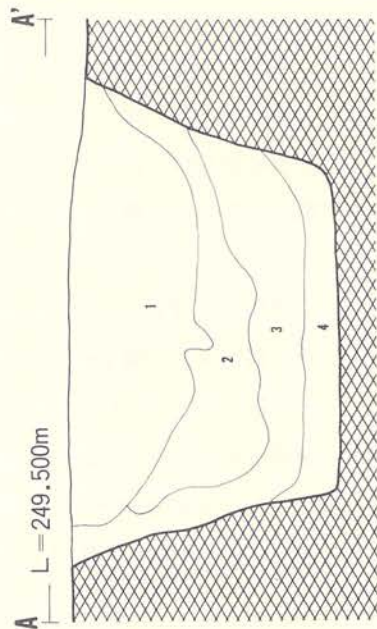
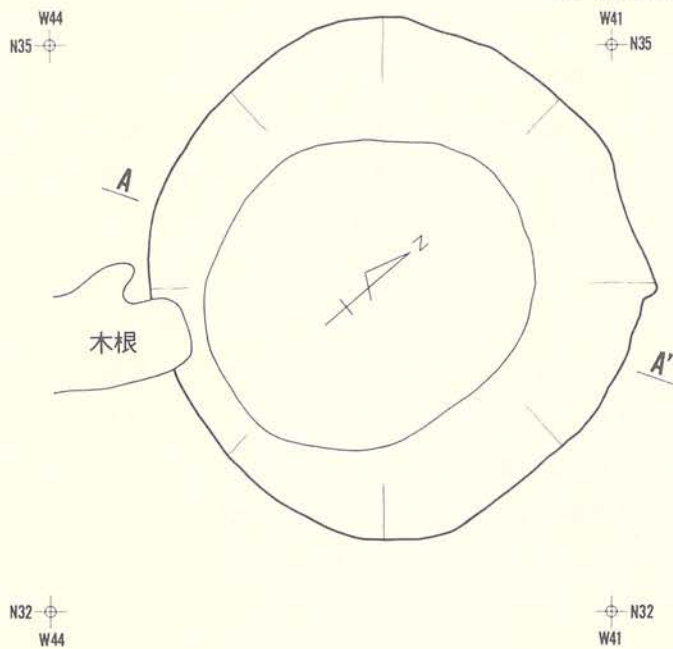
規模は、開口部で長径3.06m×2.88m、検出面からの深さは1.17mである。平面形は、隅丸正方形に近い。埋土には、地山II・III層相当小土塊、地山II層にみられる浮石粒のほか、2層



N23  
W46

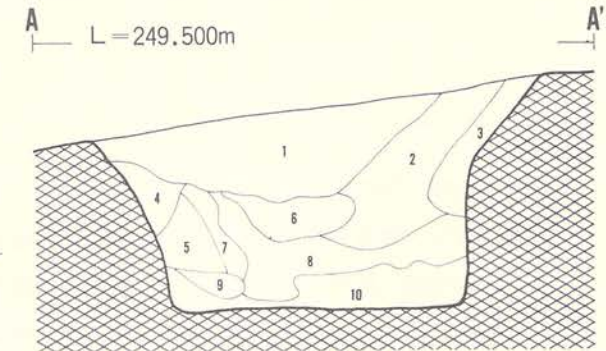
I 114土坑

N23  
W44



I J12土坑

0 1m



1. Hue10YR 2/2 黒褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、炭化物粒、焼土粒、極小礫を含む。
2. Hue10YR 4/4 褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、極小礫炭化物粒を含む。
3. Hue10YR 3/4 暗褐色 炭化物粒、極小礫を含む。
4. Hue10YR 5/8 黄褐色 黒褐色土小土塊、焼土小塊、炭化物粒を含む。
5. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山Ⅱa小土塊、極小礫、炭化物粒を含む。
6. Hue10YR 5/6 黄褐色 地山Ⅲaにみられる浮石粒、極小礫を含む。
7. Hue10YR 3/4 褐色 3層に酷似。
8. Hue10YR 4/4 褐色 地山Ⅲaにみられる浮石粒、極小礫炭化物粒、焼土粒を含む。
9. Hue10YR 5/8 黄褐色 黒色小土塊、極小礫を含む。
10. Hue10YR 4/6 褐色 地山Ⅲa主体。

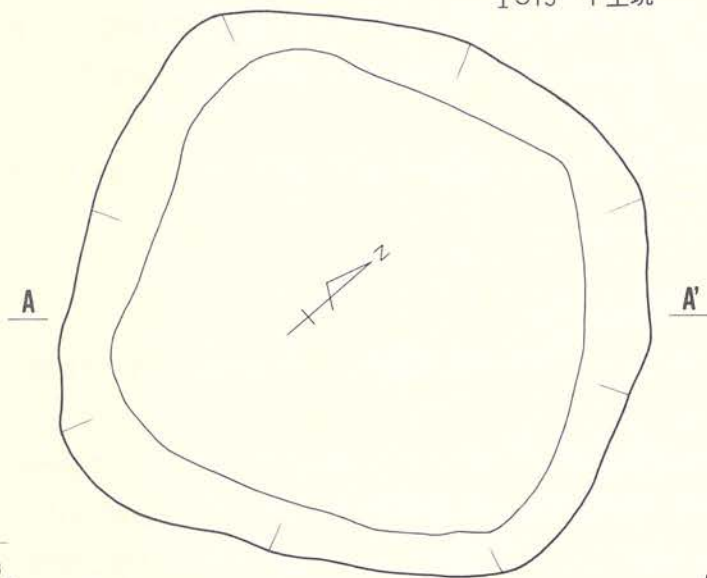
1. Hue10YR 1.7/1 黒色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・b小土塊、焼土粒を含む。
3. Hue10YR 3/3 暗褐色 焼土粒を含む。
4. Hue10YR 4/6 褐色 地山Ⅱa・b小土塊、焼土粒を含む。

第47図 I 114・I J12土坑

W43  
N29

I J13-1 土坑

W39  
N29

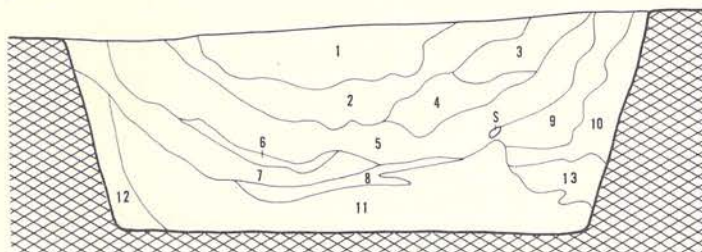


1. Hue10YR 1.7/1 黒色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 2/1 黒色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、十和田a近隣の火山灰塊を含む。
3. Hue10YR 2/2 黒褐色 焼土粒を含む。
4. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、炭化物粒を含む。
5. Hue10YR 3/4 暗暗褐色 地山Ⅱa・b小土塊、焼土粒を含む。
6. Hue10YR 3/3 暗暗褐色 焼土粒を含む。
7. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、炭化物粒を含む。
8. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、炭化物粒、焼土粒を含む。
9. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅱa・b小土塊を含む。
10. Hue10YR 4/6 褐色 地山Ⅱa・b小土塊を含む。
11. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山Ⅱa・b、Ⅲa・b小土塊を含む。
12. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山Ⅲa・b小土塊を含む。
13. Hue10YR 5/8 明褐色 焼土粒を含む。

N26  
W43

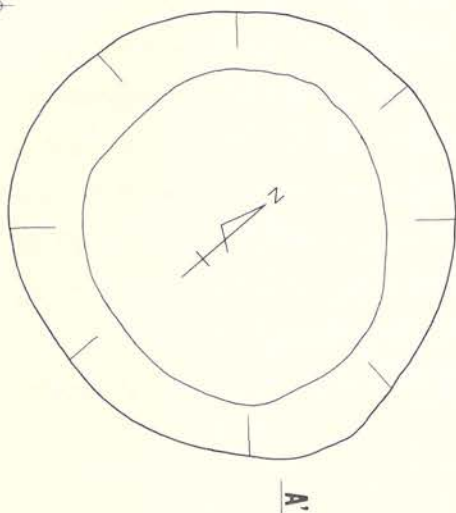
L = 249.600m

N26  
W39



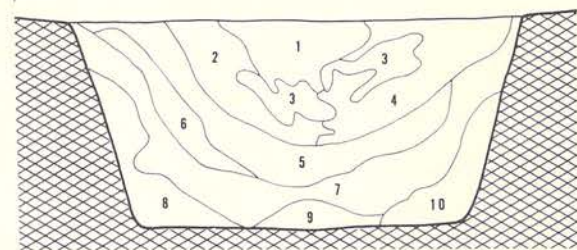
1. Hue10YR 2/1 黒色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、炭化物小片、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 2/2 黒褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、十和田a近隣の火山灰塊、炭化物を含む。
3. Hue10YR 6/8 明黄褐色 黒色小土塊、十和田a近隣の火山灰塊、炭化物粒を含む。
4. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、炭化物を含む。
5. Hue10YR 4/4 褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、焼土粒を含む。
6. Hue10YR 4/6 褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、焼土粒を含む。
7. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅱa・b小土塊、焼土粒を含む。
8. Hue10YR 6/6 明黄褐色 地山Ⅱa主体。
9. Hue10YR 3/3 暗褐色 混入物はみられない。
10. Hue10YR 6/6 明黄褐色 地山Ⅱa小土塊、焼土粒を含む。

W45  
N31



W42  
N31

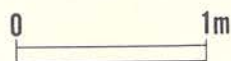
L = 249.400m



I J13-2 土坑

N28  
W45

N28  
W42



第48図 I J13-1・2 土坑

は、十和田 a 火山灰と思われるものが多量に含まれている。この埋土は、堆積の状況から、自然堆積の様相を呈する。断面形は、開口部に向って開くが、おおむね「ピーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は出土しなかった。なお、遺構の時期は、比定し得る決定的資料はないが、火山灰の堆積からは古代の可能性がある。

#### I J 13-2 土坑 第48・61図、写真図版26・61

本土坑は、調査区南西端の尾根の突端部に占地する。検出面は、尾根部の基本層序 II a 層上面である。

規模は、開口部で長径2.38m×短径2.36mで、検出面からの深さは1.11mである。平面形は円形を呈する。埋土には、地山 II・III層相当小土塊、地山 II 層にみられる浮石粒、炭化材片のほか、2・3層には、十和田 a 火山灰と思われる塊がみられる。この埋土は、混入物、堆積の状況から自然堆積と思われる。断面形は、おおむね「ピーカー」状、底面は、水平かつ平坦である。

遺物は、埋土から縄文土器が2点出土した。いずれも破片であるが同一個体である。

#### II A 14土坑 第49・61・62図、写真図版26・55・56

本土坑は、調査区南西端の尾根の突端近くに占地する。検出面は、尾根部の基本層序 II a 層上面である。

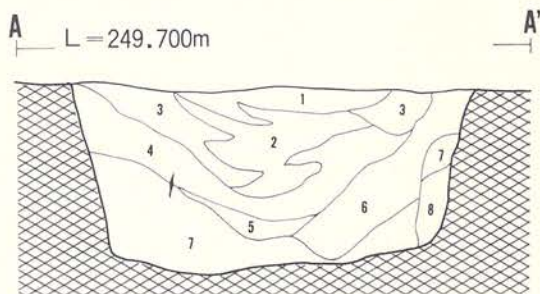
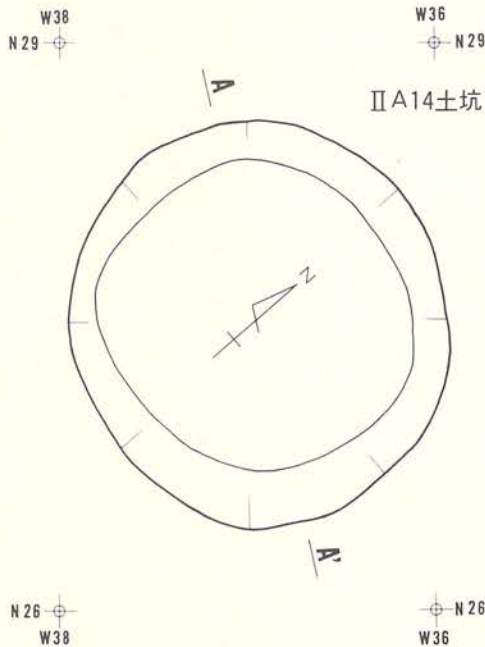
規模は、開口部で長径2.16m×短径2.01m、検出面からの深さは0.97mである。平面形は、円形を呈する。埋土には、地山 II・III層相当小土塊、地山 II 層にみられる浮石粒を含むほか、2層には、十和田 a 火山灰と思われる塊もみられる。この埋土は、混入物、堆積の状況から自然堆積したものと思われる。断面形は「ピーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は、埋土から十数点の縄文土器片、石器の剥片若干のほか、弥生時代前葉に比定されると思われる土器の細片が1点出土している。縄文土器については、鉢型土器と思われ、網目状撚糸文、地文を磨消し沈線による入組曲線文や入組区画文を施したものがみられる。また、弥生土器は、浅鉢型土器の体部の破片と思われるが、二本の深い沈線が横に走っている。

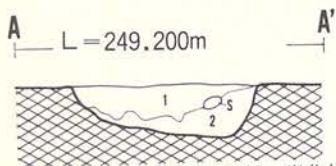
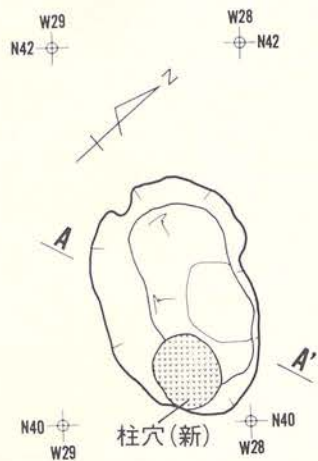
本土坑の時期は、直接的比定し得る資料はないが、埋土が自然堆積であるとすれば、弥生土器の出土から、弥生時代前葉以後であろう。

#### II B 13土坑 第49・63図、写真図版26・56

本土坑は、調査区南西端の尾根の突端に近い平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層

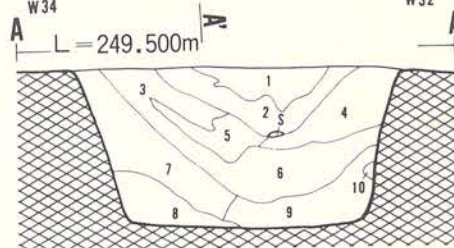
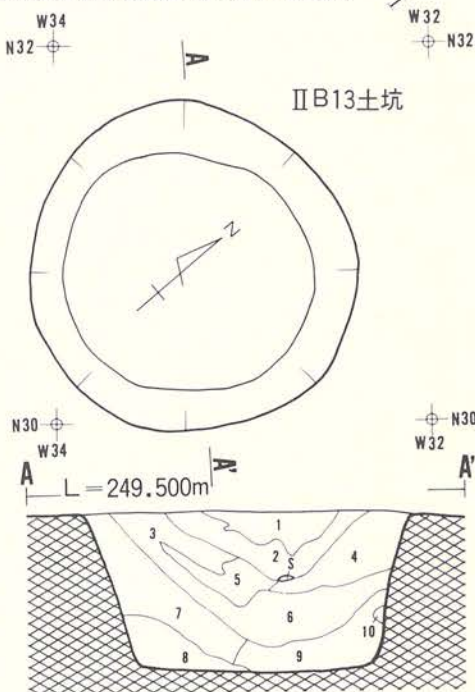
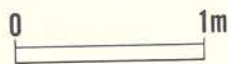


1. Hue10YR 2/1 黒色 地山II a・bにみられる浮石粒、小礫、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 2/2 黒褐色 明褐色小土塊、地山II a・bにみられる浮石粒、十和田a近似の火山灰塊、焼土粒を含む。
3. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山II a・bにみられる浮石粒を含む。
4. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山II a・bにみられる浮石粒を含む。
5. Hue10YR 4/6 褐色 地山III a小土塊、暗褐色小土塊を含む。
6. Hue10YR 6/6 褐色 II a・bにみられる浮石粒を含む。
7. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山II a・b小土塊、炭化物粒を含む。
8. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山II a・b主体。



1. Hue10YR 3/3 暗褐色 亜角礫数個、炭化材小片木灰を含む。
2. Hue10YR 4/6 褐色 地山II a小土塊、炭化材小片を含む。

II C 11土坑

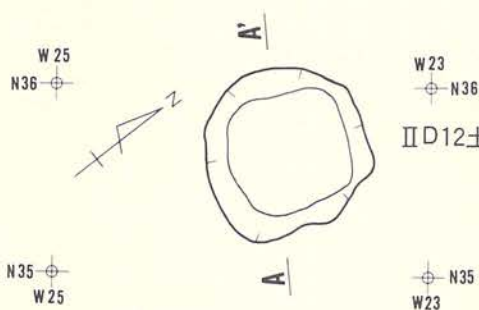
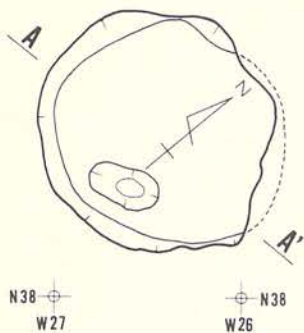


1. Hue10YR 1.7/1 黒色 褐色小土塊、炭化物を含む。
2. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山II a小土塊、炭化材小片を含む。
3. Hue10YR 4/4 褐色 砂が主体、炭化材小片を含む。
4. Hue10YR 2/3 黒褐色 十和田a降下火山灰近似の火山灰塊を含む。
5. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山II aにみられる浮石粒、砂を多量に含む。
6. Hue10YR 3/3 暗褐色 十和田a降下火山灰近似の火山灰塊、炭化物粒を含む。
7. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山II a小土塊、炭化物粒を含む。
8. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山II aにみられる小土塊、炭化材小片を含む。
9. Hue10YR 4/6 褐色 地山II a・b主体。
10. Hue10YR 6/6 明黄褐色 地山II a土塊。

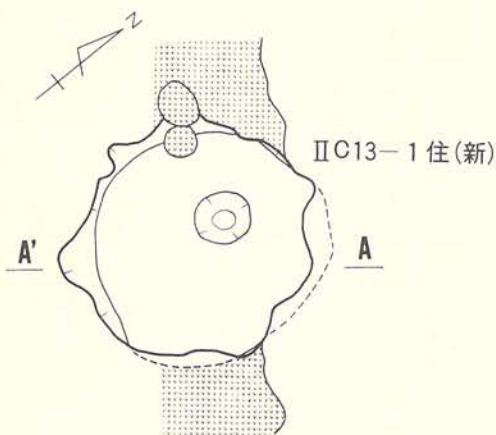
第49図 II A14・II B13・II C11土坑

W27 N40  
W26 N40

ⅡD11土坑



W26 N31



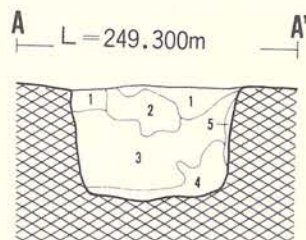
N28 W26

ⅡD13土坑

N28 W23

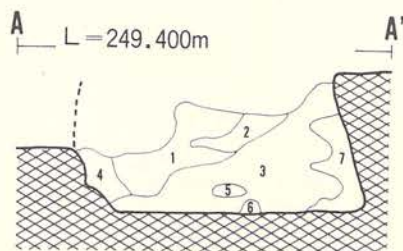


1. Hue10YR 2/3 黒褐色 炭化材小片、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 2/2 黒褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、焼土粒、炭化材小片を含む。
3. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、焼土粒、炭化材小片を含む。
4. Hue10YR 4/4 褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石、焼土粒を含む。
5. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山Ⅱa・b小土塊が主体。
6. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅱa・b小土塊、焼土粒を含む。
7. Hue10YR 2/3 黒褐色 焼土粒を含む。



1. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山Ⅱb小土塊、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山Ⅱa小土塊、暗褐色小土塊、焼土粒を含む。
3. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa小土塊、焼土粒を含む。
4. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅱb土塊。
5. Hue10YR 3/4 暗褐色 混入物はみられない。

W23 N31



1. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅱa・b・Ⅲaにみられる浮石粒、焼土粒、炭化材小片を含む。
2. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、黒色土塊、炭化材小片、焼土粒を含む。
3. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山Ⅱa・b小土塊および浮石粒、焼土粒を含む。
4. Hue10YR 6/8 明黄褐色 地山Ⅱa・b土塊を含む。
5. Hue10YR 6/8 明黄褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒を含む。
6. Hue10YR 7/8 黄橙色 地山Ⅱa・b小土塊、および浮石粒を含む。
7. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅱa小塊を含む。

0 1m

第50図 ⅡD11・ⅡD12・ⅡD13土坑

序II a層上面である。

規模は、開口部で直径1.76m、検出面からの深さは0.86mである。平面形は、円形を呈する。埋土には、地山小土塊、炭化材小片のほか、4・6層には、十和田a火山灰と思われる塊が散見される。この埋土は、自然に堆積したものと思われる。断面形は、開口部に至るほど開くが、おおむね「ピーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は、鉢型土器と思われる縄文土器片が数点出土している。

本土坑の時期は、比定し得る直接的資料がなく不明である。

#### II C 11土坑 第49図、写真図版27

本土坑は、尾根部の南西端に近い平坦地に占地する。本土坑は、II C 11掘立柱建物跡の柱穴によって切られている。また、検出面は、II C 11住居跡の床面である。

規模は、開口部で長径1.28m×短径0.86m、検出面からの深さは、最深部で0.27mである。平面形は、楕円形に近い。埋土には、数個の垂角礫、炭化材小片、木灰、地山II層相当小土塊が含まれている。断面形は、「浅皿」状を呈する。底面は、西で浅くなる。

なお、本土坑は、II C 11住居跡の床面で検出されたこと、礫や木灰等の出土から、この住居跡に伴うものであることも考えられる。

#### II D 11土坑 第50・63図、写真図版27・56

本土坑は、尾根部の南西端に近い平坦地に占地する。本土坑は、南側約2/3がII C 11住居跡に切られている。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。

規模は、開口部ではII C 11住居跡に切られ不明である。底部は、長径1.40m×短径1.26m、検出面からの深さは、0.48mである。平面形は、開口部で不整を呈するが、底部は、ほぼ円形である。埋土には、地山II層相当小土塊、炭化材小片等が含まれ、一部の埋土は埋戻しの様相を呈する。断面形は、「フラスコ」状で、頸部をもつ。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は、縄文土器片が数点出土しているが、後期の鉢類と思われる。

なお、本土坑は、自然に埋没したものか埋戻しかは確定できなかった。

#### II D 12土坑 第50・63図、写真図版27・56

本土坑は、尾根部の南西端に近い平坦地に占地する。本土坑は、II D 12-1・2両住居跡に切られている。したがって、検出面は、II D 12-1・2住居跡の床面である。

規模は、開口部で長径0.90m×短径0.85m、検出面からの深さは0.61mである。平面形は、



開口部で不整な円形に近いが、底部が隅丸正方形である。埋土には、地山II層相当小土塊や微量ではあるが焼土が含まれている。この埋土は、埋戻されたものか自然堆積によるものかは不明である。断面形は、「ビーカー」状を呈する。したがって、底面は、水平かつ平坦である。

遺物は、埋土から縄文土器の細片が出土している。時期は不明である。したがって、本土坑の時期も、比定し得る直接的資料がなく不明である。

#### II D 13土坑 第50・63図、写真図版28・56

本土坑は、尾根部の南西端に近い平坦地に占地する。本土坑は、II C 13-1住居跡に切られており、この住居跡の床面から検出された。また、掘立柱建物跡を構成すると思われる柱穴によっても切られている。

規模は、底部で長径1.26m×短径1.23m、検出面からの深さは、0.73mである。平面形は、円形を呈する。埋土には、地山II層相当小土塊や若干ではあるが、炭化材極小片や焼土粒も含まれている。この埋土は、埋戻されたものか自然堆積かは不明である。断面形は、「フラスコ」状である。なお、底面中央部に小穴を1個もっている。

遺物は、埋土から粗製縄文土器細破片が数点出土しているが時期は不明である。したがって、本土坑の時期は、比定し得る直接的資料がなく不明である。

#### II D 15土坑 第51図、写真図版28

本土坑は、尾根部の南西端に近い平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。本土坑は、II D 14住居跡に切られている。

規模は、底部で長径1.15m×短径1.08m、検出面からの深さは0.34mである。平面形は、円形を呈する。埋土には、地山II層相当小土塊、同層にみられる浮石粒のほか、微量ではあるが、炭化材極小片や焼土粒も含まれている。この埋土は、自然堆積と思われる。断面形は、「浅皿」型に近い。したがって、底面中央部が若干凹む。

遺物は出土しなかった。したがって、本土坑の時期も、比定し得る直接的資料がなく不明である。

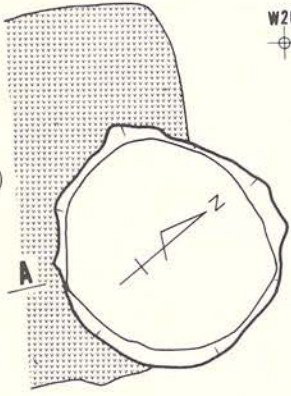
#### II D 16土坑 第51・63図、写真図版28・57

本土坑は、尾根部の南東の東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。

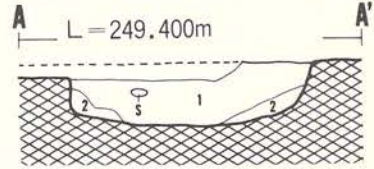
規模は、開口部で長径1.72m×短径1.51m、検出面からの深さは0.27mである。平面形は、楕円形に近い。埋土には、地山II層にみられる浮石粒等が含まれている。この埋土は、埋戻さ

W 28  
N 25

ⅡD14住(新)



W 26  
N 25



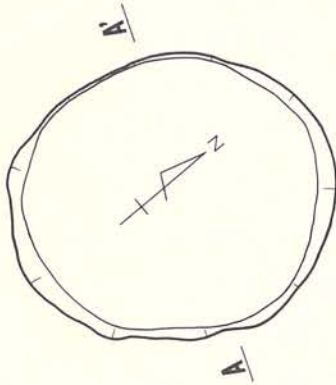
1. Hue10YR 2/3 黒褐色 焼土粒、炭化材小片、浅黄橙色浮石粒、褐色土小塊を含む。
2. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa、Ⅲa小土塊、焼土粒を含む。

ⅡD15土坑

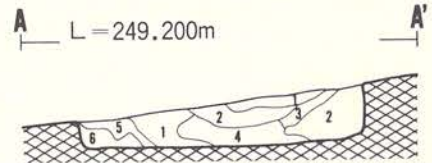
N 23  
W 28

N 23  
W 26

W 26  
N 21



W 23  
N 21



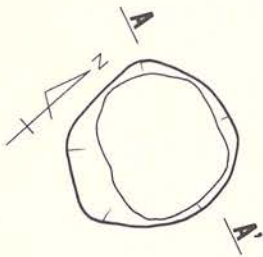
ⅡD16土坑

1. Hue10YR 4/4 褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒を含む。
2. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、炭化物粒、焼土粒を含む。
3. Hue10YR 4/3 にぶい黄褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、焼土粒を含む。
4. Hue10YR 5/6 黄褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石、炭化物粒、焼土粒を含む。
5. Hue10YR 4/6 褐色 地山Ⅱa・b小土塊を含む。
6. Hue10YR 5/8 黄褐色 焼土粒を含む。

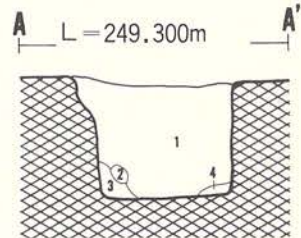
N 19  
W 26

N 19  
W 23

W 24  
N 35



W 22  
N 35



1. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山Ⅱa・b小土塊および浮石粒、炭化物粒を含む。
2. Hue10YR 5/8 黄褐色 暗褐色小土塊を含む。
3. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa小土塊を含む。
4. Hue10YR 6/8 明黄褐色 地山Ⅱb土塊が主体。

N 33  
W 24

N 33  
W 22

ⅡE12-1土坑

0 1m

第51図 ⅡD15・ⅡD16・ⅡE12-1土坑

れたものか自然堆積かは不明である。断面形は、浅い「ピーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は、埋土から磨製石斧が1点出土している。

本土坑の時期は、比定し得る直接的資料がなく不明である。

#### II E 12-1 土坑 第51・63図、写真図版29・57

本土坑は、尾根部の南寄りの平坦地に占地する。本土坑は、II D 12-1・2 両住居跡に切られ、この住居跡の床面から検出された。

規模は、底部で長径0.75m×短径0.61m、検出面からの深さは0.62mである。平面形は、不整な円形を呈する。埋土には、地山II層相当小土塊等が含まれる。この埋土は、堆積の状況からは、自然堆積の様相を呈する。断面形は、「ピーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。遺物は、埋土から粗製縄文土器の破片2点が出土した。時期は不明である。したがって、本土坑の時期は、比定し得る直接的資料がなく不明である。

#### II E 12-2 土坑 第52図、写真図版29

本土坑は、尾根部の南寄りの平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a 層上面である。本土坑は、掘立柱建物跡を構成すると思われる柱穴に切られている。

規模は、開口部で長径1.24m×短径1.22m、検出面からの深さは0.33mである。平面形は、円形を呈する。埋土には、地山II a 層にみられる浮石粒や微量な焼土と思われるものが含まれている。この埋土は、埋戻された様相を呈している。断面形は、不整形である。底面に凹凸がみられる。

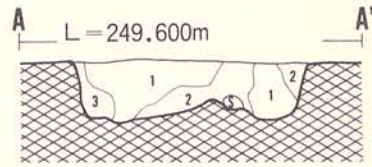
遺物は出土しなかった。したがって、本土坑の時期は、比定し得る直接的資料がなく不明である。

#### II F 12-1 土坑 第52・64図、写真図版29・57

本土坑は、尾根部の南寄りの平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a 層上面である。本土坑は、掘立柱建物跡を構成すると思われる柱穴に切られている。

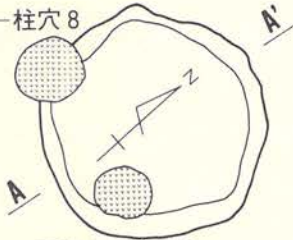
規模は、開口部で長径1.34m×短径1.31m、検出面の深さは0.45mである。平面形は、不整円形を呈する。埋土には、砂礫、焼土塊、焼土粒、炭化物等が含まれている。この埋土は、埋戻された様相を呈する。断面形は、「フラスコ」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は、埋土から、縄文時代後期と思われる土器片2点が出土している。本土坑の時期は、



1. Hue10YR 3/2 黒褐色 地山Ⅱaにみられる浮石粒を含む。
2. Hue10YR 4/6 褐色 地山Ⅱaにみられる浮石粒、暗褐色小土塊を含む。
3. Hue10YR 3/4 暗褐色 焼土粒を含む。

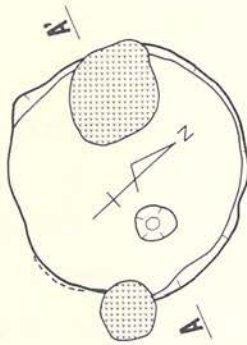
ⅡE12-柱穴8



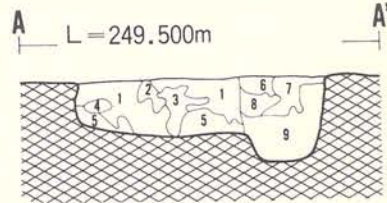
ⅡE12-2土坑



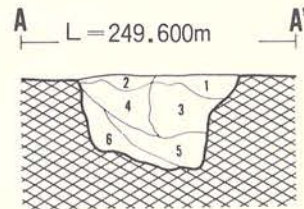
ⅡE12-柱穴10



ⅡF12-1土坑



1. Hue10 YR 3/3 暗褐色 砂礫、焼土粒、炭化物粒を含む。
2. Hue2.5YR 7/8 赤褐色 焼土塊。
3. Hue7.5YR 4/4 褐色 焼土粒、炭化物を含む。
4. Hue10 YR 4/4 褐色 焼土粒を含む。
5. Hue10 YR 4/6 褐色 小礫、焼土粒を含む。
6. } ⅡF12-柱穴の埋土
7. }
8. }
9. }



1. Hue10YR 2/1 黒色 地山Ⅱa小土塊、炭化材小片、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 5/6 黄褐色 焼土塊を含む。
3. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・b小土塊、炭化材片を含む。
4. Hue10YR 3/2 黒褐色 地山Ⅱa小土塊、炭化材小片、焼土粒を含む。
5. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa、地山Ⅲa小土塊を含む。
6. Hue10YR 5/6 明黄褐色 地山Ⅱb主体。



ⅡF12-2土坑



第52図 ⅡE12-2・ⅡF12-1・2土坑

比定し得る直接的資料はないが、遺物からみると縄文時代後期よりは下がるであろう。

#### II F 12— 2 土坑 第52図、写真図版30

本土坑は、尾根部の南寄りの平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a 層序上面である。

規模は、開口部で長径0.94m×短径0.80m、検出面からの深さは、最深部で0.50mである。平面形は、不整形である。埋土には、焼土塊、炭化材小片、地山II a 相当小土塊等が含まれる。この埋土は、埋戻された様相を呈する。断面形は不整形である。

なお、本土坑は、平面形、底面の状況、埋土の混入物等から、掘立柱建物跡を構成すると思われる数個の柱穴の重複とみることができる。

遺物は、出土しない。土坑の時期は不明である。

#### II F 14土坑 第53・64図、写真図版30・57

本土坑は、尾根部の南寄りの南東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a 層上面である。本土坑は、II F 14住居跡に切られている。

規模は、底部で長径1.74m×短径1.68m、検出面からの深さは1.25mである。平面形は、円形を呈する。埋土には、地山II・III a 層相当小土塊、同層にみられる浮石粒、微量ながら炭化材、焼土も含まれる。この埋土は、埋戻された様相を呈する。断面形は、「フラスコ」状を呈する。底面は、水平かつ平坦であるが、底面中央付近に小土坑の副穴をもつ。

遺物は、埋土から粗製縄文土器片数点が出土した。これらは、深鉢型土器である。時期は不明である。

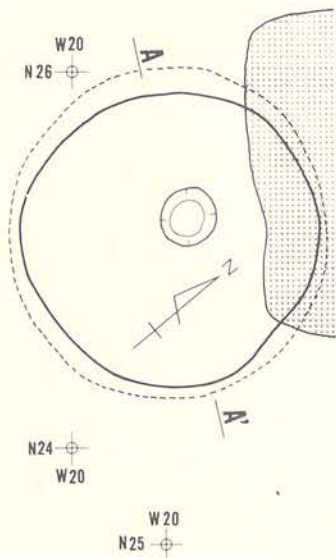
本土坑の時期は、比定し得る直接的資料がなく不明である。

#### II F 15土坑 第53・64・65図、写真図版30・57

本土坑は、尾根部の南寄りの南東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a 層上面である。

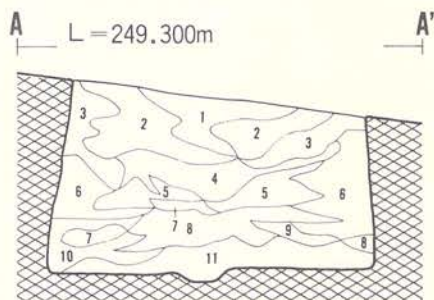
規模は、開口部で長径0.96m×短径0.93m、検出面からの深さは0.87mである。平面形は、円形を呈する。埋土には、地山II b 相当小土塊、黒褐色土小土塊のほか微量ながら炭化材小片等も含まれる。この埋土は、埋戻された可能性が強い。断面形は、「フラスコ」状を呈する。底面は、水平かつ平坦であるが、底面中央部に小土坑の副穴をもつ。

遺物は、粗製も含めて、深鉢型土器と思われる縄文土器片十数点と磨石1点が出土した。いずれも埋土1層からの出土である。施文に沈線を付したものの、地文を磨消し曲線状の沈線を付

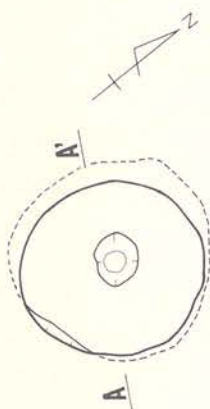


W18  
N26

ⅡF14土坑



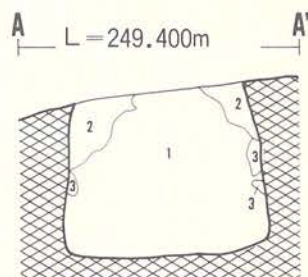
1. Hue10YR 2/3 黑褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、炭化材小片を含む。
2. Hue10YR 8/6 褐色 地山Ⅱa・b、Ⅲaにみられる浮石粒、炭化材小片、焼土粒を含む。
3. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山Ⅱaが主体、炭化材小片を含む。
4. Hue10YR 2/2 黒褐色 地山Ⅱa・b、Ⅲaにみられる浮石粒、炭化物粒を含む。
5. Hue10YR 5/6 黄褐色 地山Ⅱa・b、Ⅲaにみられる浮石粒を含む。
6. Hue10YR 6/4 にぶい黄褐色 地山Ⅲaが主体。
7. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山Ⅲa小土塊、炭化物を含む。
8. Hue10YR 2/2 黒褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、炭化物粒を含む。
9. Hue10YR 4/6 褐色 焼土粒を含む。
10. Hue10YR 4/4 褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒、暗褐色小土塊を含む。
11. Hue10YR 2/2 黒褐色 地山Ⅱa・bにみられる浮石粒を含む。



N22  
W20

N22  
W19

ⅡF15土坑

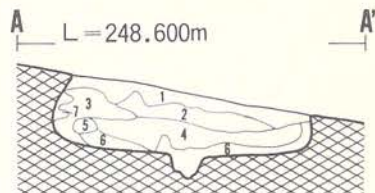


1. Hue10YR 2/2 黒色 地山Ⅱb小土塊、炭化材小片、炭化物粒を含む。
2. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅱb粒、炭化物を含む。
3. Hue10YR 5/4 にぶい黄褐色 地山Ⅱb主体、黒褐色小土塊を含む。

W21  
N21

W19  
N21

ⅡF16土坑



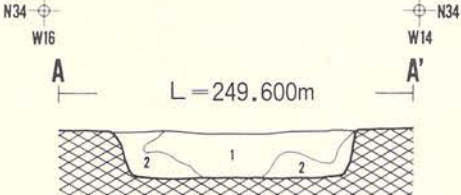
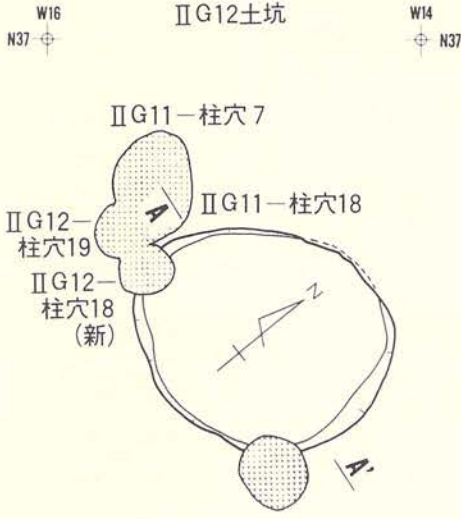
1. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・b、Ⅲaにみられる浮石粒、炭化物粒、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 2/1 黒色 地山Ⅲaにみられる浮石粒、小礫、炭化物粒を含む。
3. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅱa・b、Ⅲaにみられる浮石粒を含む。
4. Hue10YR 2/1 黒色 地山Ⅱa・b小土塊、炭化物を含む。
5. Hue10YR 5/8 黄褐色 小礫を含む。
6. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱa・b小土塊、炭化物を含む。
7. Hue10YR 8/3 浅黄橙色 地山Ⅱb主体。

N19  
W21

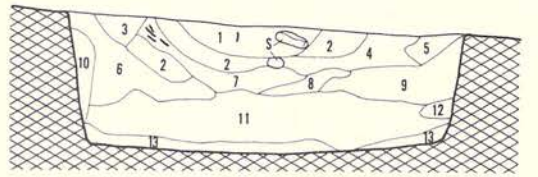
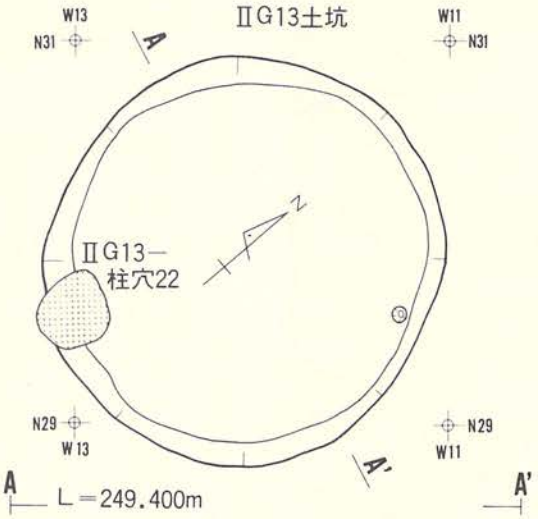
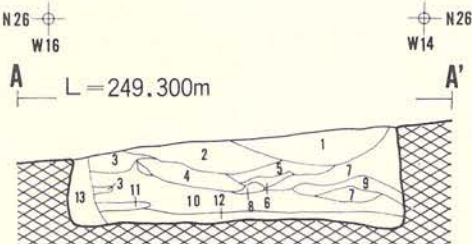
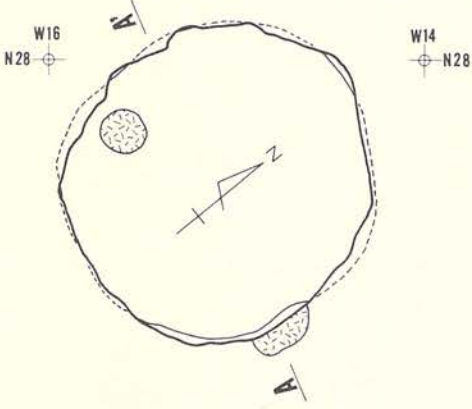
N19  
W19

0 1m

第53図 ⅡF14・ⅡF15・ⅡF16土坑

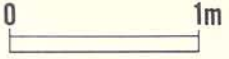


1. Hue10YR 2/2 黒褐色 シルト、暗褐色地山小塊炭化物、砂質土混入。
2. Hue10YR 4/6 褐色 シルト、地山崩壊土。



1. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山IIa・bにみられる浮石粒、十和田a降下火山灰近似の火山灰、炭化材小片、炭化物、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山IIa・bにみられる浮石粒、十和田a降下火山灰近似の火山灰、炭化材小片、炭化物粒、焼土粒を含む。
3. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山IIa・b小土塊および浮石粒、焼土粒、炭化物粒を含む。
4. Hue10YR 3/4 暗褐色 1層に類似。
5. Hue10YR 4/6 褐色 地山IIa・b土塊、焼土粒、炭化物粒を含む。
6. Hue7.5YR5/8 明褐色 地山IIa主体。
7. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山IIa・bにみられる浮石粒、焼土粒、炭化物多量を含む。
8. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山IIa・b、IIIaにみられる浮石粒、炭化物を含む。
9. Hue7.5YR5/8 明褐色 6層に類似。
10. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山IIaの主体。
11. Hue10YR 4/6 褐色 地山IIIa主体、炭化物粒、炭化材小片を含む。
12. Hue10YR 5/8 黄褐色 10層に類似。
13. 炭化材片と炭の炭化物層。

1. Hue10YR 6/8 明褐色 地山IIa・b、IIIaにみられる浮石粒、炭化物、暗褐色小土塊、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山IIa・bにみられる浮石粒、炭化物粒、焼土粒、砂礫を含む。
3. Hue7.7YR5/8 明褐色 地山IIa・bにみられる浮石粒、暗褐色小土塊を含む。
4. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山IIa・bにみられる浮石粒、小礫を含む。
5. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山IIa・b、IIIaにみられる浮石粒、炭化物粒を含む。
6. Hue10YR 4/6 褐色 地山IIa・bにみられる浮石粒、黒褐色小土塊、小礫を含む。
7. Hue7.5YR5/8 明褐色 地山IIa・b、IIIaにみられる浮石粒を含む。
8. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山IIa・bにみられる浮石粒を含む。
9. Hue10YR 7/4 近い黄褐色 地山IIbが主体、地山IIa・b、IIIaにみられる浮石粒を含む。
10. Hue10YR 2/1 黒色 地山IIa・b小土塊を含む。
11. Hue10YR 5/6 黄褐色 地山IIa・bにみられる浮石粒を含む。
12. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山IIa・b、IIIaにみられる浮石粒を含む。
13. Hue10YR 6/6 明黄褐色 II G14-1の柱穴埋土、地山IIa・b、IIIaにみられる浮石粒を含む。



第54図 II G12・II G13・II G14-1 土坑

したもの、網目状撚糸文のもの等がみられる。時期は縄文時代後期である。

本土坑の時期は、比定し得る決定的資料に欠けるが、遺物からみると土器の比定される時期を含めて、それ以降と思われる。

#### II F 16土坑 第53・65・66図、写真図版31・57・58

本土坑は、尾根部の南寄りの南東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。

規模は、開口部で長径1.37m×短径1.30m、検出面からの深さは0.45mである。平面形は、開口部が不整形であるが、底部はほぼ円形を呈する。埋土には、地山II層相当小土塊、地山II・III a層にみられる浮石粒が含まれている。この埋土は、埋戻された可能性が強い。断面形は、「フラスコ」状を呈する。底面は、水平かつ平坦であるが、底面中央部に小土坑の副穴をもつ。

遺物は、埋土から、縄文時代後期前葉に比定される鉢型土器の破片が十数点および石鏃1点が出土した。破片でみるかぎり、土器に地文はみられない。

本土坑の時期は、比定し得る直接的資料には欠けるが、土器の比定される時期も含めて、それ以後となろう。

#### II G 12土坑 第54・66図、写真図版31・58

本土坑は、尾根部の南寄りの平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。本土坑は、掘立柱建物跡を構成すると思われる柱穴に切られている。

規模は、開口部で長径1.36m×短径1.17m、検出面からの深さは0.25mである。平面形は、楕円形に近い。埋土には、地山II層相当小土塊等が含まれる。この埋土が、埋戻しか自然堆積かは確定できなかった。断面形は、おおむね「ピーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦で硬い。

遺物は、底面直上から浅鉢と思われる口縁部の破片が1点出土した。時期は、晩期末ないしは弥生時代初めと思われる。土坑の時期はそれ以後と思われる。

#### II G 13土坑 第54・66図、写真図版31・58

本土坑は、尾根部の南寄りの平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。本土坑は、掘立柱建物跡を構成すると思われる柱穴に切られている。

規模は、開口部で長径2.16m×短径2.14m、検出面からの深さは0.69mである。平面形は、円形を呈する。埋土には、地山II・III a層相当小土塊、同層にみられる浮石粒、炭化材小片、



焼土が多く含まれるほか、1・2層には十和田a火山灰と思われるもの、7・13層には、「萱」と思われる炭化物が多量に含まれている。この埋土の堆積の状況は、埋戻された様相を呈する。断面形は、「ピーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。なお、13層にあたる炭化物を除去した底面直上は、軽い焼成を受けている。

遺物は、埋土から、弥生時代初めと思われる鉢型土器と同じく高坏の脚部が出土している。鉢型土器は、体部が脹らみ、地文の上に、横位中心の沈線が何本も走っている。口縁部には山型の突起をもつ。高坏の脚部は、朱色を呈し、両面共によくミガキが施されている。

本土坑は、比定し得る直接的資料は欠いているが、十和田a火山灰と思われるものの混入、出土土器から少なくとも弥生時代初め以降に比定されよう。

#### II G14-1 土坑 第54図、写真図版32

本土坑は、尾根部の南寄りの平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。本土坑は、掘立柱建物跡を構成すると思われる新・旧の柱穴と重複する。

規模は、開口部で長径1.69m×短径1.65m、検出面からの深さは0.53mである。平面形は、ほぼ円形を呈する。埋土には、地山II層相当小土塊、同II・III a層にみられる浮石粒のほか、砂礫、焼土、炭化物が含まれる。この埋土は、埋戻された可能性が強い。断面形は、「フラスコ」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は出土しなかった。したがって、本土坑の時期は、比定し得る直接的資料がなく不明である。

#### II G14-2 土坑 第55図、写真図版32

本土坑は、尾根部の南寄りの平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。本土坑は、掘立柱建物跡を構成すると思われる柱穴に切られている。

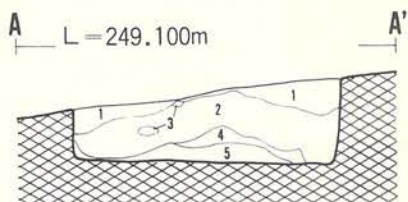
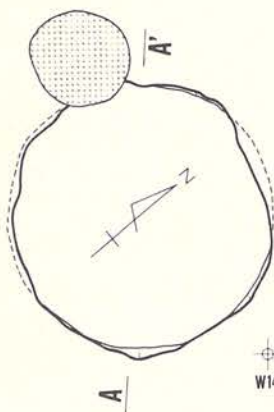
規模は、開口部で長径1.44m×短径1.32m、検出面からの深さは0.45mである。平面形は、円形を呈する。埋土には、地山II層相当土塊が多量に含まれるほか、焼土もみられる。この埋土は、明らかに埋戻されたものである。断面形は、「フラスコ」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は出土しなかった。したがって、本土坑の時期は、比定し得る直接的資料がなく不明である。

#### II H13土坑 第55・66図、写真図版32・58

本土坑は、尾根部の南寄りの東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層

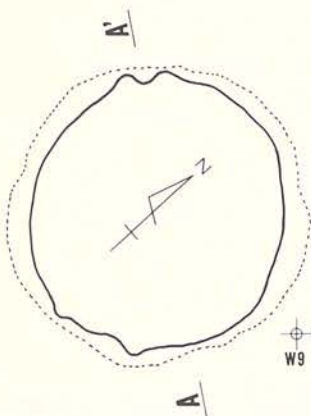
W16 N27 W14 N27



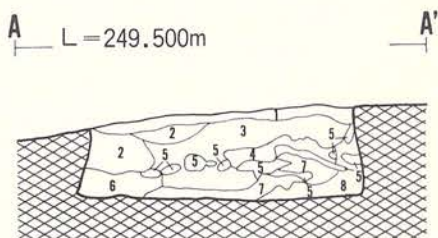
1. Hue10YR 6/6 明黄褐色 地山 II b 主体。
2. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山 II a 主体。
3. Hue10YR 4/4 褐色 混入物はみられない。
4. Hue10YR 3/4 暗褐色 炭化物粒を含む。
5. Hue10YR 1.7/1 黒色 焼土粒を含む。

II G14-2 土坑

N25 W16 N25 W14



II H13 土坑

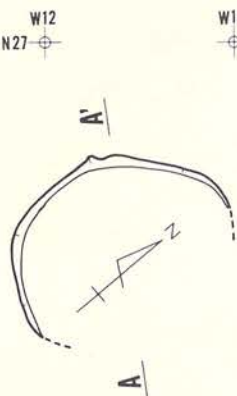


1. Hue10YR 3/3 暗褐色 シルト質、砂礫、焼土、炭化物含む。
2. Hue10YR 2/3 黒褐色 焼土少量含む
3. Hue10YR 2/2 黒褐色 シルト、焼土、炭化物含む。
4. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山火山灰混入。
5. Hue10YR 5/6 明褐色
6. Hue10YR 3/4 暗褐色 シルト質、地山火山灰混入。
7. Hue10YR 3/3 暗褐色 砂礫、炭化物混入。
8. Hue10YR 3/4 暗褐色 粘土質。

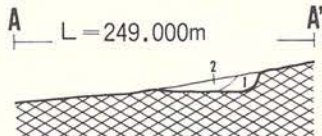
W11 N31 W9 N31

A L=249.500m A'

W12 N27 W11 N27



II H14-1 土坑



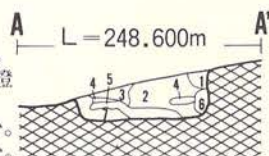
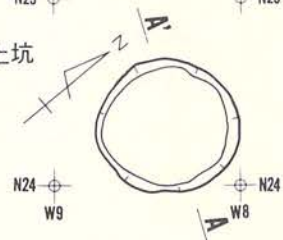
1. Hue10YR 5/6 黄褐色 地山 II a・b にみられる浮石粒、焼土粒、炭化物粒を含む。
2. Hue10YR 4/6 褐色 地山 II a・b にみられる浮石粒、焼土粒、黄褐色小土塊、砂礫、炭化物を含む。

N25 W12 N25 W11

1. Hue10 YR 1/4 にぶい黄橙色 地山 II b、土塊、焼土粒を含む。
2. Hue10 YR 4/6 褐色 地山 II b 小土塊、焼土粒、浅黄橙色浮石粒を含む。
3. Hue10 YR 5/6 黄褐色 浅黄橙色浮石粒、焼土粒を含む。
4. Hue7.5YR 3/4 暗褐色 浅黄橙色浮石粒、焼土粒を含む。
5. Hue10 YR 4/6 褐色 浅黄橙色浮石粒、焼土粒を含む。
6. Hue7.5YR 4/4 褐色 地山 II b 小土塊、焼土粒を含む。
7. Hue10 YR 5/6 黄褐色 浅黄橙色浮石粒、焼土粒を含む。

W9 N25 W8 N25

II H14-2 土坑



0 1m

第55図 II G14-2・II H13・II H14-1・2 土坑

上面である。

規模は、開口部で長径1.52m×短径1.33m、検出面からの深さは0.48mである。平面形は、ほぼ円形を呈する。埋土には、地山II層相当小土塊のほか、砂礫、若干の焼土粒らしきものが含まれている。この埋土は、埋戻された様相を呈する。断面形は「フラスコ」状を呈する。遺物は埋土から、鉢型土器と思われる縄文土器が数点出土している。これらには、羽状縄文、網目状撚糸文、沈線文が施され、縄文時代後期前葉のものと思われる。

本土坑の時期は、比定し得る直接的資料は欠いているが、出土土器からは、縄文時代後期以降であろう。

#### II H14-1 土坑 第55図、写真図版32

本土坑は、尾根部の南寄りの東向斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a層上面である。本土坑は、斜面下位の東半分は削平を受け残存しない。

規模は、開口部で長径1.21m×？、検出面からの深さは、最深部で0.09mである。平面形は元来は円形を呈したであろう。埋土には、地山II層にみられる浮石粒や微量の砂礫、炭化物等が含まれている。この埋土が、埋戻されたものか否かは不明である。

遺物は出土しなかった。したがって、本土坑の時期は、比定し得る直接的資料がなく不明である。

#### II H14-2 土坑 第55図、写真図版32

本土坑は、尾根部の南寄りの東向き斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II b上面である。

規模は、開口部で長径0.76m×短径0.70m、検出面からの深さは0.25mである。平面形は、円形を呈する。埋土には、地山II b層相当小土塊、同II b層にみられる浮石のほか焼土と思われるものが含まれている。この埋土は、埋戻された可能性が強い。断面形は、ほぼ「ピーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は出土しなかった。したがって、本土坑の時期は、比定し得る直接的資料がなく不明である。

#### II I12-1 土坑 第56・67図、写真図版33・59

本土坑は、尾根部のやや南寄りの平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II b層上面である。

規模は、開口部で長径1.28m×短径1.11m、検出面からの深さは0.75mである。平面形は、

不整ではあるが、円形を基調としている。埋土には、地山II b層にみられる浮石粒、炭化物が含まれている。この埋土は、埋戻された可能性が強い。断面形は、「フラスコ」状を呈する。

遺物は、埋土から、縄文後期と思われる深鉢型土器の破片数点が出土している。

本土坑の時期は、比定し得る直接的資料は欠くが、遺物からは、縄文後期以降となろう。

#### II | 12-2 土坑 第56図、写真図版33

本土坑は、尾根部のやや南寄りの平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a面である。

規模は、開口部で長径1.00m×短径0.82m、検出面からの深さは0.87mである。平面形は、楕円形に近い。埋土には、地山II層相当小土塊のほか地山II・III a層にみられる浮石粒、焼土、炭化材小片も含まれている。この埋土は、埋戻された可能性が強い。断面形は、「ビーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は出土しなかった。したがって、本土坑は、比定し得る直接的資料がなく不明である。

#### II | 13土坑 第56図、写真図版34

本土坑は、尾根部のやや南寄りの東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a上面である。本土坑は、掘立柱建物跡を構成すると思われる柱穴に切られている。

規模は、開口部で長径1.91m×短径1.43m、検出面からの深さは0.70mである。平面形は、ほぼ円形を呈する。埋土には、地山II・III層にみられる浮石粒が多量にみられるほか、地山II層小土塊、焼土、黒褐色土土塊も含まれる。この埋土は、埋戻された様相を呈する。断面形は、「フラスコ」状を呈する。底面は、水平かつ平坦であるが、底面中央部に小土坑の副穴をもつ。

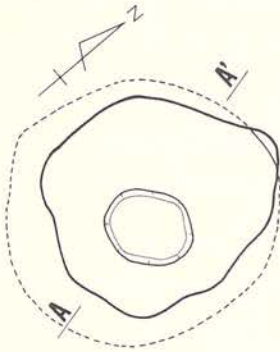
遺物は出土しなかった。したがって、本土坑の時期は、比定し得る直接的資料がなく不明である。

#### II | 14-1 土坑 第57図、写真図版34

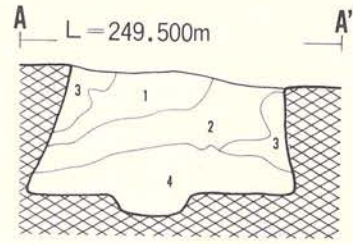
本土坑は、尾根部のやや南寄りの東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II b面である。本土坑の東半、斜面下位の部分は、削平を受け残存しない。

規模は、開口部で長径1.45m×？、検出面からの深さは0.11mである。平面形は、元来円形だったものと思われる。埋土には、地山II b層にみられる浮石粒等が含まれている。この埋土は、埋戻された可能性をもつ。底面は水平かつ平坦であるが、断面形は不明である。

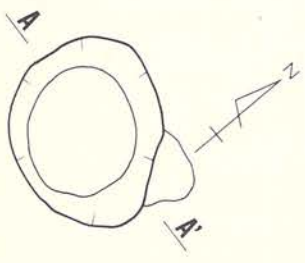
遺物は出土しない。したがって、本土坑の時期は、比定し得る直接的資料がなく不明である。



II112-1 土坑



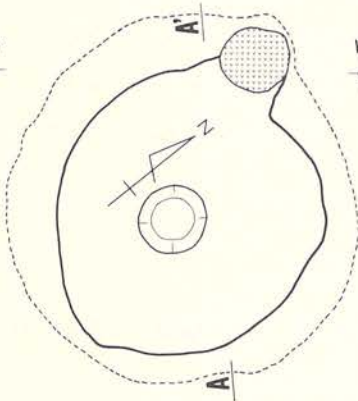
1. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山IIbにみられる浮石粒、炭化物を含む。
2. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山IIbにみられる浮石粒を含む。
3. Hue10YR 5/6 黄褐色 地山IIb・IIIaにみられる浮石粒、炭化物を含む。
4. Hue10YR 1.7/1 黒色 地山IIbにみられる浮石粒、炭化物を含む。



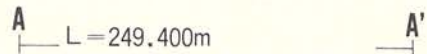
II112-2 土坑



1. Hue10 YR 黒褐色 地山IIIaにみられる浮石粒、炭化物を含む。
2. Hue10 YR 褐色 地山IIb小土塊を含む。
3. Hue7.5YR 明褐色 地山IIa・b・IIIa土塊、炭化物を含む。
4. Hue10 YR 褐色 混入物を含まない。
5. Hue7.5YR 明褐色 地山IIIaにみられる浮石粒、炭化物を含む。
6. Hue10 YR 黒褐色 地山IIIa・bにみられる浮石粒を含む。
7. Hue7.5YR 明褐色 地山IIIaにみられる浮石粒、炭化物を含む。



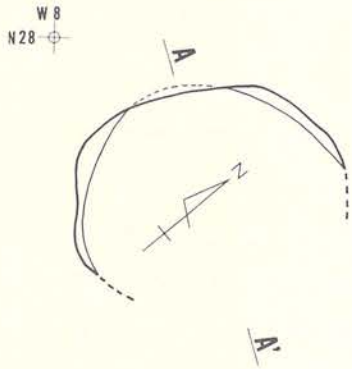
II113土坑



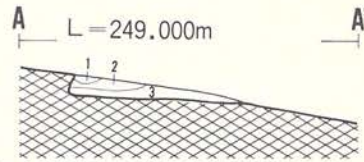
1. Hue10YR 6/6 明褐色 地山IIa・bにみられる浮石粒、黒褐土塊、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山IIa・bにみられる浮石粒、焼土粒を含む。
3. Hue10YR 7/4 に近い黄褐色 地山IIa・b小土塊、浮石粒を含む。
4. Hue10YR 6/6 明黄褐色 地山IIa・bにみられる浮石粒、黒褐色小土塊を含む。
5. Hue10YR 6/8 明黄褐色 地山IIa・b、IIIa・bにみられる浮石粒を含む。
6. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山IIa・b、IIIa・bにみられる浮石粒、焼土粒を含む。
7. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山IIa・bにみられる浮石粒、炭化物を含む。
8. Hue10YR 2/2 黒褐色 黄褐色小土塊、地山IIa・bにみられる浮石粒を含む。
9. Hue10YR 7/6 明黄褐色 地山IIa・b、IIIa・bにみられる浮石粒を含む。



第56図 II112-1・2・II113土坑



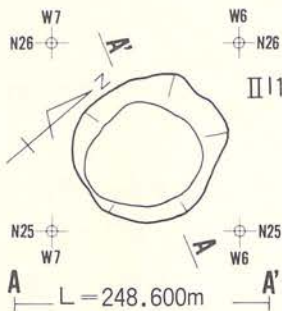
II I14-1 土坑



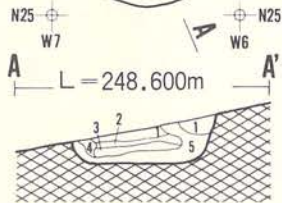
1. Hue10YR 6/8 明黄褐色 地山 II b にみられる浮石粒、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 2/3 黒褐色 焼土粒を含む。
3. Hue10YR 5/6 黄褐色 地山 II b にみられる浮石粒、焼土粒を含む。
4. Hue10YR 7/3 にぶい黄橙色 混入物を含まない。

N26  
W8

N26  
W6



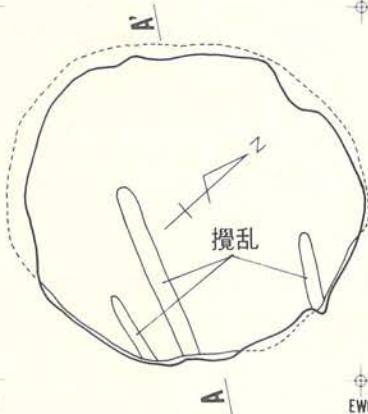
II I14-2 土坑



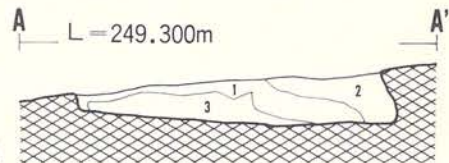
1. Hue10YR 6/8 明褐色 灰白色浮石粒、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 2/3 黒褐色 灰白色浮石焼土粒、にぶい黄橙色土小塊を含む。
3. Hue10YR 5/6 黄褐色 灰白色浮石粒、焼土粒を含む。
4. Hue10YR 7/3 にぶい黄橙色 地山 II b に近似、燃土粒を含む。
5. Hue10YR 4/4 褐色 地山 II b 小土塊、焼土粒を含む。

W2  
N34

EWO  
N34



II J12-2 土坑



1. Hue7.5YR 5/6 明褐色 灰白色浮石粒、焼土粒を含む。
2. Hue10 YR 5/8 黄褐色 地山 II a 小土塊、焼土粒を含む。
3. Hue10 YR 3/4 暗褐色 炭化物粒、焼土粒、黄橙色浮石粒を含む。

N32  
W2

N32  
EWO



第57図 II I14-1・2・II J12-1・2 土坑

## II I 14-2 土坑 第57図、写真図版34

本土坑は、尾根部のやや南寄りの東向き斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a面である。

規模は、開口部で長径0.84m×短径0.76m、検出面からの深さは0.23mである。平面形は、不整ながら円形を基調としている。埋土には、地山II b層相当小土塊、同III a層にみられる浮石粒等が含まれている。この埋土は、埋戻された可能性が強い。断面形は、「ピーカー」状である。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は出土しない。したがって、本土坑の時期も、比定し得る直接的資料がなく不明である。

## II J 12-1 土坑 第57・67図、写真図版35・59

本土坑は、尾根部のやや南寄りの東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a面である。

規模は、開口部で長径1.30m×短径1.12m、検出面からの深さは0.39mである。平面形は、不整ではあるが円形に近い。埋土には、地山II・III a層相当小土塊、焼土粒、炭化物等が含まれている。この埋土は、埋戻された可能性が強い。断面形は、「フラスコ」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は、埋土から、縄文時代後期前葉と思われる土器片1点、搔器1点のほか、加工痕、使用痕ともに認められない扁平な礫も底面から出土している。

本土坑の時期は、比定し得る直接的資料はないが、出土遺物からは、縄文時代後期前葉以降であろう。

## II J 12-2 土坑 第57・67図、写真図版35・59

本土坑は、尾根部のやや南寄りの東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a面である。

規模は、開口部で長径1.79m×短径1.63m、検出面からの深さは0.26mである。平面形は、不整ながら円形を呈する。埋土には、地山II a層相当小土塊、地山II・III a層にみられる浮石粒や微量ではあるが焼土と思われるものも含まれる。

この埋土は、埋戻された可能性がある。断面形は「フラスコ」状を呈する。底面は、水平であるが、一部に攪乱を受け凹凸がみられる。

遺物は、埋土から粗製の縄文土器の細破片2点が出土した。時期は不明である。したがって、本土坑の時期も、比定し得る直接的資料がなく不明である。

## II J 13土坑 第58図、写真図版35

本土坑は、尾根部のほぼ中央部に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a面である。本土坑は、掘立柱建物跡を構成すると思われる柱穴に切られている。

規模は、開口部で長径1.84m×短径1.82m、検出面からの深さは0.43mである。平面形は、ほぼ円形を呈する。埋土には、地山II層相当土、黒色土塊、焼土等が含まれている。この埋土は、埋戻された様相を呈する。断面形は、「フラスコ」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は棒状擦石が1点出土した。本土坑の時期は、比定し得る直接的資料がなく不明である。

## II J 14土坑 第58・67図、写真図版36・59

本土坑は、尾根部のほぼ中央の東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a面である。

規模は、開口部で長径0.86m×短径0.74m、検出面からの深さは0.22mである。平面形は、ほぼ円形を呈する。埋土には、地山II b層相当土のほか同層にみられる浮石粒も含まれている。この埋土は、埋戻された可能性が強い。断面形は、「ピーカー」状に近い。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は、出土しなかった。本土坑の時期は、比定し得る直接的資料がなく不明である。

## III A 11-1土坑 第58図、写真図版36

本土坑は、尾根部のほぼ中央部の東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a面である。

規模は、開口部で長径2.04m×短径1.87m、検出面からの深さは0.32mである。平面形は、ほぼ円形を呈する。埋土には、地山II a層相当土や同III a層にみられる浮石粒が含まれている。この埋土は、埋戻された可能性が強い。断面形は、「ピーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

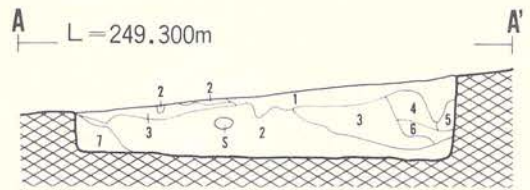
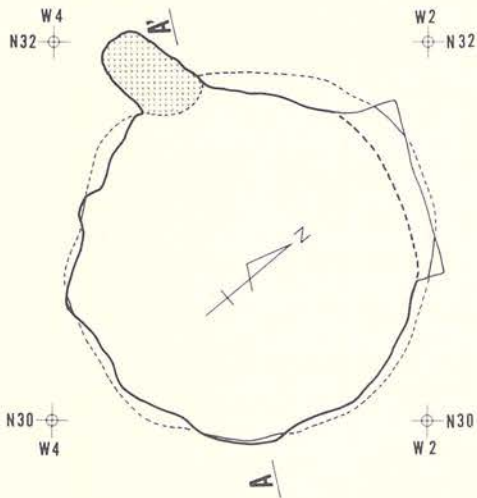
遺物は出土しない。したがって、本土坑の時期は、比定し得る直接的資料がなく不明である。

## III A 11-2土坑 第59図、写真図版36

本土坑は、尾根部のほぼ中央部の東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a面である。本土坑は、開口部の一部が崩落している。

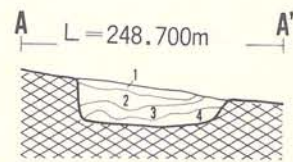
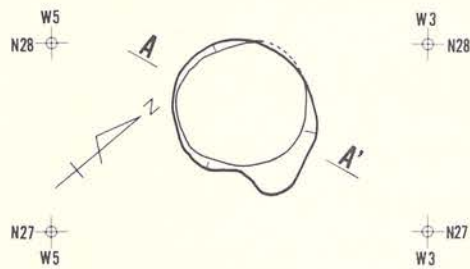
規模は、開口部で長径0.70m×短径0.66m、検出面からの深さは0.55mである。平面形は、ほぼ円形を呈する。埋土には、地山II・III a層相当小土塊、同層にみられる浮石粒のほか微量





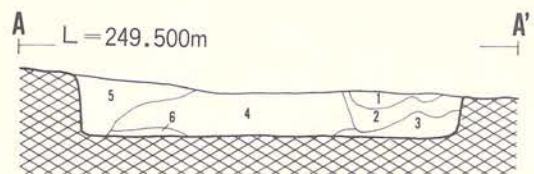
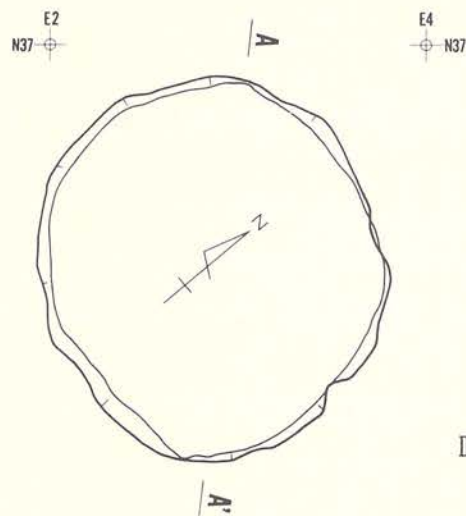
1. Hue10YR 5/6 黄褐色 地山Ⅱbが主体、黒色土小土塊を含む。
2. Hue10YR 2/1 黒色 炭化材小片、炭化物粒、焼土粒を含む。
3. Hue10YR 5/6 黄褐色 炭化物を含む。
4. Hue10YR 5/6 黄褐色 地山Ⅱbが主体。
5. Hue10YR 6/6 明黄褐色 地山Ⅱaが主体。
6. Hue10YR 5/6 黄褐色 地山Ⅱa・bが主体。
7. Hue10YR 4/6 褐色 焼土粒を含む。

ⅡJ13土坑



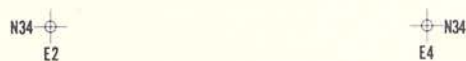
ⅡJ14土坑

1. Hue10YR 4/6 褐色 地山Ⅱb小土塊
2. Hue10YR 2/3 黒褐色 地山Ⅱb層土を帯状に含む。
3. Hue10YR 5/6 黄褐色 地山Ⅱb小土塊、浅黄橙色浮石粒を含む。
4. Hue10YR 3/4 暗褐色 浅黄橙色浮石粒、黄褐色浮石粒を含む。



1. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山Ⅱa小土塊、炭化物、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 4/6 褐色 地山Ⅱa小土塊、炭化物粒を含む。
3. Hue10YR 3/2 黒褐色 地山Ⅱa・b、Ⅲa小土塊小土塊を含む。
4. Hue10YR 4/4 褐色 地山Ⅲa小土塊、焼土粒を含む。
5. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山Ⅲaにみられる浮石粒、炭化物粒を含む。
6. Hue10YR 2/3 黒褐色 焼土粒を含む。

ⅢA11-1土坑



第58図 ⅡJ13・ⅡJ14・ⅢA11-1土坑

ながら焼土と思われるものも含まれる。この埋土は、埋戻された可能性が強い。断面形は、「ピーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は出土しない。したがって、本土坑の時期も、比定し得る直接的資料がなく不明である。

### Ⅲ A 12土坑 第59図、写真図版37

本土坑は、尾根部の中央の東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序Ⅱ b 層上面である。

規模は、開口部で長径0.74m×短径0.73m、検出面からの深さは0.50mである。平面形は、ほぼ円形を呈する。埋土には、地山Ⅲ a 層相当小土塊、Ⅱ層にみられる浮石粒のほか微量ではあるが、焼土と思われるものも含む。この埋土は、埋戻された可能性が強い。断面形は、「ピーカー」状を呈する。底面は、水平でほぼ平坦である。

遺物は出土しない。したがって、本土坑の時期も、比定し得る直接的資料がなく不明である。

### Ⅲ C 11-1 土坑 第59図、写真図版37

本土坑は、尾根部の中央の東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序Ⅱ a 面である。なお、本土坑の北西側約1/3は、調査区外のため不明である。

規模は、開口部で長径1.36m×？、検出面からの深さは0.16mである。平面形は、不整形を呈するが、元来は円形を基調としたものであろう。埋土には、地山Ⅱ・Ⅲ a 層相当小土塊、同層にみられる浮石粒、焼土、炭化物等が含まれる。この埋土は、埋戻された可能性が強い。断面形は、浅い「ピーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

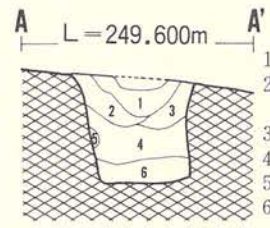
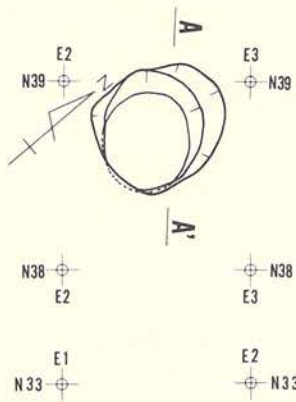
遺物は出土しない。したがって、本土坑の時期も、比定し得る直接的資料がなく不明である。

### Ⅲ C 11-2 土坑 第59図、写真図版37

本土坑は、尾根部の中央の東向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序Ⅱ a 面である。

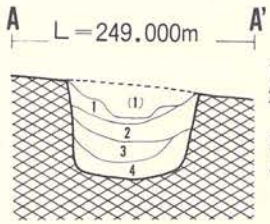
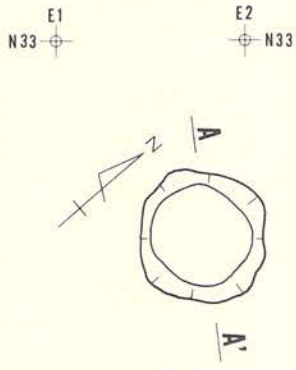
規模は、開口部で長径0.65m×短径0.58m、検出面からの深さは0.36mである。平面形は、ほぼ円形を呈する。埋土には、地山Ⅱ a・Ⅲ a 層相当小土塊、同層にみられる浮石粒、焼土、炭化物等が含まれる。この埋土は、埋戻された可能性が強い。断面形は、「ピーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は出土しない。したがって、本土坑の時期も、比定し得る直接的資料がなく不明である。



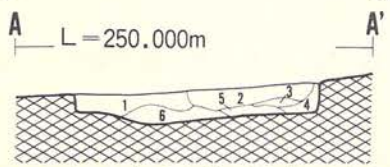
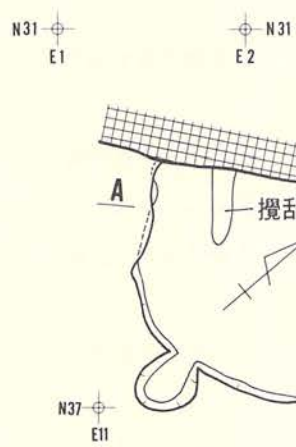
1. Hue10 YR 3/4 暗褐色 浅黄橙色浮石粒、焼土粒を含む。
2. Hue10 YR 3/3 暗褐色 地山IIa・b小土塊、浅黄橙色浮石、焼土粒を含む。
3. Hue7.5YR 5/8 明褐色 浅黄橙色浮石を含む。
4. Hue10 YR 2/2 黒褐色 地山IIIa小土塊、焼土粒を含む。
5. Hue10 YR 3/4 暗褐色 焼土粒を含む。
6. Hue10 YR 2/1 黒色 地山IIIa小土塊、焼土粒を含む。

ⅢA11-2 土坑



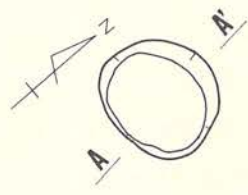
1. Hue10YR 4/6 褐色 地山IIIa小土塊、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 2/3 黒褐色 褐色土、浅黄橙色浮石粒、焼土粒を含む。
3. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山IIIa小土塊、焼土粒を含む。
4. Hue10YR 4/6 褐色 明黄褐色土塊、浅黄橙色浮石粒、焼土粒を含む。

ⅢA12土坑

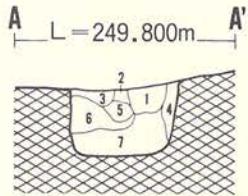


1. Hue10YR 5/6 黄褐色 焼土粒、炭化材小片を含む。
2. Hue10YR 3/4 暗褐色土 地山IIa・IIIa小土坑、焼土粒、炭化材小片を含む。
3. Hue10YR 3/3 暗褐色土 地山IIIa小土塊、炭化材小片、焼土粒を含む。
4. Hue10YR 3/2 黒褐色 地山IIIa小土塊、炭化材小片、焼土粒を含む。
5. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山IIa・IIIa小土塊、炭化材を含む。
6. Hue10YR 6/6 明黄褐色 地山IIa小土塊、黒褐色土を含む。

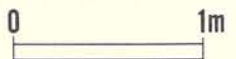
ⅢC11-1 土坑



ⅢC12-2 土坑



1. Hue10YR 2/2 黒褐色 炭化物を含む。
2. Hue10YR 5/6 黄褐色 地山IIa小土塊を含む。
3. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山IIa小土塊を含む。
4. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山IIaに含まれる浮石粒を含む。
5. Hue10YR 2/2 黒褐色 地山IIIaに含まれる浮石・炭化物を含む。
6. Hue10YR 3/3 暗褐色 地山IIaが主体をなす。
7. Hue10YR 1.7/1 黒色 炭化物を含む。



第59図 ⅢA11-2・ⅢA12・ⅢC11-1・2土坑

### Ⅲ D21土坑 第60・67図、写真図版38・59

本土坑は、西向き斜面部に占地する。検出面は、西向き斜面部の基本層序IV層上面である。本土坑は、当地区唯一の検出された遺構である。

規模は、開口部で長径0.96m×短径0.82m、検出面からの深さは0.16mである。平面形は、円形である。埋土には、地山IV層にみられる浮石粒等が含まれている。この埋土が埋戻されたものか否かは確定できなかった。断面形は、浅い「ピーカー」状を呈する。底面は、水平であるが、若干凹形を呈する。

遺物は口縁部を欠いた弥生時代初めと思われる壺形土器が出土している。

### Ⅳ C13-1土坑 第60図、写真図版38

本土坑は、尾根部奥の調査区北端のほぼ南向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a 上面である。

規模は、開口部で長径1.07m×短径1.06m、検出面からの深さは0.21mである。平面形は、円形を呈する。埋土には、地山II b・III a 層相当小土塊等が含まれている。この埋土が埋戻されたか否かは不明である。断面形は、浅い「ピーカー」状を呈する。底面は、平坦ではあるが、斜面下位ほど低い。

遺物の出土はない。したがって、本土坑の時期も、比定し得る直接的資料がなく不明である。

### Ⅳ C13-2土坑 第60図、写真図版38

本土坑は、尾根部奥の調査区北端のほぼ南向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a 層上面である。

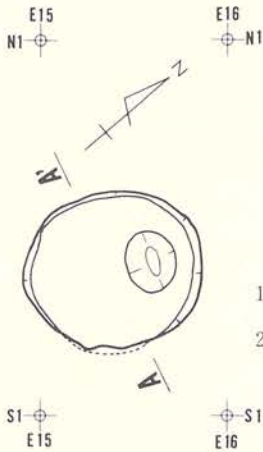
規模は、開口部で長径1.11m×短径0.97m、検出面からの深さは0.24mである。平面形は、不整ながら円形を呈する。埋土には、地山II・III a 層相当小土塊、同層にみられる浮石粒が含まれている。この埋土は、埋戻された可能性が強い。断面形は、「ピーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は出土しない。したがって、本土坑の時期も、比定し得る直接的資料がなく不明である。

### Ⅳ D13土坑 第60図、写真図版39

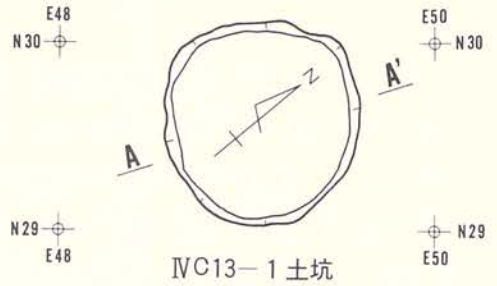
本土坑は、尾根部奥の調査区北端のほぼ南向き緩斜面に占地する。検出面は、尾根部の基本層序II a 層上面である。

規模は、開口部で長径0.82m×短径0.80m、検出面からの深さは0.44mである。平面形は、円形である。埋土には、地山II b・III a 相当小土塊、同層にみられる浮石粒等が含まれている。



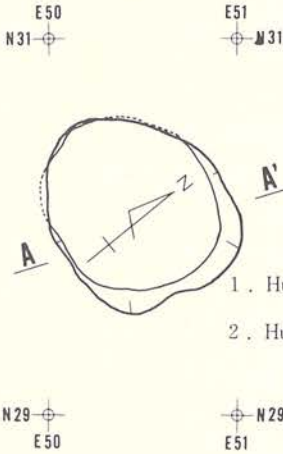
1. Hue10YR 2/2 黒褐色 浅黄橙色浮石粒、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 3/3 暗褐色 明黄褐色、浅黄橙色浮石粒を含む。

ⅢD21土坑



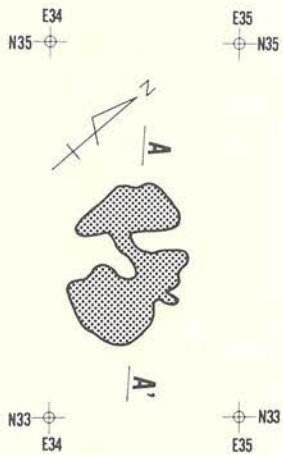
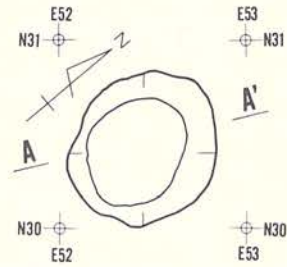
IVC13-1土坑

1. Hue10YR 3/4 暗褐色 地山Ⅲa小土塊、黄橙色、明褐色浮石粒を含む。
2. Hue10YR 4/6 褐色 明褐色、黄橙色浮石粒を含む。
3. Hue10YR 5/8 黄褐色 地山Ⅱb土塊



1. Hue10YR 2/3 黒褐色 褐色土小塊、明黄褐色、明褐色浮石、焼土粒を含む。
2. Hue10YR 4/6 褐色 暗褐色小土塊、明褐色浮石粒を含む。粒砂質土を含む。

IVC13-2土坑

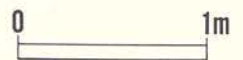


1. Hue10YR 2/2 黒褐色 地山Ⅱb小土塊、浅黄橙色・明褐色浮石粒を含む。
2. Hue10YR 2/1 黒色 地山Ⅱb小土塊、浅黄橙色・明褐色浮石粒砂質土を含む。
3. Hue10YR 2/2 黒褐色 地山Ⅲa小土塊、明褐色浮石粒を含む。
4. Hue10YR 5/8 黄褐色 黒褐色土粒、明褐色浮石粒を含む。

IVD13土坑



ⅢI12焼土



第60図 ⅢD21・IVC13-1・2・IVD13土坑・ⅢI12焼土

この埋土は、自然堆積の様相を呈している。断面形は「ピーカー」状を呈する。底面は、水平かつ平坦である。

遺物は出土しない。したがって、本土坑の時期も、比定し得る直接的資料がなく不明である。

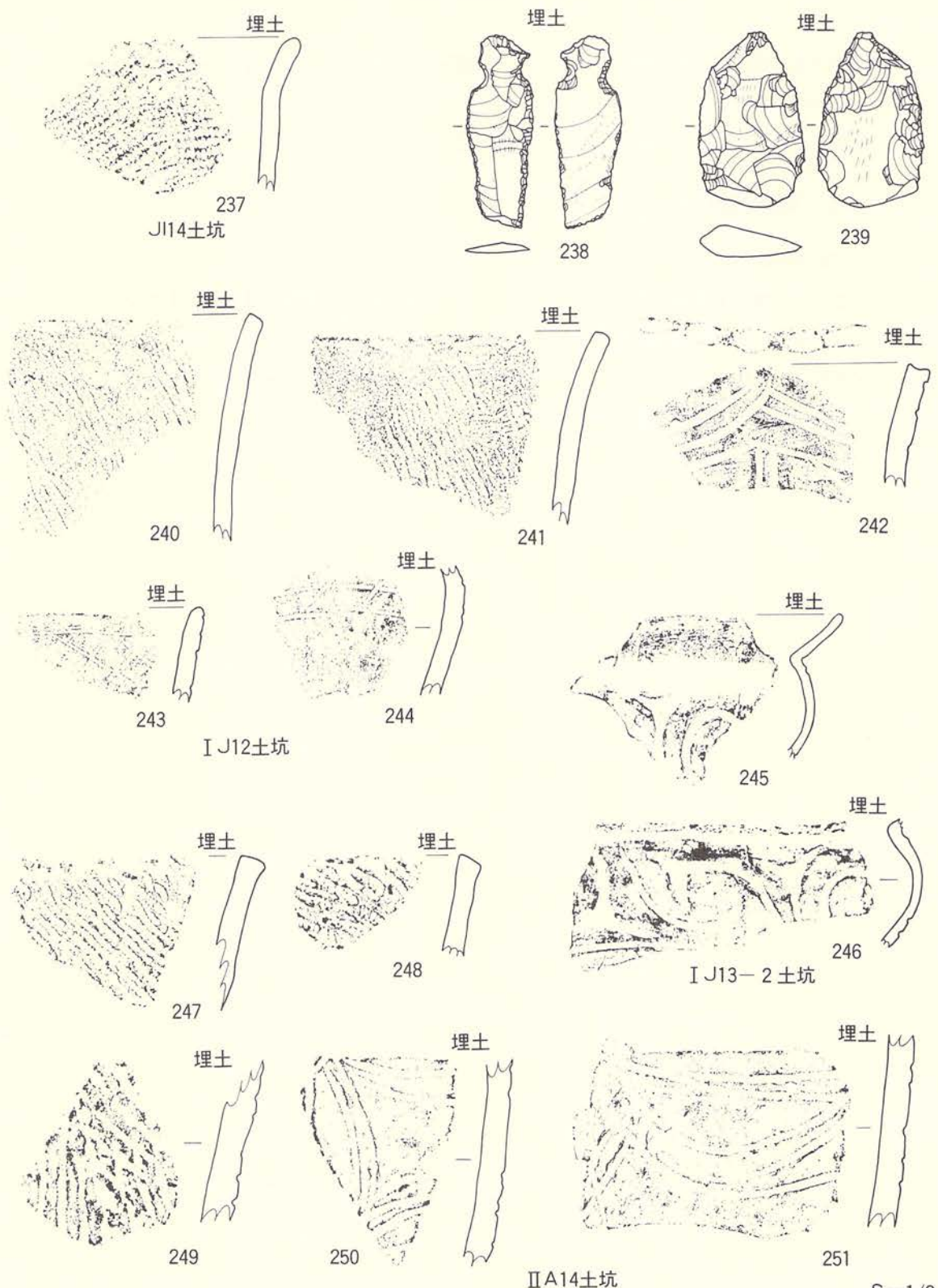
#### (5) 焼土遺構

#### Ⅲ I 12焼土遺構 第60図

本遺構は、尾根部中央付近の平坦地に占地する。検出面は、尾根部の基本層序Ⅱ a層上面である。なお、至近の南西からは、ⅢH12住居跡が検出されている。

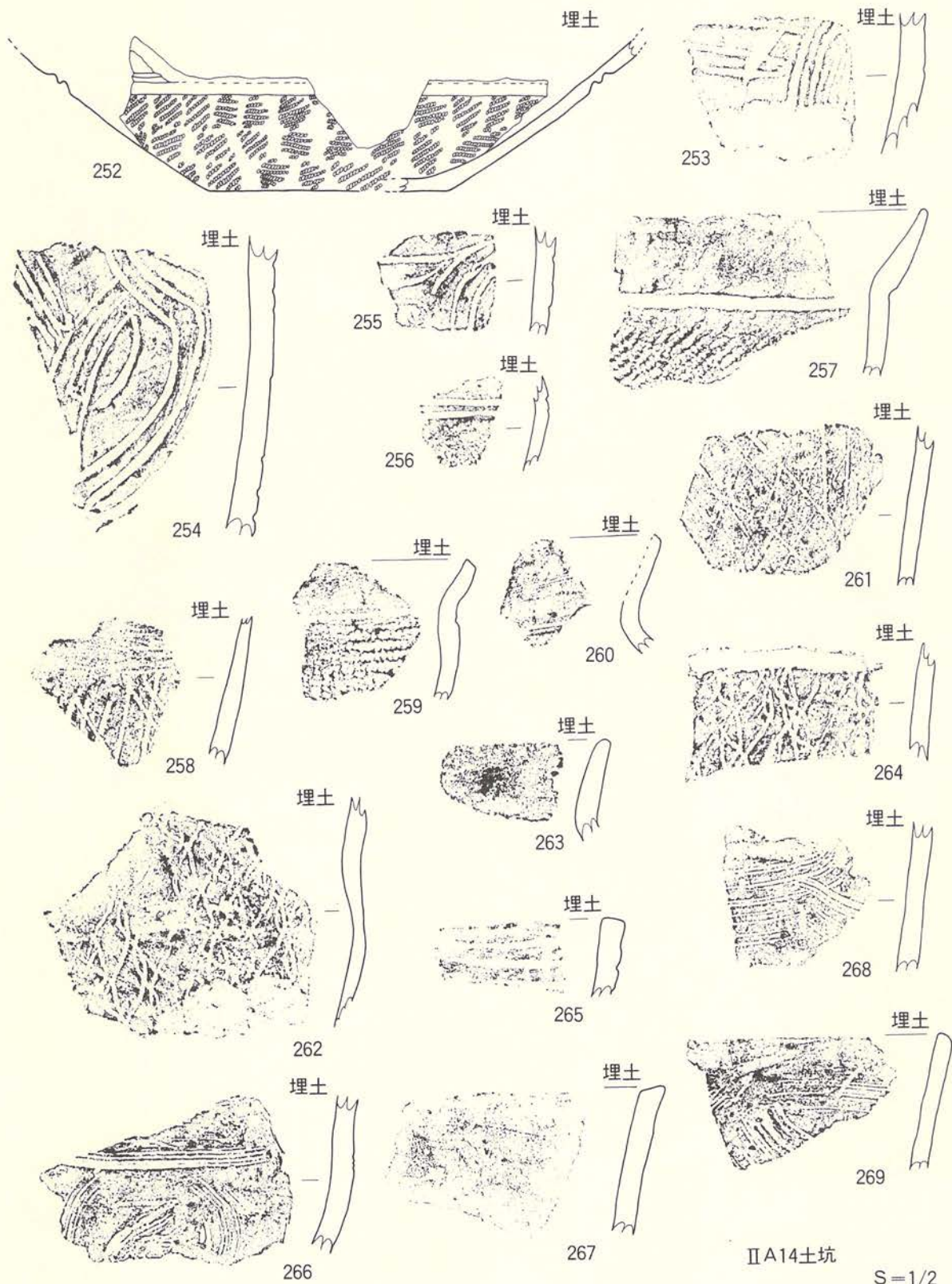
平面形は、不整形である。焼土の厚さは、最大で14cmほどである。全体的に焼成は悪い。

本遺構の時期は不明である。



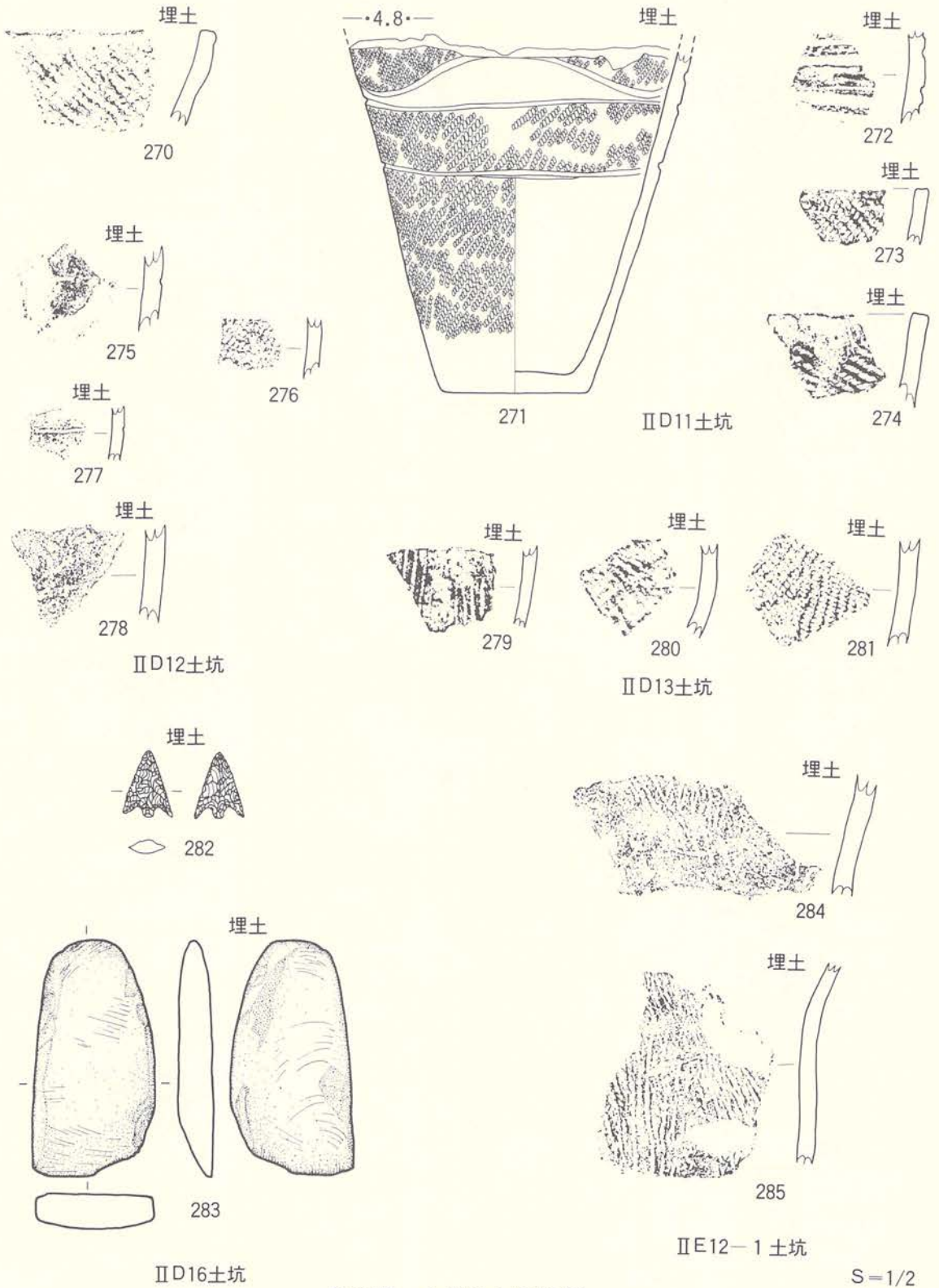
第61图 土坑出土遺物 ①

S=1/2



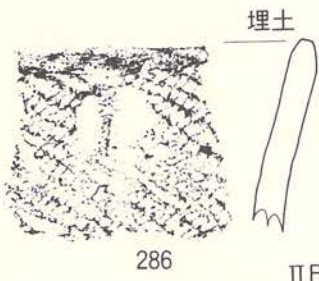
第62图 土坑出土遺物 ②



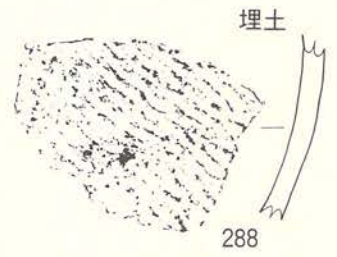


第63图 土坑出土遗物 ③

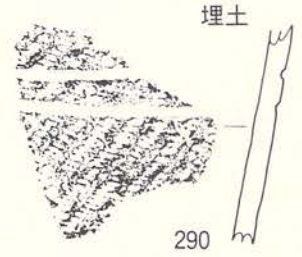
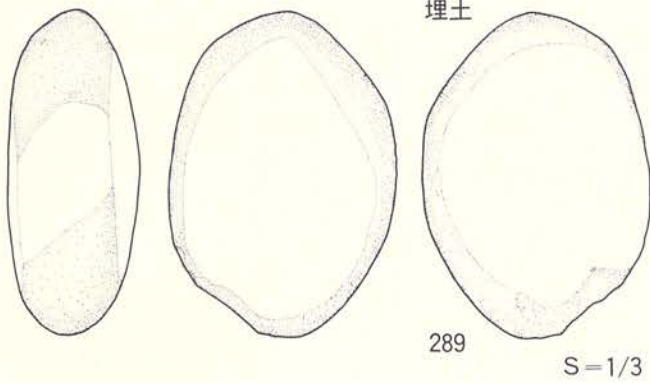
S=1/2



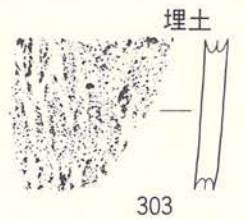
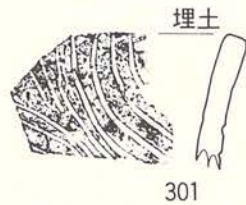
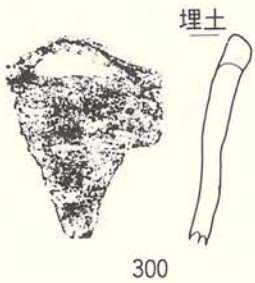
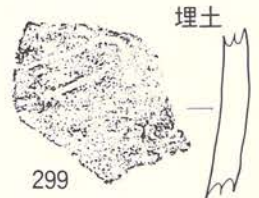
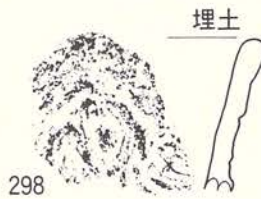
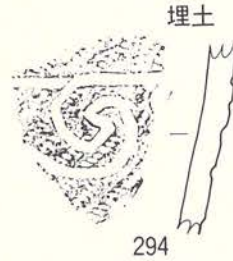
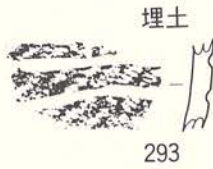
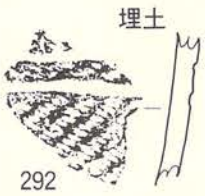
ⅡF12-1 土坑



ⅡF14土坑

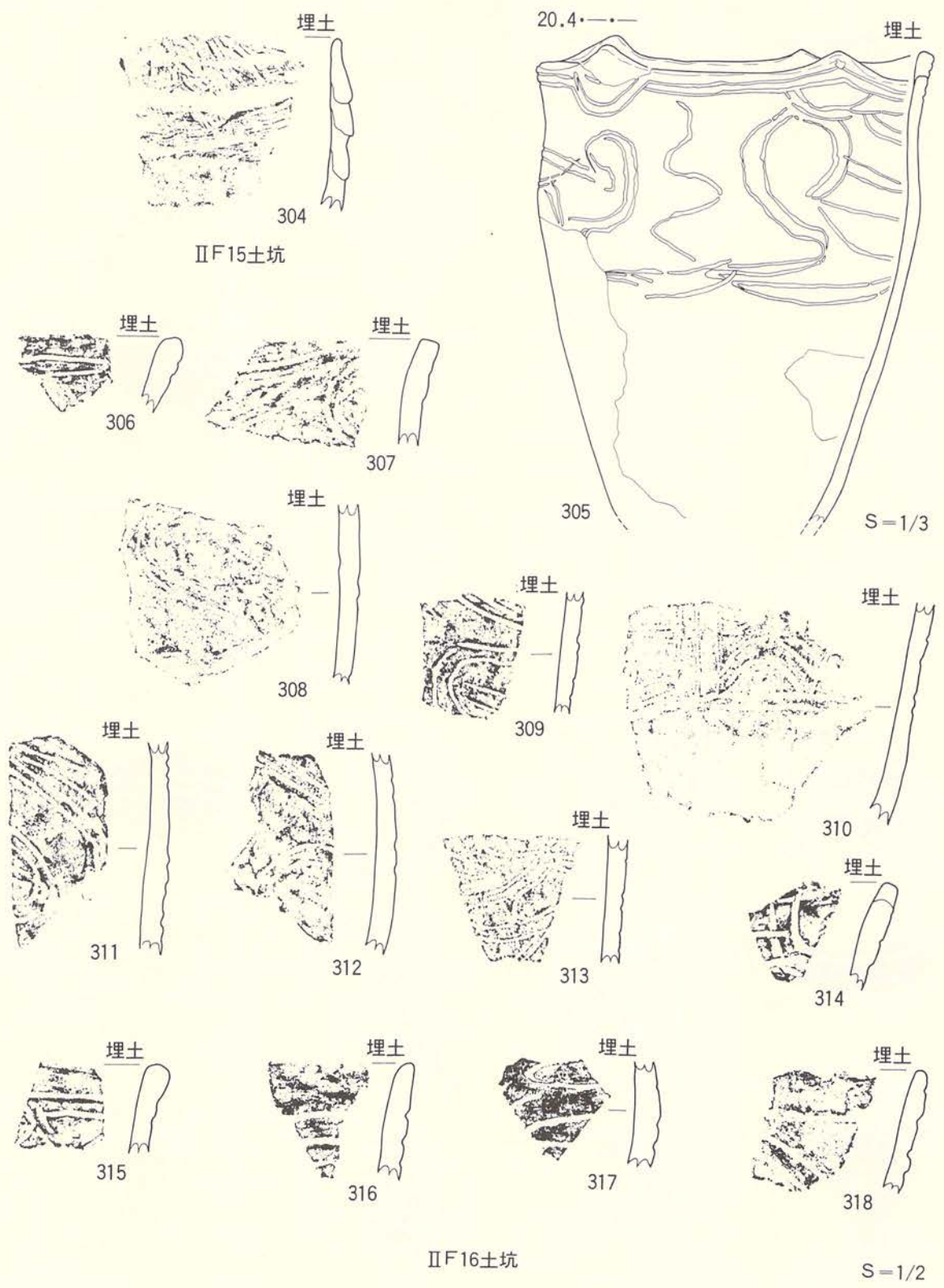


ⅡF15土坑



S=1/2

第64图 土坑出土遺物④

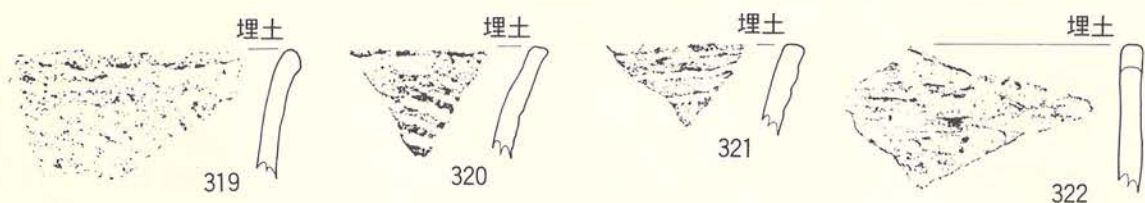


II F 15土坑

II F 16土坑

S=1/2

第65图 土坑出土遺物 ⑤



319

320

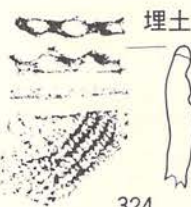
321

322



323

ⅡF16土坑

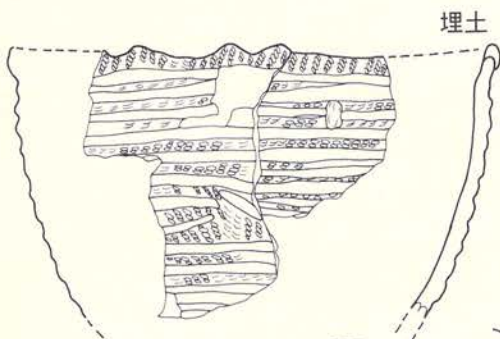


324

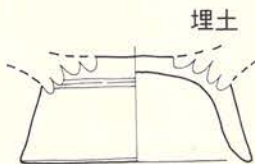
ⅡG12土坑



326



325



329



327

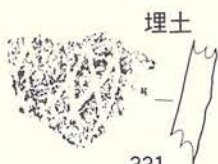


328

ⅡG13土坑



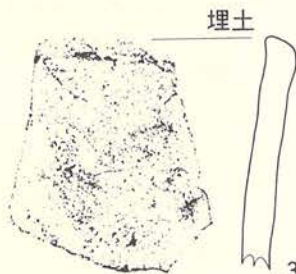
330



331



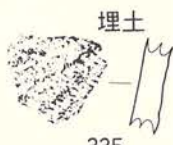
332



333



334

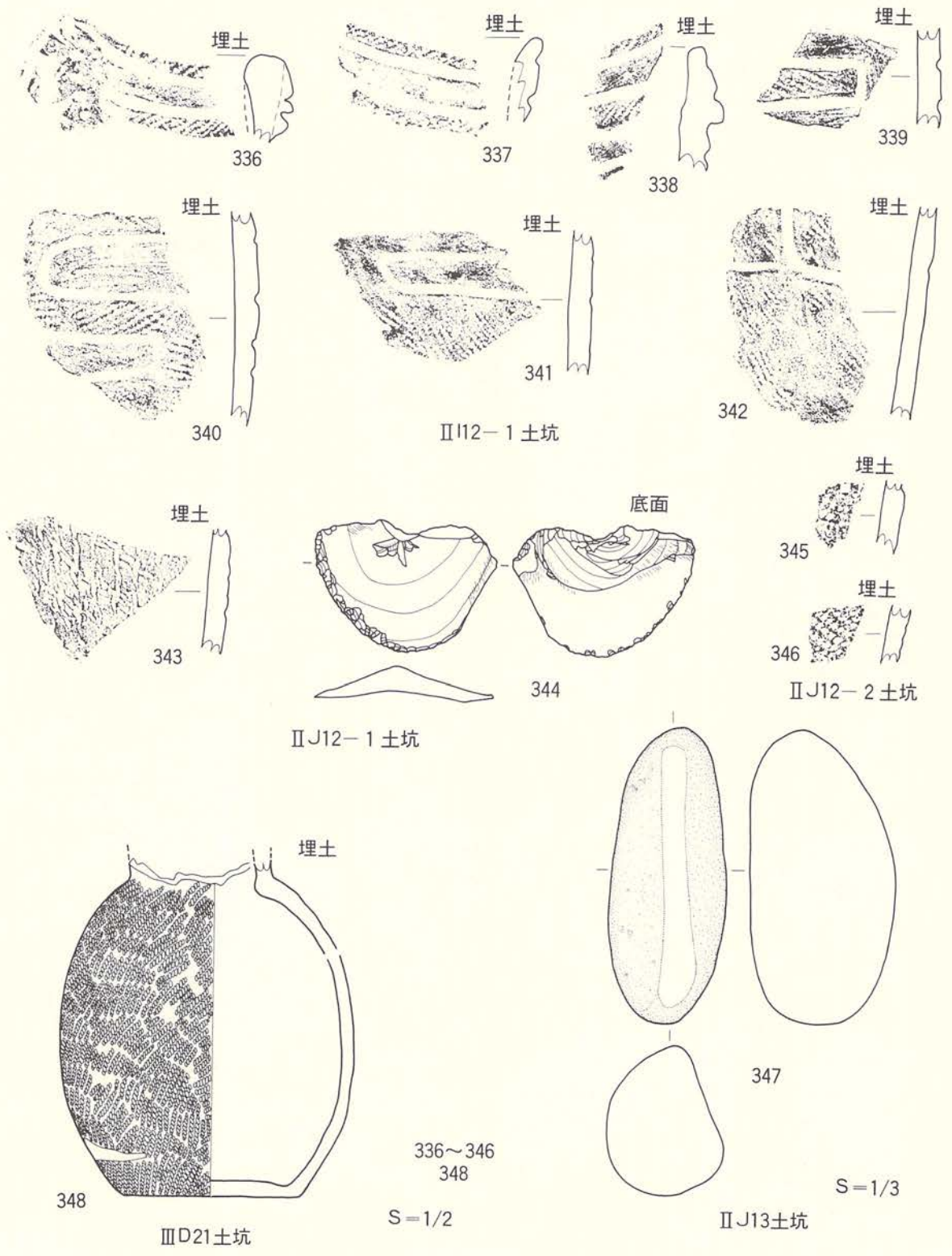


335

ⅡH13土坑

S-1/2

第66图 土坑出土遗物⑥



第67图 土坑出土遺物 ⑦

## 2. 遺構外の遺物

表土等から多数の土器・石器が出土した。しかし、これらは、尾根部においては表土が単層であり、耕作土として絶えず攪乱を受けているところである。また、西向き斜面部においては複数の層位からなるが、遺物は層位的に把握されたものではない。したがって、すべて一括して整理、分類を行ったものである。また、遺構内出土遺物も、これらの整理・分類の範疇に入るべきものである。

これらの遺物は、大きく原始時代、古代、中～近世の三時期に分けられる。なお、明らかに中～近世の遺構から出土した他の時期の遺物は、表土からの出土遺物と同様に扱った。

### (1) 原始時代

#### ① 石器・石製品

合わせて72点が出土した。このうち、土坑から出土した7点を除くと、遺構外から出土したものは65点である。

以下、器種ごとにその概要を述べる。

#### 〈石 鏟〉

9点出土した。そのうち表土からは8点である。数的には少ないが、形状は変化に富む。石質は、奥羽山地産の玻璃質流紋岩が多いが、他に凝灰質珪質泥岩も用いられるほか、北上山地産の粘板岩を用いているものが1点含まれる。

形状から次のように分けた。

1類（第68図—354・355） いわゆる有茎型で2点ある。いずれも小型である。これらは、基部の形状から凹基型と平基型に細分される。

2類（第68図—349～353・356） いわゆる無茎型で6点ある。これらは、基部の形状から凹基型と平基型に細分される。

#### 〈石 槍〉

1点出土した。石材は、奥羽山地産の凝灰質硬質泥岩で作られ、形状は、いわゆる柳葉形を呈する。加工、調整はやや粗雑である。

#### 〈石 匙〉

表土からは11点である。363を除くと、加工、調整は概して雑である。石材には、奥羽山地産の凝灰質泥岩が多く用いられている。これらは、形状から次のように分けられる。

1類（第68図—358～第69図—364） いわゆる縦型で8点ある。さらに、刃部で見ると、主要刃部が直線的なもの孤状を呈するものに細分される。

2類(第69図—365～366) いわゆる横型で3点ある。これらの「つまみ」は、刃部の左右いずれかに偏してつけられている。また、主要刃部は、直線的なもの、孤状を呈するものに細分される。

〈石 錐〉 (第69図—367)

1点出土した。石材には、奥羽山地産の凝灰質珪質泥岩が用いられている。刃部先端が欠損している。

〈搔・削器〉 (第69図—371～第71図)

19点出土した。形状は、多様である。石材には主として奥羽山地産の凝灰質珪質泥岩が用いられているが、179・380・387は、北上山地産のチャート質粘板岩を用いている。

〈石 籠〉 (第69図—369・370)

2点出土した。いずれも尾根部の先端に近いところからの出土である。

〈石 斧〉 (第72図389～395)

8点出土したが、遺構外からの出土は7点である。すべて磨製である。石材には、北上山地産のチャート質緑色凝灰岩、チャート質粘板岩、凝灰質硬砂岩、硬砂岩が用いられている。大きさ、形状にいくつかのタイプがみられるが、特に393は、全体に細身で、刃部が摩滅したためか鋭さがみられない。また、材質ももろい。これらのことから、石斧というよりは、むしろ石籠的である。また、断面図で観察すると、刃部が器肉の中央にあるものと一方に偏るものがある。

〈擦 石〉

8点出土したが、遺構外からは6点である。石材には、奥羽山地産の輝石安山岩が用いられている。形状から二つに分けられる。

1類(第72図—397～第73図—400～404) 短軸断面がほぼ三角形で、全体的に棒状を呈する。欠損するものが多い。擦痕は、三角形の稜線にあたる部分にある。

2類(第72図—398) 全体的器形が丸味をおびている。

〈磨 石〉 (第73図—399)

1点出土した。約半分欠損しているが、よく磨かれている。全体的器形は「卵」型である。石材には、北上山地産の硬砂岩を用いている。

〈凹 石〉 (第73図—405～407・第74図—412)

4点出土した。いずれも、断面形がやや偏平な棒状の石材を用いている。凹みは、偏平な部分にもつ。凹は、風化し明瞭でないものもあるが1～4個ある。石材には、奥羽山地産の輝石安山岩を用いている。

〈台 石〉 (第74図—409・410)

2点出土した。欠損が著しく一部の細片が残るだけである。器表はよく研磨されている。石材には、奥羽山地産の輝石安山岩が用いられている。

〈石 棒〉 (第74図—408・413)

2点出土している。そのうち、413は一部が欠損している。短軸断面は、楕円形である。石材には、北上山地産の凝灰質粘板岩および奥羽山地産の輝石安山岩であるが、408は、特に明瞭な加工痕はみられない。

〈独鈷石〉 (第74図—411)

1点だけ出土した。欠損が著しく一部が残存するだけである。石材には、北上山地産の硬砂岩が用いられている。

## ② 土 器

胎土、文様の特徴から次のように分類した。

### 第I群土器 (第75図—414～415・421)

1類 (第75図—414～415) 沈線と貝殻復縁文および円形刺突文によって文様が構成されており、全体的に幾何学的文様を呈する。口縁部は波状を呈するようである。底部は出土していないので不明である。

2類 (第75図—421) 1点だけの出土で、尖底部である。形状的にみると尖底端部は鋭角的である。器表には、端部に至るまで撚糸の圧痕が付されている。

### 第II群土器 (第75図—416～420・第76図)

1類 (第75図—416～420・第76図—429～435) 繊維が多量含まれており、器肉は薄手、厚手両者がみられる。いずれも深鉢系統の土器と思われるが、図のように平口縁であるが、口唇部は平端なもの、丸味をおびたもの、極端に外反するもの等種々みられる。器表には、縦・斜位に撚糸の圧痕が付されている。縄文・胎土の観察からは、I群の2類に近似するところもみられる。

2類 (第75図—422～425・第76図437等) 深鉢形土器と思われる。1類に比してやや少ないが繊維が混じる。

### 第III群土器 (第77図～第80図)

1類 (第77図—445～460) 地文がなく曲線文が施されているもので深鉢系統の土器である。

2類 (第78図—461～472) 地文がなく沈線による斜格子文が付されているもの。深鉢中心のようであり、胎土に砂まじりのものもある。

3類 (第78図—473～479) 網目状撚糸文が付されている。

4類 (第79図—480～484) いわゆる櫛歯状の曲線条線文が付されているもので、鉢の他、



壺形土器と思われるものもある。

#### 第Ⅳ群土器 (第79図—485～第81図)

1類 (第79図—485～492) 器表に縄文が付される他、口唇端部にも縄文がみられる。縄文は、単節の斜行縄文が中心である。

2類 (第79図—493～496) 地文がなく口縁部に帯状の隆帯がみられる。この隆帯は、波状の口縁に平行するものあるいは直行(縦)するものとある。そして、この隆帯にはツメ形の刻み目がみられる。また隆帯に平行して半裁した竹管の刺突状の文様も付されている。

3類 (第80図—497・498) 2点だけの出土で、これは同一個体と思われる。器表は無文で、口縁部に突起をもち、その内側に三本の細い刻み目が縦に入る。

4類 (第80図—501～513) 器表に地文が付され、さらに、直、曲線による沈線が付され、口唇端部に指圧痕がみられるものが多い。

#### 第Ⅴ群土器 (第81図)

1類 (第81図—514～523) いわゆる粗製土器中、単節斜行縄文の付されたもの。

2類 (第81図—524～530) いわゆる粗製土器中、無文のもの。

#### 第Ⅵ群土器 (第82図～第86図)

1類 (第82図) 口縁部と底部(高台部)の両者がみられるが、文様、胎土から同時期のものと思われる。器種としては、高坏、壺形土器の両者がある。脚部には無文のものと平行沈線が入るものとある。

2類 (第83図—547～558) 地文に縄文を付し、平行沈線、変形工字文が浅鉢にみられる。

3類 (第83図—559～第85図) 細い撚糸状の縄文が主として縦に走り、器肉は全体的薄い。器種としてはいずれも小型で、鉢形土器と思われる。

4類 (第86図—600～614) 底部だけを一括したが、器形から平底のものは、当群の2類、高台のものでは1類に入るかもしれない。

第Ⅶ群土器 (第86図—615) いわゆる袖珍土器であるが、1点だけの出土である。成形は粗雑で丸底、無文である。

## (2) 古 代

土師器が破片で若干出土したが、いずれもIV F 15住居址の周辺からのものである。

## (3) 中・近世

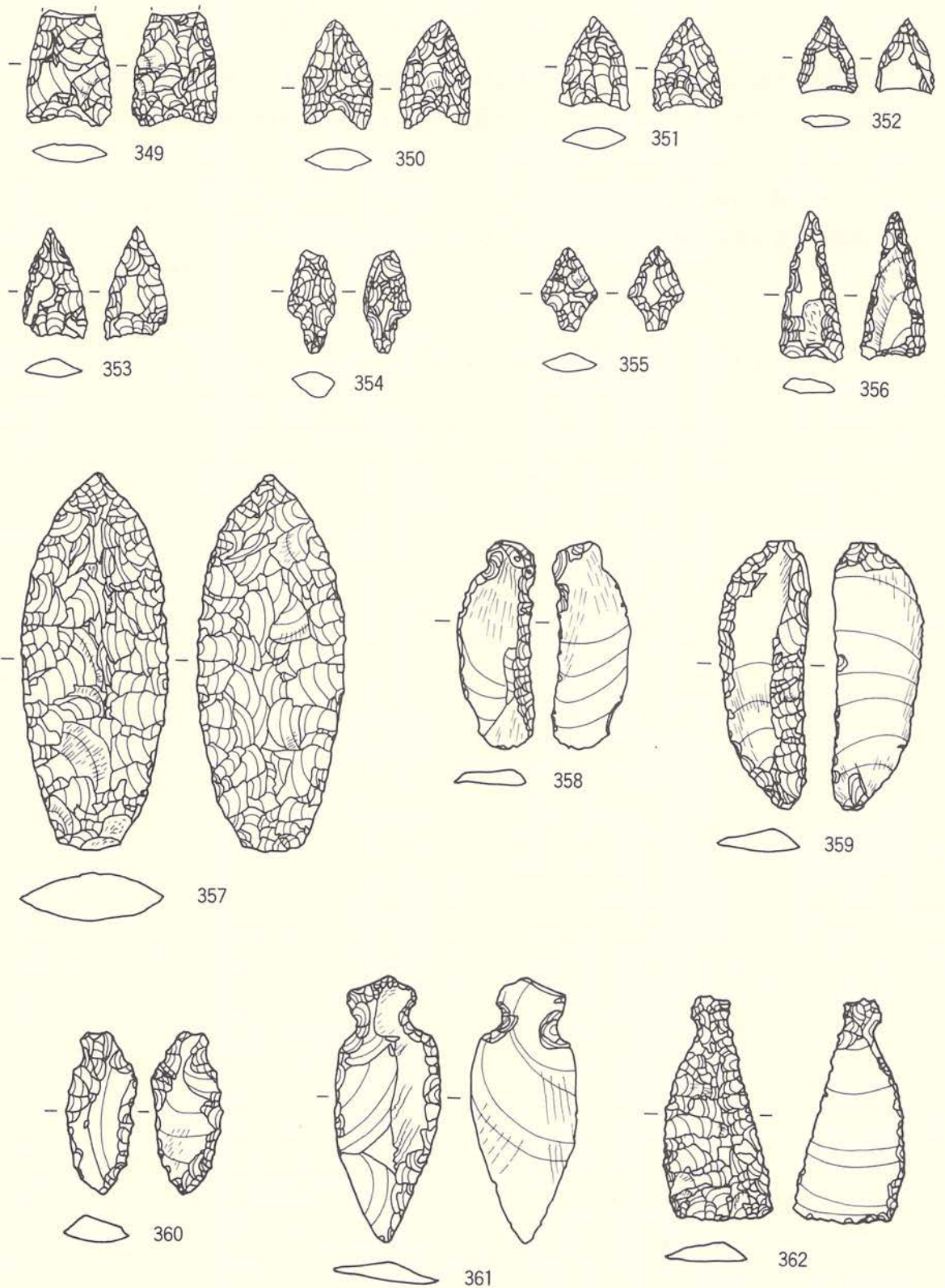
陶磁器・古銭・铸件片・煙管・砥石がそれぞれ若干ずつ表土から出土している。

### ①陶磁器 (第87図～89図)

器種としては、皿・甕(あるいは壺)であるが、竪穴住居や柱穴群から出土したものと時期・産地的に同一である。他に播鉢が5点破片で出土している(第89図-638~642)。

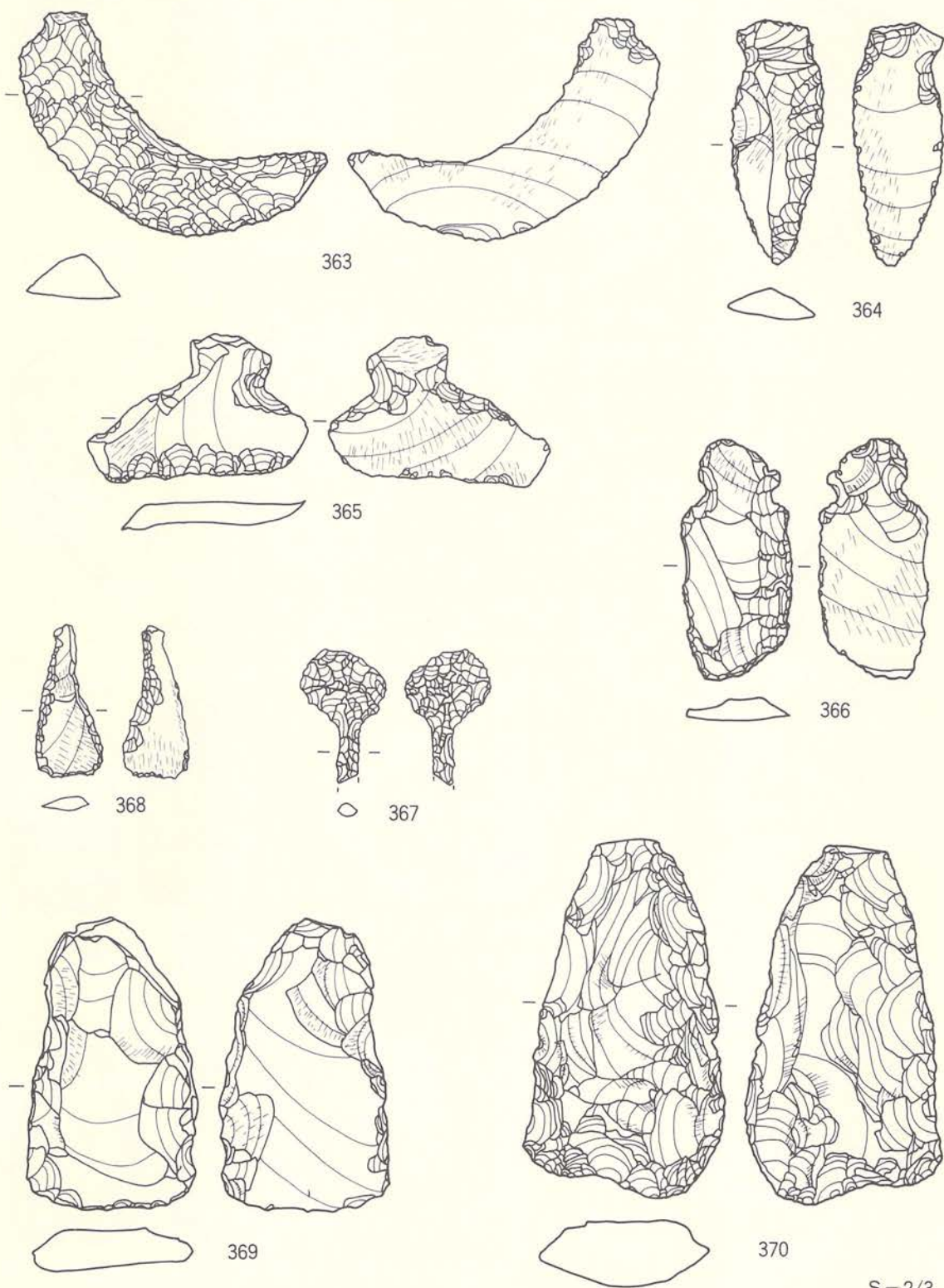
② その他 (第90図~第91図)

古銭は、寛永通寶(第9図-643・652)2枚、永楽通寶9枚である。



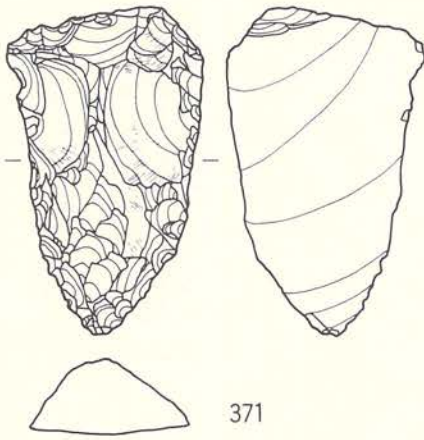
第68図 遺構外の遺物①

S=2/3

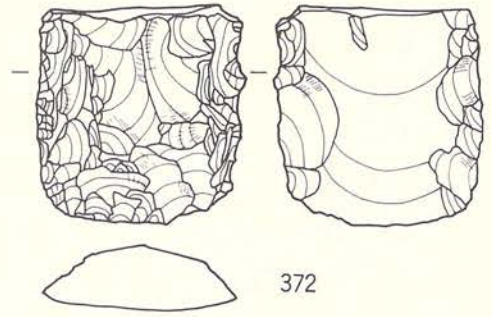


S-2/3

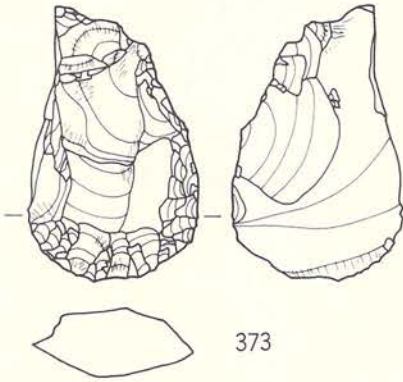
第69図 遺構外の遺物②



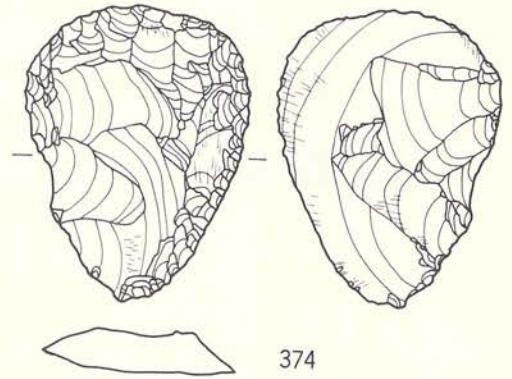
371



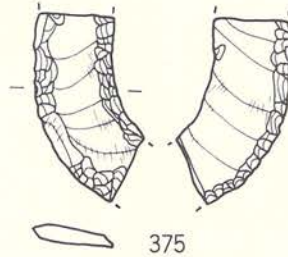
372



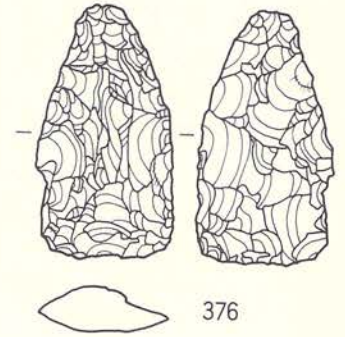
373



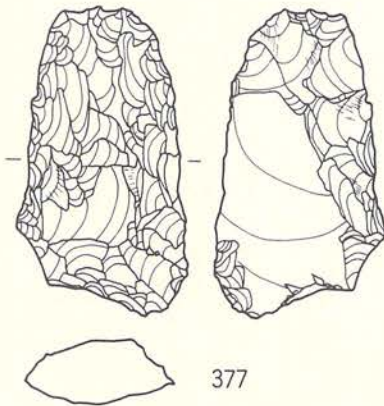
374



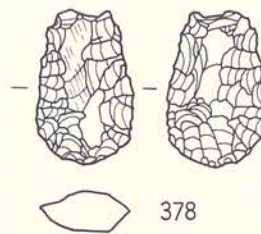
375



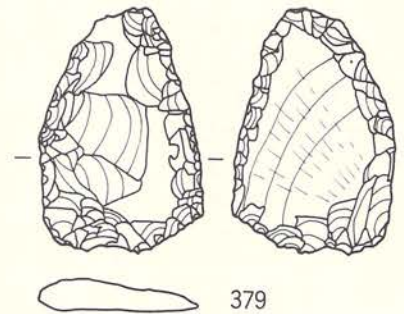
376



377



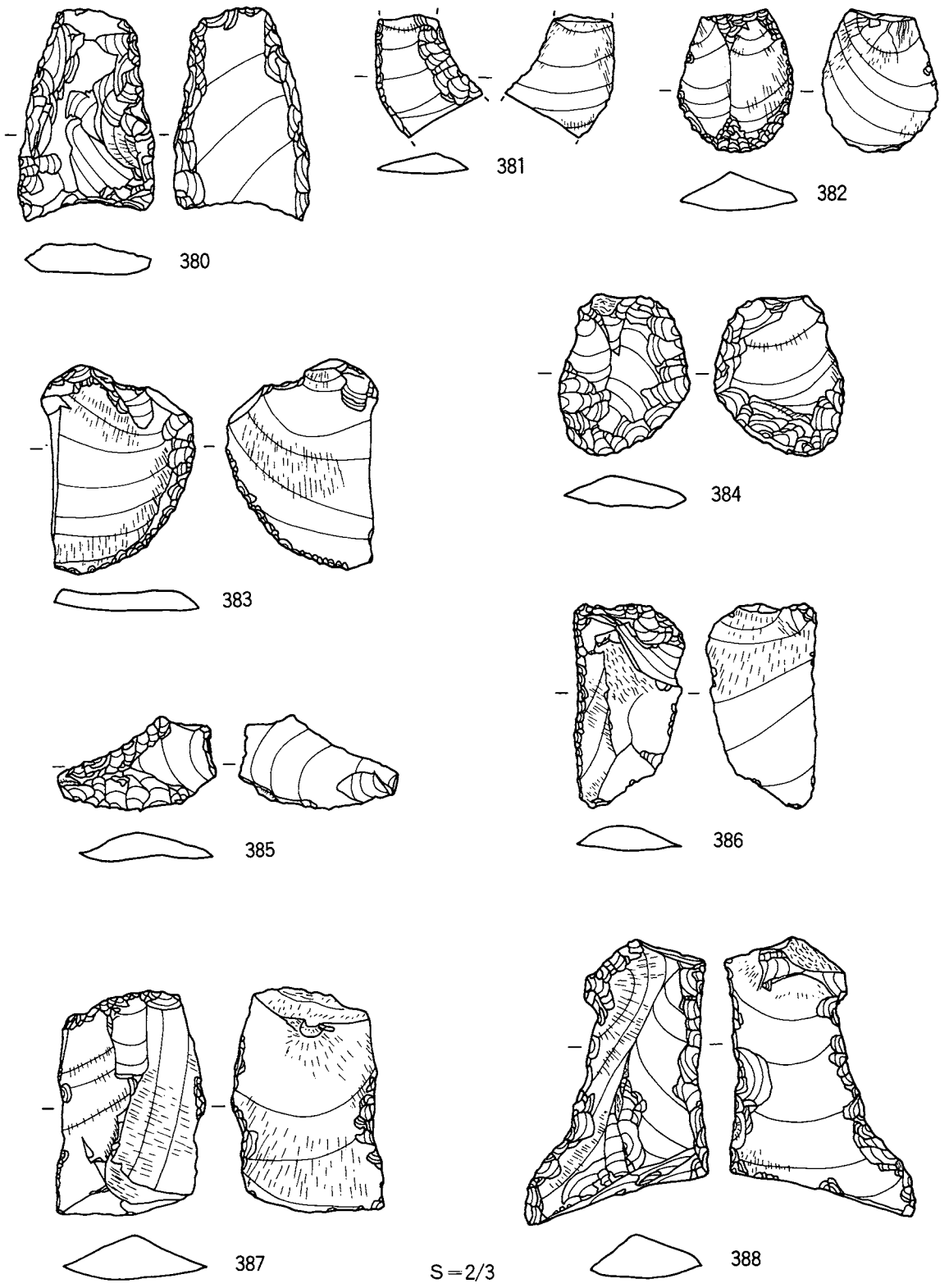
378



379

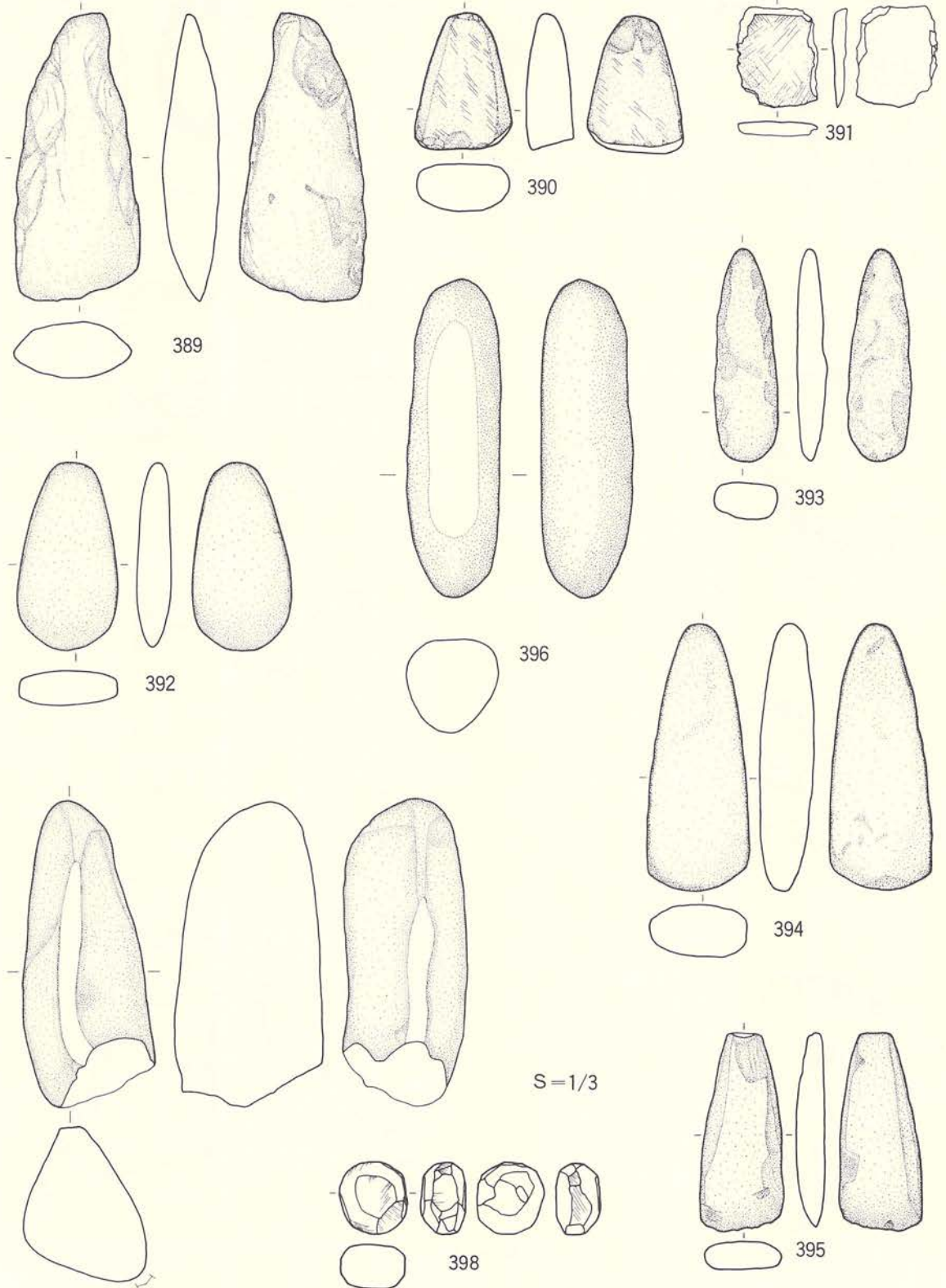
S=2/3

第70図 遺構外の遺物③

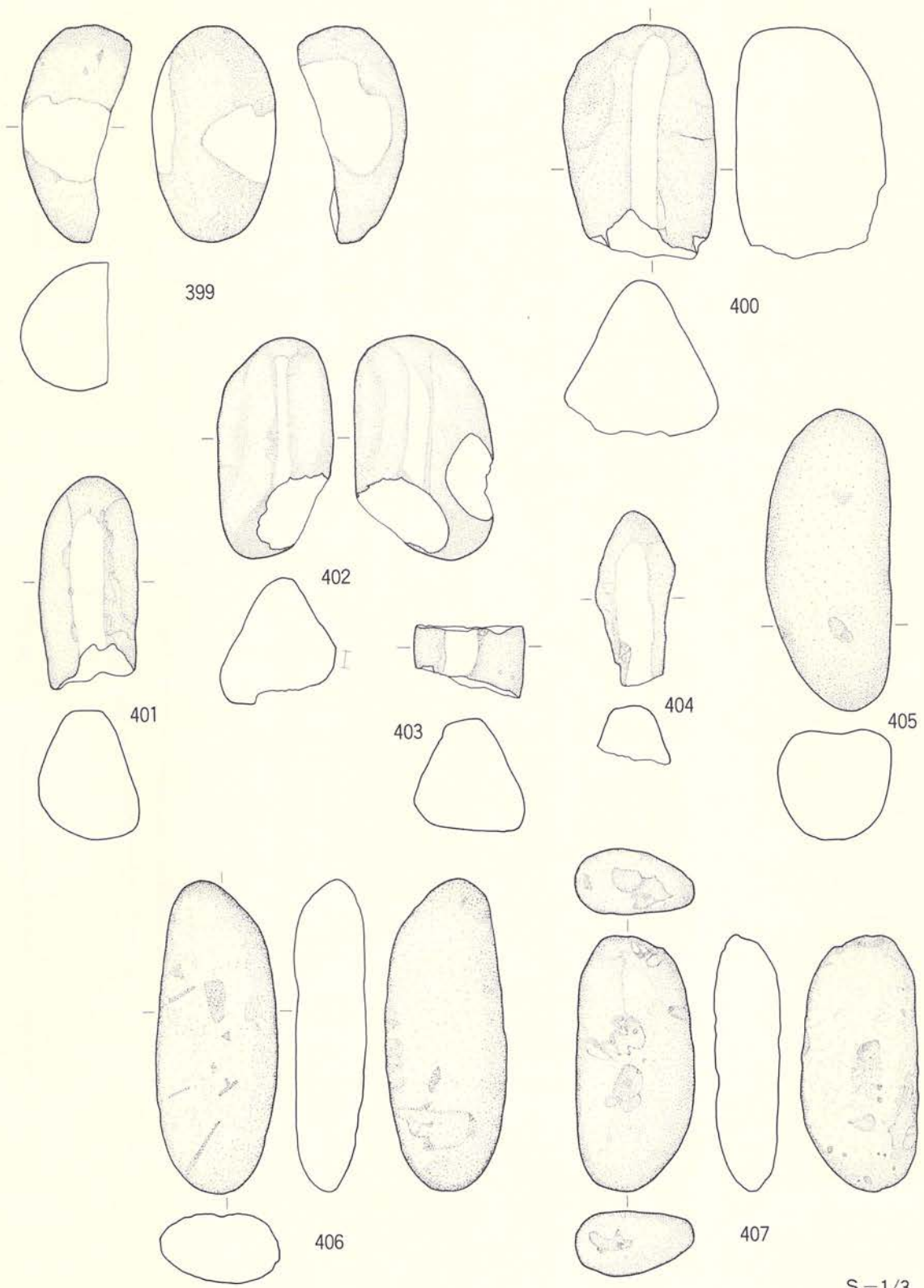


S = 2/3

第71図 遺構外の遺物④



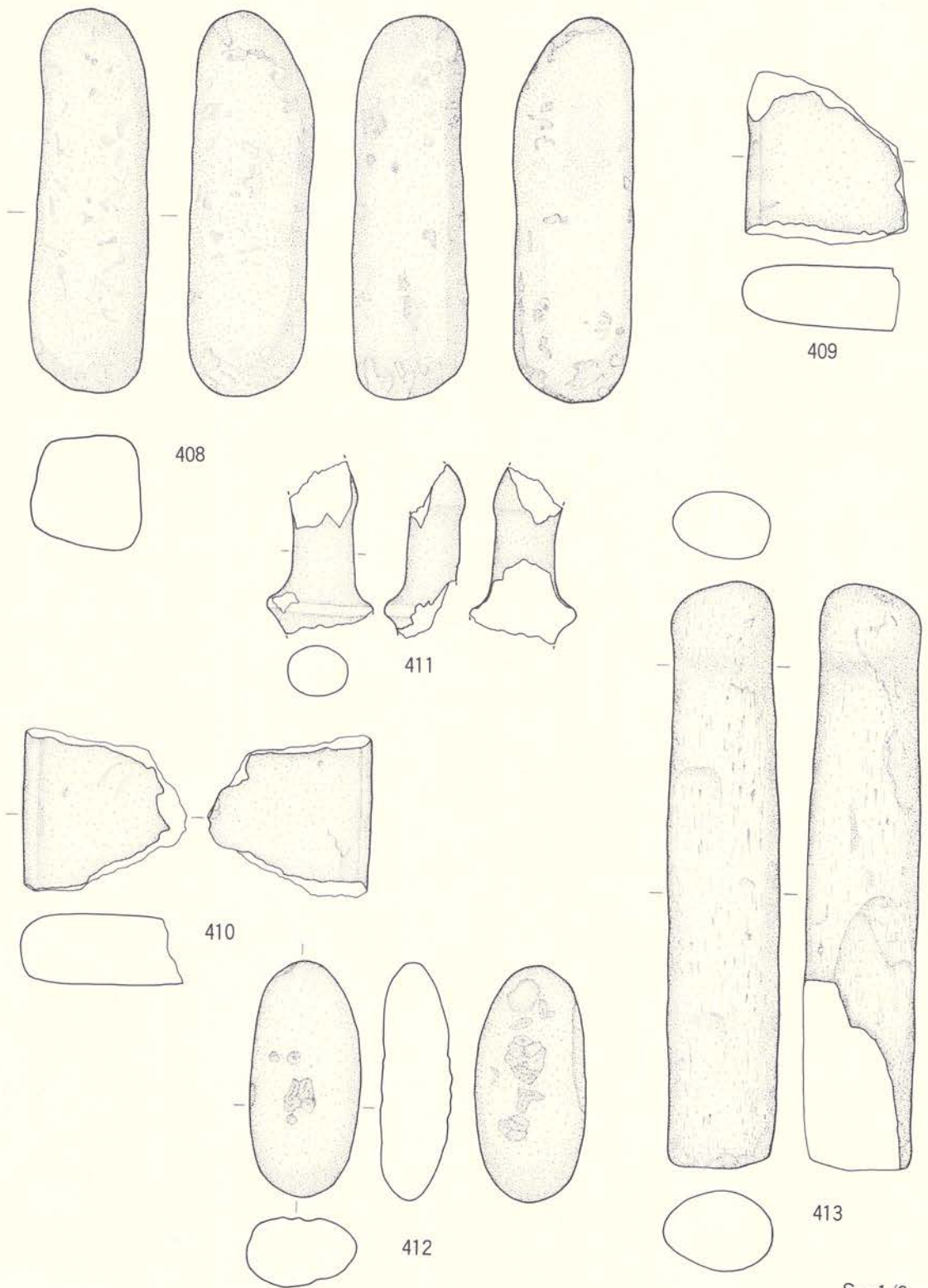
第72図 遺構外の遺物⑤



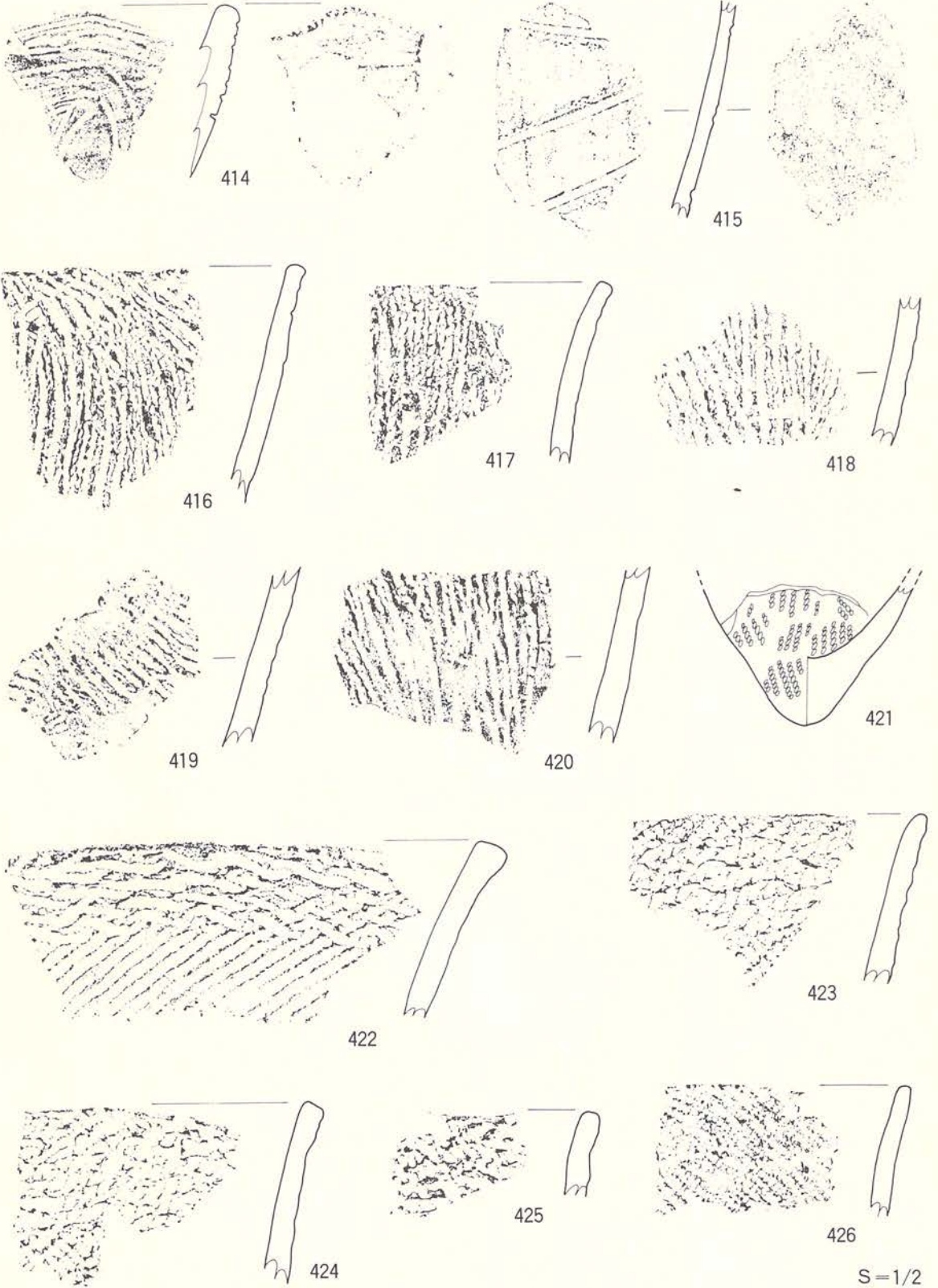
S=1/3

第73図 遺構外の遺物⑥

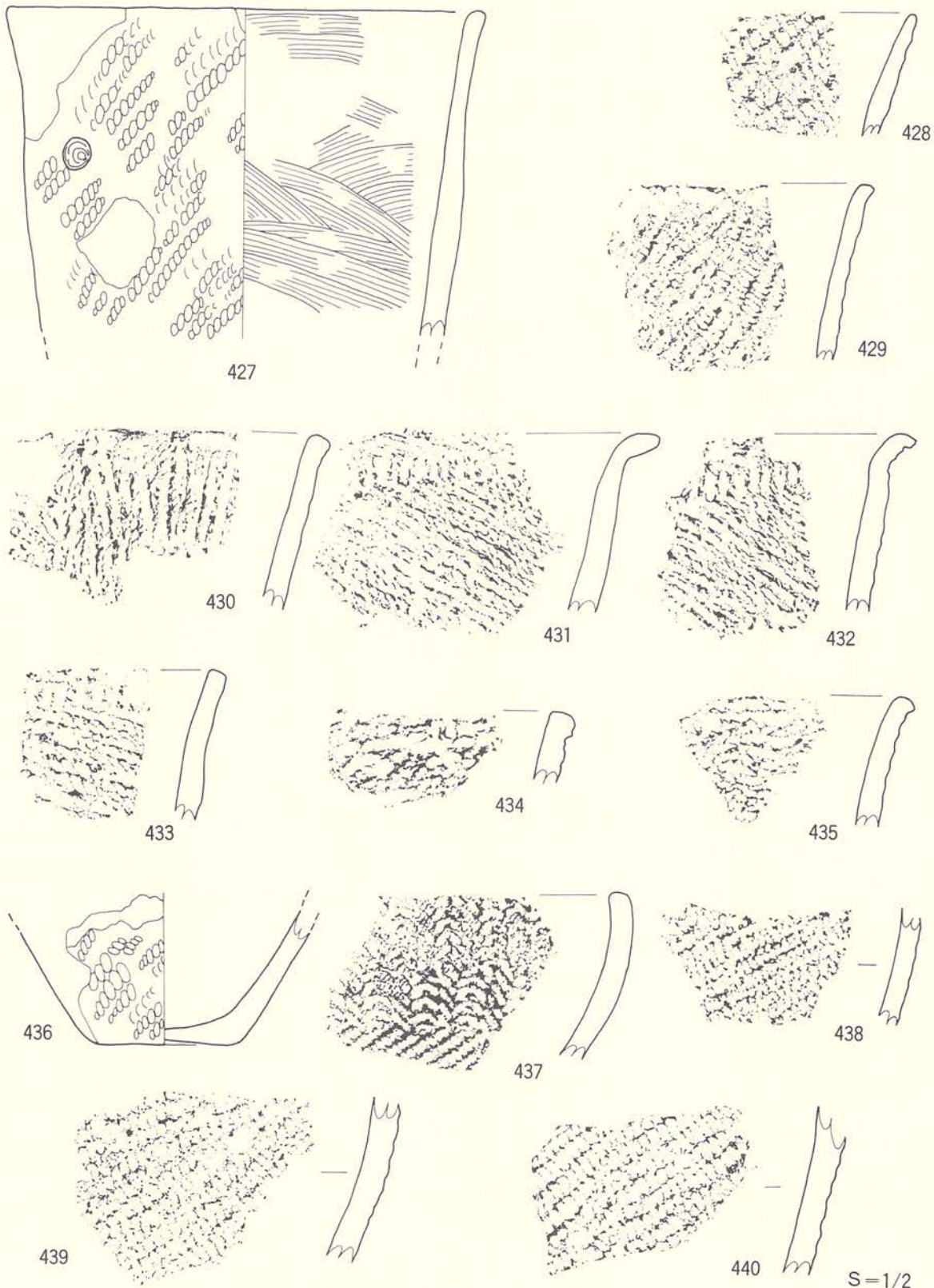




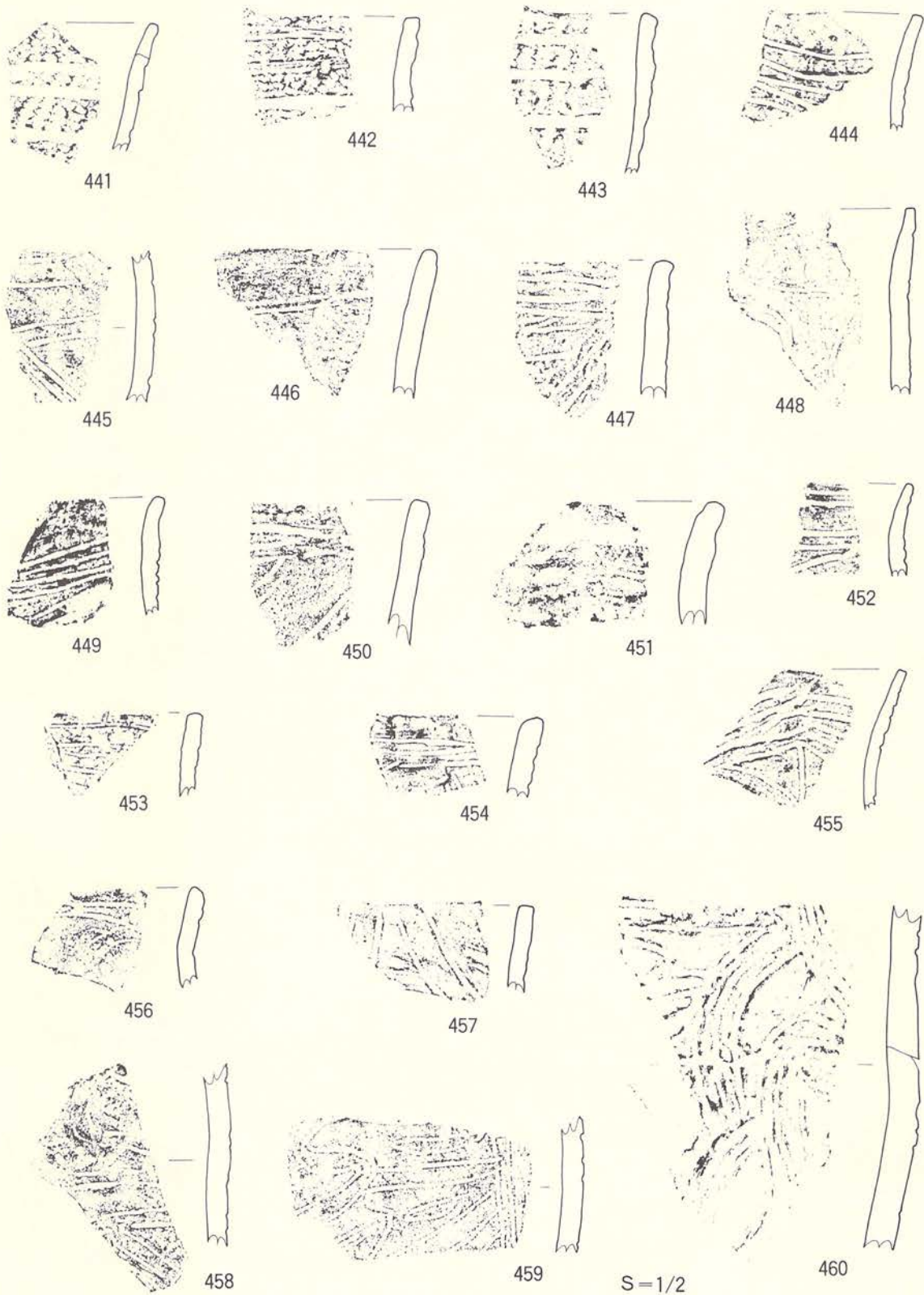
第74図 遺構外の遺物⑦



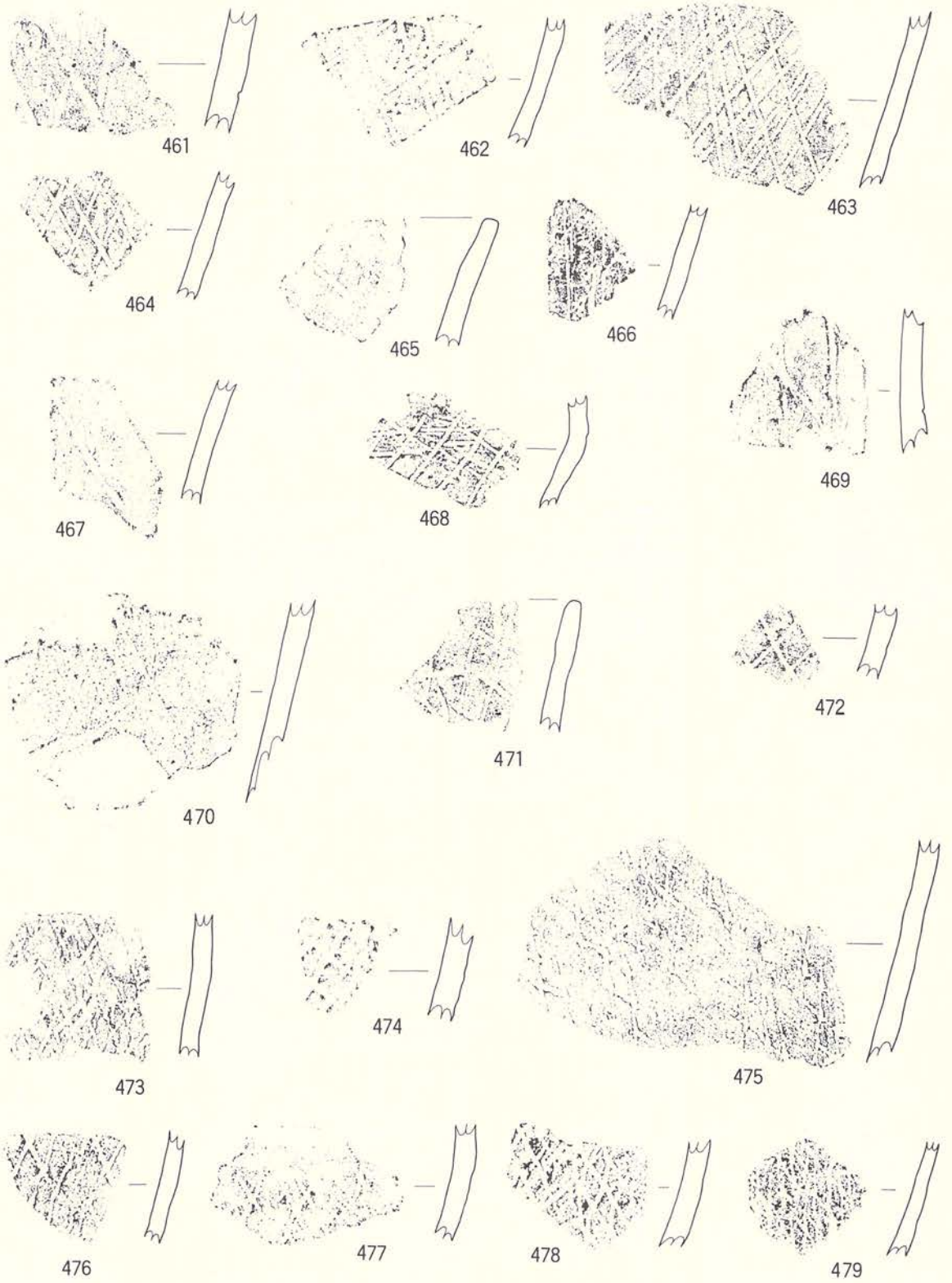
第75図 遺構外の遺物⑧



第76図 遺構外の遺物 ⑨

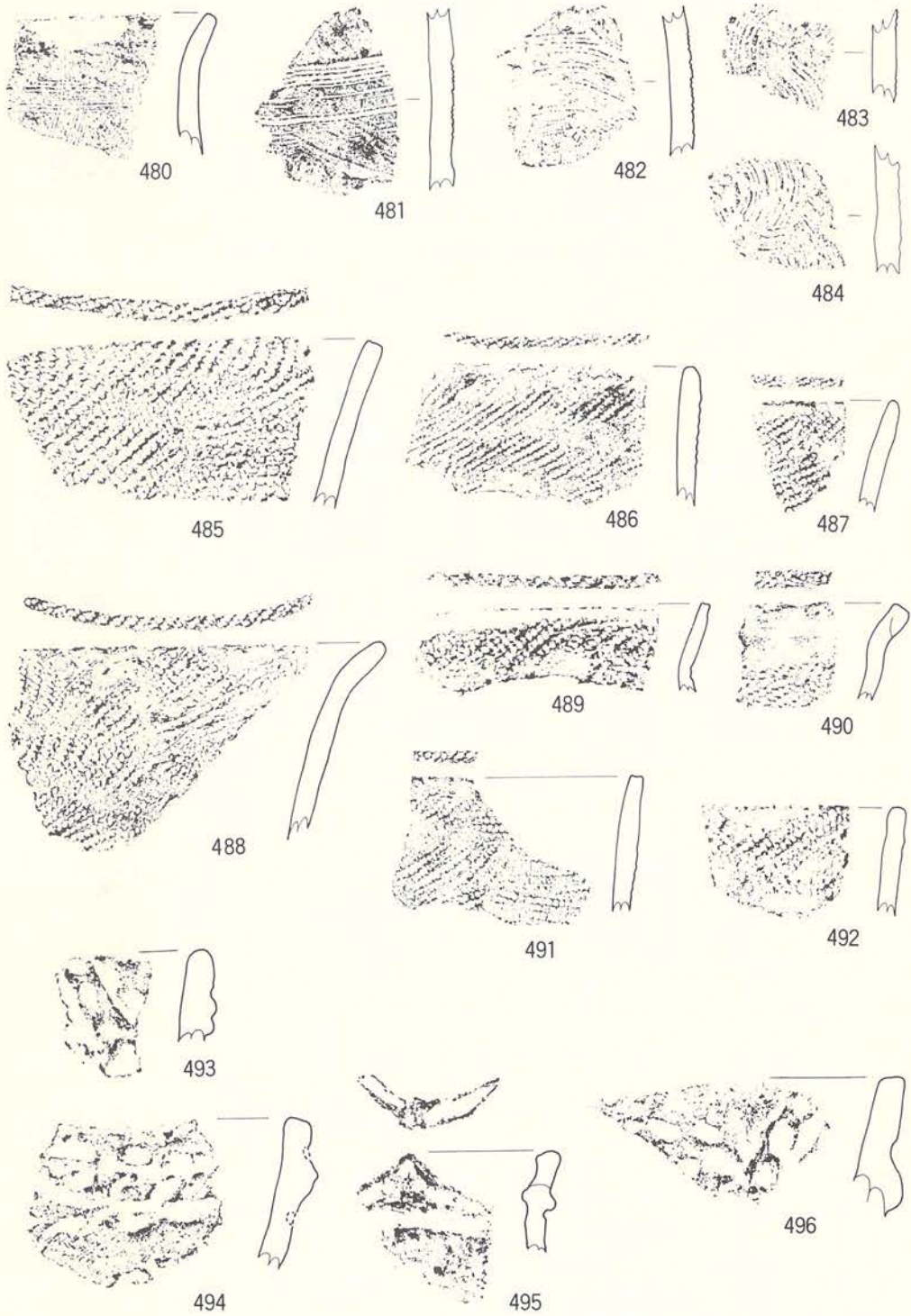


第77図 遺構外の遺物 ⑩



S=1/2

第78図 遺構外の遺物 ⑪

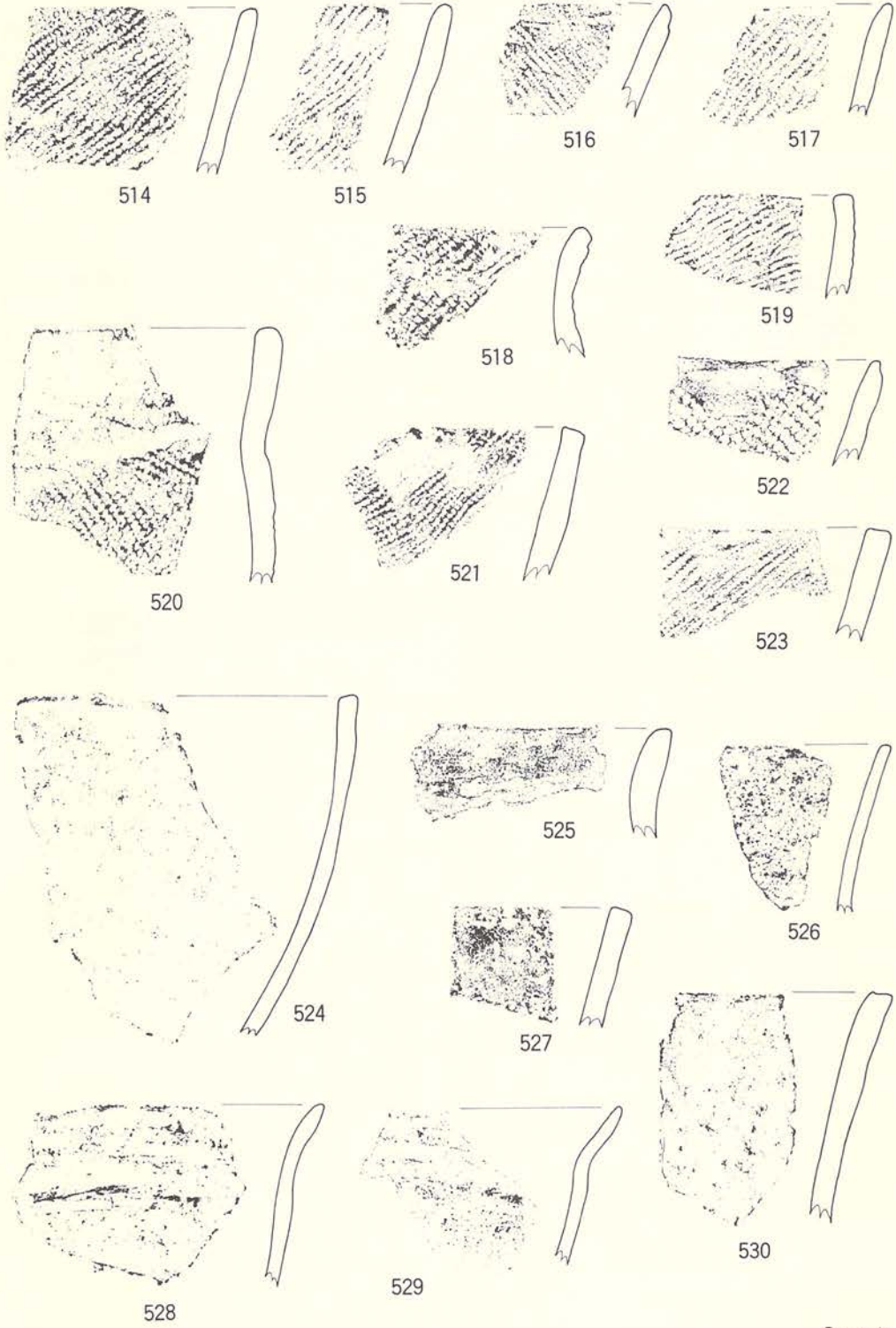


S=1/2

第79図 遺構外の遺物 ⑫



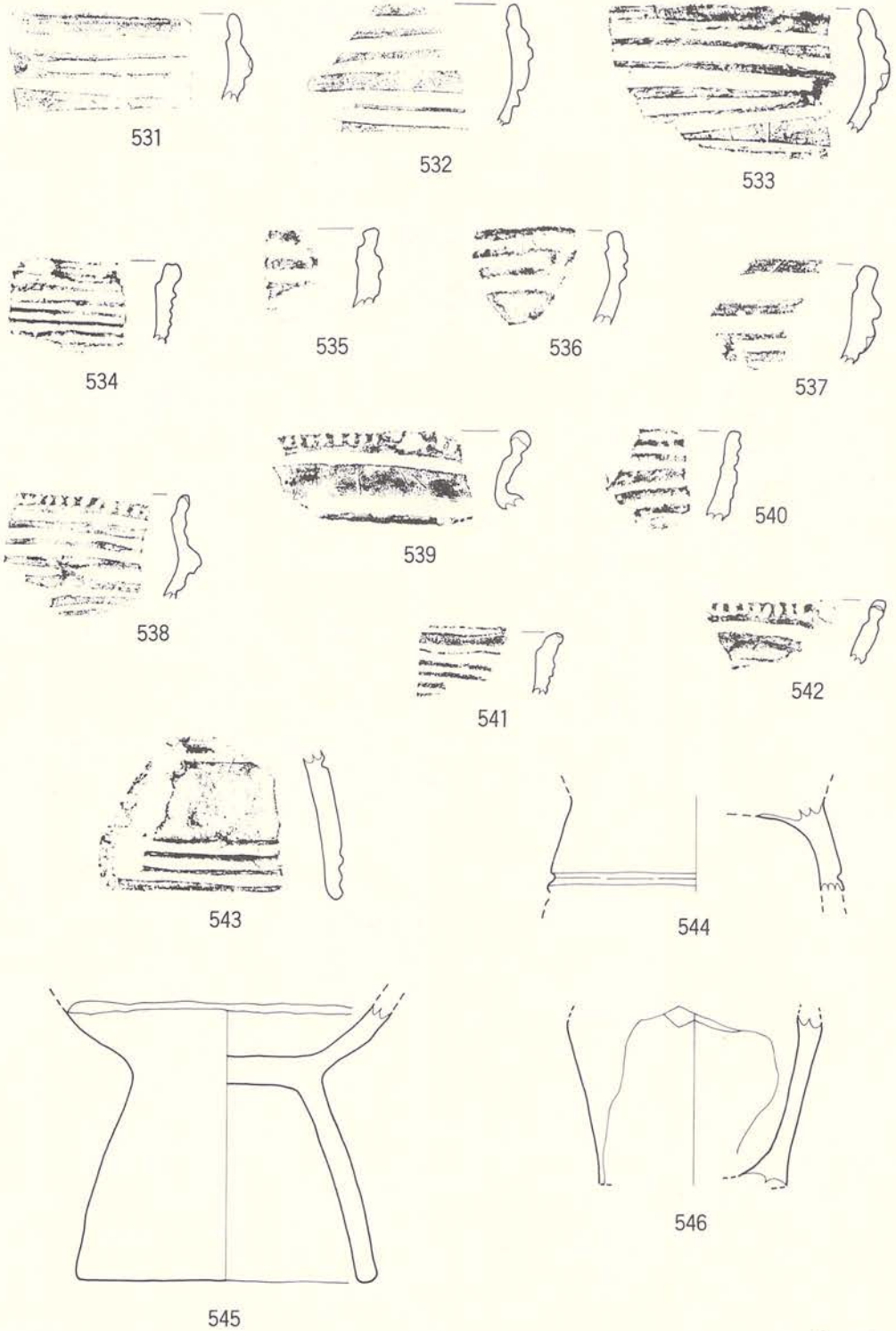
第80図 遺構外の遺物 ⑬



S=1/2

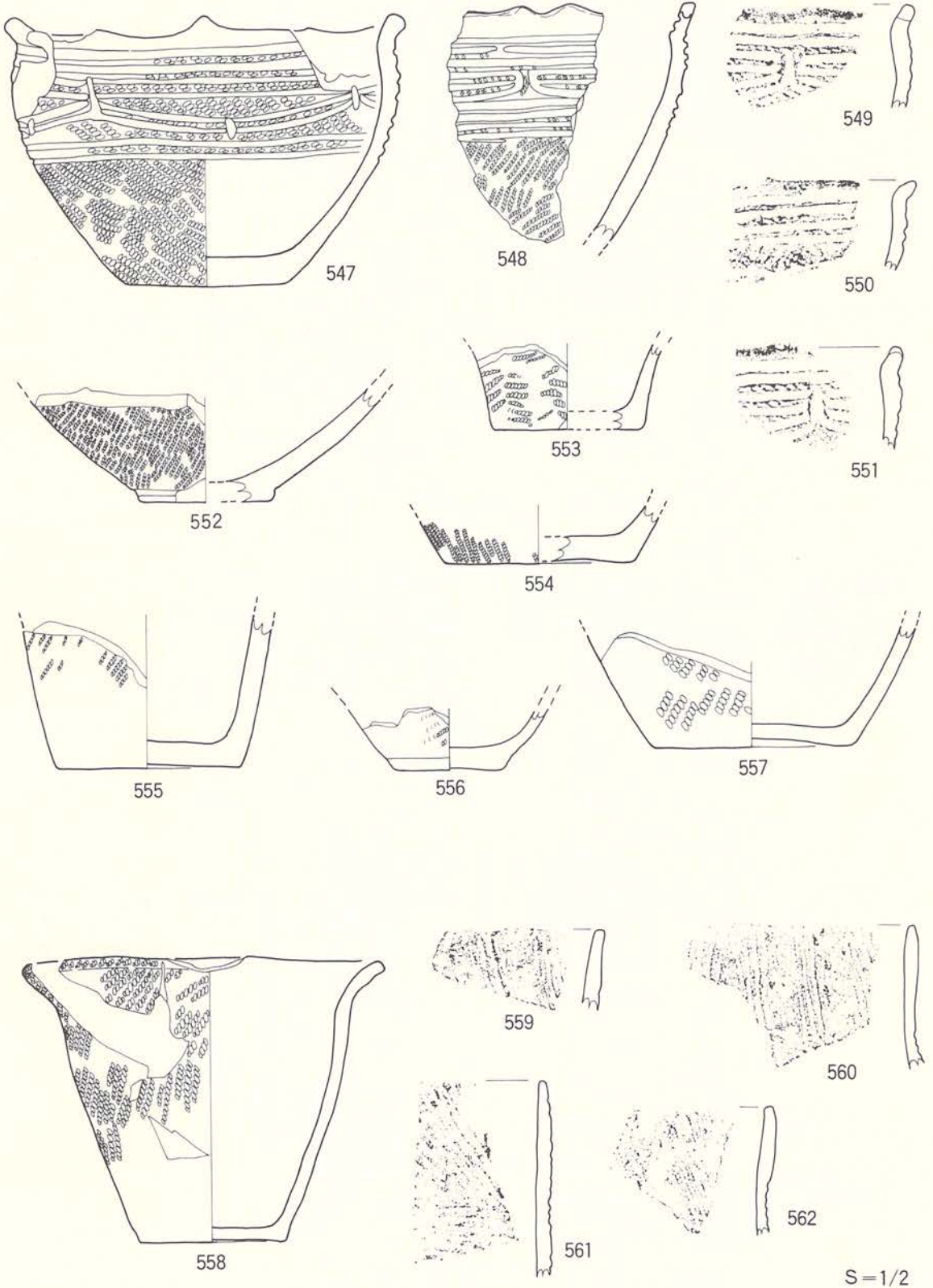
第81図 遺構外の遺物 ⑭



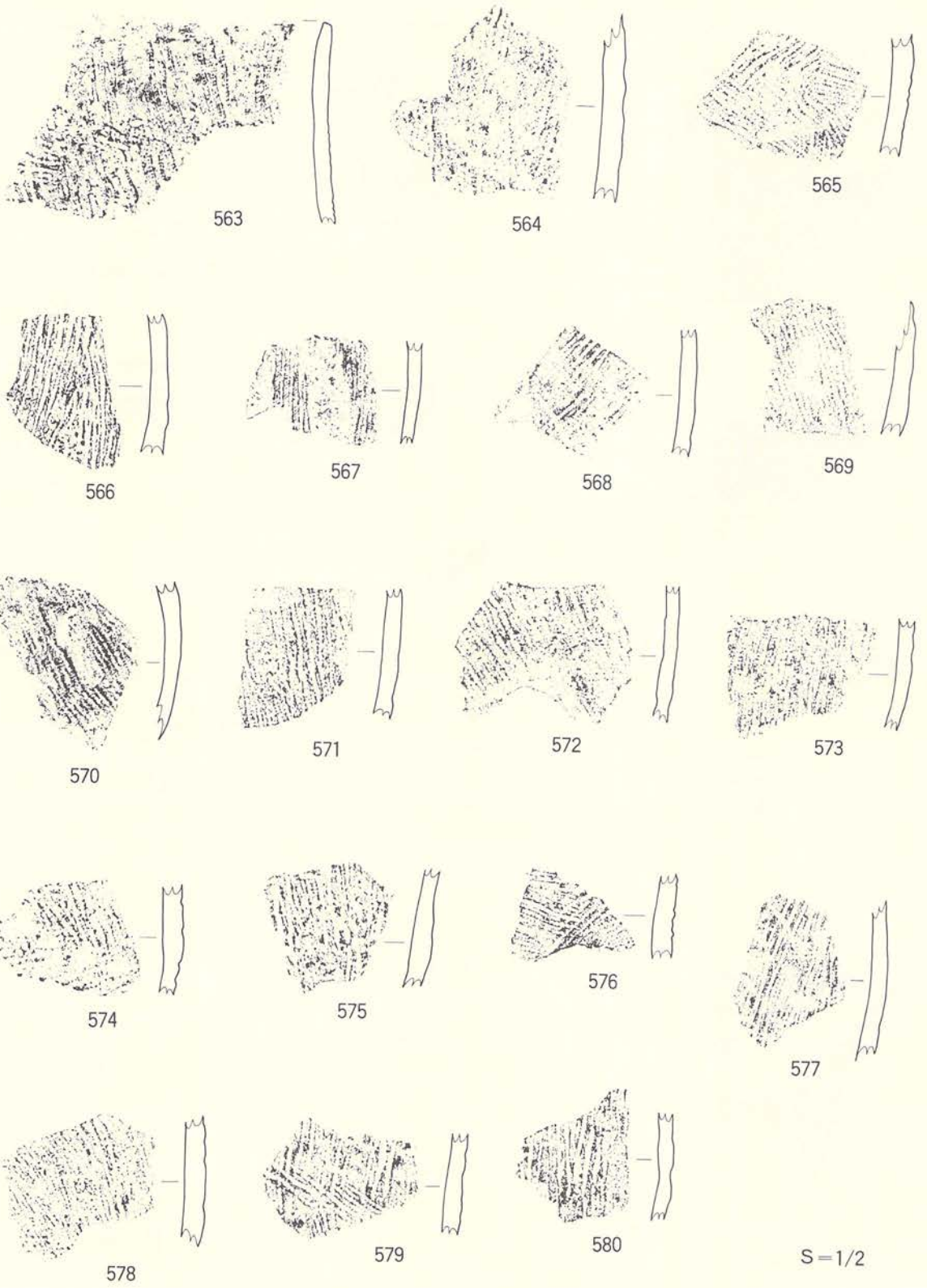


S=1/2

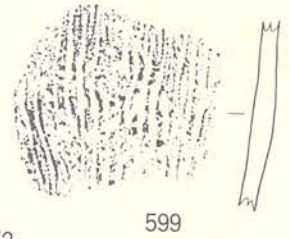
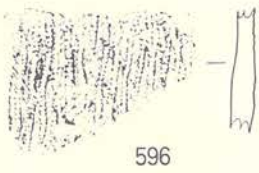
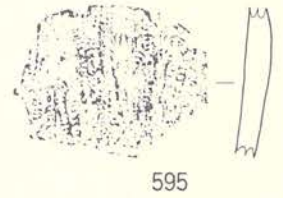
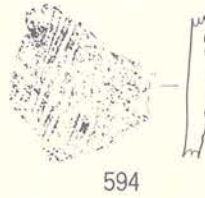
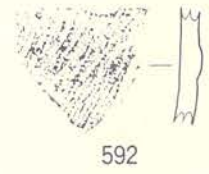
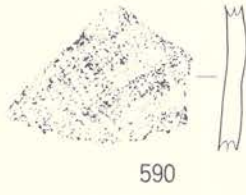
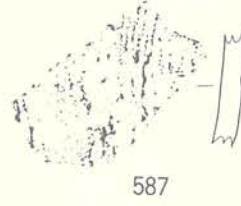
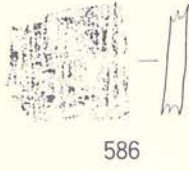
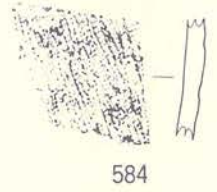
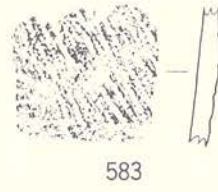
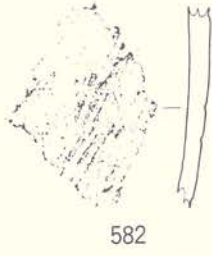
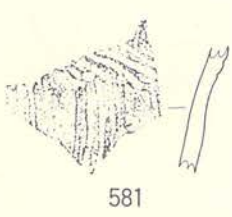
第82図 遺構外の遺物 ⑮



第83図 遺構外の遺物 ⑬

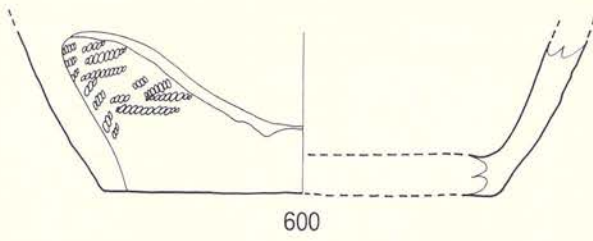


第84図 遺構外の遺物 ⑰

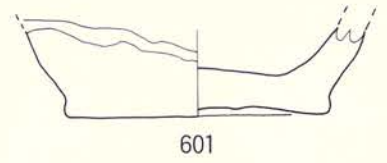


S=1/2

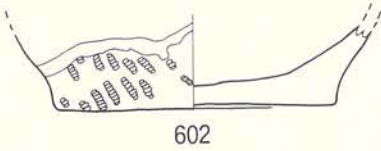
第85図 遺構外の遺物 ⑱



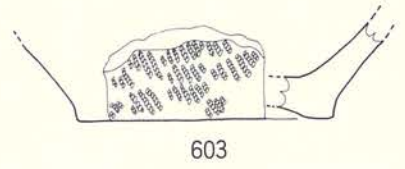
600



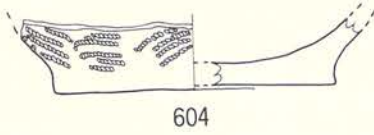
601



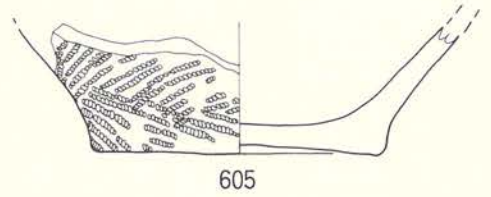
602



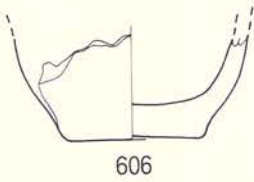
603



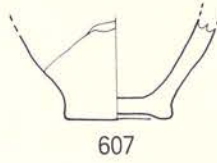
604



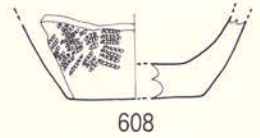
605



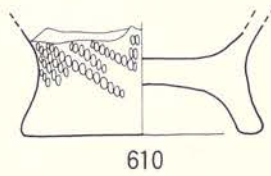
606



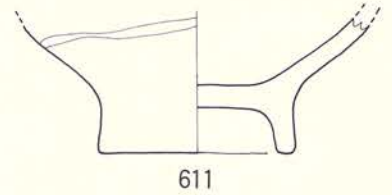
607



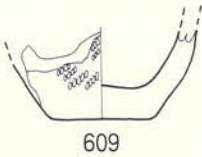
608



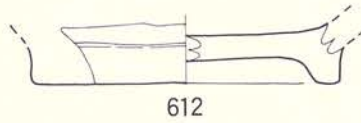
610



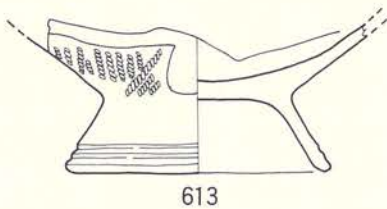
611



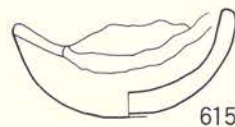
609



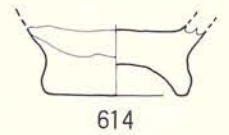
612



613



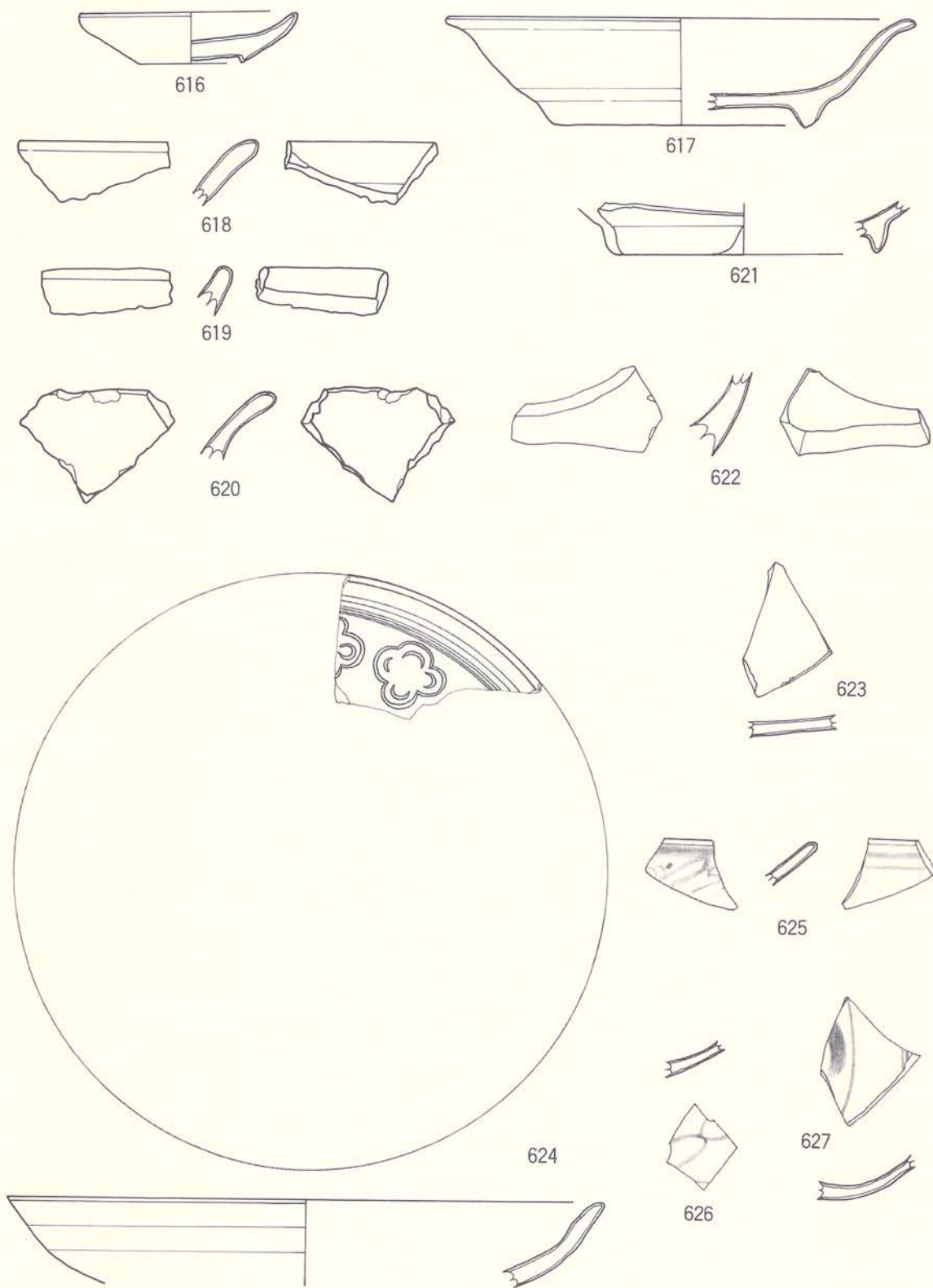
615



614

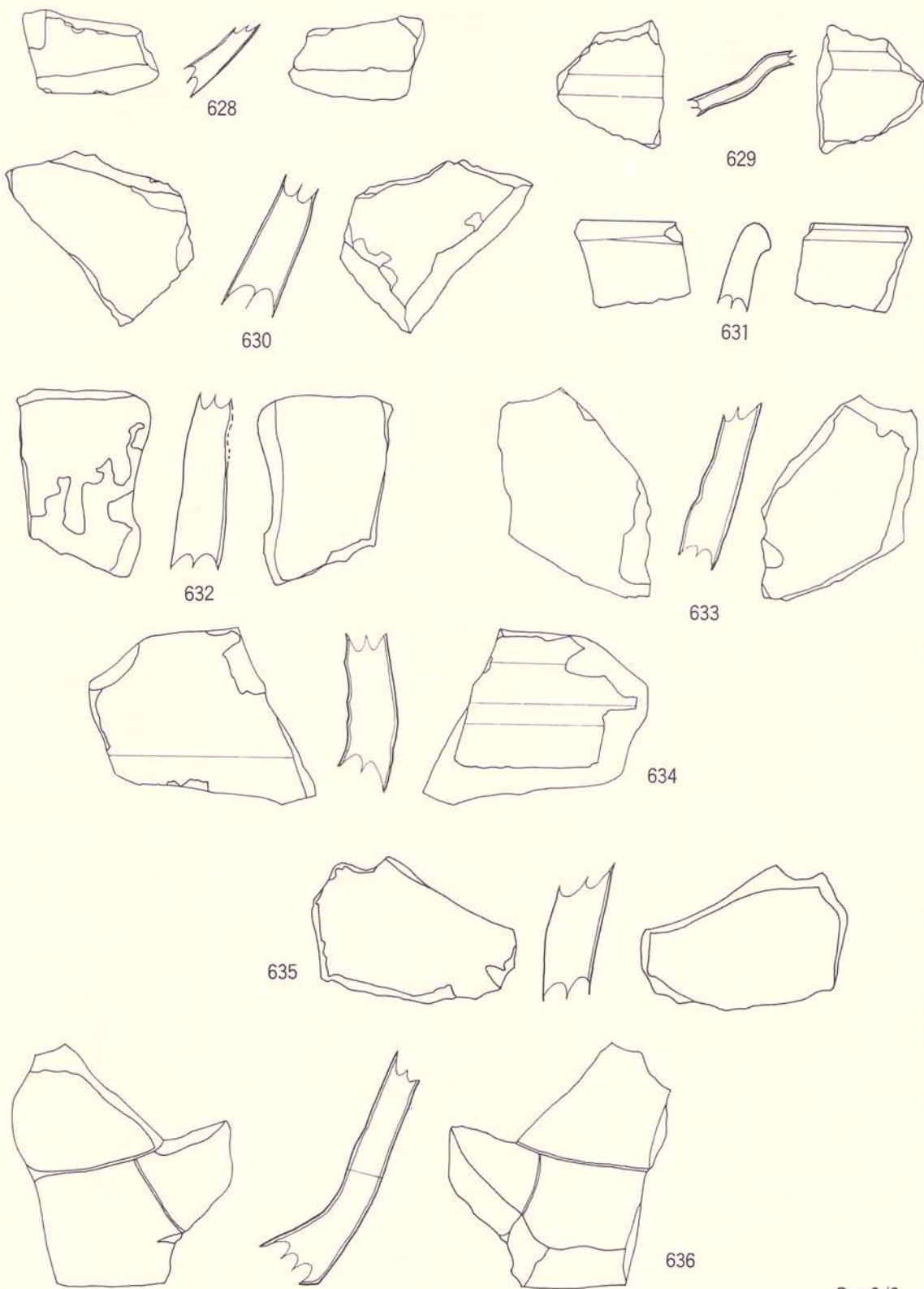
S=1/2

第86図 遺構外の遺物 ⑱



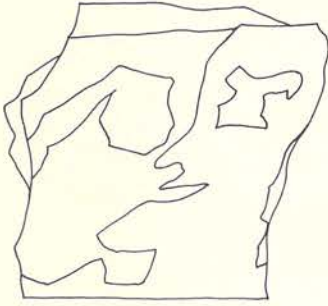
第87図 遺構外の遺物 ⑳

S=2/3

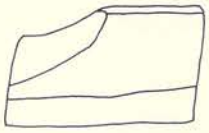
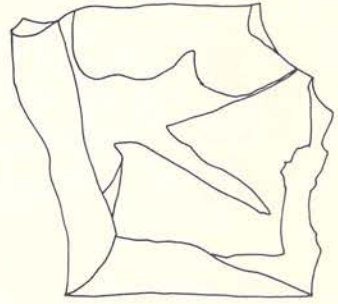
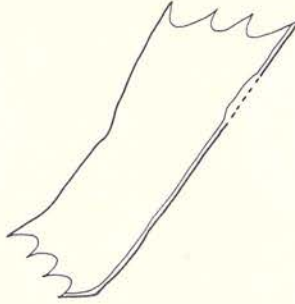


第88図 遺構外の遺物 ②

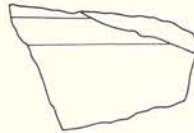
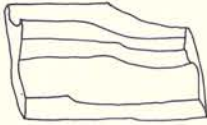
S=2/3



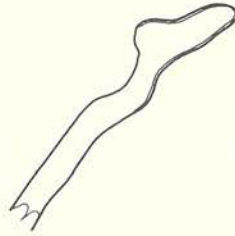
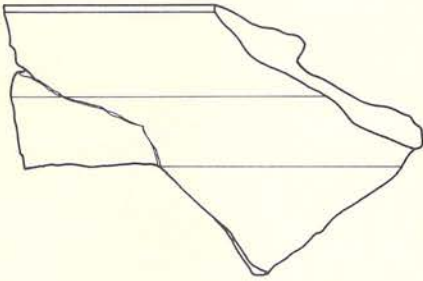
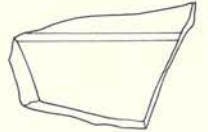
637



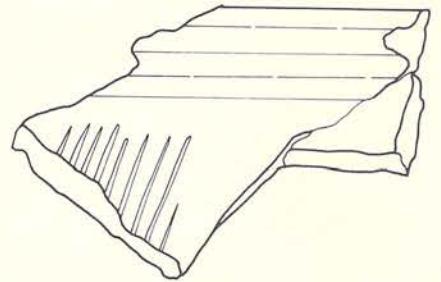
639



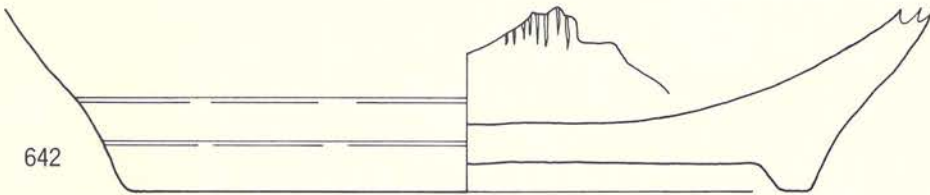
638



640



641

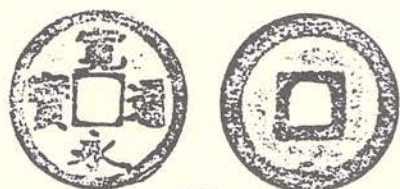


642

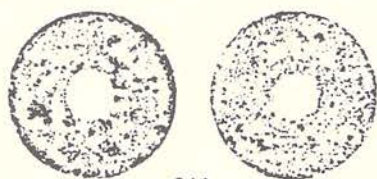
S-2/3

第89図 遺構外の遺物 ②

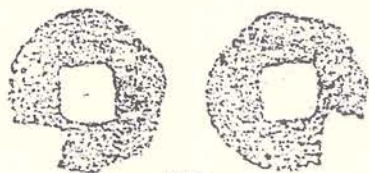




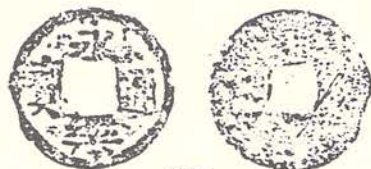
643



644



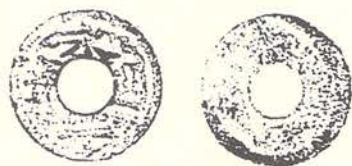
645



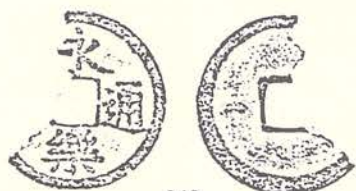
646



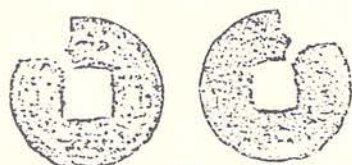
647



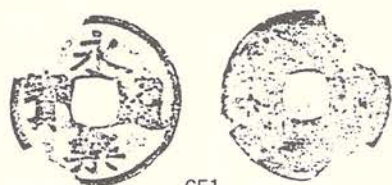
648



649



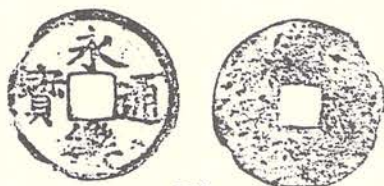
650



651



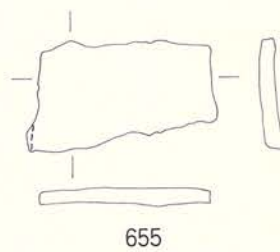
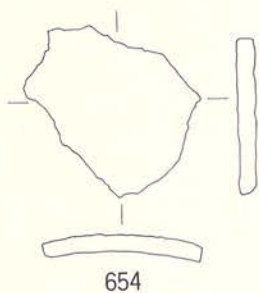
652



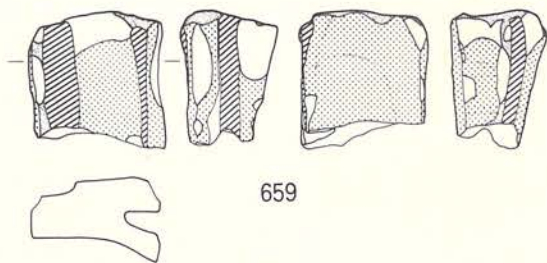
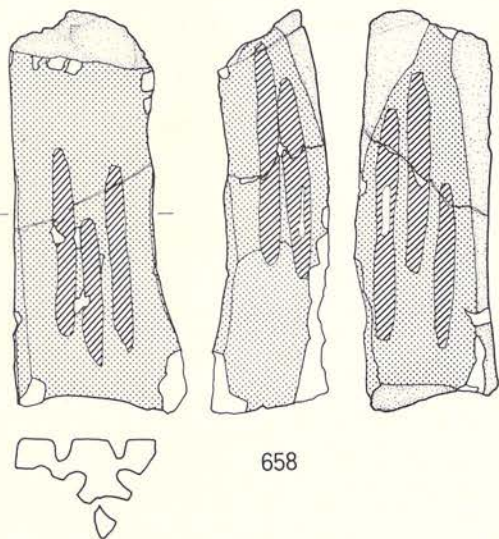
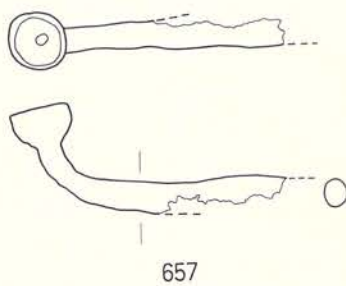
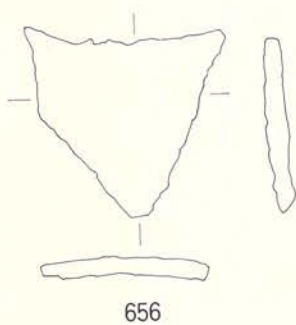
653

S=1/1

第90図 遺構外の遺物 ㉓

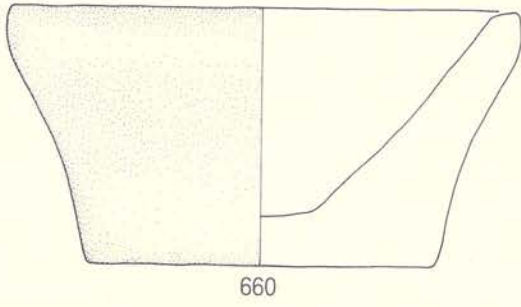


S=1/2



S=1/3

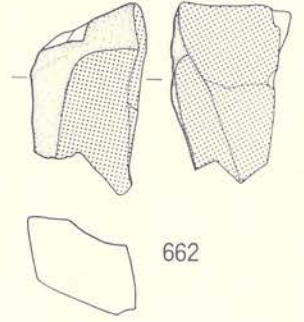
第91図 遺構外の遺物 ②4



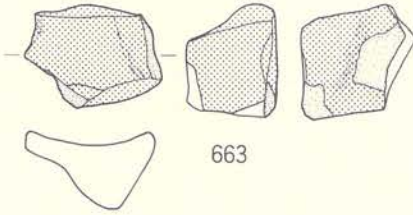
660



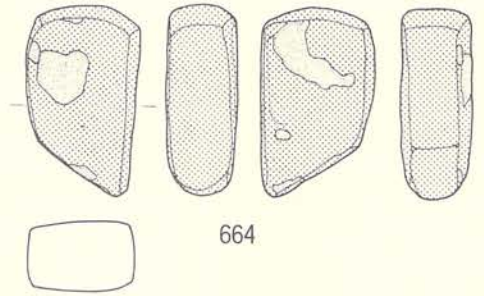
661



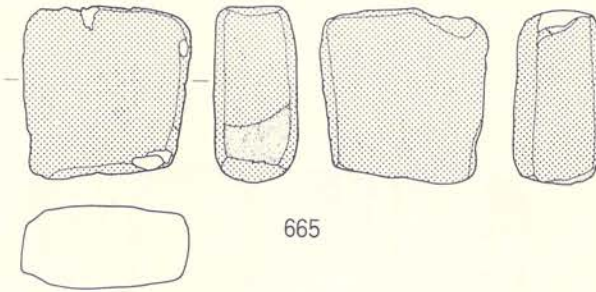
662



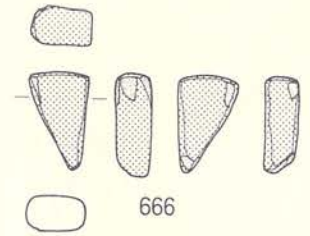
663



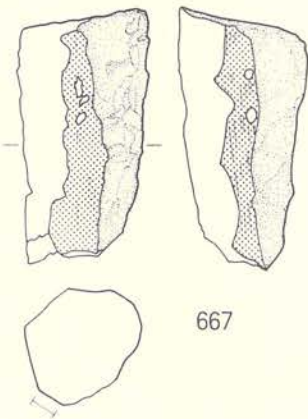
664



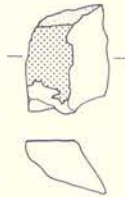
665



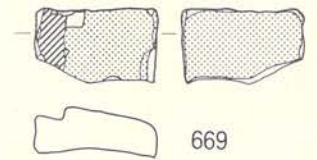
666



667



668



669

660 S=1/6  
661~669 S=1/3

第92図 遺構外の遺物 ②5

## V. ま と め

### 1. 遺構について

#### (1) 竪穴住居跡

##### ① 古 代

検出されたのは1棟だけである。出土遺物から、平安時代に比定されよう。本住居跡は、全体的に遺存の状態が悪く、全容の把握は困難であった。しかし、その中で、特徴的なことの1つは、カマドが長い「煙道部」を持たないことである。全体の削平が著しいので、検出できなかったことも考えられるが、煙道底部の立ち上がりが急であることから、「煙道」を持たなかったと考えられる。このカマドは、東壁に構築されている。

次に、柱穴の配置に特徴がみられる。柱穴は、壁際に配置されているが、カマドの構築されている東壁に相対する壁（つまり西壁）には皆無である。これが、上屋構造を推測させる材料となるが、現段階では、具体的には想定することはできない。

柱穴そのものは、相対的に小型である。穴を穿って柱を据えたというよりは、杭状の柱を打込んで建てた可能性が考えられる。

床には、一部に貼床が施されていた。土間=床として使用されたことを示していると思われる。

なお、多くの例からみて単独の住居跡の検出は稀である、このことから本遺跡の地形等からみると、住居跡群は、尾根部の奥に沿って西方の西側段丘ペリないしは尾根の鞍部(調査区外)へと広がって存在する可能性もある。

##### ② 中・近世

計20棟が検出された。これらを次の観点から簡単にまとめる。

###### 〈平面形〉

「張出し部」をもつものもあり、いちがいに言えないが、いずれも方形を基本にしている。これらを細分すると、長方形と正方形ないしはそれに近いものの二者になる。

○長方形を基本とするもの II C11、II C13-1・2、II D12-2、III F11・12、III H12、III I13の各住居跡。

○正方形を基本とするもの II D13・14、II E11住居跡等。

更に、前者を細分すると、II C11、II13-1・2、II D12住居跡群とIII F11・12、III H12、

III I 13住居跡群とに分けられる。このことは、規模、占地とのかかわりが考えられるので細部は後述する。また、「張出し部」をもつものはすべて長方形を基本とする住居跡群に含まれる。

#### 〈埋 土〉

埋土は、断面図でみるかぎり、単層のもの(II D 13住居跡等)、複数以上の層位からなるものの二者がある。しかし、これらには、共通して地山小土塊、炭化材小片、焼土塊・焼土粒が混入している。このことは、埋土は、明らかに人為的に埋戻されたものであることを示しているといえよう。II G 11住居跡では、床面にかなりの炭化材片がみられ、かすかではあるが、火熱を受けた痕跡がみられることから、焼失した可能性もある。しかし、埋土の混入物に炭化材や焼土が多量にみられることから、埋戻しも考えられ、その場合、床面の火熱の痕跡や炭化材の存在は、この住居跡が工房跡であったことを示すものであろうか。

#### 〈規 模〉

相対的な比較ではあるが、便宜上次のように分けられる。

○大型住居跡 II C 11、II C 13—1・2、II D 12—1・2住居跡

○小型住居跡 II D 13、II D 14等上記以外の住居跡

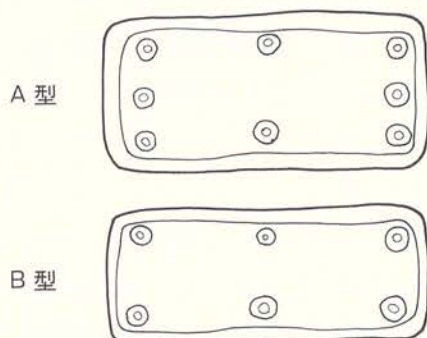
これらを壁高の点からみると、それぞれに高低の差がみられるが、この差異は、小型住居跡群で著しい。これは、占地にかかわるといえる。つまり、II D 13、II F 10住居跡等のように尾根部の平坦地(尾根の鞍部)に占地するものは、比較的壁が高く、II D 14、II F 14住居跡のように、前者の周辺の緩斜面上に占地するものは壁が低い。著しいものでは、II F 14住居跡のように壁の一部が消失したものもある。しかし、これらは、元来、壁高に著しい差異があったのではなく、斜面上に立地するため、自然に削平された結果であろう。

#### 〈柱 穴〉

検出されたすべての住居跡から柱穴が確認されている。これらの柱穴は、相対的に大・小に分けられる。そして、大型の柱穴をもつものは、住居の規模も大型である。さらに、大型の柱穴は、掘立柱建物のもと思われる多数の柱穴群と比しても大差ない規模をもつ。

ここでは、小型の柱穴について若干述べる。まず、柱穴は、II H 12住居跡等のように若干の例を除くと、壁際ないしは壁に接するように配置されている。また、これらの柱穴の中には、底面が必ずしも平坦ではないものもある。これらに建てられた柱は穴を穿って据えたというよりも、杭状の柱を打込んだと考える方が妥当であろう。

次に、柱穴配置の典型を示すと次の二つがある。



このうち、B型のIID14住居跡の柱穴は、床面に対して垂直に掘られたのではなく、底部が住居の外方に向かって掘られている。したがって、これに柱を据えたと仮定すると、「X」型に柱が立つことになる。この事実は、上屋構造のあり方を想定し得るであろう。

柱穴の埋土は埋まりきれず、底部付近が空洞になっていたものもかなりみられた。この現象は、柱穴自身が小さいために起こったものであろうか。また、柱は、抜取った可能性もある。それは、柱を据えたまま埋戻すことは不自然なことからもいえよう。

#### 〈住居構造〉

20棟中、「張出し部」をもつものが4棟ある。

- 大型住居跡    II C13—2 住居跡
- 小型住居跡    III F11、III H12、III I 13住居跡

このうち、立地する地形、住居跡の形状、柱穴配置からみると、出入口施設と明確に判断できるものは、大型のII C13—2と小型のIII H12両住居跡である。この「張出し部」は、掘込みが入口で浅く、奥ほど深い。つまり、床面は斜面を呈している。また、III H12住居跡では斜面下位、II C13—2住居跡では、平坦地ではあるが、斜面下位に近い南東部分に付設してある。このことは、「張出し部」の底面が斜面を呈していることと合わせ、出入口としての機能をもたせて不自然ではないと思われる。一方、他の2棟では、斜面上位ないしは斜面上位に近い部分に張出している。このことは、必然的に壁が高くなり、出入口としての機能を持たせるには不自然に思われ、これらの「張出し部」は、他の機能をもったことも考えられる。

なお、地元民の話によると、今次大戦後迄当町では、漆器製作の工房は、竪穴式の「小屋」も使用され、しかもこの小屋は「張出し部」をもち、ここに精製した漆の液を貯蔵する樽を置いたという。

次に、III F11、III F12両住居跡からは、柱穴が大・小対で検出されている。これについて、先には、板張り床の可能性もあると述べたが、他に、主柱となったであろう細い柱を「補強」するために埋設した「副柱」的性格をもったものの柱穴と考えることも可能である。しかし、

どちらにせよ、確証はなく、あくまでも推定の域を出るものではない。

Ⅲ I 13住居跡の壁から確認された「短柵」形の圧痕は、工具痕であるならば住居が存続した間に壁の崩落等によりかなりその痕跡が不明瞭になると思われるが、それがいないことから、壁の崩壊防止のために「矢板」を付設した圧痕と考えるのが妥当であろう。

#### 〈占地及び住居の向き〉

次に、占地（立地）あるいは桁行方向（長軸方向）で概観する。まず、ほとんどの住居跡は、尾根部の平坦地から検出されている。そして、大型のものは尾根の端部に集中する。それに対して、小型のものでは、尾根の端部と奥部に集中する。尾根の中央部からは、住居跡が検出されなかったが、住居跡が存在しなかったとはいいきれない。地形的には、調査区外には存在することも予想される。

これらの向き（桁行方向）は、大型ではすべて尾根に直交し、ほぼ東一西に向く。それに対して、小型では、尾根に直交するものとほぼ平行するものがある。

##### ○尾根に直交するもの

大型住居跡 Ⅱ C 11、Ⅱ C 13—1・2、Ⅱ D 12—1・2 各住居跡

小型住居跡 Ⅱ D 13、Ⅱ F 13—2、Ⅲ F 11、Ⅲ F 12、Ⅲ H 12 各住居跡

##### ○尾根に平行するもの

大型住居跡 なし

小型住居跡 Ⅱ D 10、Ⅱ D 14、Ⅱ E 11、Ⅱ F 10、Ⅱ F 13—1、Ⅱ F 14、Ⅱ G 11、  
Ⅱ H 11—1・2、Ⅲ I 13 各住居跡

#### 〈時 期〉

重複する住居跡は、8棟ある。このうち、特に、Ⅱ C 13—1・2、Ⅱ D 12—1・2住居跡の4棟は、それぞれ複雑に重複している。また、Ⅱ H 11—1住居跡は、Ⅱ G 11、Ⅱ H 11—2両住居跡と重複している。これらは、掘立柱建物跡を構成すると思われる多くの柱穴とも重複する。傾向としては、大型の住居跡間、小型住居跡間の重複もみられるので、その時期は数期にわたると思われる。

これら各住居跡間の新旧関係は前述したとおりであるが、時期については、出土した陶磁器や古銭などから、15世紀末から近世とはいえるものの、詳細は不明である。

#### 〈機 能〉

まず、大型住居跡については、その規模から、人間が常住するとしても不自然ではない。しかし、小型住居跡については、平面的規模、柱穴から想定される上屋構造を考えると、人間が日常の生活を営むにはいかにも小さい。ただ、大型・小型両住居跡から出土する遺物には共通するものが多く、規模からのみその性格づけを明確にすることはできない。

したがって、ここでは、あくまでも「大型住居跡は母屋兼作業場の性格、小型住居跡は作業場の性格」をもつ可能性があるとするに留める。

## (2) 掘立柱建物跡および柱穴群

掘立柱建物跡は、わずかに1棟の検出である。しかし、他に掘立柱建物跡を構成すると思われる柱穴が約400個検出された。

まず、掘立柱建物跡について述べる。この建物跡は、桁行4間梁行2間で、桁行柱筋がほぼ北北東—南南東である。柱穴掘り方の芯々距離でみると（据え方は確認されなかった）桁行北側柱筋計6.47m、同じく南側柱筋6.51m、また、梁行は、西側計3.95m、東側4.07mである。しかし、これらをそれぞれの間尺でみると数値にバラつきがみられる。これを平均した間尺でみると、桁行4.9尺（1.62m）、梁行6.1尺（2.00m）となる。中・近世にみられる一般的な間尺に対照させると本建物跡の間尺はいかにも狭いといえる。

次に、約400個に近い柱穴群について簡単に触れる。これらの柱穴は、占地的にみると、尾根部の先端に近い平坦地に集中しているといえる。また、尾根部の奥からも若干検出されているが、先端部同様、尾根の鞍部に相当する平坦地ないしはその周辺の緩斜面に占地する。そして、既述のようにこれらの柱穴群は、調査区外の北へもかなりの数で広がり、実際は、相当数の掘立柱建物が建つと思われる。しかし、現段階では、いくつかの「柱筋」が確認されたに留まり、全容を把握するには至っていない。ただ、これだけ集中、重複して検出されたということは、建替えが何度も行われ、相当の期間存続したことを示していることになる。

これらの柱穴には、規模的にみると多種多様である。このことは、II C11掘立柱建物跡の例からみると、建物自身の規模や機能に深くかかわっていることが予想される。つまり、大規模な柱穴をもつ建物は規模も大きく、「母屋」的性格をもったのではないかと思われる。

柱穴からは、前述のように、陶磁器・砥石・古銭・鉄製品等が出土している。その中で、日用雑器とはいえない天目茶碗や漆器製作にかかわる砥石等が発見されたことは、竪穴住居跡や掘立柱建物から出土した武具である小札や弾丸と考え合わせて、この遺跡の性格を示す一つの要素であると考えられる。

## (3) 土 坑

計44基が検出された。このうち、西向き斜面部から検出されたのは、III D21土坑だけである。43基はいずれも尾根部から検出されたものである。

### 〈規 模〉

整理の目安として、開口部あるいは底部の長径によって分類すると、次のようになる。



- A. 開口部あるいは底部の長径が1 mを越えるもの 33基
- B. 開口部あるいは底部の長径が1 m未満のもの 10基
- C. 不明のもの 1基

さらに、長径が1 mを越えるものを細分すると、次のようになる。

○ 2 m以上のもの 8基 ○ 1.50～1.99 mのもの 7基 ○ 1.00～1.49 m 18基

#### 〈形状〉

平面形：不整を呈するものが多いが、I J 13-2 土坑を除くと、元来、円形を基本とする土坑で、不整なもの、他の遺構との重複、崩壊等により変形したものである。したがって、平面形からは、特徴的な差異はみられない。

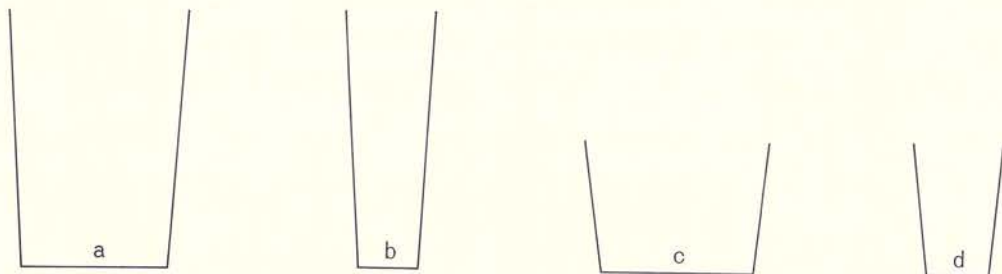
断面形：模式化すると次のように分類できる。

- A. いわゆるピーカー形を呈するもの 25基
- B. いわゆるフラスコ形を呈するもの 14基
- C. いわゆる浅皿形を呈するもの 2基
- D. その他 3基

ピーカー形を呈するもので、壁が直立するものではなく、すべて外傾して立つ。これらは、各次のように細分できる。

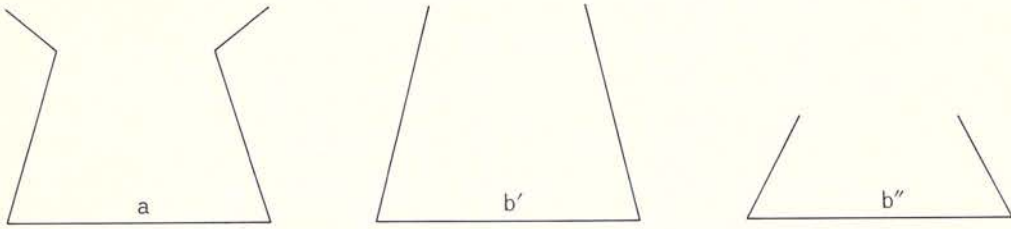
#### A. ピーカー形

- a. 掘込みが深く、径が大きいもの I I 12、II A 14土坑等
- b. 掘込みは深い、径が小さいもの II I 12-2 土坑等
- c. 掘込みが浅く、径が大きいもの III A 11-1 土坑等
- d. 掘込みが浅く、径も小さいもの II H 14-2、II I 14-2 土坑等



#### B. フラスコ形

- a. いわゆる「頸部」をもち、袋状を呈するもの IID 11土坑等
- b. 「頸部」をもたないもの。さらに以下に細分できる。
  - b'. 掘込みの深いもの II F 15土坑等
  - b''. 掘込みの浅いもの II 16土坑等



### 〈埋 土〉

埋没のしかたによって分けると、次のようになる。

- |                   |     |
|-------------------|-----|
| A. 埋戻されたと思われるもの   | 28基 |
| B. 自然に埋没したと思われるもの | 9基  |
| C. 不明なもの          | 7基  |

Aのうち埋戻されたという確証を得られたものは少なく、調査過程において、堆積の状況、混入物の点からその可能性があると思われるものも含まれている。

Bにおいても同様である。

なお、I I 14、I J 12、I J 13-1・2、II A 14、II B 13、II G 12、II G 13各土坑から十和田a火山灰が確認されている。

### 〈占 地〉

地形との関連で観察したが、尾根の鞍部の平坦地に多く位置しているという点以外に、特に顕著な特徴はない。その中で、十和田a火山灰を含む、I I 14、I J 12、I J 13-1・2、II A 14、II B 13の6基は、尾根の先端部に集中することと合わせて、時期・機能を同じくするものであろう。

## 2. 遺物について

ここでは、出土した遺物中、原始・古代については土器、中近世については陶磁器を中心に簡単にまとめてみる。

### (1) 土 器

#### ① 原始時代

前述のとおり、文様・胎土・器形等を考慮しながらI～VII群に分類し、さらに、類によって細分した。

第I群土器は、早期に比定したものである。そのうち、1類については、沈線、貝殻腹縁文、および円形刺突文によって幾何学的文様を呈することおよび波状口縁である等から物見台式土器と共通する特徴をもつ。2類は一応早期を想定したが、底部だけで全容は不明である。器表

の尖底部まで縄文が付されていることからみると前期に下がる可能性もある。

第II群土器は、いわゆる繊維土器群で前期に属する。

第III群土器は後期に比定されると思われるものを入れた。そのうち1類は、沈線による曲線文が器表全体に施されている。この曲線の中には擦り消したと思われる箇所もあるが、全体的には描いたままの状況である。とすれば、後期前葉にあたる十腰内Iあたりに相当すると思われる。2・3類は、一応一括して後期に入れたが、これらは、当期以外にもみられる施文形式であり、後期と断定はできないがこの時期のものが中心であろう。3類は、いわゆる櫛歯状の曲線条線文が付されたものであるが、上斗内III遺跡（岩手・西根町）出土土器中にも酷似するものがある。

第V群土器は、いわゆる粗製土器で時期を比定することはできない。

第VI群土器は、弥生時代に比定しておいた。1類の中には晩期末の要素も伺えるが、2類では、谷起島遺跡（岩手・一関市）出土のものに酷似する。3類は、細い擦糸文の特徴から2類よりは下がる一群であろう。

## ② 古代

IV F 15住居跡から出土したものがほとんどであるが、甕の共伴がなく、いずれも坏である。いずれも、ロクロ成形されており、底部は無調整である。このうち、1点だけ大型で破損状況から高台をもつものがある。なお、須恵器の共伴もない。坏そのものの成形、調整法、器形等からみると、9世紀末～10世紀代に比定される可能性が強い。

## (2) 陶磁器

陶・磁の割合で見ると磁器が多い。器種的には皿が圧倒的に多い。また、皿では白磁・染付・灰釉いずれもみられる。前述したとおり、他に壺、天目茶碗等もみられる。

産地、時期の面からみると、最も時期的に古いものとしては15世紀末頃に比定される信楽系の壺（II C 13住）、明産の染付皿（III B 12住状遺構・柱穴群等）、明産の白磁皿（II C 11掘立柱建物跡）等がみられる。逆に最も新しいものでは、17世紀に比定される美濃の灰釉皿（柱穴群）、瀬戸ないしは美濃の灰釉壺（柱穴群）等がみられる。また、II E 10-1 柱穴から出土した美濃の天目茶碗は17世紀前半（寛永？）に比定される。産地では前述のほかに唐津系の灰釉皿も出土している。製作年代の流れを概観すると15世紀末から17世紀にかけて網羅されて出土しているが、最も多いものは16世紀代のものである。

## (3) その他

他に、本遺跡から出土した遺物の中で注目されるものとして、澆殻・手形・砥石であろう。

第5表 住居跡等出土遺物

本書掲載図版		遺構名	遺物の時期	規模		出土遺物	重複関係	新 当該遺構より新しい 旧 当該遺構より古い	備考
遺構	遺物			軸長m	壁高cm				
第9図	10図	IV F 15 竪穴住居跡	9C末 16C	3.4×2.7	20±	土師器(坏・甕)			
11	27	II C 11 竪穴住居跡		5.6×5.5	16~30	手型・石製鉢	II C 11 掘立柱建物跡(新)、II C 11・II D 11 土坑(旧)		
12	27・28	II C 13—1 竪穴住居跡	15C末 16C	6.7×4.0	100~120	陶磁器・古銭・鉄器・鉄製品・砥石・漉殻	II D 13 住・柱穴(新)、II C 13—2 住(旧)		
12	—	II C 13—2 竪穴住居跡		6.9×6.9	30±		II D 13 住・II C 13—1 住・柱穴(新)・II D 13 土坑(旧)		
13	29	II D 10 竪穴住居跡	16C初	2.6×?	50±	陶磁器・古銭・鉄製品・砥石	II C 11 掘立柱建物跡・柱穴(新)		
14	29~31	II D 12—1 竪穴住居跡		9.8×6.0	20±	陶磁器・鉄器・鉄製品・銅製品・砥石・手形	II C 13—1・2 住・II D 12—2 住・柱穴(新)、II D 12・13・II E 12 土坑(旧)		
14	31	II D 12—2 竪穴住居跡		(5.3×5.3)	20±	磁器・古銭・鉄器・鉄製品・手形	II C 13—1・2 住・柱穴(新)、II D 12—1 住(旧)		
15	32	II D 13 竪穴住居跡		3.0×2.5	70±	陶磁器・鉄製品・漉殻	柱穴(新)、II C 13—1・2 住(旧)		
15	32	II D 14 竪穴住居跡	16C末	2.0×1.9	最高19	陶磁器・漉殻	II D 15 土坑(旧)		
16	32	II E 11 竪穴住居跡		2.8×2.3	50±	古銭・鉄製品・漉殻・穀物	柱穴(新・旧)		
16	33~35	II F 10 竪穴住居跡	16C末	2.3×2.0	50±	陶磁器・古銭・鉄製品・銅製品・砥石・手形	柱穴(新・旧)		
17	35・36	II F 13—1 竪穴住居跡		1.8×(1.7)	最高20	陶磁器・砥石	柱穴(新・旧)		
17	—	II F 13—2 竪穴住居跡		2.1×1.7	25~30		柱穴(新)		
17	36	II F 14 竪穴住居跡		2.2×?	最高10	古銭	II F 14 土坑(旧)		
18	36	II G 11 竪穴住居跡	16C末?	3.0×(2.9)	40±	陶器・古銭・鉄器	II H 11—1 住・柱穴(新)、柱穴(旧)		
18	36	II H 11—1 竪穴住居跡		3.4×2.9	70±	陶磁器・古銭・鉄器・鉄製品・漉殻・穀物	柱穴(新)、II G 11・II H 11—2 住・柱穴(旧)		
18	36	II H 11—2 竪穴住居跡	16C末?	3.0×2.6	50±	陶磁器・鉄器・鉄製品・漉殻	II H 11—1 住・柱穴(新)、柱穴(旧)		
19	37	III F 11 竪穴住居跡		3.0×2.3	30~55	鉄製品・砥石・漉殻・穀物			
20	37	III F 12 竪穴住居跡		2.5×2.5	20~50	砥石・漉殻・穀物			
21	37	III H 12 竪穴住居跡		2.6×1.9	20~60	古銭			
22	37	III I 13 竪穴住居跡	近世初	3.2×2.4	25~45	古銭			
23	37・38	II C 11 掘立柱建物跡				陶磁器・古銭・弾丸(鉛製)・砥石	II C 11 住・II D 10 住・II C 11 土坑・II D 11 土坑(旧)		
26	38~40	III B 12 住居跡状遺構		5.4×3.5	?	陶磁器・古銭・鉄器・鉄製品・石臼・砥石・漉殻			
26	—	III G 12 住居跡状遺構		2.7×2.4	10~20				

遺物の時期：III I 13 住は古銭、他は陶・磁を参考にしたものである。

これらは、いずれも漆器製作にかかわる道具である。

### 3. 遺跡の性格について

今回発掘調査された五庵II遺跡について、簡単にふりかえってみる。まず、時期的にみると、縄文時代早期から、一時期は欠けるものの、近世初期に至るまでの多数の遺構・遺物が発掘された。しかし、地形的には調査地域は遺跡全体からみると一部である。この遺跡は、まだまだ広がりを見せるはずである。したがって、遺跡全体の性格なり機能の全容を解明することはできなかった。しかし、多種多様、多時期にわたる遺構・遺物を調査できたこと、わけても、天目茶碗をはじめとする陶磁器類（国産・舶載）の出土、漆器製作にかかわる漉殻、手形、砥石等の出土、武具である小札や弾丸の出土、そして「五庵」という限定された地域の地名などから、本遺跡が館跡にかかわりのある地域であったのか、「御庵」のあったところであったのか、漆製作の工房集落であったのか、また、そのすべてであったのか、種々考えることはできるが、そのどれであったのか断定するまでに至らない。いずれにせよ、当地域の歴史解明の資料としては貴重なものと思われる。

第6表 土坑一覧

No	土坑名	平面形 開口部	断面形	規 模			重 複 関 係	埋没の状況	出土遺物	時 代	備 考
				開口部(m)	底 部(m)	深 さ(m)					
1	I I 14土坑	凹 形	ビーカー形	2.43×2.36	2.00×1.80	1.14		自然埋没	土器	縄文・代	
2	I J 12土坑	凹 形	ビーカー形	2.77×2.70	1.81×1.57	1.44		自然埋没	土器・石器		
3	I J 13-1土坑	方 形	ビーカー形	3.06×2.88	2.36×2.26	1.17		自然埋没		古 代	
4	I J 13-2土坑	凹 形	ビーカー形	2.38×2.36	1.78×1.60	1.11		自然埋没	土器	縄文・代	
5	II A 14土坑	凹 形	ビーカー形	2.16×2.01	1.68×1.64	0.97		自然埋没	土器	縄文・弥生	
6	II B 13土坑	凹 形	ビーカー形	1.76×1.76	1.33×1.26	0.86		自然埋没	土器	縄 文	
7	II C 11土坑	楕 円 形	浅 皿 形	1.28×0.86	0.98×0.52	0.27	II C 11住・柱穴(新)	埋 戻 し			
8	II D 11土坑	不 整 円 形	フラスコ形	1.40×1.26	1.25×1.15	0.48	II C 13-2住(新)	埋 戻 し	土器	縄 文	頸部をもつ
9	II D 12土坑	不 整 円 形	ビーカー形	0.90×0.85	0.65×0.62	0.61	II D 12-1・2住(新)	不 明	土器	縄 文	
10	II D 13土坑	不 整 円 形	フラスコ形	1.42×1.30	1.26×1.23	0.73	II C 13-1住・柱穴(新)	不 明	土器	縄 文	
11	II D 15土坑	凹 形	浅 皿 形	1.33×1.20	1.15×1.08	0.34	II D 14住(新)	自然埋没			
12	II D 16土坑	楕 円 形	ビーカー形	1.72×1.51	1.56×1.42	0.27		不 明	石器	縄 文	
13	II E 12-1土坑	不 整 円 形	ビーカー形	0.93×0.82	0.75×0.61	0.62	II D 12-1・2住(新)	自然埋没	土器	縄 文	
14	II E 12-2土坑	凹 形	不 整 形	1.24×1.22	1.03×1.00	0.33	柱穴(新)	埋 戻 し			
15	II F 12-1土坑	不 整 円 形	フラスコ形	1.34×1.31	1.27×1.23	0.45	柱穴(新)	埋 戻 し	土器	縄 文	副穴をもつ
16	II F 12-2土坑	不 整 楕 円 形	不 整 形	0.94×0.80	0.64×0.60	0.50	柱穴(新)	埋 戻 し			
17	II F 14土坑	凹 形	フラスコ形	1.60×1.56	1.74×1.68	1.25	II F 14住(新)	埋 戻 し	土器	縄 文	副穴をもつ
18	II F 15土坑	凹 形	フラスコ形	0.96×0.93	1.05×1.03	0.87		埋 戻 し	土器・石器	縄 文	副穴をもつ
19	II F 16土坑	不 整 円 形	フラスコ形	1.37×1.30	1.33×1.26	0.45		埋 戻 し	土器	縄 文	副穴をもつ
20	II G 12土坑	楕 円 形	ビーカー形	1.36×1.17	1.22×1.06	0.25	柱穴(新)	不 明	土器	弥 生	
21	II G 13土坑	凹 形	ビーカー形	2.16×2.14	1.90×1.89	0.69	柱穴(新)	埋 戻 し	土器	弥 生	
22	II G 14-1土坑	不 整 円 形	フラスコ形	1.69×1.65	1.68×1.65	0.53	柱穴(新・旧)	埋 戻 し			
23	II G 14-2土坑	凹 形	フラスコ形	1.44×1.32	1.39×1.36	0.45	柱穴(新)	埋 戻 し			
24	II H 13土坑	不 整 円 形	フラスコ形	1.52×1.33	1.58×1.52	0.48		埋 戻 し	土器	縄 文	
25	II H 14-1土坑	凹 形	ビーカー形	1.21×?	1.15×?	0.09		不 明			削平
26	II H 14-2土坑	凹 形	ビーカー形	0.76×0.70	0.66×0.62	0.25		埋 戻 し			
27	II I 12-1土坑	不 整 円 形	フラスコ形	1.28×1.11	1.45×1.38	0.75		埋 戻 し	土器	縄 文	副穴をもつ
28	II I 12-2土坑	不 整 円 形	ビーカー形	1.00×0.82	0.70×0.58	0.87		埋 戻 し			
29	II I 13土坑	不 整 円 形	フラスコ形	1.91×1.43	2.05×1.88	0.70		埋 戻 し			削平
30	II I 14-1土坑	凹 形	不 明	1.45×?	1.31×?	0.11		埋 戻 し			
31	II I 14-2土坑	不 整 円 形	ビーカー形	0.84×0.76	0.62×0.55	0.23		埋 戻 し			
32	II J 12-1土坑	不 整 円 形	フラスコ形	1.30×1.12	1.35×1.13	0.39		埋 戻 し	土器・石器	縄 文	
33	II J 12-2土坑	不 整 円 形	フラスコ形	1.79×1.63	1.93×1.68	0.26		埋 戻 し	土器	縄 文	
34	II J 13土坑	凹 形	フラスコ形	1.84×1.82	1.95×1.94	0.43	柱穴(新)	埋 戻 し	石器	縄 文	
35	II J 14土坑	不 整 円 形	ビーカー形	0.86×0.74	0.68×?	0.22		埋 戻 し			
36	III A 11-1土坑	凹 形	ビーカー形	2.04×1.87	1.97×1.76	0.32		埋 戻 し			
37	III A 11-2土坑	不 整 円 形	ビーカー形	0.70×0.66	0.53×?	0.55		埋 戻 し			
38	III A 12土坑	不 整 円 形	ビーカー形	0.74×0.73	0.50×0.50	0.50		埋 戻 し			
39	III C 11-1土坑	不 整 円 形	ビーカー形	1.36×?	1.29×?	0.16		埋 戻 し			削平
40	III C 11-2土坑	不 整 円 形	ビーカー形	0.65×0.58	0.56×0.45	0.36		埋 戻 し			
41	III D 21土坑	凹 形	ビーカー形	0.96×0.82	0.88×0.84	0.16		不 明	土器	弥 生	
42	IV C 13-1土坑	凹 形	ビーカー形	1.07×1.06	0.98×0.92	0.21		埋 戻 し			
43	IV C 13-2土坑	不 整 円 形	ビーカー形	1.11×0.97	0.98×0.89	0.24		埋 戻 し			
44	IV D 13土坑	不 整 円 形	ビーカー形	0.82×0.80	0.62×0.50	0.44		自然埋没			

※時代は遺物の比定時期

第7表 石器・石製品一覧

原始

登録番号	本書掲載 遺物番号	器 種	出土位置	法 量				石 質	産 地	出土状況	備 考
				縦cm	横cm	厚さcm	重さg				
1	349	石 鏃	I J 10表土	2.6?	2.0	0.4	3.1	玻離質流紋岩	北上山地	表土	欠損
2	350	石 鏃	II B 12表土	2.2	1.7	0.5	1.8	粘板岩	奥羽山地	表土	
3	351	石 鏃	表 土	2.1	1.7	0.5	1.4	玻離質流紋岩	奥羽山地	表土	
4	352	石 鏃	II C 13表土	1.8	1.4	0.3	0.5	玻離質流紋岩	奥羽山地	表土	
5	353	石 鏃	表 土	2.6	1.5	0.5	1.4	玻離質流紋岩	奥羽山地	表土	
6	354	石 鏃	表 採	2.5?	1.1	0.6	1.4?	玻離質流紋岩	奥羽山地	表採	欠損
7	355	石 鏃	(II C 11掘立柱)	2.0	1.4	0.4	0.8	玻離質流紋岩	奥羽山地	(埋土)	
8	356	石 鏃	(II C 11掘立柱)	3.5	1.6	0.3	2.0	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	(埋土)	
9	357	石 槍	IV D 16表土	9.2	3.5	1.2	40.9	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地	表土	
10	238	石 匙	I J 12土坑	6.1	2.1	0.3	6.4	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	埋土	
11	358	石 匙	II A 12表土	5.1	1.7	0.4	3.2	玻離質流紋岩	奥羽山地	表土	
12	359	石 匙	II B 18表土	6.5	2.1	0.6	8.6	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	
13	361	石 匙	II C 12表土	6.5	2.5	0.5	7.0	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	
14	360	石 匙	表 土	4.0	1.6	0.6	4.2	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	
15	362	石 匙	III G 13表土	5.4	2.5	0.5	7.1	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	
16	363	石 匙	IV D 16表土	7.5	2.2	1.0	25.7	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	
17	365	石 匙	表 土	3.4	5.2	0.6	11.2	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	
18	364	石 匙	(II C 13住)	5.7	2.1	0.7	9.6	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	(埋土)	
19	366	石 匙	(II D 14住)	5.7	2.6	0.5	11.6	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地	(埋土)	
20	368	石 匙	I J 14表土	3.6	1.6	0.3	1.5	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	
21	367	石 錐	II D 10表土	3.2?	2.0	0.3	3.2?	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	欠損
22	370	石 篋	表 土	8.6	4.6	1.6	80.0	チャート質粘板岩	北上山地	表土	
23	369	石 篋	I J 14表土	7.0	4.0	1.0	48.6	粘板岩	北上山地	表土	
24	371	搔・削器	II A 18表土	6.4	3.9	1.5	36.1	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地	表土	
25	372	搔・削器	I J 14表土	4.3?	4.1	1.3	33.6?	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地	表土	欠損
26	377	搔・削器	II J 14表土	5.7	3.3	1.3	27.4	玻離質流紋岩	奥羽山地	表土	
27	373	搔・削器	表 土	5.2	3.4	1.3	26.0	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地	表土	
28	376	搔・削器	表 土	5.0	2.8	0.9	12.4	玻離質流紋岩	奥羽山地	表土	
29	374	搔・削器	表 土	5.8	4.5	0.9	23.9	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	
30	379	搔・削器	(II D 14住)	4.8	3.1	0.6	12.6	チャート質粘板岩	北上山地	(埋土)	
31	378	搔・削器	(II C 13-2住)	3.0	1.9	0.8	5.8	チャート質粘板岩	北上山地	(埋土)	
32	239	搔・削器	I J 12土坑	5.7	3.4	1.1	22.4	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	埋土	
33	344	搔・削器	II J 12-1土坑	4.0	5.9	0.8	17.7	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	埋土	
34	380	搔・削器	表 土	4.7	3.3	0.7	16.5	チャート質粘板岩	北上山地	表土	
35	381	搔・削器	II C 13表土	3.8?	1.6	0.4	3.8?	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	欠損
36	347	搔・削器	II J 13土坑	2.9?	2.1	0.5	3.1?	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	欠損
37	384	搔・削器	II C 13表土	3.9	3.1	0.8	12.3	玻離質流紋岩	奥羽山地	表土	
38	383	搔・削器	II E 11表土	5.0	3.4	0.5	9.8	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	
39	385	搔・削器	表 土	2.1?	3.9	0.6	4.9?	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	欠損
40	382	搔・削器	表 土	3.4	2.8	0.9	9.4	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	
41	386	搔・削器	表 土	4.9	2.6	0.6	9.2	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	
42	388	搔・削器	III C 12表土	6.0	4.2	1.0	32.3	凝灰質珪質泥岩	奥羽山地	表土	
43	387	搔・削器	(II C 13-1住)	5.4	3.5	1.1	24.1	チャート質粘板岩	北上山地	(埋土)	
44	283	磨製石斧	II D 16土坑	7.7	4.0	1.1	60.0	チャート質緑色凝灰岩	北上山地	埋土	
45	389	磨製石斧	表 土	13.8	6.1	2.7	310.0	チャート質緑色凝灰岩	北上山地	表土	

?は残存値

登録番号	本書掲載 遺物番号	器 種	出土位置	法 量				石 質	産 地	出土状況	備 考
				縦cm	横cm	厚さcm	重さg				
46	394	磨製石斧	I I 12 表土	13.0	5.0	2.5	290.0	硬 砂 岩	北上山地	表 土	
47	392	磨製石斧	I J 12 表土	9.1	4.9	1.6	130.0	凝 灰 質 硬 砂 岩	北上山地	表 土	
48	395	磨製石斧	IV D 16 表土	9.6?	4.1	1.4	100.0?	凝 灰 質 硬 砂 岩	北上山地	表 土	欠 損
49	393	磨製石斧	I J 12 表土	10.4	3.1	1.8	80.0	凝 灰 質 硬 砂 岩	北上山地	表 土	
50	391	磨製石斧	表 採	4.8	3.9	0.7	24.7	チャート質緑色凝灰岩	北上山地	表 採	
51	390	磨製石斧	II C 13 表土	6.6?	4.7	2.3	120.0?	凝 灰 質 硬 砂 岩	北上山地	表 土	欠 損
52	289	擦 石	II F 15 土坑	12.9	9.1	5.3	880.0	輝 石 安 山 岩	奥羽山地	埋 土	
53	396	擦 石	II J 13 土坑	14.6	5.8	7.4	920.0	輝 石 安 山 岩	奥羽山地	埋 土	
54	398	擦 石	II D 12 表土	3.5	3.2	2.2	2.2	玻 離 質 流 紋 岩	奥羽山地	表 土	
55	399	磨 石	表 採	10.7	4.7	6.2	400.0	硬 砂 岩	北上山地	表 採	
56	397	棒状擦石	表 土	15.0?	6.2	7.1	850.0?	輝 石 安 山 岩	奥羽山地	表 土	欠 損
57	400	棒状擦石	表 土	11.5?	7.5	7.6	750.0?	輝 石 安 山 岩	奥羽山地	表 土	欠 損
58	405	凹 石	表 土	14.8	6.2	5.3	720.0	輝 石 安 山 岩	奥羽山地	表 土	
59	402	棒状擦石	表 土	10.5	5.7	5.6?	440.0?	輝 石 安 山 岩	奥羽山地	表 土	欠 損
60	401	棒状擦石	表 土	9.7?	4.9	6.4	500.0?	輝 石 安 山 岩	奥羽山地	表 土	欠 損
61	404	棒状擦石	表 土	8.7?	3.7	2.6?	120.0?	輝 石 安 山 岩	奥羽山地	表 土	欠 損
62	403	棒状擦石	表 土	3.5?	5.4	5.6	100.0?	輝 石 安 山 岩	奥羽山地	表 土	欠 損
63	406	凹 石	表 土	15.4	6.0	3.4	460.0	輝 石 安 山 岩	奥羽山地	表 土	
64	407	凹 石	表 土	12.7	5.8	3.2	560.0	輝 石 安 山 岩	奥羽山地	表 土	
65	412	凹 石	表 土	11.4	5.3	3.4	300.0	輝 石 安 山 岩	奥羽山地	表 土	
66	410	台 石	II B 18 表土			3.4	560.0?	輝 石 安 山 岩	奥羽山地	表 土	欠 損
67	407	台 石	II E 11 表土			3.0	550.0?	輝 石 安 山 岩	奥羽山地	表 土	欠 損
68	413	石 棒	表 採	28.3?	5.4	3.9	1000.0?	凝 灰 質 粘 板 岩	北上山地	表 採	欠 損
69		没 石 棒	表 採	26.2	8.0	7.9	2660.0?	両 輝 石 安 山 岩	奥羽山地	表 採	欠 損
70	408	石 棒	表 採	22.0	6.4	6.5	1440.0?	両 輝 石 安 山 岩	奥羽山地	表 採	欠 損
71	411	独 鈷 石	表 土	7.9?	5.1	2.4	100.0?	硬 砂 岩	北上山地	表 土	欠 損
72	282	石 鏃	II E 16 土坑	2.2	0.4	1.6	0.7	玻 璃 質 流 紋 岩	奥羽山地	埋 土	

?は残存値



第8表 石器・石製品一覧

中・近世

登録番号	本書掲載遺物番号	器種	出土位置	法 量				石 質	産 地	出土状況	備 考
				縦cm	横cm	厚さcm	重さg				
73	7	石 鉢	II C 11住・表土	11.0	28.0	—	3620.0	両輝石安山岩	奥羽山地	床面・表採	欠損
74	7と接合	石 鉢	尾根部表採	14.6	29.3	—	7060.0	両輝石安山岩	奥羽山地	表採	欠損
75	7と接合	石 鉢	尾根部表採	8.9	4.3	3.4	100.0	両輝石安山岩	奥羽山地	表採	欠損
76	161	石 臼	III B 12住状	12.3			2440.0?	両輝石安山岩	奥羽山地	埋土	欠損
77	160	石 臼	III B 12住状	12.2	22.0?		5460.0?	両輝石安山岩	奥羽山地	埋土	欠損
78	21	砥石	III C 13-1住	7.5?	4.7?	2.2	100.0?	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地	埋土	
79	22	砥石	II C 13-1住	5.9	7.1	1.1	70.0	輝石安山岩	奥羽山地	埋土	欠損
80	42	砥石	II D 10住	4.5?	4.1	1.2	180.0?	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地	床面	欠損
81	54	砥石	II D 12-2住	2.9	3.5?	1.1	11.2?	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地	床面	欠損
82	53	砥石	II D 12-2住	2.4?	5.4?	5.7	56.2?	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地	床面	欠損
83	52	砥石	II D 12-1住	4.6?	6.3?	4.3	90.0?	斜長石流紋岩	奥羽山地(松尾)	埋土	欠損
84	114	砥石	II F 10住	7.2	7.6?	6.0	420.0?	斜長石流紋岩	奥羽山地(松尾)	埋土	
85	117	砥石	II F 13-1住	5.7	3.6	2.3	60.0	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地(松尾)	埋土	
86	118	砥石	II F 13-1住	5.1?	2.9?	3.2	54.7?	硬質泥岩	奥羽山地(松尾)	埋土	欠損
87	133	砥石	III F 11住	10.8?	3.6?	2.7	140.0?	斜長石流紋岩	奥羽山地(松尾)	埋土	欠損
88	135	砥石	III F 12住	5.3?	4.8?	2.2	70.0?	斜長石流紋岩	奥羽山地(松尾)	埋土	欠損
89	144	砥石	II C 11掘立柱	11.0?	4.1?	2.7	160.0?	輝石安山岩	奥羽山地	埋土	欠損
90	?	砥石?	II E 12柱穴1	6.9	6.7	3.3	57.9	軽石	稲庭	埋土	
91	218	砥石?	II F 11柱穴2	4.8	4.1	1.5	12.7	軽石	稲庭	埋土	
92	219	砥石	II F 11柱穴1	7.2?	4.8	2.7	120.0?	斜長石流紋岩	奥羽山地(松尾)	埋土	欠損
93	220	砥石	II F 13柱穴8	4.0	3.1	2.4	33.5	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地(松尾)	埋土	
94	221	砥石	II F 14柱穴3	6.0?	3.5	2.2	39.4?	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地(松尾)	埋土	欠損
95	222	砥石	II G 11柱穴20	4.7	3.9	2.2	34.5	輝石安山岩	奥羽山地	埋土	
96	223	砥石	II G 12柱穴4	8.7	8.6?	5.0	430.0?	斜長石流紋岩	奥羽山地(松尾)	埋土	欠損
97	225	砥石	II I 11柱穴10	15.3?	4.4	3.8	400.0?	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地	埋土	欠損
98	159	砥石	III B 12住状	4.9?	5.2?	4.2	100.0?	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地	埋土	欠損
99	156	砥石	III B 12住状	5.4?	3.5	2.5	56.5?	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地	埋土	欠損
100	224	砥石	II G 13柱穴1	7.3?	5.9	3.2	180.0?	斜長石流紋岩	奥羽山地	埋土	欠損
101	163	砥石	III B 12住状	2.3?	5.2	2.8	52.0?	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地	埋土	欠損
102	157	砥石	III B 12住状	5.8	5.3	2.8	140.0	斜長石流紋岩	奥羽山地	埋土	
103	158	砥石	III B 12住状	5.2?	3.9	2.3	43.1?	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地	埋土	欠損
104	658	砥石	II E 11表土	7.4	4.6	2.8	120.0	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地	表土	
105	658	砥石	II E 14表土	4.3?	3.4?	1.7	28.0?	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地	表土	欠損
106	658	砥石	II F 14表土	4.0	5.3	2.6	49.5	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地	表土	
107	658	砥石	II I 24表土	15.3	6.8	4.0	340.0	斜長石流紋岩	奥羽山地	表土	
108	659	砥石	III E 14表土	5.1?	5.2	3.0	100.0?	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地	表土	欠損
109		砥石	III E 14表土	3.0	4.9	1.7	34.6	輝石安山岩	奥羽山地	表土	
110		砥石	III E 14表土	9.6?	5.2?	4.7	300.0?	斜長石流紋岩	奥羽山地	表土	欠損
111		砥石	尾根部表土	7.6	4.5	3.0	140.0	斜長石流紋岩	奥羽山地	表土	
112		砥石	尾根部表土	4.1	2.4	1.4	13.4	未鑑定	—	表土	
113	162	球状石製品	III B 12住状	7.5	6.9	5.7	380.0	輝石安山岩	奥羽山地	埋土	

?は残存値

第9表 古銭一覽

遺物 登録番号	本書掲載 遺物番号	銭質	出土位置	年 号 法 量					背文	出土状況	備 考
				時代	初鋳年号	西 曆	直径mm	重量g			
1	9	永 楽 通 寶	II C13-1 住	明	永楽6年	1408年	23	1.9	無	床 面	
2	10	永 楽 通 寶	II C13-1 住	明	永楽6年	1408年	23	3.0	無	床 面	
3	11	永 楽 通 寶	II C13-1 住	明	永楽6年	1408年	22	—	無	床 面	
4	12	永 楽 通 寶	II C13-1 住	明	永楽6年	1408年	21	0.7	無	床 面	欠損
5	没	永 楽 通 寶	II C13-1 住	明	永楽6年	1408年	—	—	無	埋 土	欠損
6	13	永 楽 通 寶	II C13-1 住	明	永楽6年	1408年	—	—	無	埋 土	欠損
7	14	永 楽 通 寶	II C13-1 住	明	永楽6年	1408年	—	—	無	埋 土	細片
8	没	永 楽 通 寶	II C13-1 住	明	永楽6年	1408年	—	—	無	埋 土	細片
9	15	無 文	II C13-1 住	—	—	—	18	0.4	無	床 面	
10	16	無 文	II C13-1 住	—	—	—	16	0.3	無	埋 土	欠損
11	17	無 文	II C13-1 住	—	—	—	17	0.5	無	埋 土	欠損
12	没	不 明	II C13-1 住	—	—	—	—	—	無	埋 土	細片
13	没	不 明	II C13-1 住	—	—	—	—	—	無	埋 土	細片
14	40	永 楽 通 寶	II D 10 住	明	永楽6年	1408年	23	1.7	無	埋 土	
15	64	永 楽 通 寶	II D12-2 住	明	永楽6年	1408年	23	—	無	埋 土	欠損
16	65	永 楽 通 寶	II D12-2 住	明	永楽6年	1408年	20	—	無	床 面	欠損
17	66	無 文	II D12-2 住	—	—	—	21	1.3	無	埋 土	
18	67	無 文	II D12-2 住	—	—	—	18	0.6	無	埋 土	
19	68	無 文	II D12-2 住	—	—	—	18	—	無	埋 土	細片
20	89	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	23	1.1	無	埋 土	
21	90	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	21	0.9	無	埋 土	
22	91	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	22	1.5	無	埋 土	欠損
23	92	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	23	2.3	無	埋 土	
24	93	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	22	1.2	無	埋 土	
25	94	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	20	1.0	無	埋 土	
26	95	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	22	1.2	無	埋 土	
27	96	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	21	1.1	無	埋 土	
28	97	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	21	1.2	無	埋 土	
29	98	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	20	0.7	無	埋 土	
30	99	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	21	1.3	無	埋 土	欠損
31	100	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	21	0.8	無	埋 土	欠損
32	101	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	21	1.1	無	埋 土	欠損
33	102	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	20	—	無	埋 土	欠損
34	103	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	18	0.6	無	埋 土	欠損
35	104	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	22	—	無	埋 土	欠損
36	105	永 楽 通 寶	II F 10 住	明	永楽6年	1408年	20	—	無	埋 土	欠損
37	106	無 文	II F 10 住	—	—	—	18	0.7	無	埋 土	
38	107	無 文	II F 10 住	—	—	—	17	0.4	無	埋 土	
39	108	無 文	II F 10 住	—	—	—	18	0.6	無	埋 土	
40	没	無 文	II F 10 住	—	—	—	—	—	無	埋 土	細片
41	109	不 明	II F 10 住	—	—	—	21	0.8	無	埋 土	欠損
42	没	不 明	II F 10 住	—	—	—	—	—	無	埋 土	細片
43	没	不 明	II F 10 住	—	—	—	—	—	無	埋 土	細片
44	没	不 明	II F 10 住	—	—	—	—	—	無	埋 土	細片
45	82	永 楽 通 寶	II E 11 住	明	永楽6年	1408年	22	1.3	無	埋 土	
46	83	永 楽 通 寶	II E 11 住	明	永楽6年	1408年	23	—	無	埋 土	欠損
47	119	洪 武 通 寶	II F 14 住	明	洪武元年	1368年	19	0.9	無	埋 土	欠損
48	123	永 楽 通 寶	II G 11 住	明	永楽6年	1408年	22	1.2	無	床 面	
49	124	永 楽 通 寶	II G 11 住	明	永楽6年	1408年	21	1.5	無	埋 土	欠損
50	125	永 楽 通 寶	II H11-1 住	明	永楽6年	1408年	22	—	無	埋 土	欠損

遺物 登録番号	本書掲載 遺物番号	銭貨	出土位置	年 号 法 量					背文	出土状況	備 考
				時代	初鑄年号	西 曆	直径mm	重量g			
51	136	寛 楽 通 寶	III H 12 住	明	永楽6年	1408年	21	1.0	無	埋 土	
52	137	永楽通寶(古)	III I 13 住	江戸	寛永3年	1626年	24	2.8	無	埋 土	
53	142	永 楽 通 寶	II C 11掘立柱	明	永楽6年	1408年	24	3.0	無	埋 土	
54	143	無 文	II C 11掘立柱	—	—	—	18	—	無	埋 土	欠損
55	155	永 楽 通 寶	III B 12 住 状	明	永楽6年	1408年	23	1.1	無文	埋 土	欠損
56	没	不 明	III B 12 住 状	—	—	—	—	—	無	埋 土	細片
57	没	不 明	III B 12 住 状	—	—	—	—	—	無	埋 土	細片
58	214	不 明	II C 14柱穴2	—	—	—	21	1.4	無	底 面	
59	没	不 明	II E 10柱穴2	—	—	—	—	—	無	埋 土	細片
60	210	無 文	II E 11柱穴6	—	—	—	17	0.4	無	埋 土	欠損
61	194	永 楽 通 寶	II E 11柱穴7	明	永楽6年	1408年	22	1.1	無	埋 土	欠損
62	195	永 楽 通 寶	II E 11柱穴7	明	永楽6年	1408年	23	1.4	無	埋 土	欠損
63	196	永 楽 通 寶	II E 11柱穴7	明	永楽6年	1408年	21	0.8	無	埋 土	欠損
64	208	永 楽 通 寶?	II E 11柱穴9	—	—	—	24	3.5	無	底 面	ひび割れ
65	197	永 楽 通 寶	II F 11柱穴8	明	永楽6年	1408年	21	1.0	無	底 面	
66	213	不 明	II F 11柱穴15	—	—	—	18	0.6	無	埋 土	欠損
67	215	不 明	II F 11柱穴17	—	—	—	22	1.5	無	埋 土	
68	没	不 明	II F 11柱穴27	—	—	—	—	—	無	埋 土	細片
69	206	洪 武 通 寶	II F 12柱穴9	明	洪武元年	1368年	23	3.0	無	埋 土	
70	198	永 楽 通 寶	II F 12柱穴12	明	永楽6年	1408年	22	1.5	無	底 面	欠損
71	199	永 楽 通 寶	II F 13柱穴3	明	永楽6年	1408年	22	1.2	無	埋 土	欠損
72	216	不 明	II F 13柱穴3	—	—	—	22	1.6	無	埋 土	
73	200	永 楽 通 寶	II F 13柱穴8	明	永楽6年	1408年	22	1.3	無	埋 土	欠損
74	201	永 楽 通 寶	II F 13柱穴8	明	永楽6年	1408年	22	0.8	無		
75	202	永 楽 通 寶	II F 13柱穴8	明	永楽6年	1408年	23	2.0	無	埋 土	
76	203	永 楽 通 寶	II F 13柱穴8	明	永楽6年	1408年	23	1.5	無	埋 土	欠損
77	207	元?通 寶	II G 11柱穴5	—	—	—	24	2.3	無	埋 土	元祐通寶?
78	209	永 楽 通 寶?	II G 11柱穴5	—	—	—	22	—	無	埋 土	欠損
79	204	永 楽 通 寶	II G 12柱穴4	明	永楽6年	1408年	21	1.2	無		
80	217	不 明	II G 12柱穴8	—	—	—	21	0.9	無	埋 土	
81	271	無 文	II G 13柱穴5	—	—	—	18	—	無	埋 土	欠損
82	205	永 楽 通 寶	II I 12柱穴2	明	永楽6年	1408年	23	1.7	無	埋 土	ひび割れ
83	212	無 文	III D 11柱穴7	—	—	—	18	0.7	無	埋 土	
84	643	寛永通寶(古)	II A 14 表 土	江戸	寛永3年	1626年	24	28	無	表 土	
85	644	永 楽 通 寶	II D 13 表 土	明	永楽6年	1408年	22	1.8	無	表 土	
86	645	無 文	II D 13 表 土	—	—	—	22	—	無	表 土	欠損
87	646	永 楽 通 寶	II E 11 表 土	明	永楽6年	1408年	21	1.5	無	表 土	欠損
88	647	永 楽 通 寶	II E 11 表 土	明	永楽6年	1408年	23	—	無	表 土	欠損
89	648	永 楽 通 寶	II G 11 表 土	明	永楽6年	1408年	20	0.8	無	表 土	
90	649	永 楽 通 寶	III C 11 表 土	明	永楽6年	1408年	24	—	無	表 土	欠損
91	650	永 楽 通 寶	III H 11 表 土	明	永楽6年	1408年	20	—	無	表 土	欠損
92	651	永 楽 通 寶	III I 13 表 土	明	永楽6年	1408年	23	—	無	表 土	欠損
93	652	寛永通寶(古)	III J 13 表 土	江戸	寛永3年	1626年	23	2.7	無	表 土	
94	653	永 楽 通 寶	西向斜面表土	明	永楽6年	1408年	23	1.6	無	表 土	欠損
95	没	不 明	II F 10 住	—	—	—	—	—	無	埋 土	

## 《参 考 文 献》

1. 「日本城郭大系」第2巻 新人物往来社 昭55
2. 「北上山系開発地域土地分類基本調査」浄法寺編 岩手県 1974
3. 「やきもの鑑定入門」山川直樹監修 新潮社 1984
4. 「原色陶器大辞典」加藤唐九郎編 淡交社 昭55
5. 「図録石器の基礎知識Ⅰ・Ⅱ」加藤晋平・鶴丸俊明著 柏書房 1980
6. 「図録石器の基礎知識Ⅲ」鈴木道之助著 柏書房 1980
7. 「図録歴史考古学の基礎知識」坂詰秀一著 柏書房 1980
8. 「考古遺物資料集」第4集 岩手県埋蔵文化財センター 昭59
9. 「上斗内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡発掘調査報告書」 岩手県埋蔵文化財センター 昭59
10. 「御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書」 岩手県埋蔵文化財センター 昭55、56、57
11. 「東北縦貫道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ（西田遺跡）」 岩手県教育委員会 昭55
12. 「上里遺跡発掘調査報告集」 岩手県埋蔵文化財センター 昭58
13. 「尻八館発掘調査報告書」 青森県立郷土館 昭56
14. 「東北地方北部の中世城郭発表資料」 岩手県北上市立博物館 1981
15. 「岩手の古民家」 岩手県教育委員会 昭53
16. 「嶽Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 岩手県埋蔵文化財センター 昭59

写 真 图 版



a. 遺跡全景(調査前)



b. 遺跡全景(調査後)

写真図版1 遺跡全景



a. 遺跡近景(尾根部)



b. 現地説明会

写真図版 2 遺跡近景・現地説明会



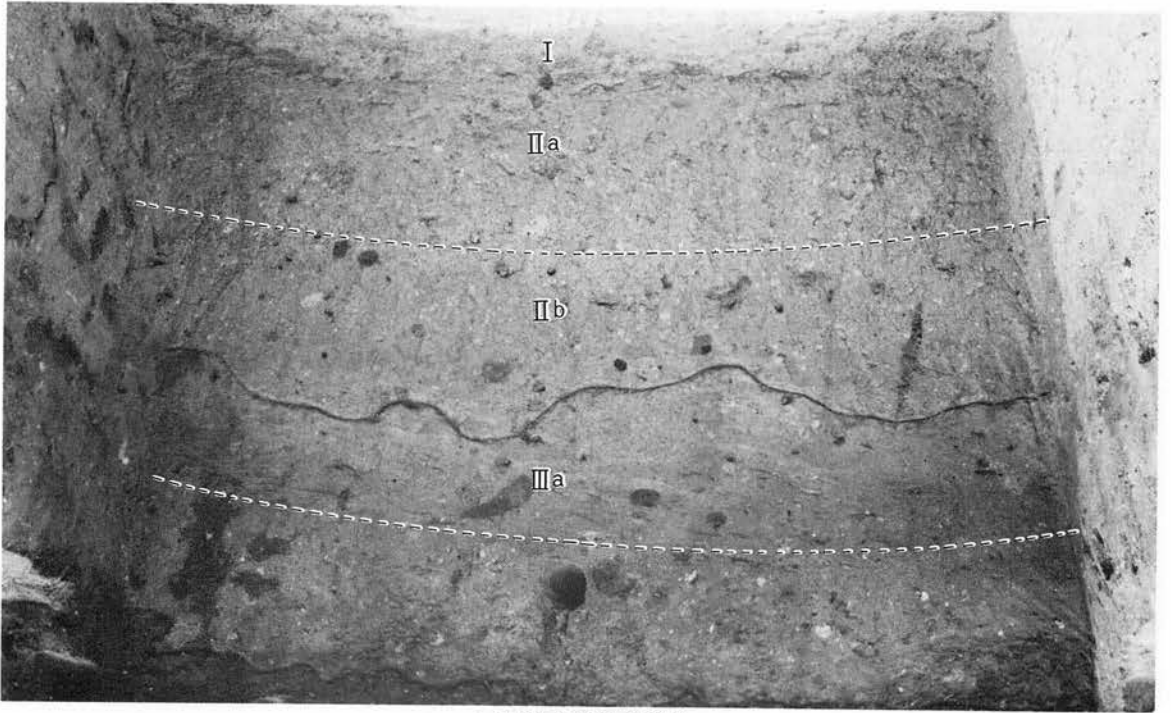
a. 発掘作業(粗掘り)



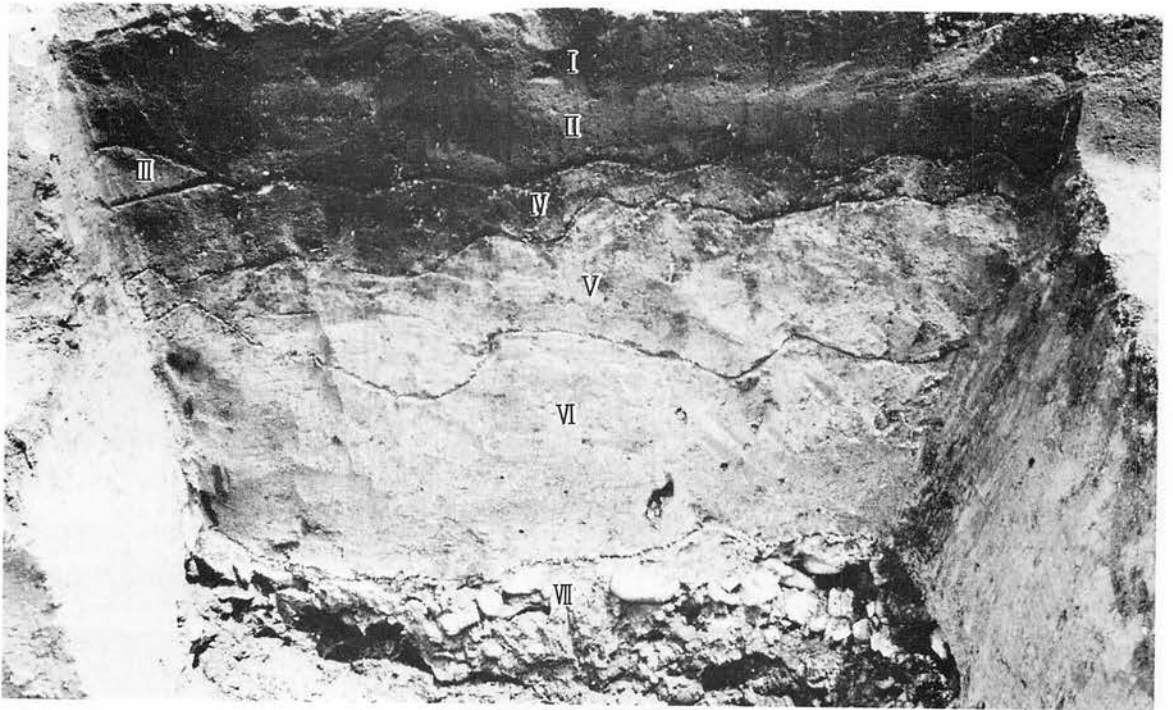
b. 発掘作業(精査)

写真図版3 発掘作業風景





a. 基本土層(尾根部)



b. 基本土層(西向き斜面部)

写真図版 4 基本土層



a. 全景



b. 埋土土層(A-A')



c. 埋土土層(B-B')

写真図版 5 IVF15住居跡①



d. 貼床全景



e. 貼床断面

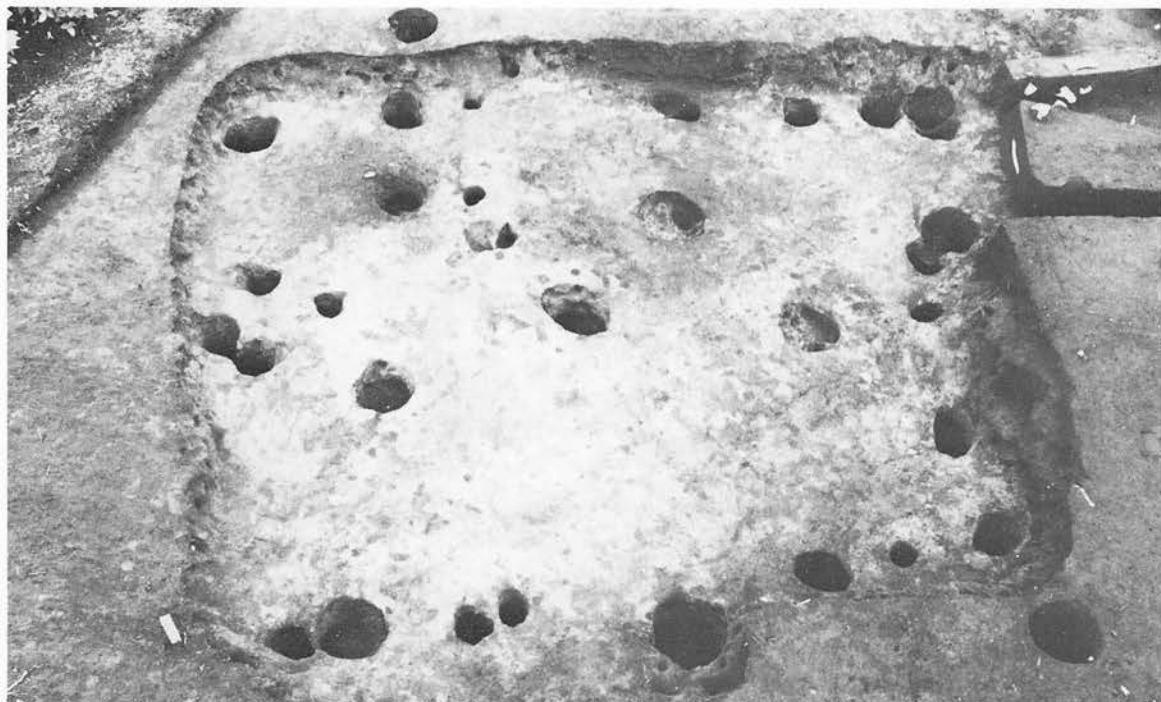


f. カマド断割



g. カマド断割

写真図版6 IVF15住居跡②



a. 全景

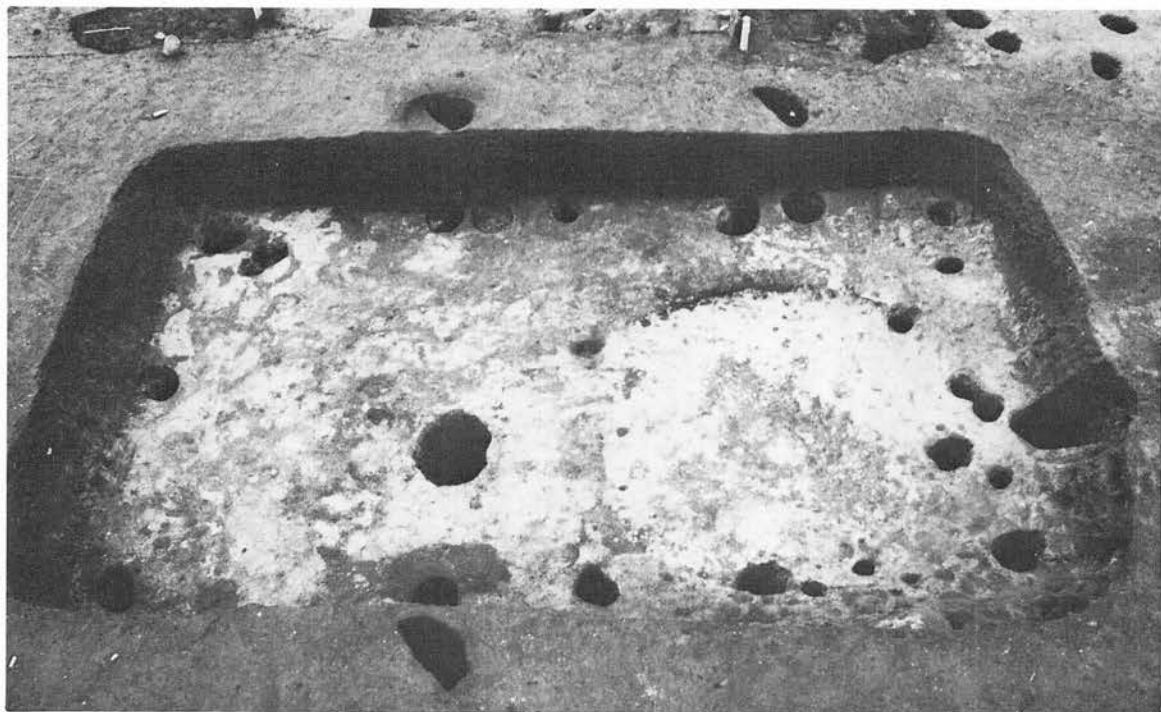


b. 埋土土層(B-B')



c. 埋土土層(A-A')

写真図版7 II C11住居跡



a. 全景



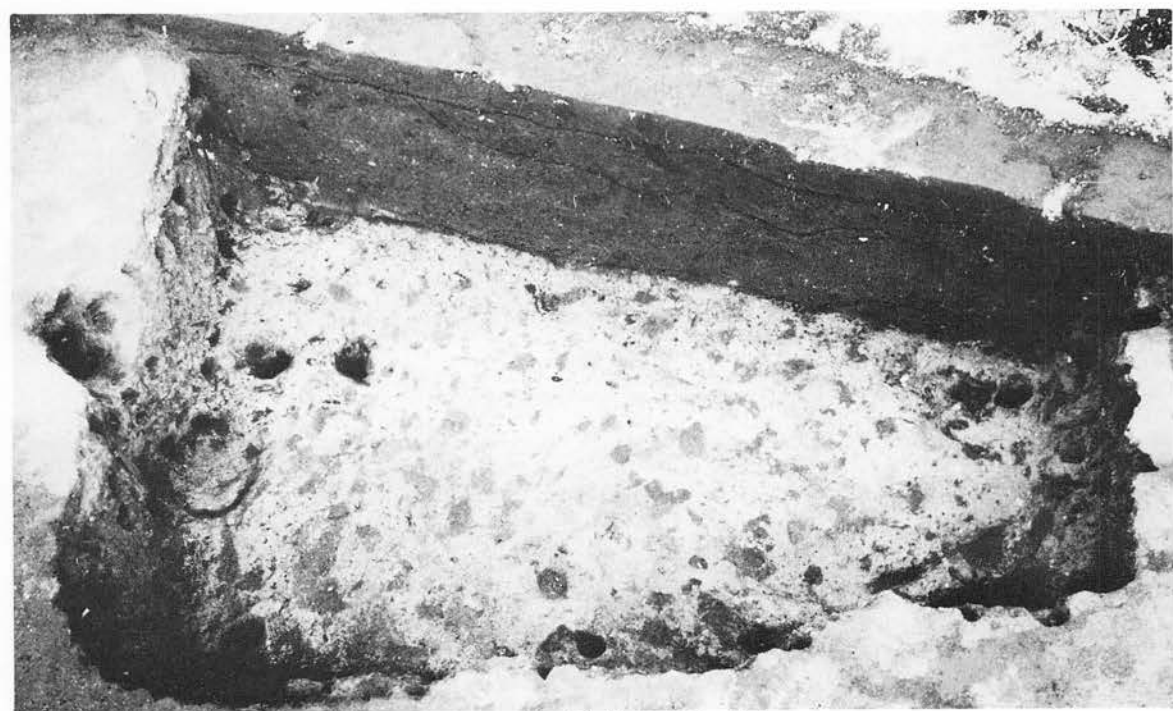
b. 埋土土層(B-B')



c. 埋土土層(C-C')

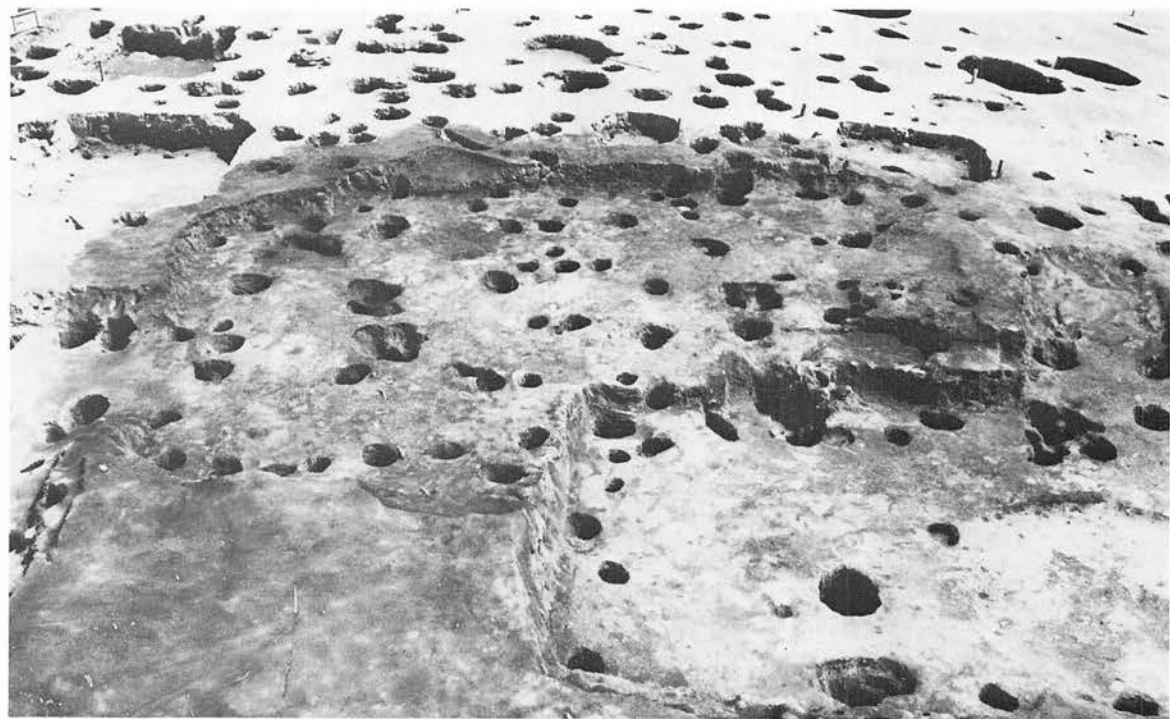


a. II C13-2 住居跡全景



b. IID10住居跡全景・埋土土層

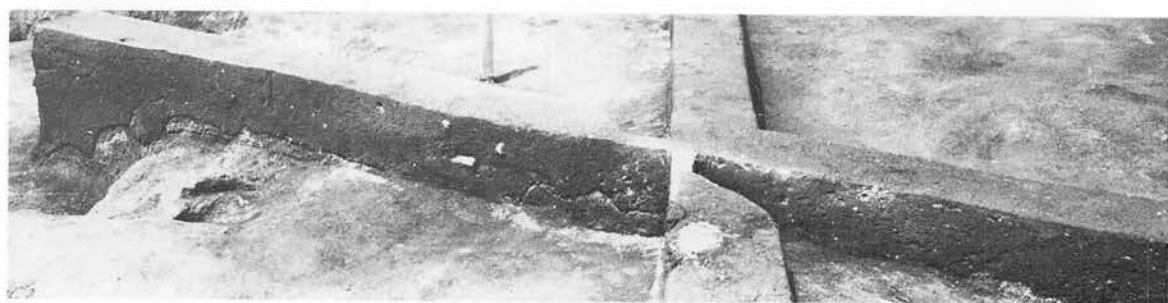
写真図版9 II C13-2・IID10住居跡



a. 全景

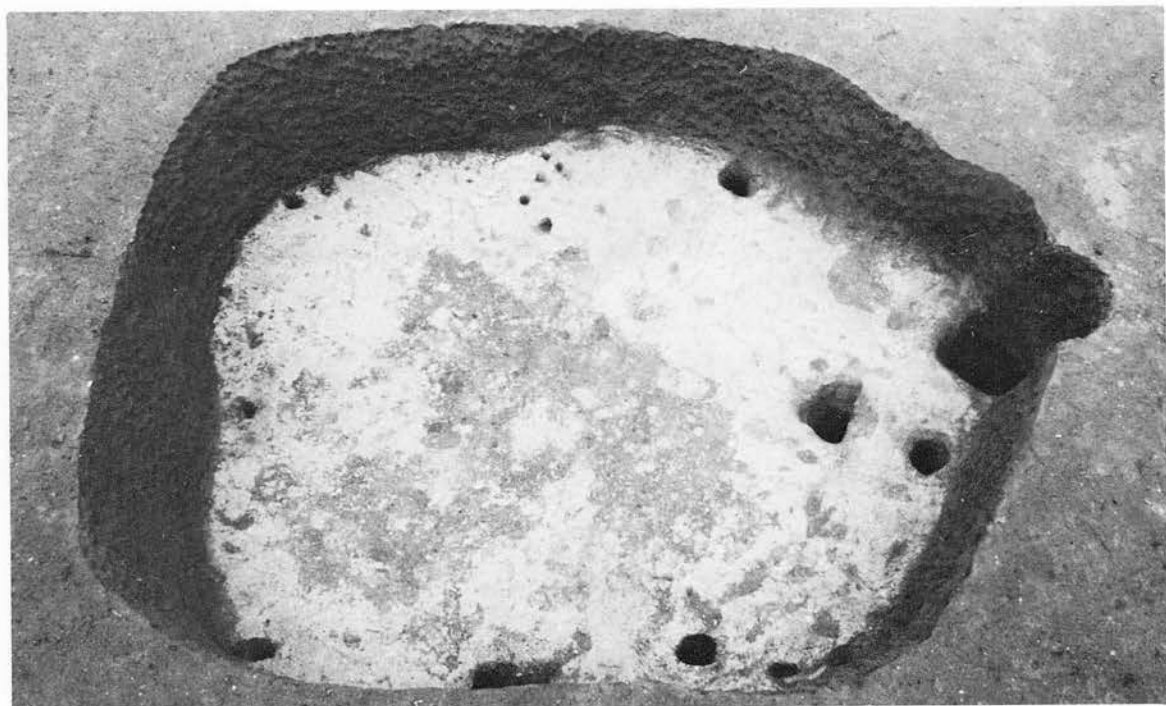


b. 埋土土層(A-A')

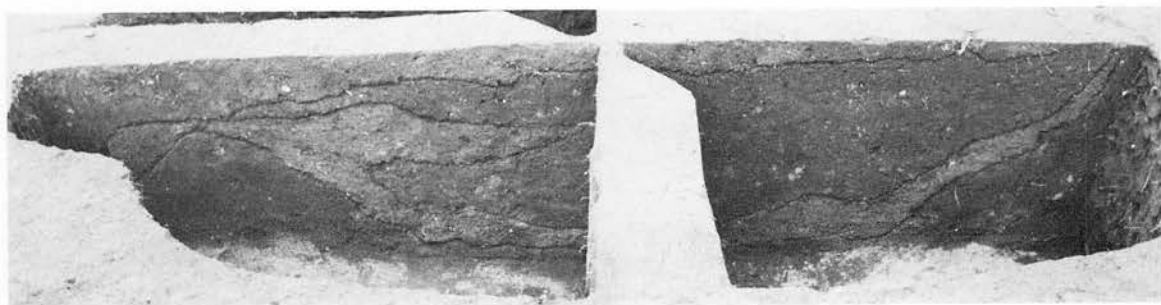


c. 埋土土層(B-B')

写真図版10 IID12-1・2住居跡



a. 全景



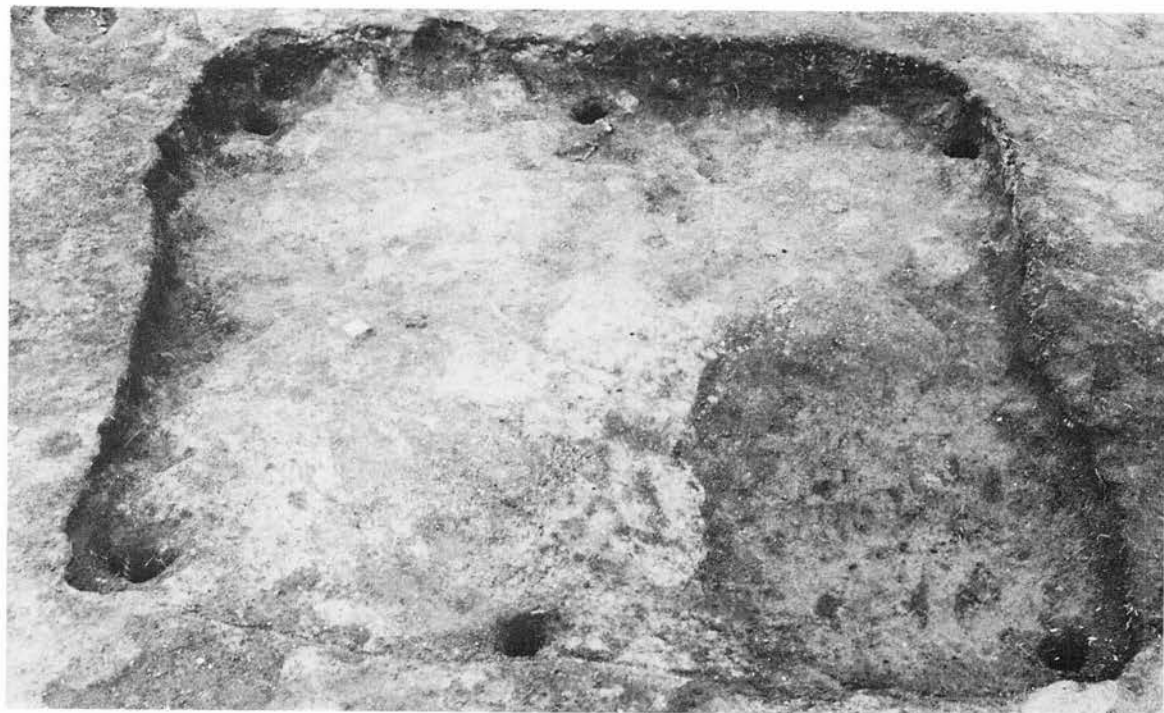
b. 埋土土層(B-B')



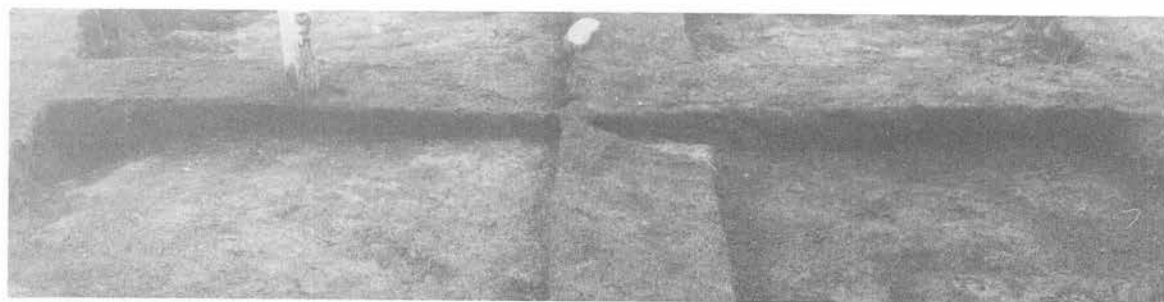
c. 埋土土層(A-A')

写真図版11 IID13住居跡

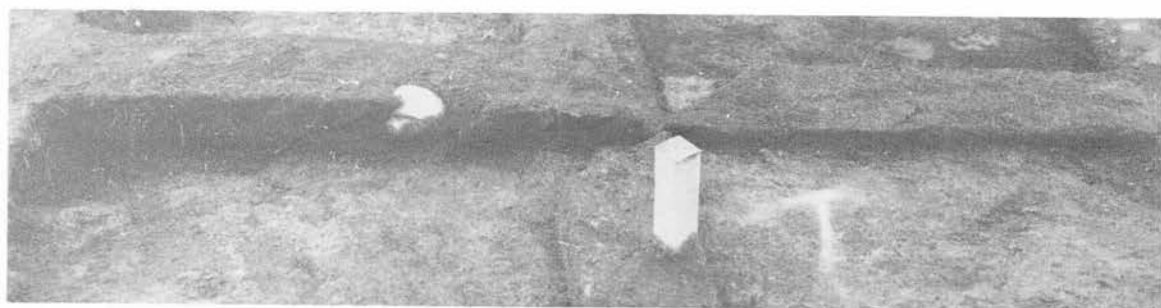




a. 全景

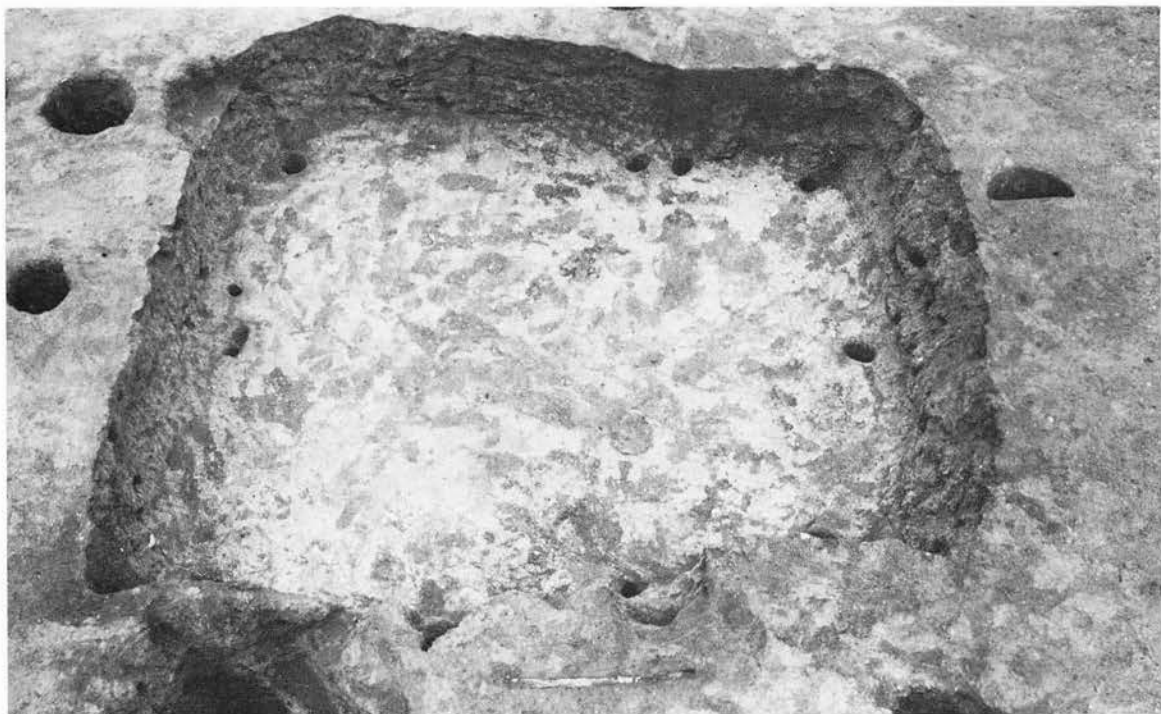


b. 埋土土層(A-A')



c. 埋土土層(B-B')

写真図版12 IID14住居跡



a. 全景



b. 埋土土層(B-B')



c. 埋土土層(A-A')

写真図版13 II E11住居跡



a. II F 10住居跡全景

b. II F10住居跡埋土土層  
(A-A')

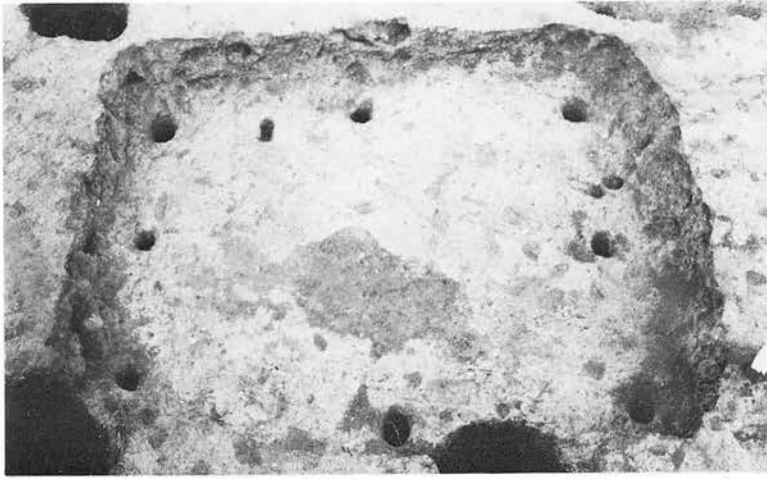


c. II F13-1住居跡全景

d. II F13-1住居跡埋土土層  
(A-A')



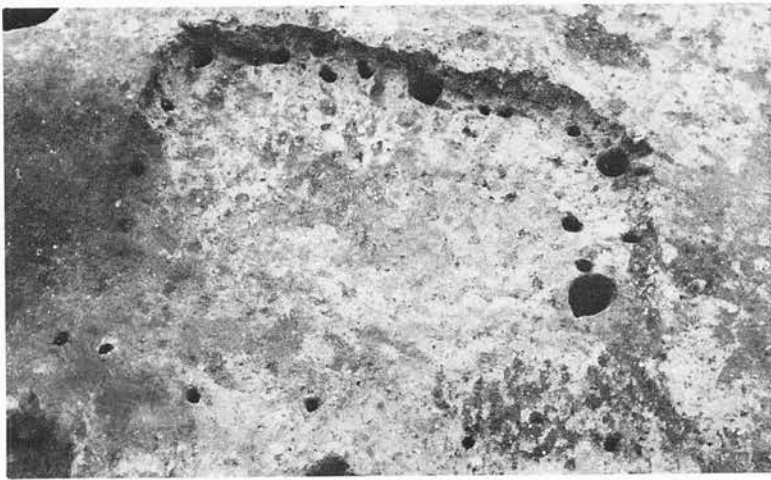
写真図版14 II F10・II F13-1住居跡



a. II F13-2 住居跡全景



b. II F13-2 住居跡埋土土層  
(A-A')



c. II F14住居跡



d. II F14住居跡埋土土層  
(A-A')

写真図版15 II F13-2・II F14住居跡



a. II G11住居全景

b. II G11住居跡埋土土層  
(A-A')



c. II H11-1 住居跡全景

d. II H11-1 住居跡埋土土層  
(B-B')



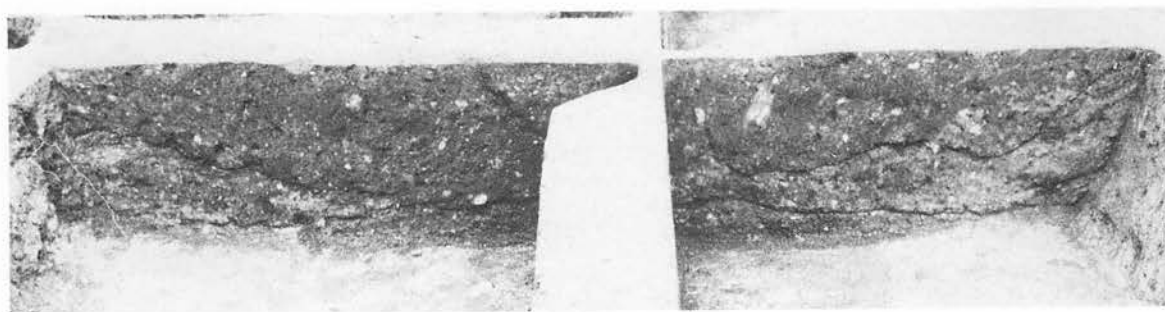
e. II H11-1 住居跡埋土土層  
(A-A')



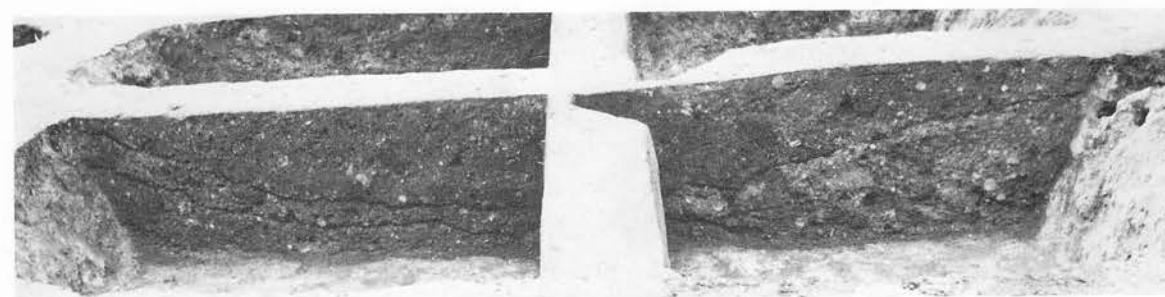
写真図版16 II G11・II H11-1 住居跡



a. 全景

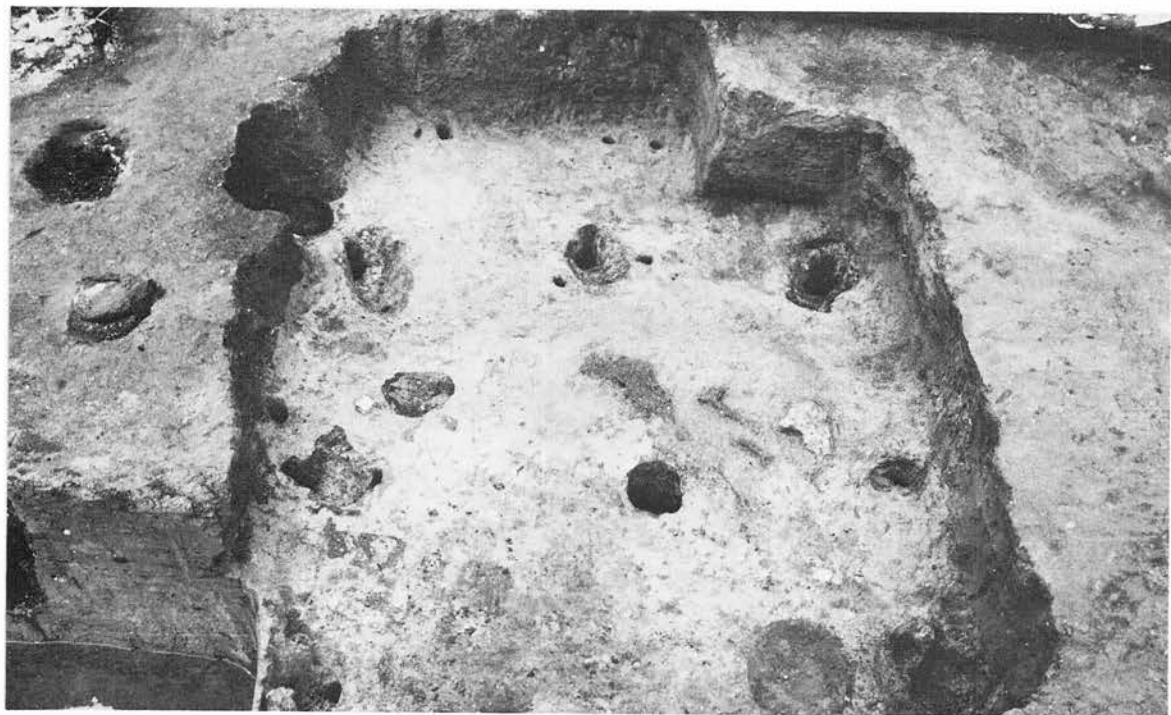


b. 埋土土層(B-B')



c. 埋土土層(A-A')

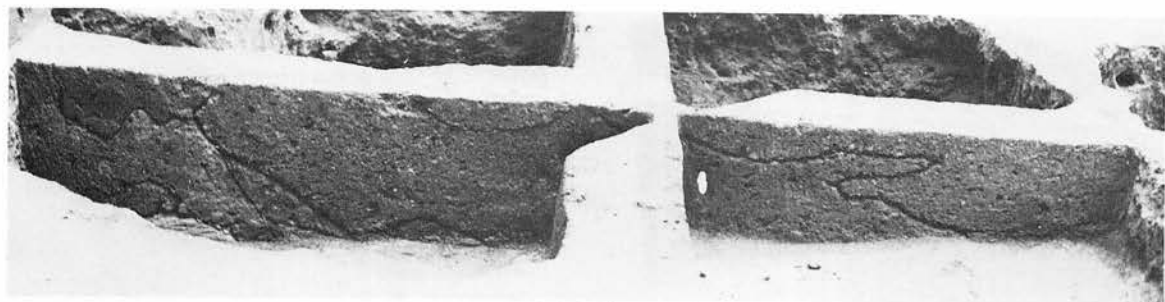
写真図版17 IIH11-2 住居跡



a. 全景



b. 埋土土層 (A-A')

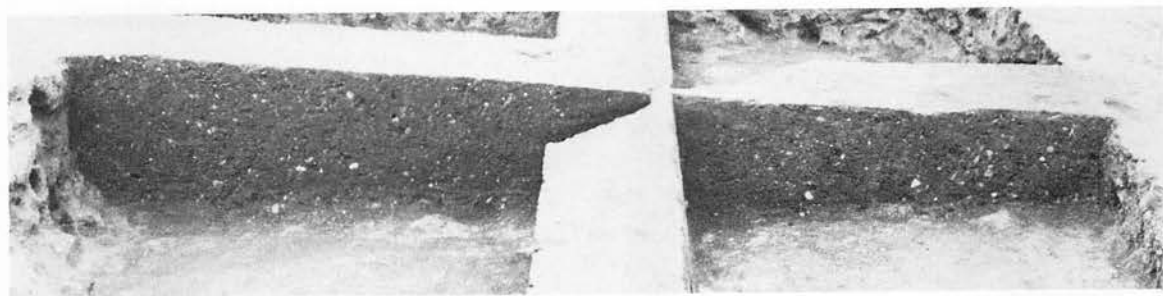


c. 埋土土層 (B-B')

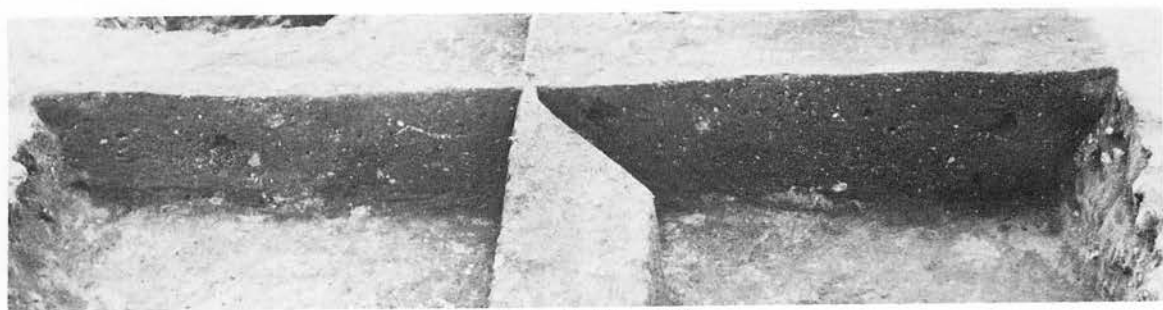
写真図版18 ⅢF11住居跡



a. 全景

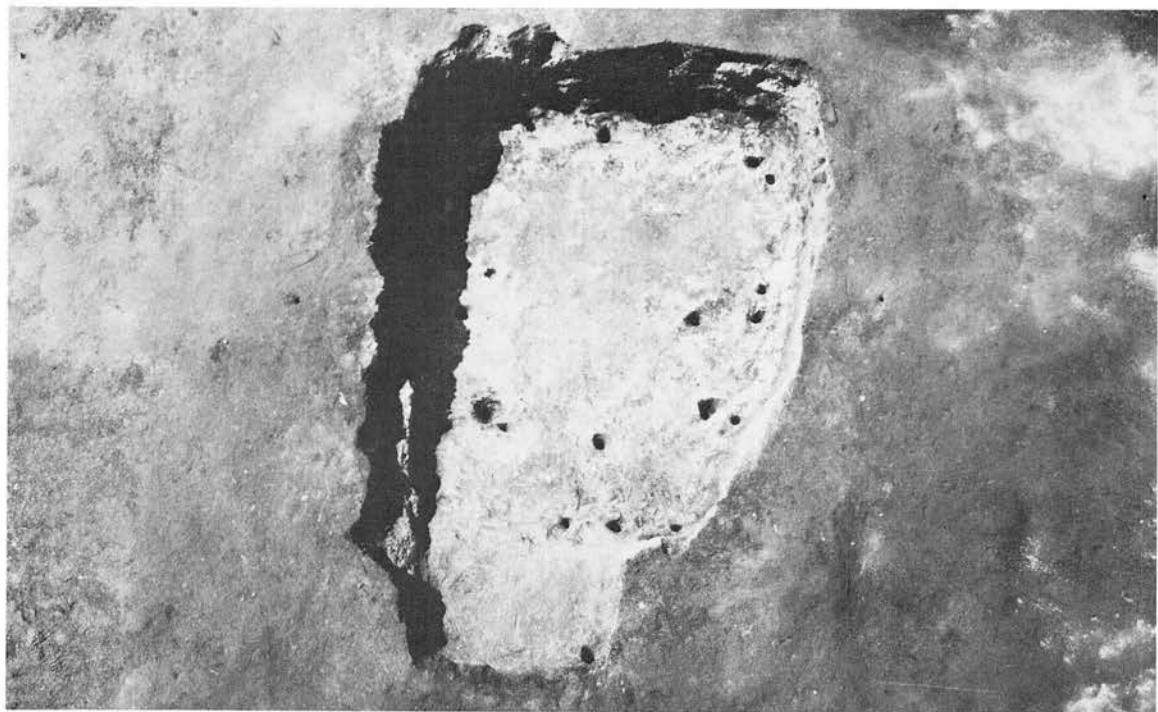


b. 埋土土層(B-B')

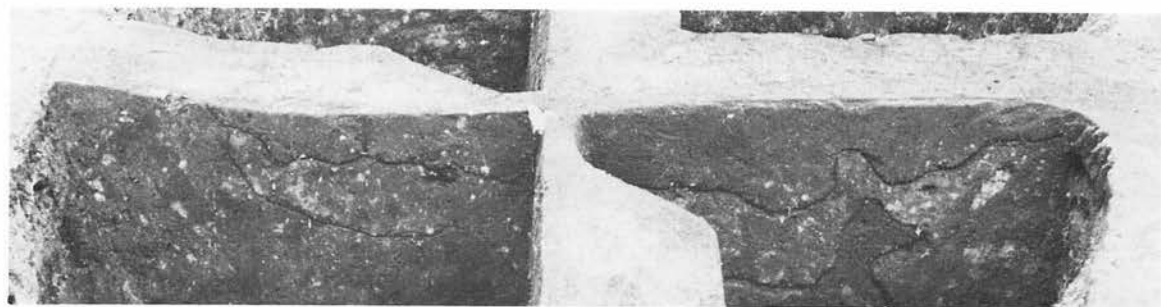


c. 埋土土層(A-A')

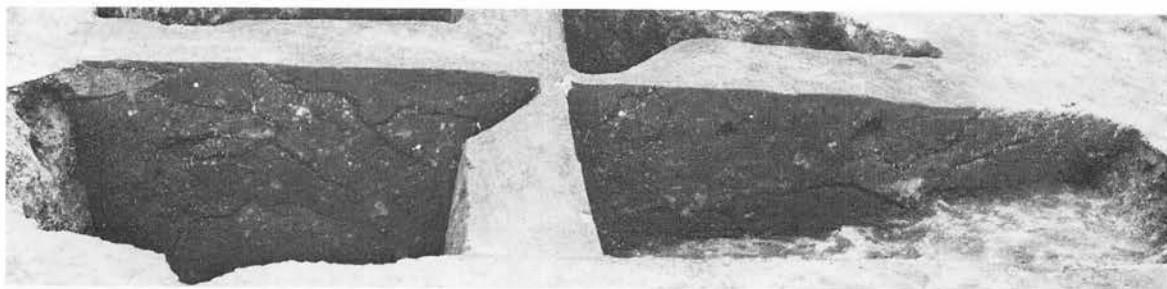




a. 全景

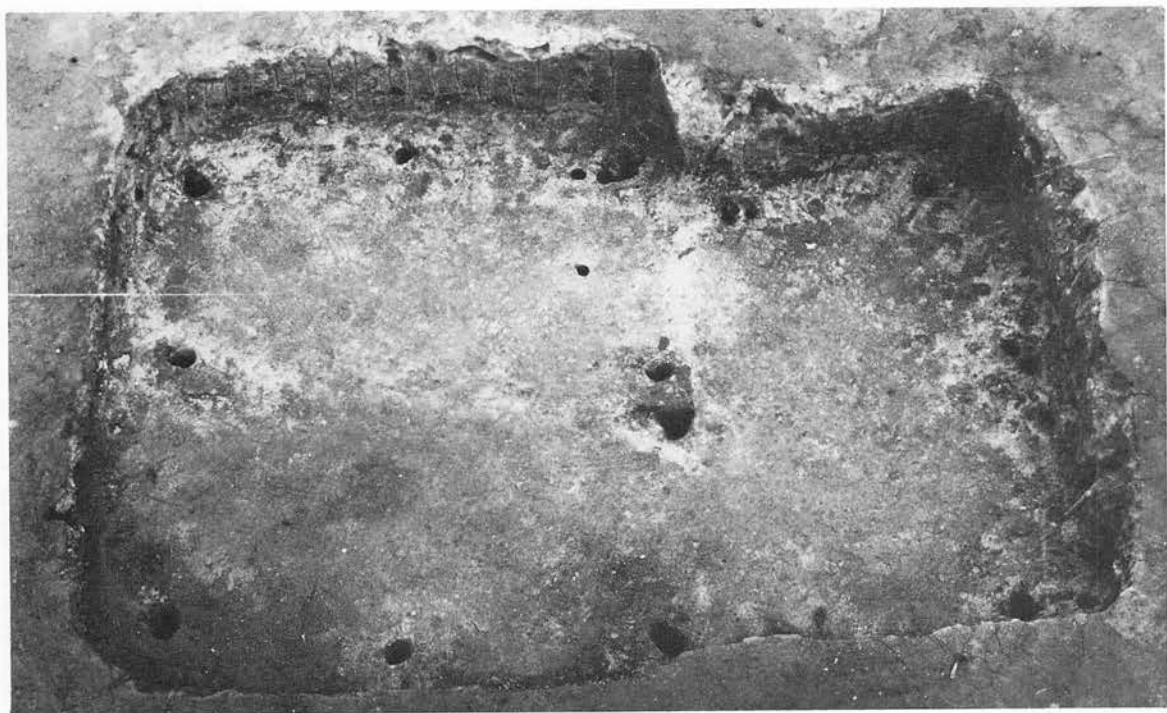


b. 埋土土層(A-A')

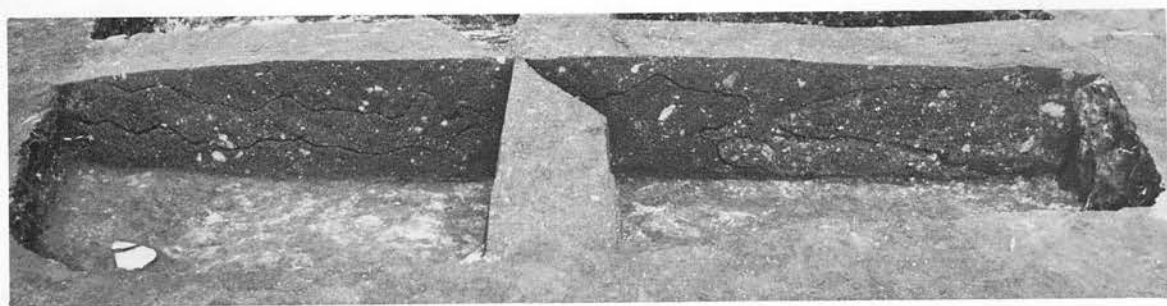


c. 埋土土層(B-B')

写真図版20 ⅢF12住居跡



a. 全景

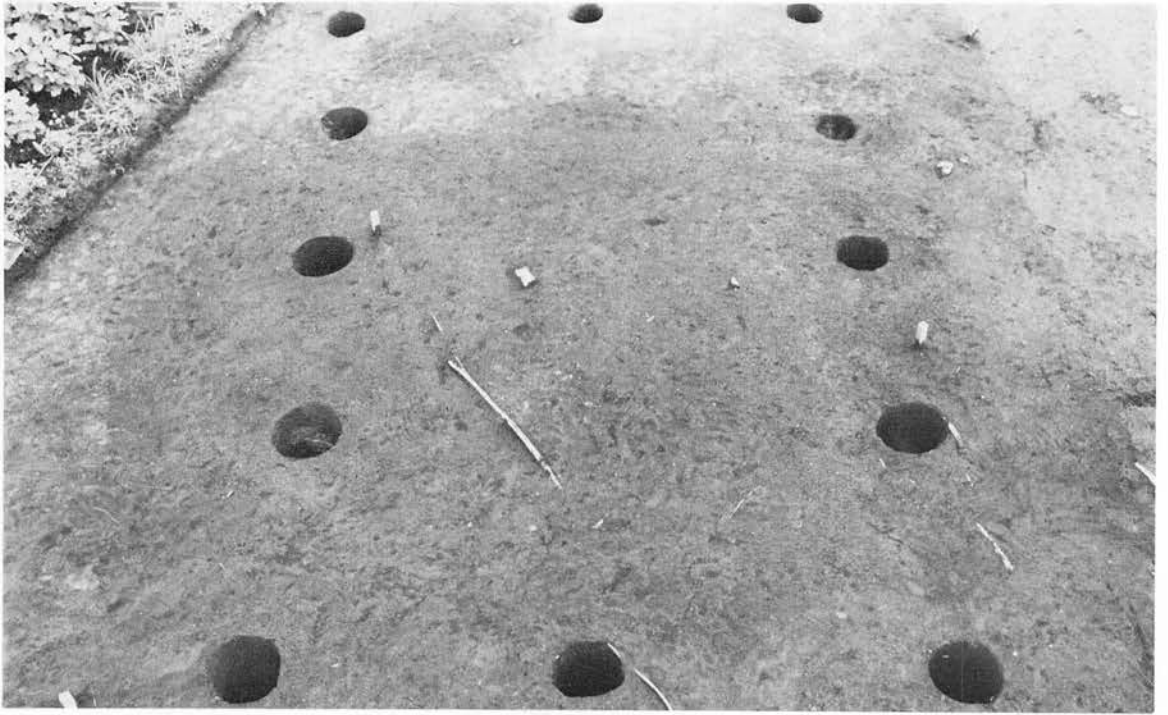


b. 埋土土層(A-A')



c. 矢板痕？

写真図版21 III13住居跡

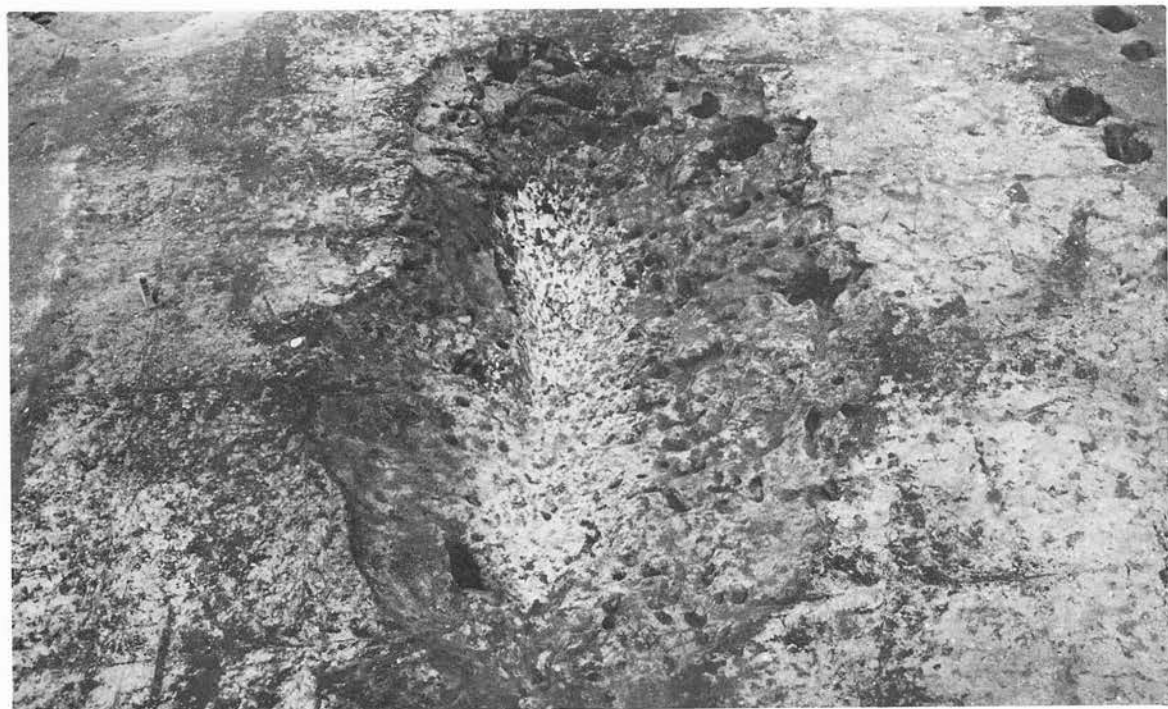


a. II C11掘立柱建物跡

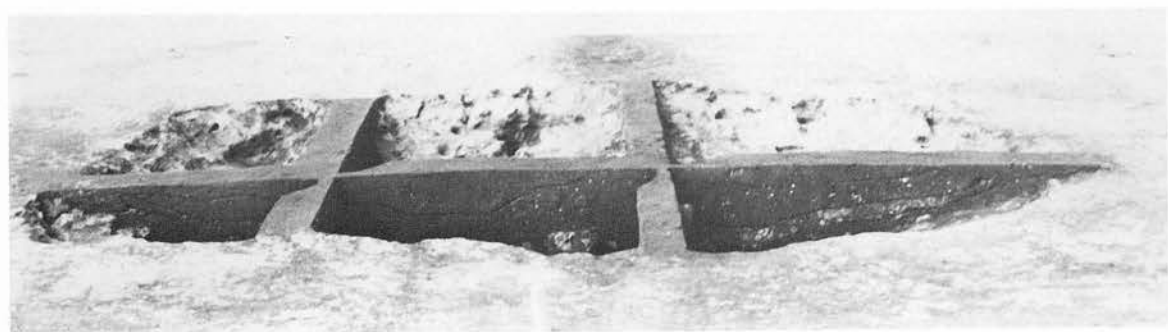


b. 柱穴群(中・近世)

写真図版22 II C11掘立柱建物跡・柱穴群



a. 全景



b. 埋土土層(C-C')

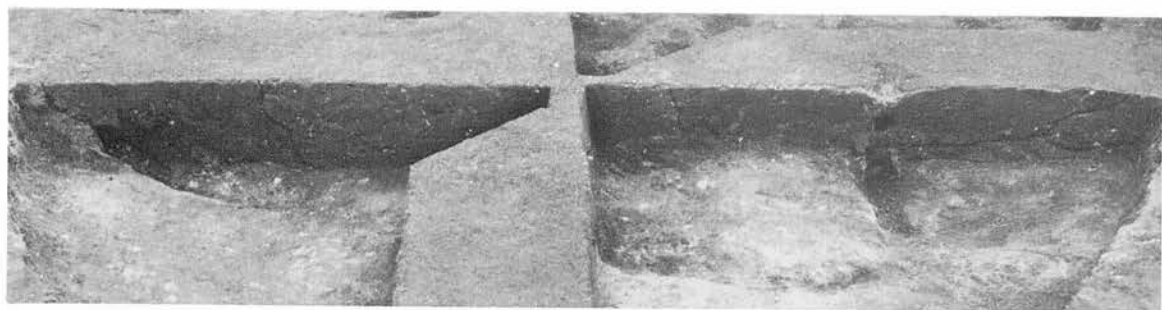


c. 埋土土層(A-A')

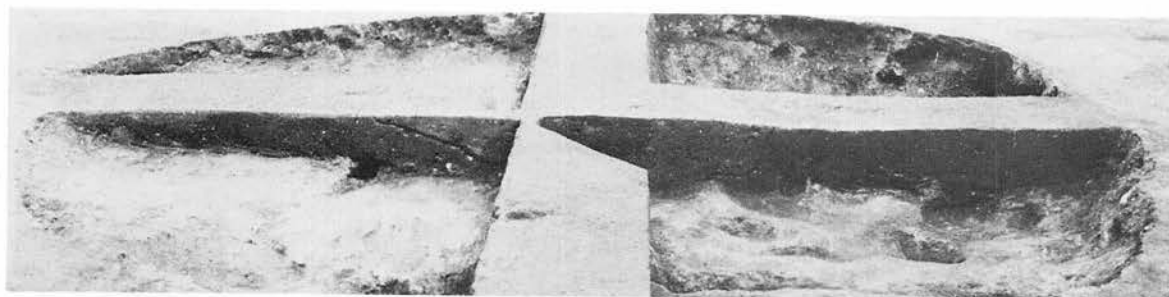
写真図版23 ⅢB12豎穴住居跡状遺構



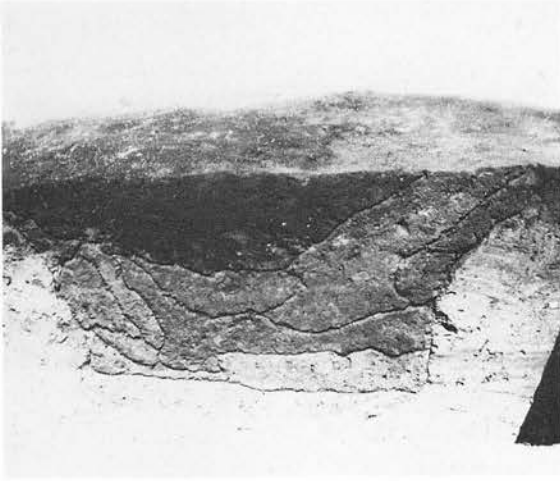
a. 全景



b. 埋土土層(B-B')



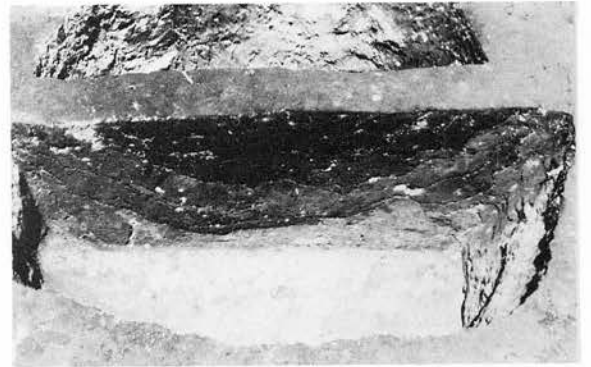
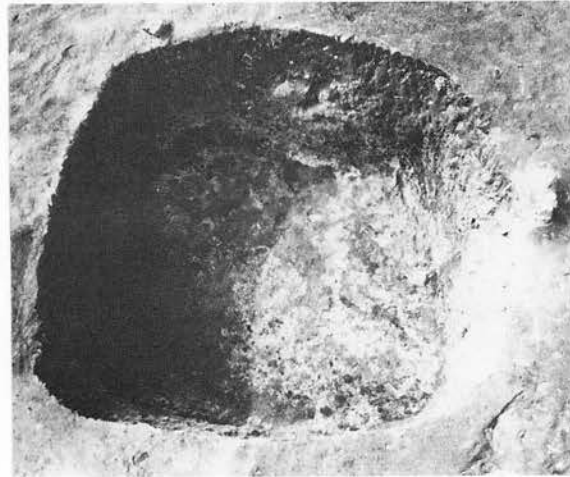
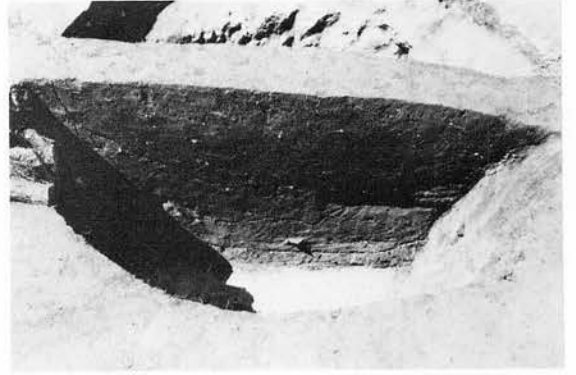
c. 埋土土層(A-A')



a. IJ14土坑

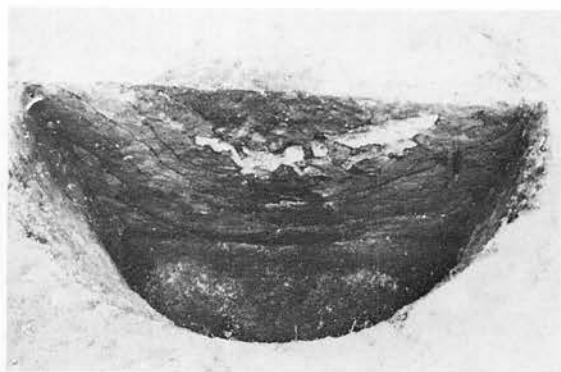


b. IJ12土坑

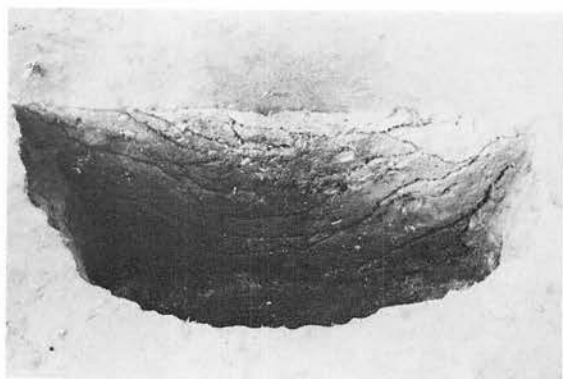


c. IJ13-1 土坑

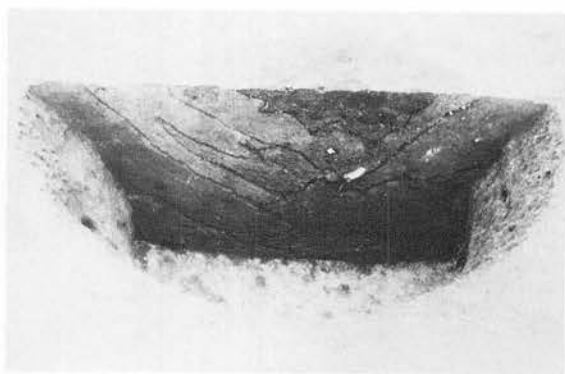
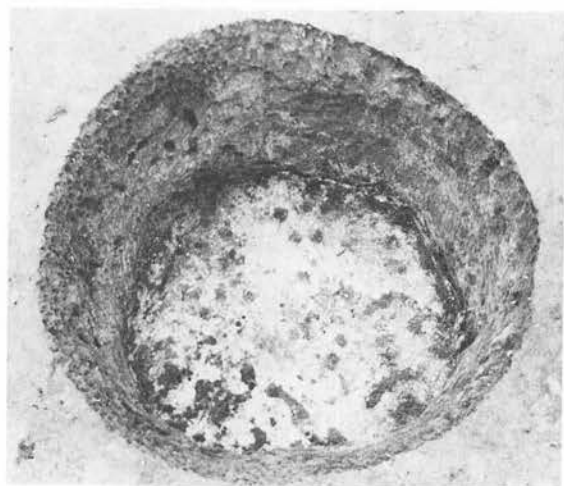
写真图版25 土坑①



a. IJ13-2 土坑



b. II A14土坑

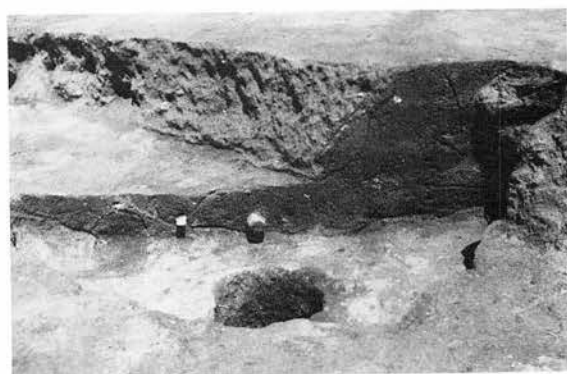
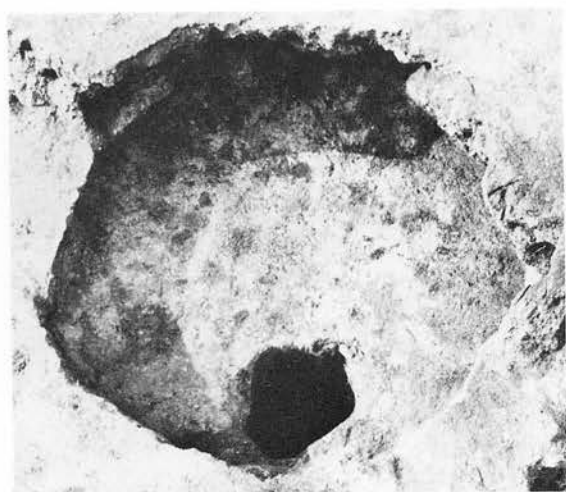


c. II B13土坑

写真图版26 土坑②



a. II C11土坑



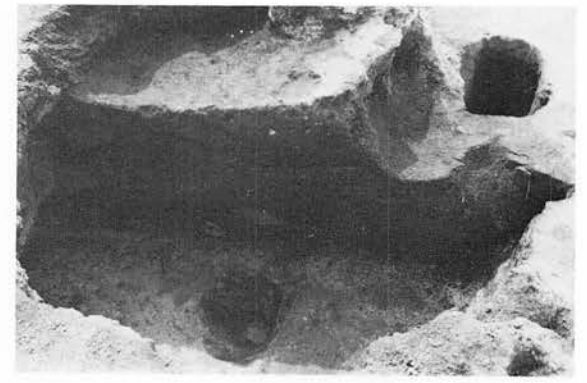
b. II D11土坑



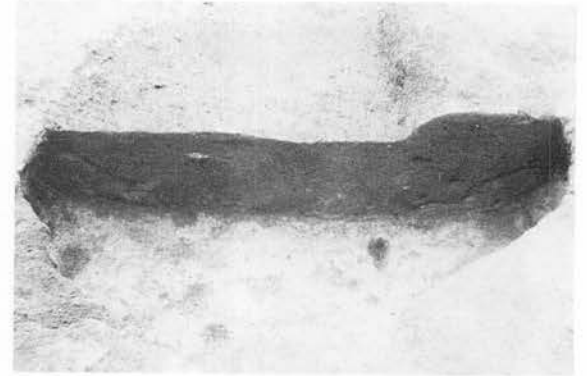
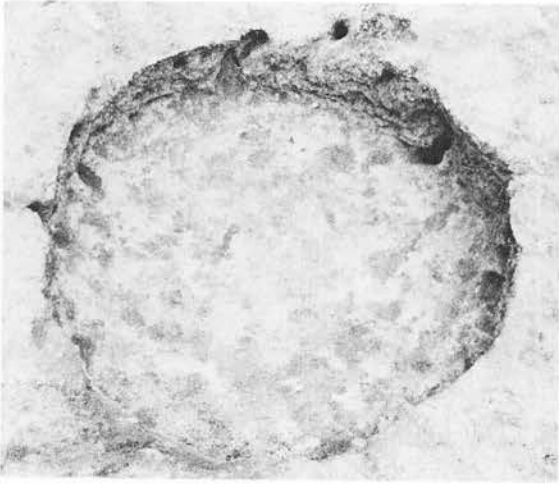
c. II D12土坑

写真図版27 土坑③

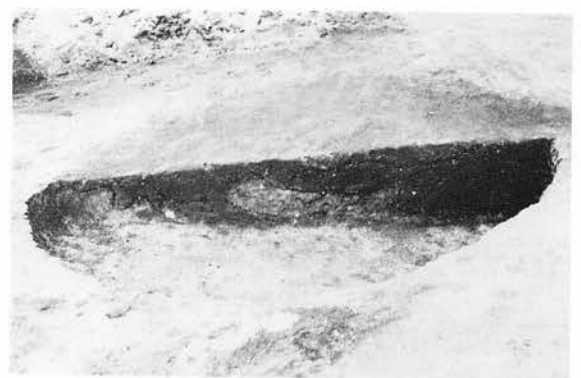
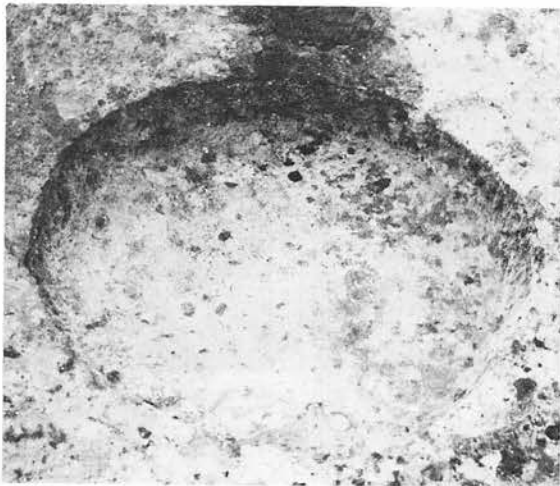




a. II D13土坑

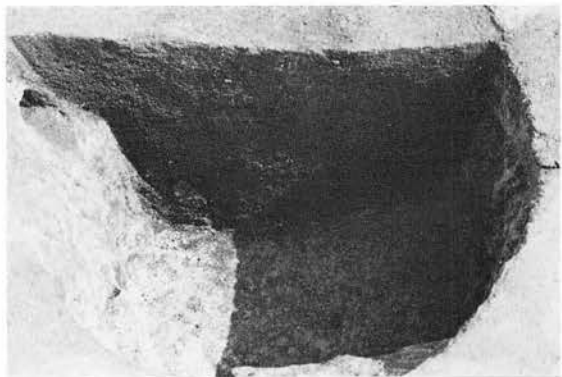


b. II D15土坑



c. II D16土坑

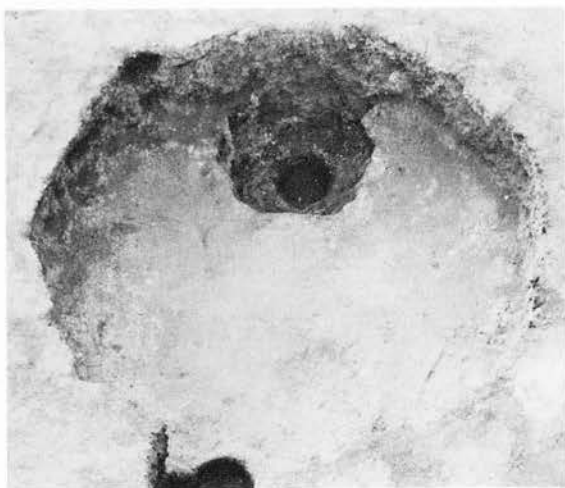
写真图版28 土坑④



a. II E12-1 土坑

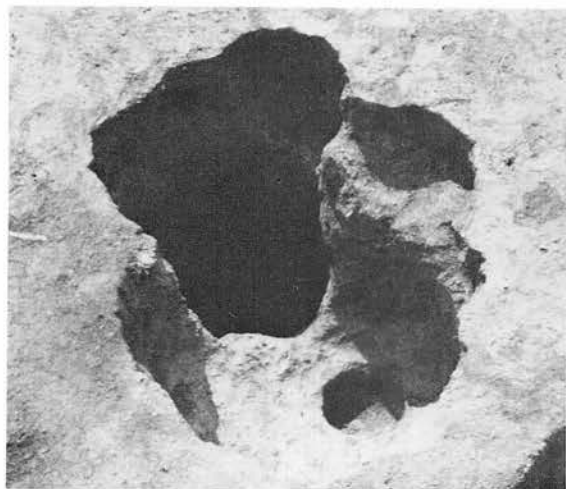


b. II E12-2 土坑

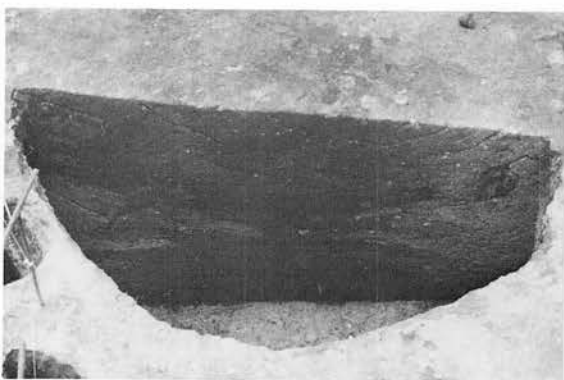


c. II F12-1 土坑

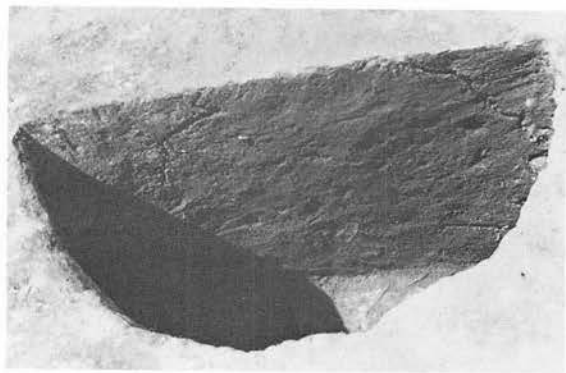
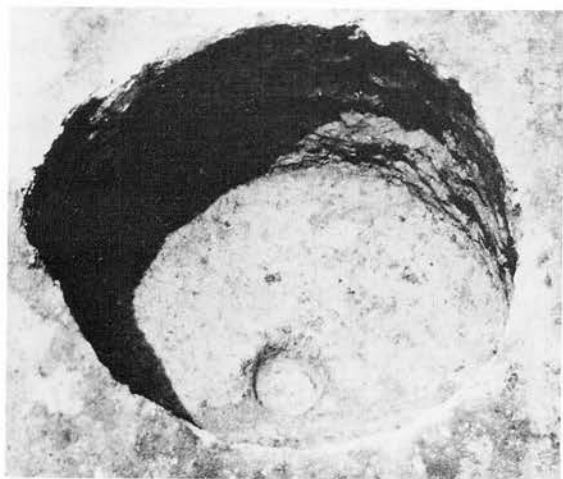
写真图版29 土坑 ⑤



a. II F12-2 土坑



b. II F14土坑

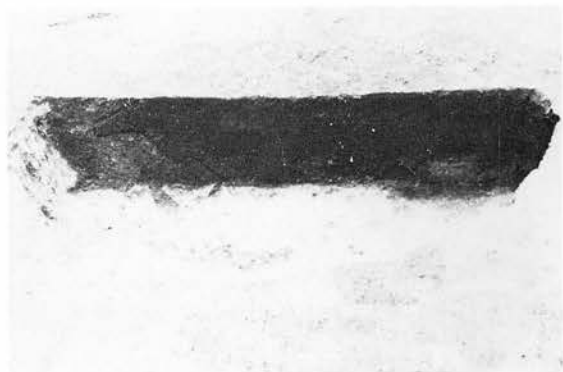
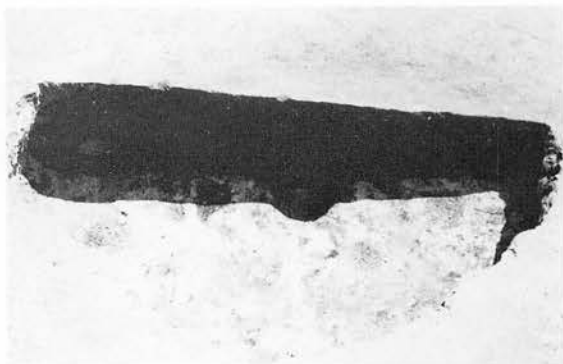


c. II F15土坑

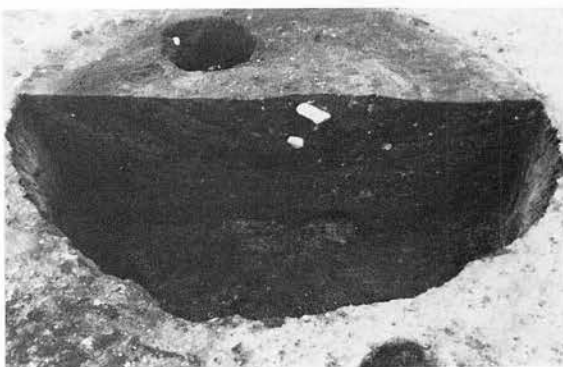
写真图版30 土坑⑥



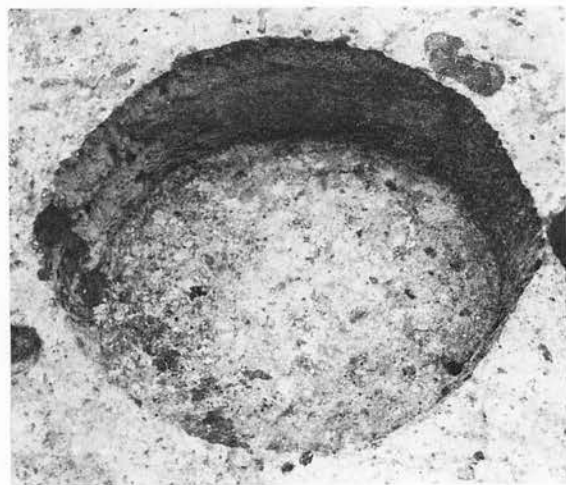
a. II F16土坑



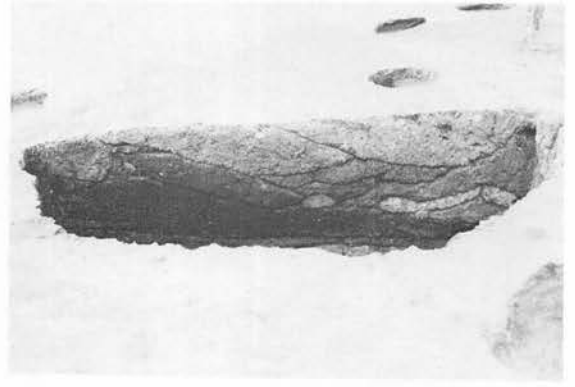
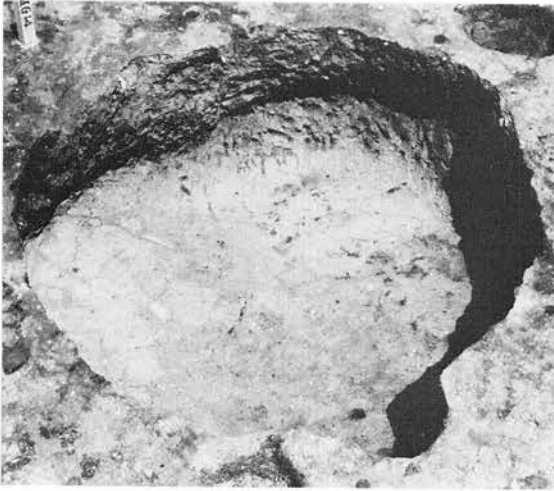
b. II G12土坑



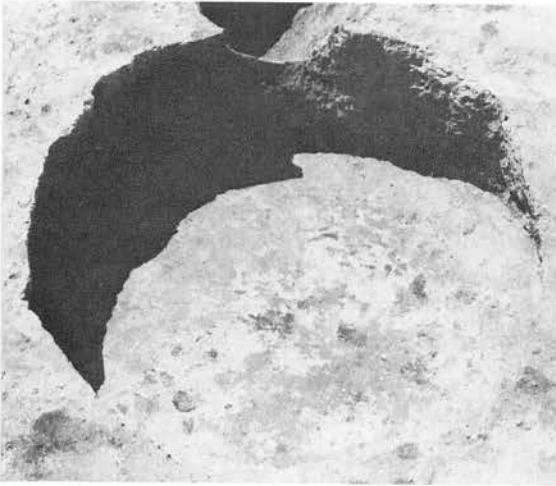
c. II G13土坑



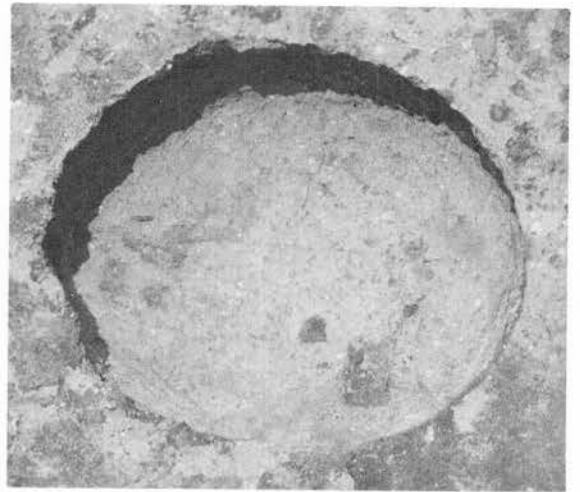
写真图版31 土坑⑦



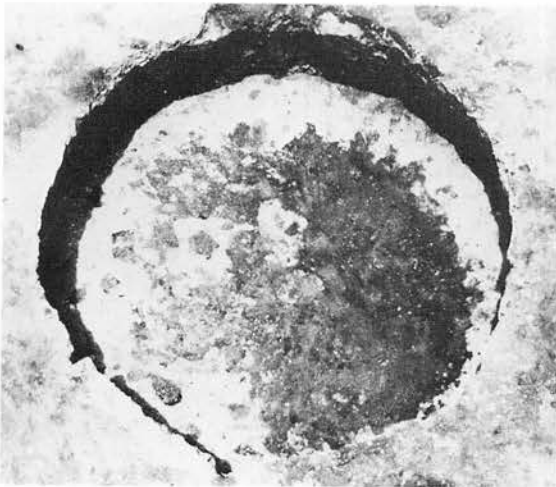
a. II G14-1 土坑



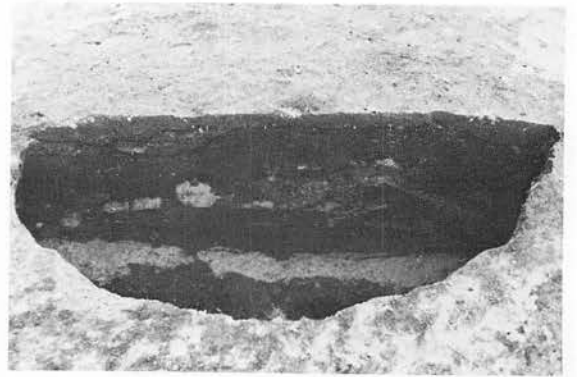
d. II G14-2 土坑



c. II H14-2 土坑



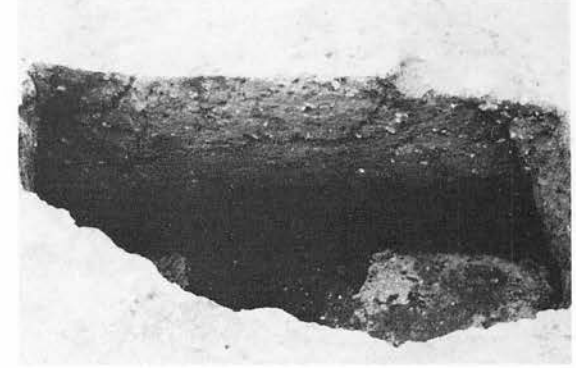
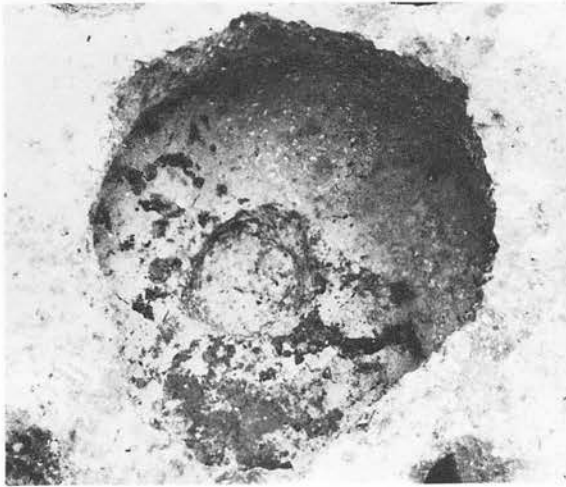
d. II H13 土坑



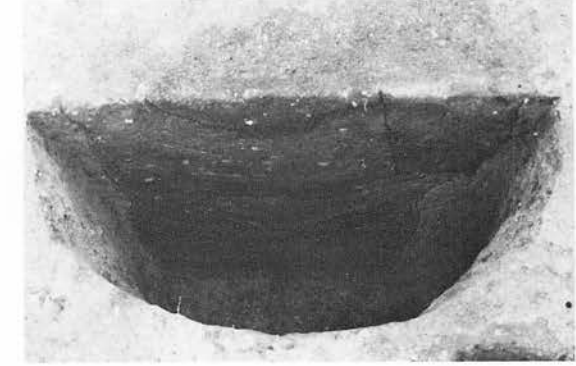
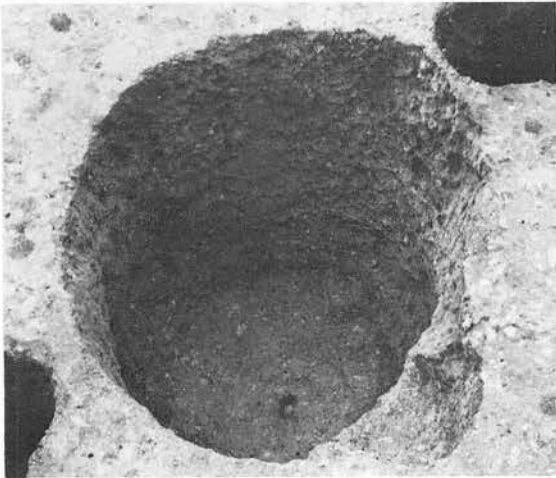
写真图版32 土坑⑧



a. IIH14-1 土坑



b. II112-1 土坑

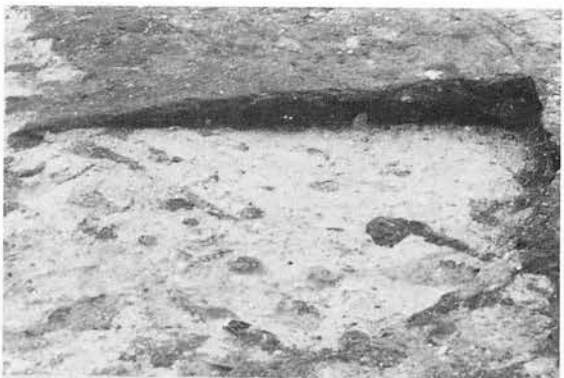


c. II112-2 土坑

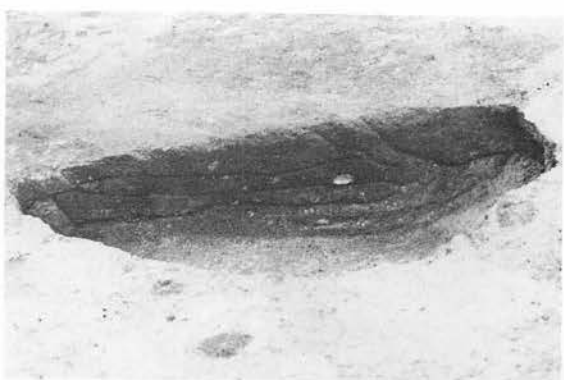
写真图版33 土坑⑨



a. II113土坑

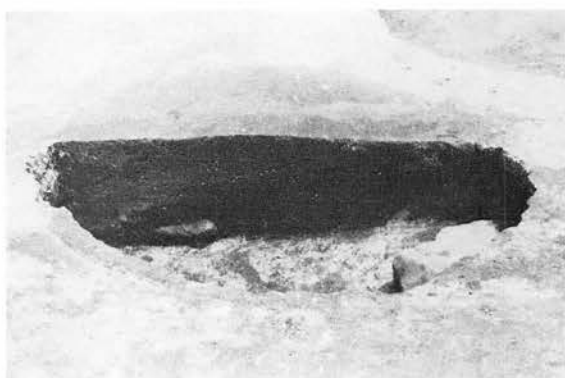
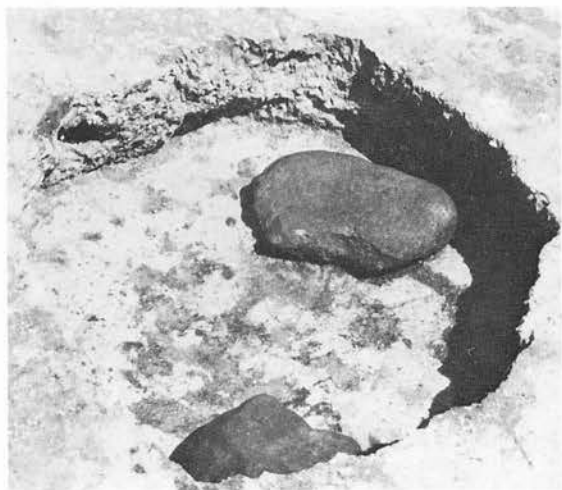


b. II114-1土坑

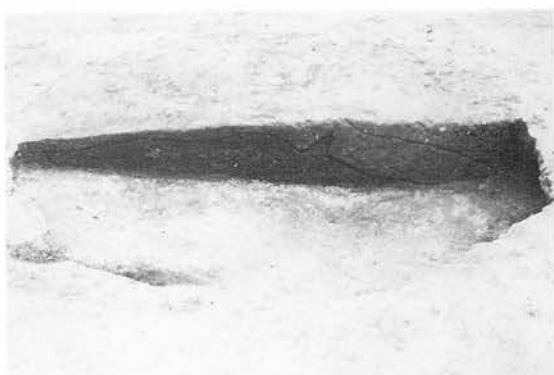


c. II114-2土坑

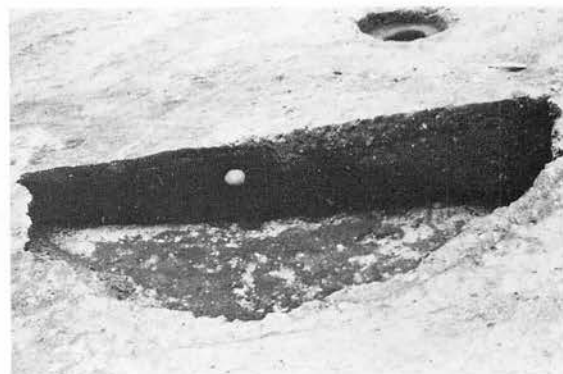
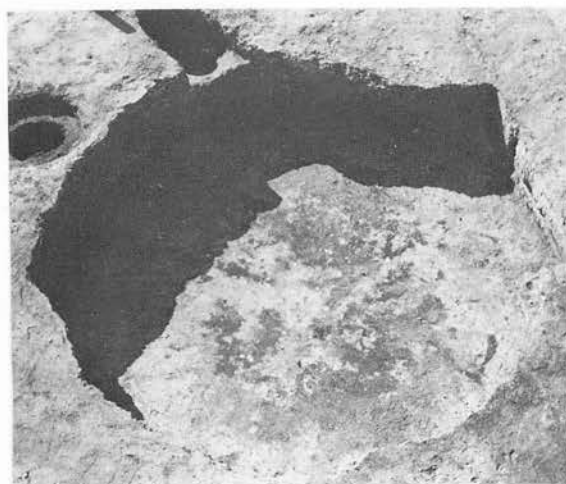
写真图版34 土坑⑩



a. IIJ12-1 土坑



b. IIJ12-2 土坑



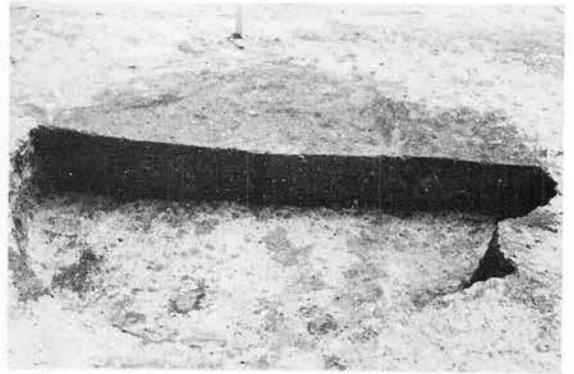
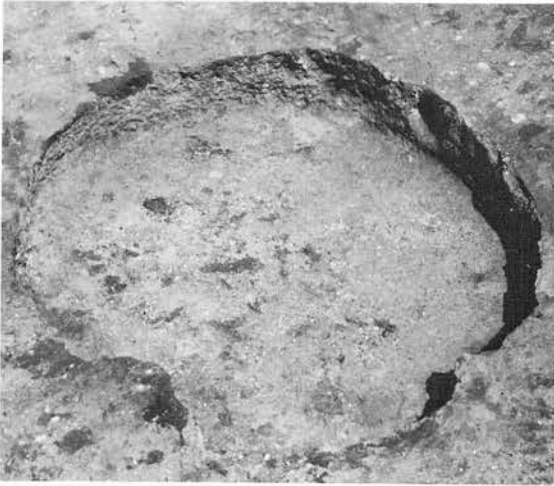
c. IIJ13 土坑

写真图版35 土坑①

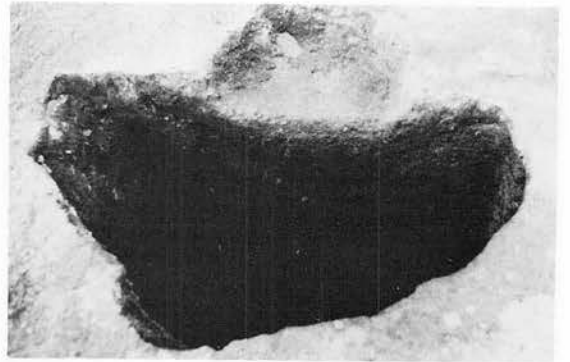
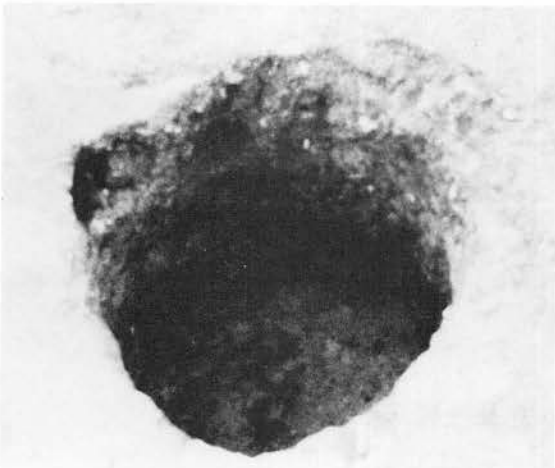




a. IIJ14土坑



b. IIIA11-1土坑

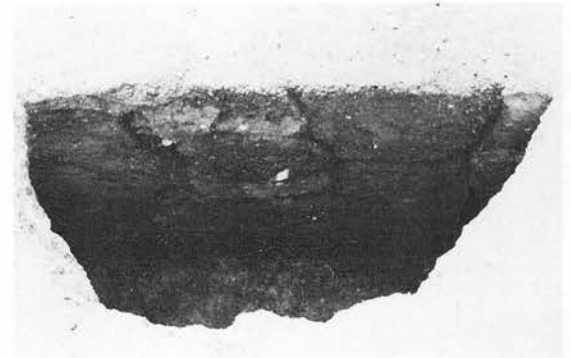


c. IIIA11-2土坑

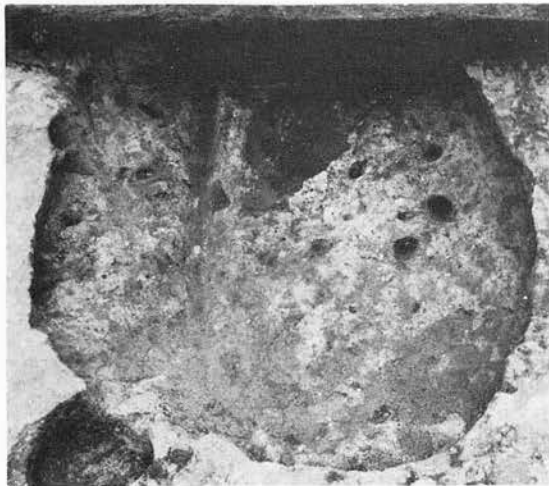
写真图版36 土坑⑫



a. IIIA12土坑



b. IIIC11-1土坑

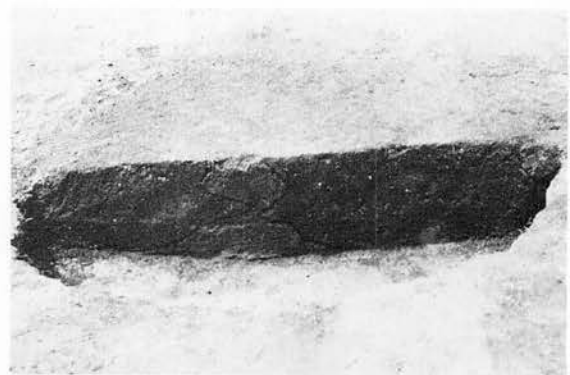


c. IIIC11-2土坑

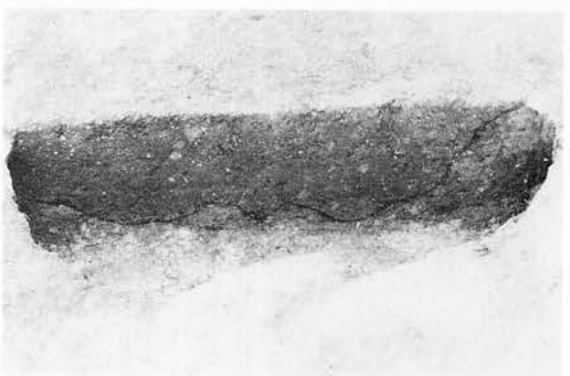
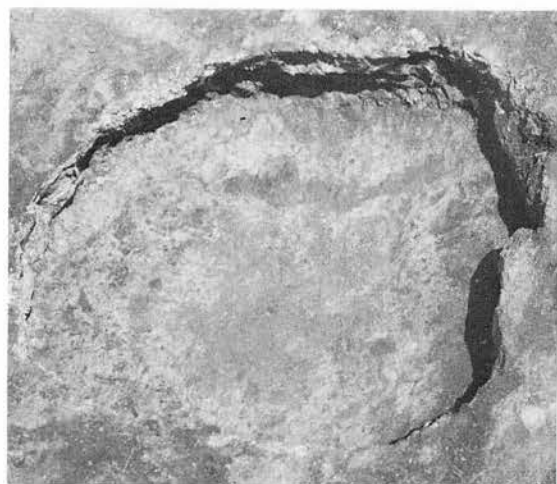
写真图版37 土坑⑬



a. III D21 土坑

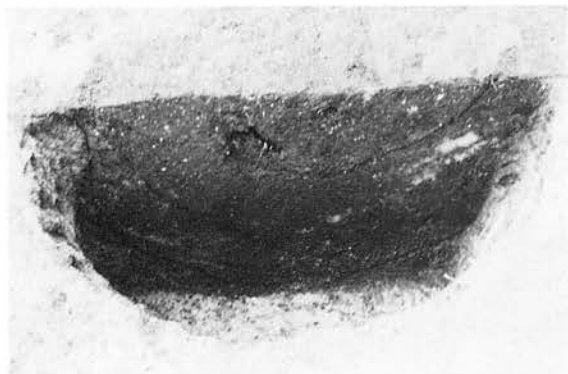
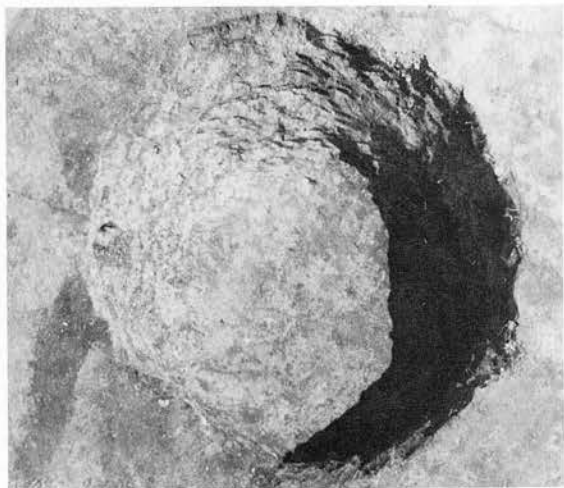


b. IVC13-1 土坑



c. IVC13-2 土坑

写真图版38 土坑⑭



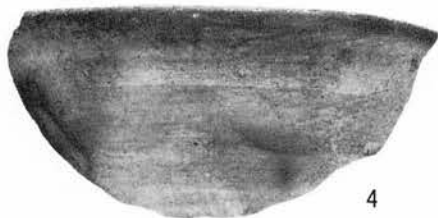
ⅣD13土坑



1



2



4



3



5



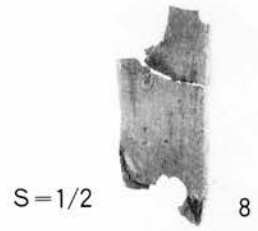
6



IVD15住居跡

S=1/3

写真図版40 住居跡出土遺物①(古代)



ⅡC11住居跡



9



10



11

S=1/1



12



13



14



15



16



17



S=1/2

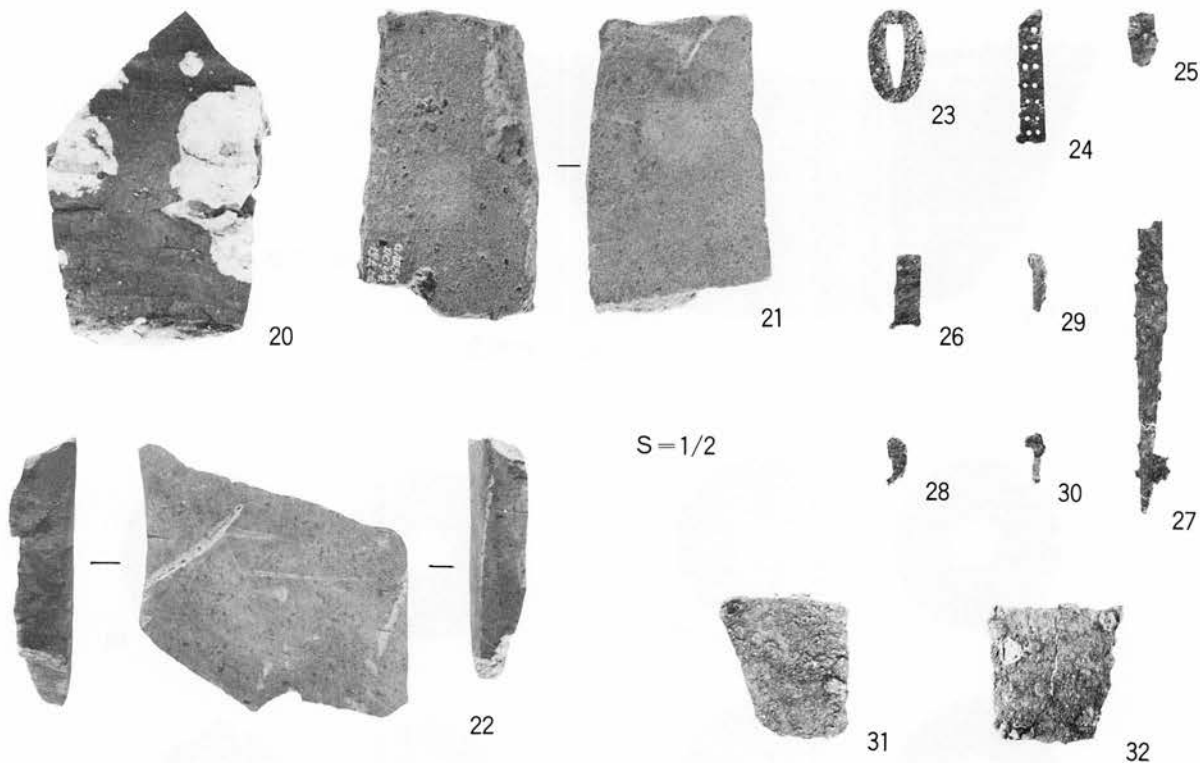
18



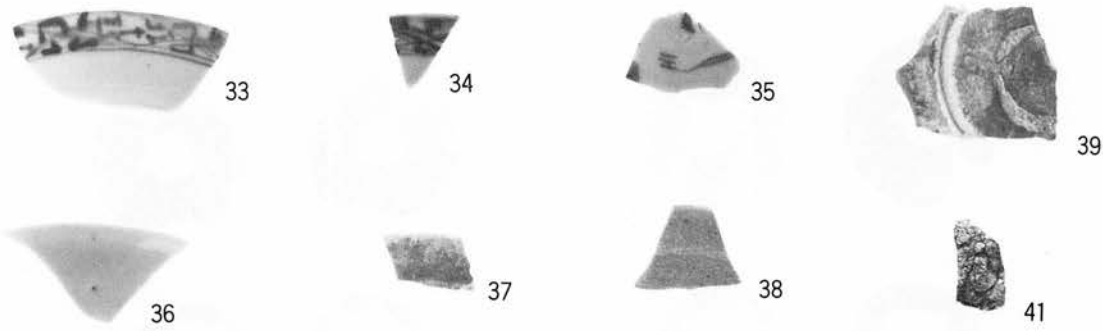
19

ⅡC13-1住居跡

写真図版41 住居跡出土遺物②(中・近世)



II C13-1 住居跡

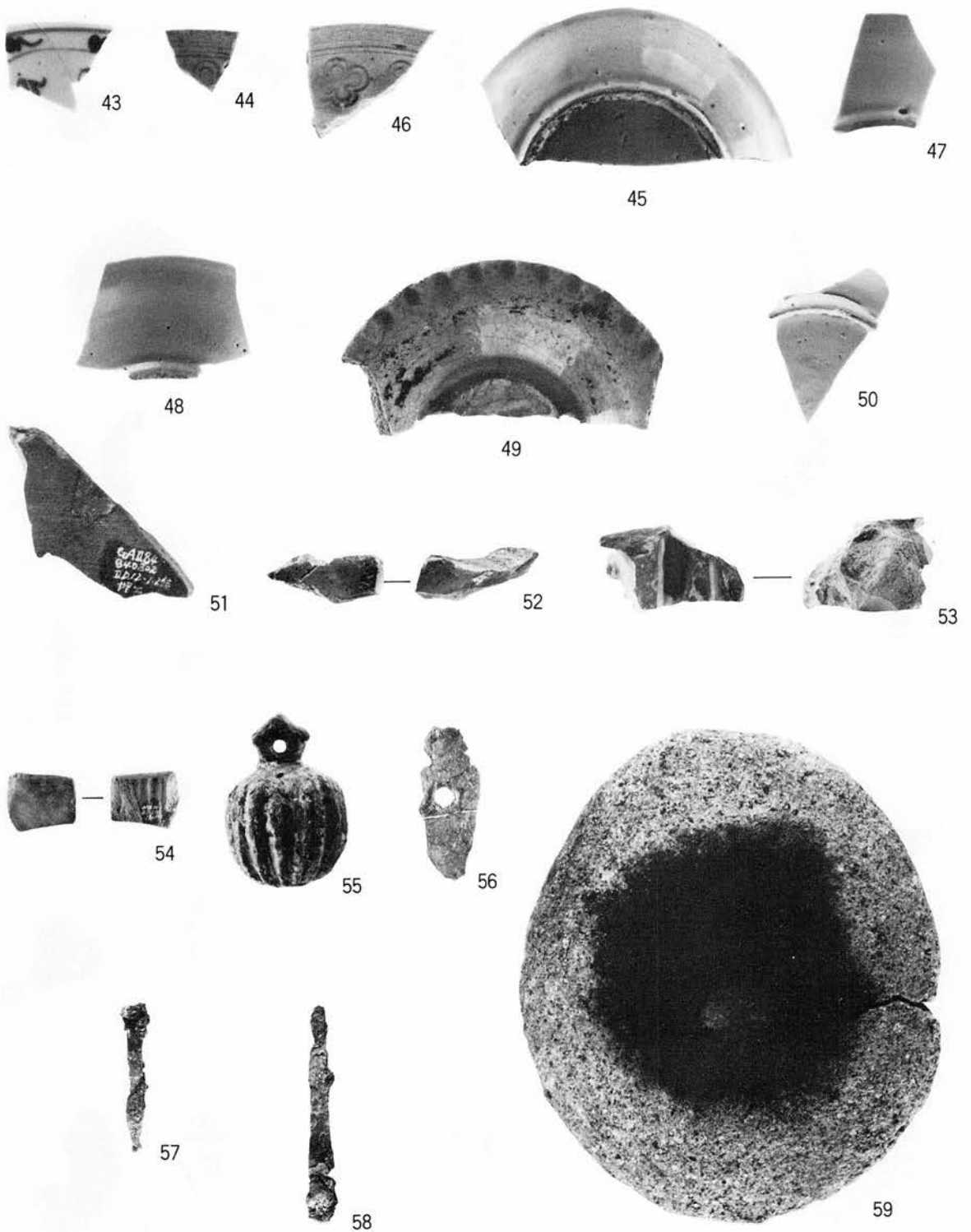


S=1/1

II D10住居跡

S=1/2

写真図版42 住居跡出土遺物③(中・近世)



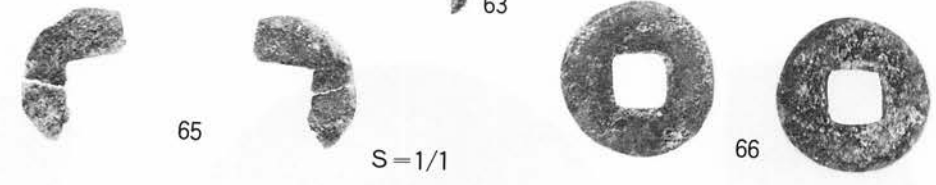
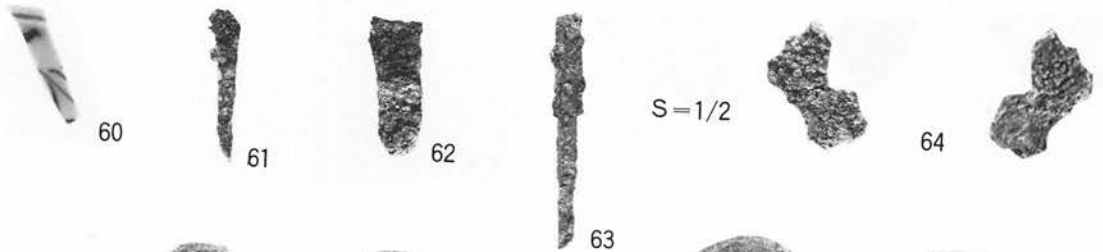
S=1/2

ⅡD12-1 住居跡

S=1/3

写真図版43 住居跡出土遺物④(中・近世)





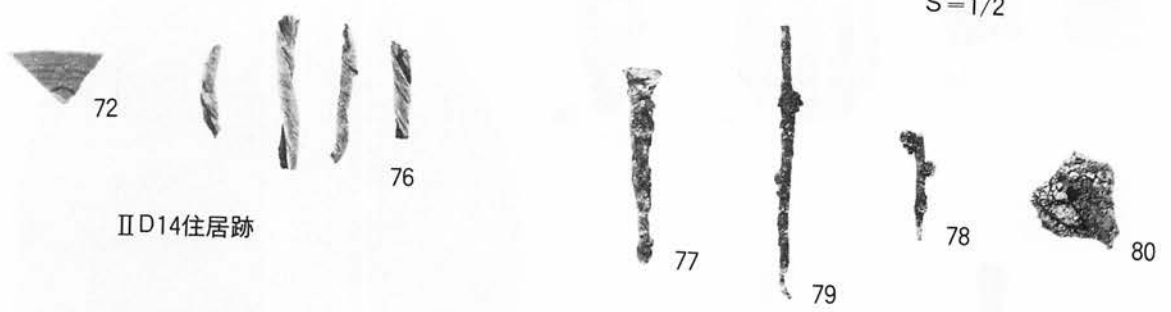
ⅡD12-2 住居跡

64~68 S=1/1  
60~63 S=1/2

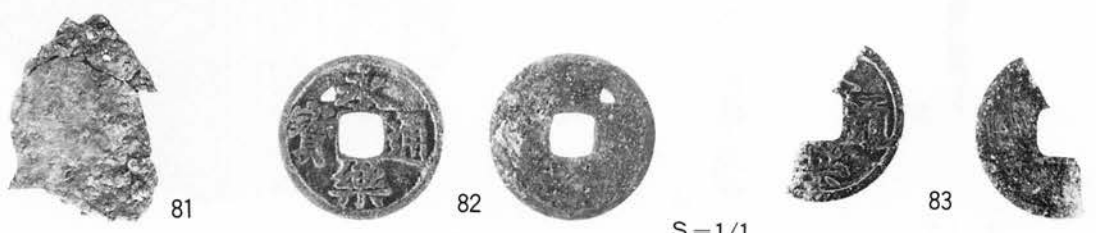


ⅡD13住居跡

S=1/2

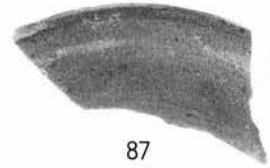
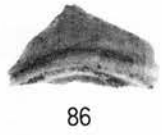


ⅡD14住居跡



ⅡE11住居跡

写真図版44 住居跡出土遺物⑤(中・近世)



84

85

86

87

88

S=1/2



89



90



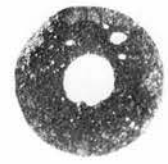
91



92



93



94

S=1/1



95



96



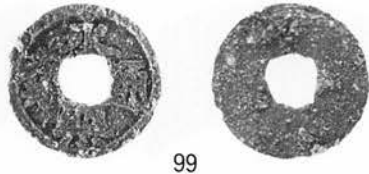
97



98

ⅡF10住居跡

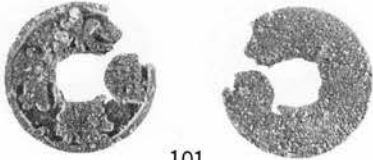
写真図版45 住居跡出土遺物⑥(中・近世)



99



100



101



102



103



104



105



106



107



108



109

ⅡF10住居跡

S=1/1

写真図版46 住居跡出土遺物⑦(中・近世)



110



111



112



113

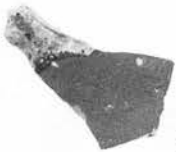


114

ⅡF10住居跡



115



116



117

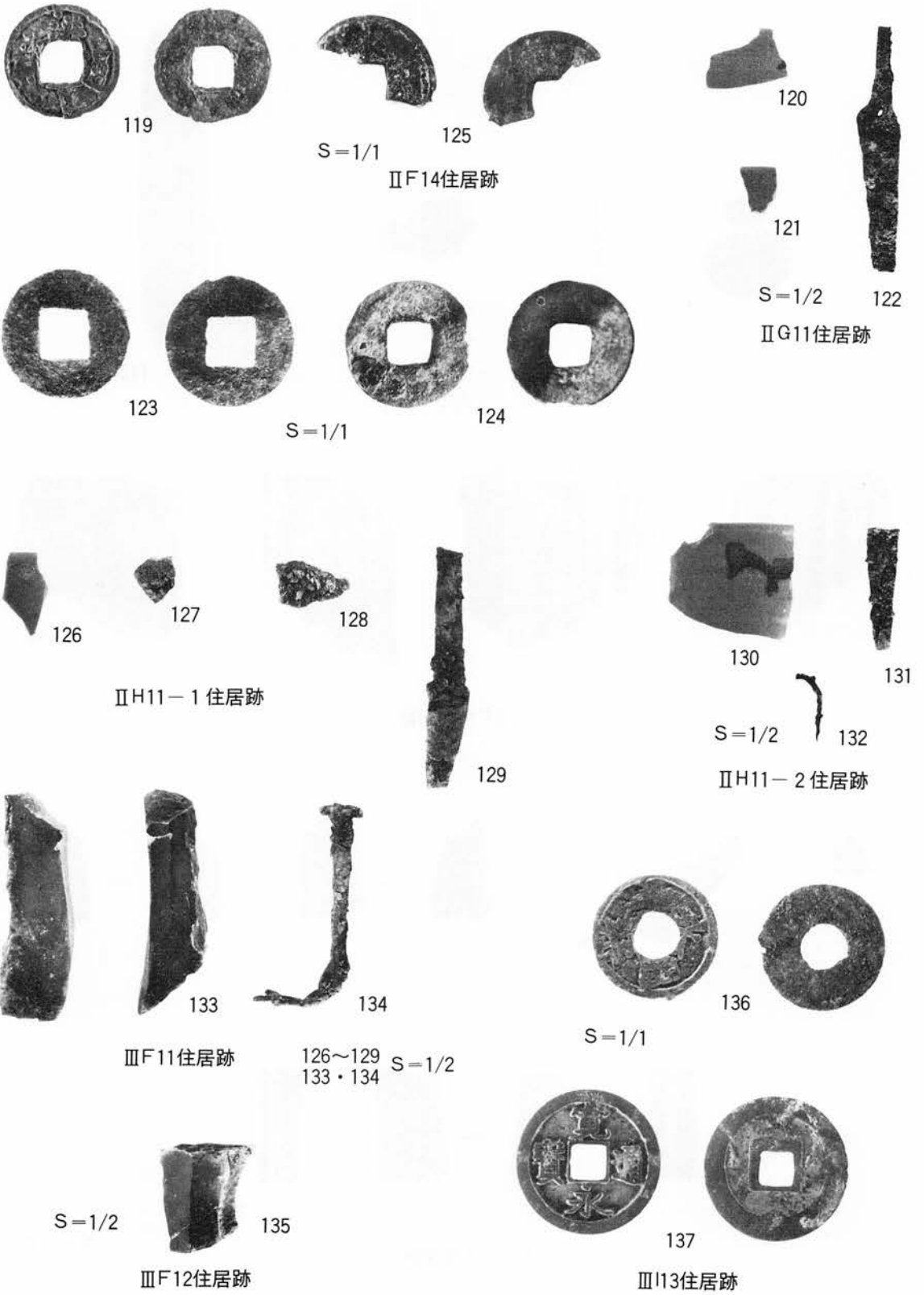


118

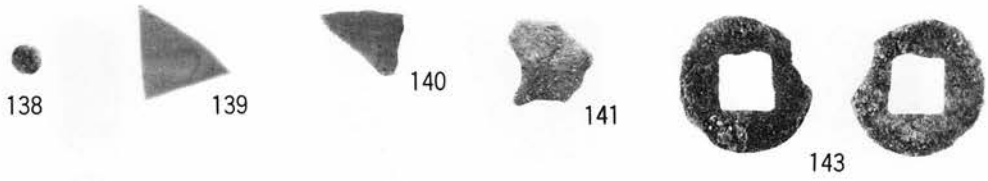
ⅡF13-1 住居跡

S=1/2

写真図版47 住居跡出土遺物⑧(中・近世)



写真図版48 住居跡出土遺物⑨(中・近世)



138

139

140

141

143



142

144

142・143 S=1/1

138~141・144 S=1/2

ⅡC11掘立柱建物跡



145

146

152

147

148



149

150

151

153

154



155

S=1/1

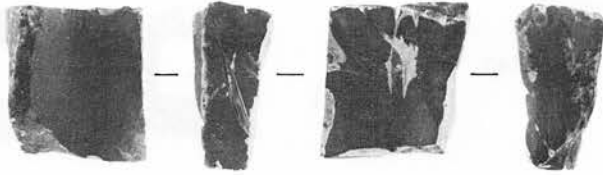
156

149~154 S=1/2

156

ⅢB12住居状遺構

写真図版49 掘立柱建物跡等出土遺物⑩(中・近世)



157



158



159



163

157~159・163 S=1/2



S=1/3

160

S=1/3



161

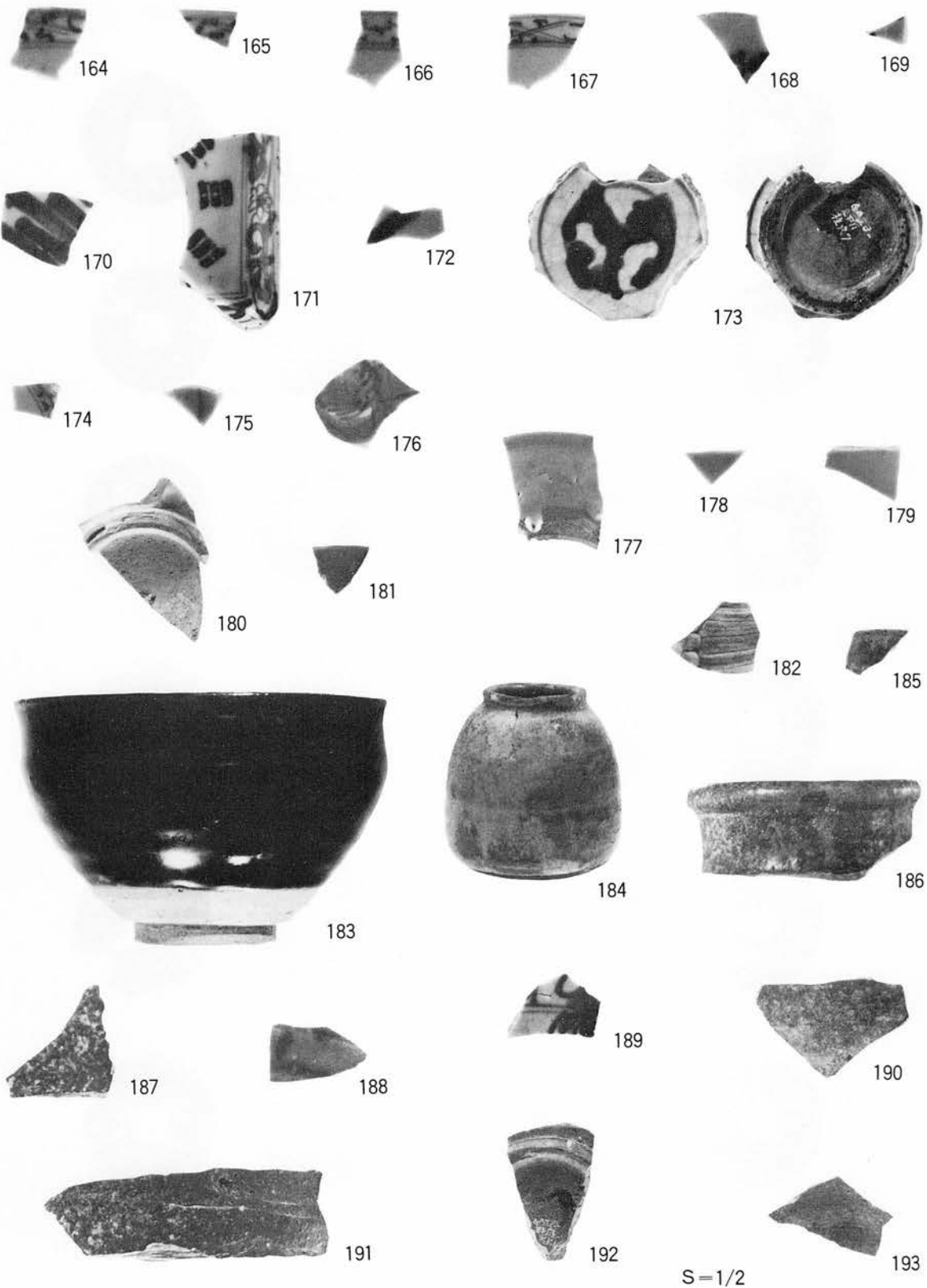


S=1/2

162

ⅢB12住居状遺構

写真図版50 住居跡状遺構出土遺物①(中・近世)

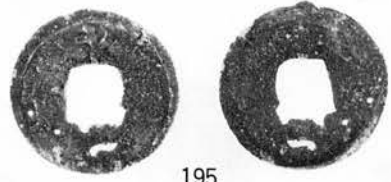


写真図版51 柱穴出土遺物①

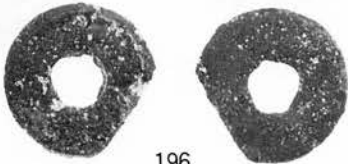




194



195



196



197



198



199



200



201



202



203



204



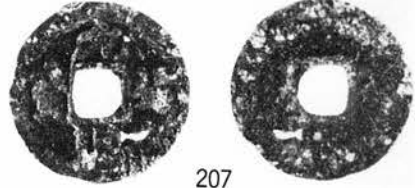
205

S=1/1

写真図版52 柱穴出土遺物②



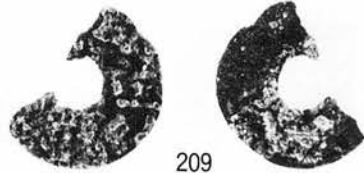
206



207



208



209



210



211



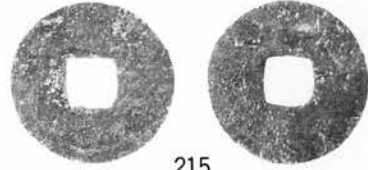
212



213



214



215

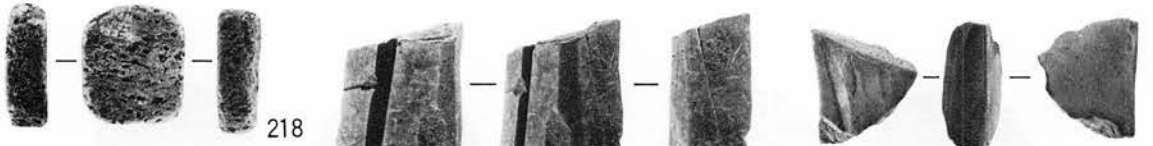


216



217

S=1/1



218

219

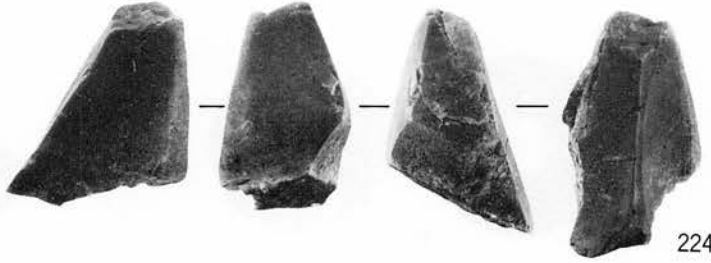
222



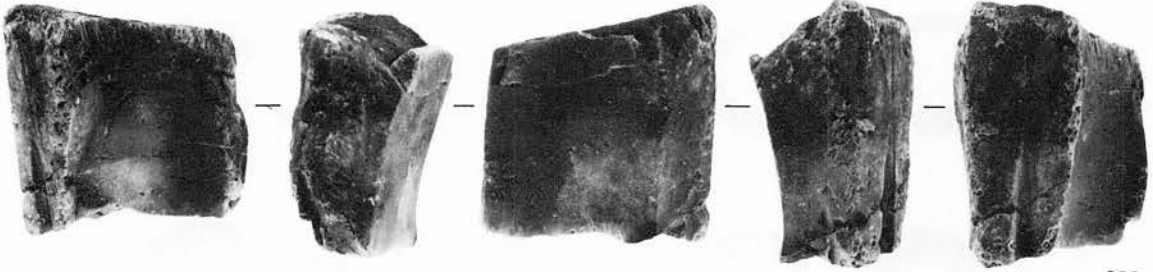
220



221



224



223



226



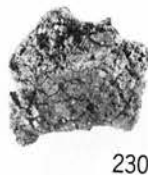
227



228



229



230



232



231



234



235



236

S=1/2



233



225

写真図版54 柱穴出土遺物④



237

I 114土坑



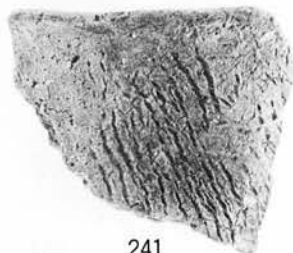
238



239



240



241



243

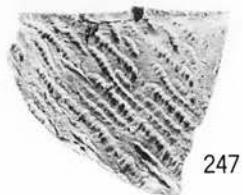


244



242

I J12土坑



247



248



249



245



251



250



246

I J13-2土坑



254

II A14土坑



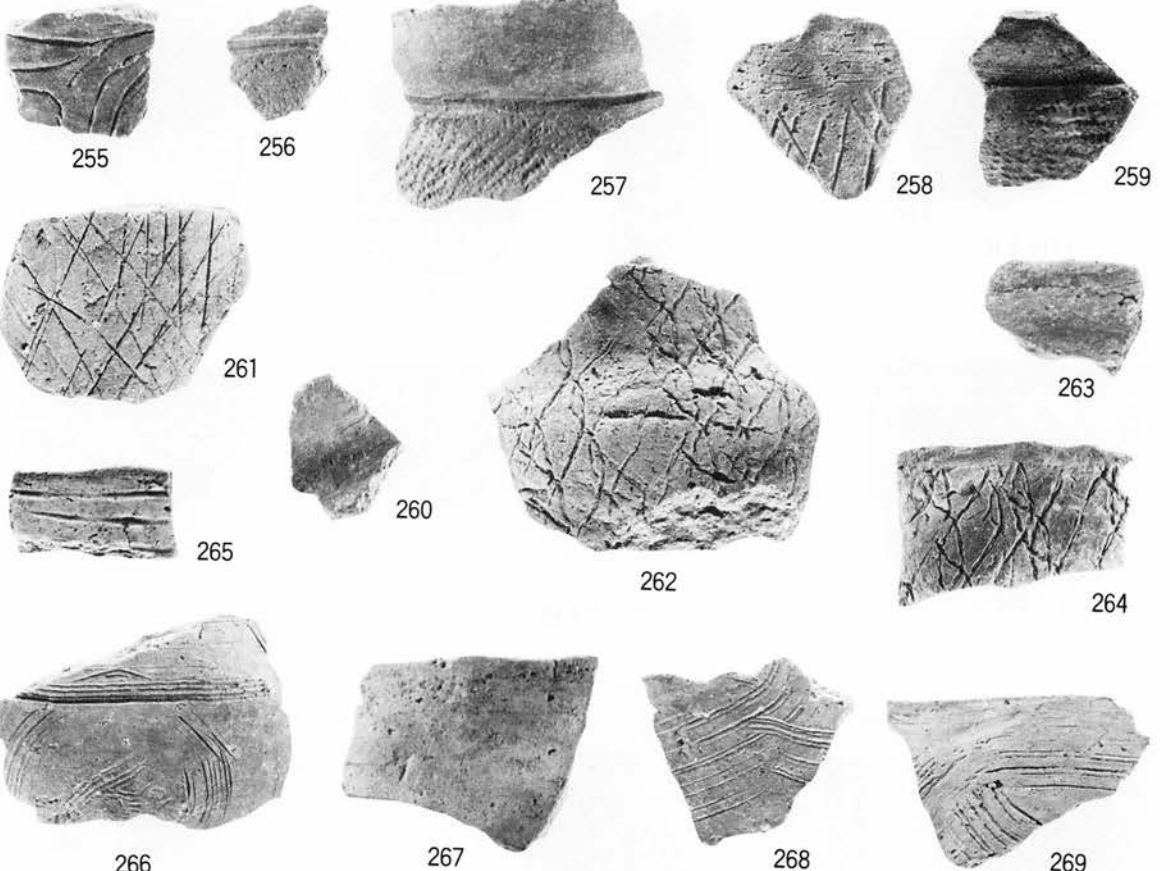
253



252

S=1/2

写真图版55 土坑出土遺物①



ⅡA14土坑



ⅡB13土坑

S=1/3

ⅡD11土坑



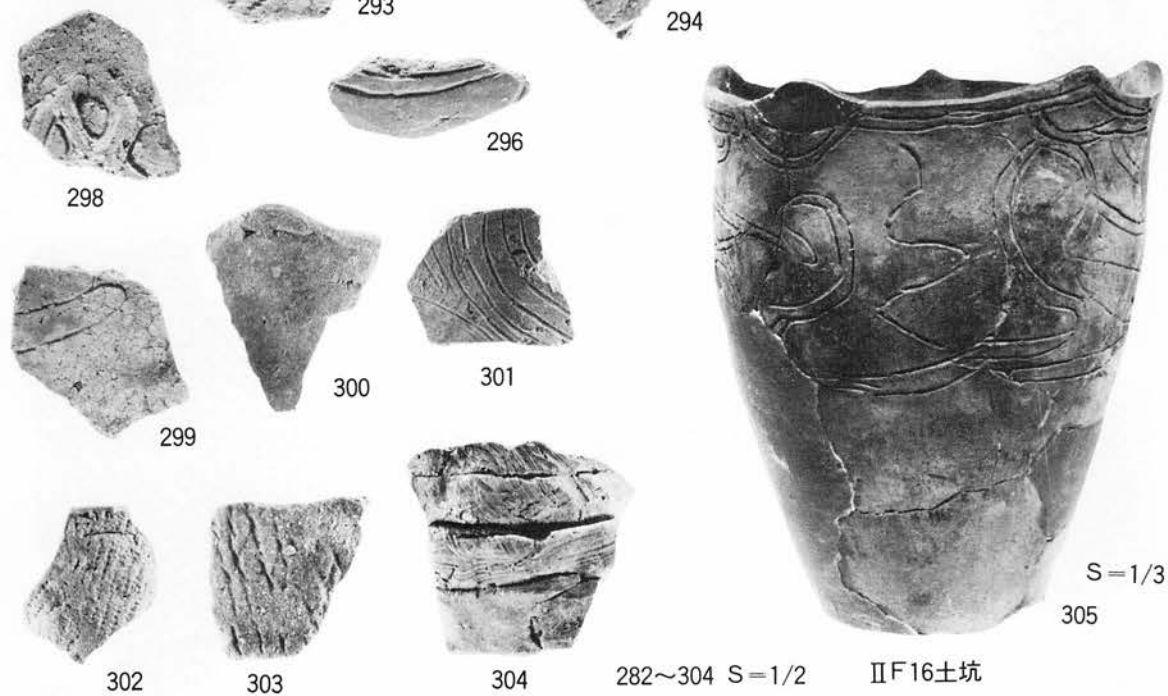
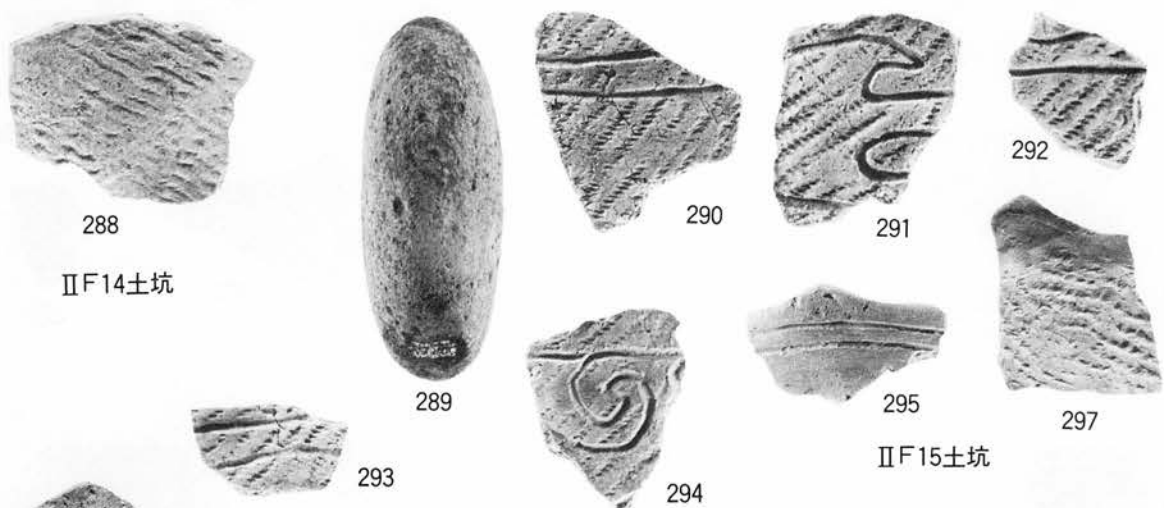
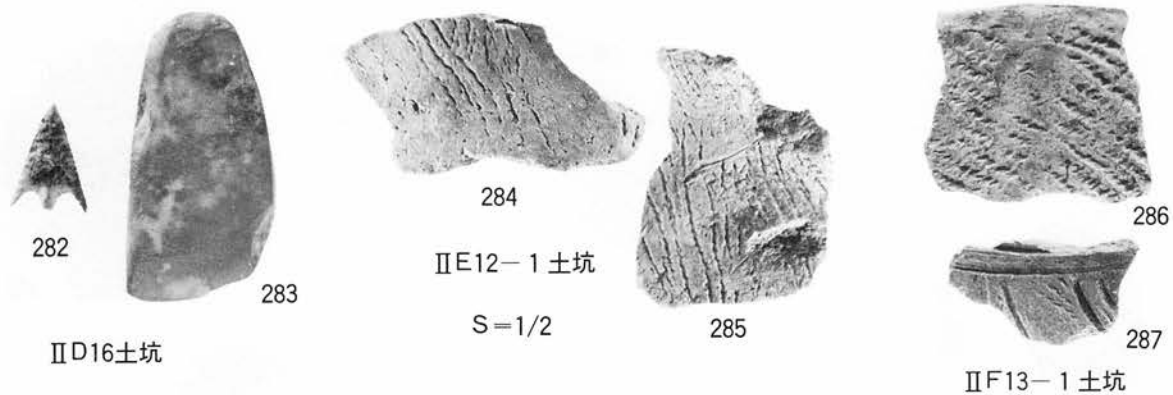
ⅡD12土坑

255~270 S=1/2  
272~281

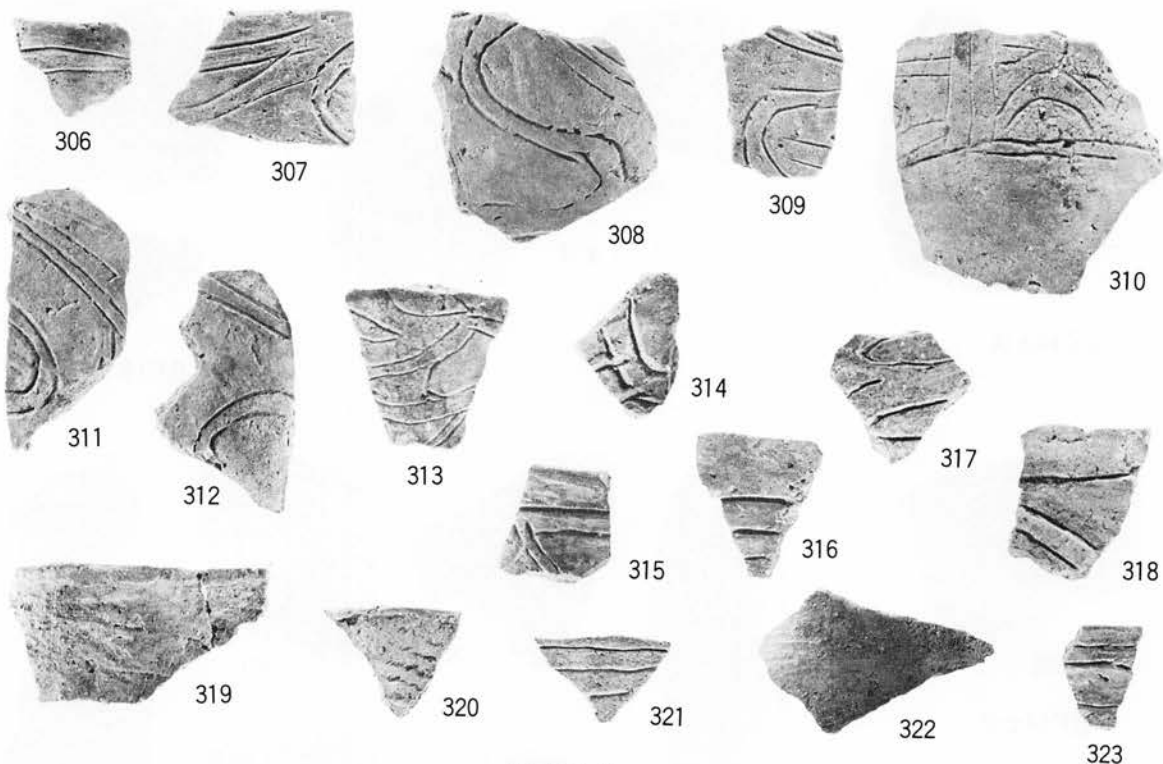


ⅡD13土坑

写真図版56 土坑出土遺物②



写真图版57 土坑出土遺物③

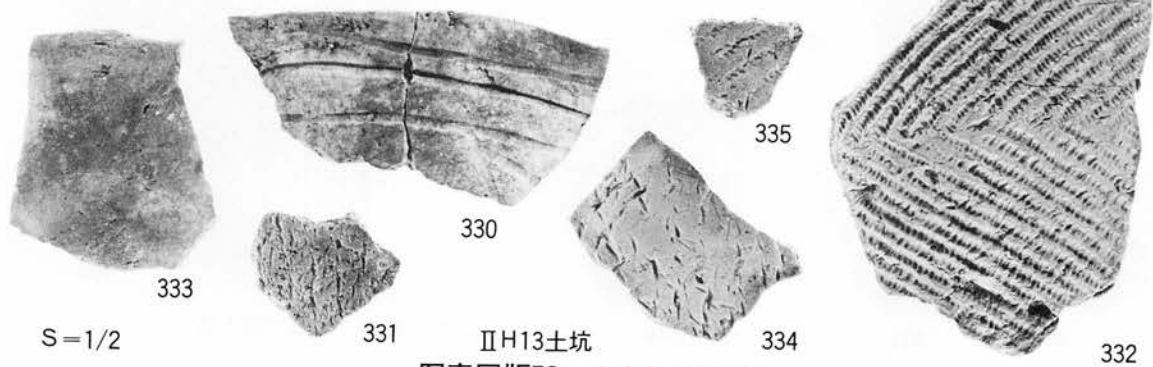


ⅡF16土坑



ⅡG12土坑

ⅡG13土坑



S=1/2

ⅡH13土坑

写真图版58 土坑出土遺物④



336



337



338



339



340



341



342

ⅡJ12-1 土坑



343



344

ⅡJ12-1 土坑



345



346

ⅡJ12-2 土坑

ⅡJ13土坑



347



348

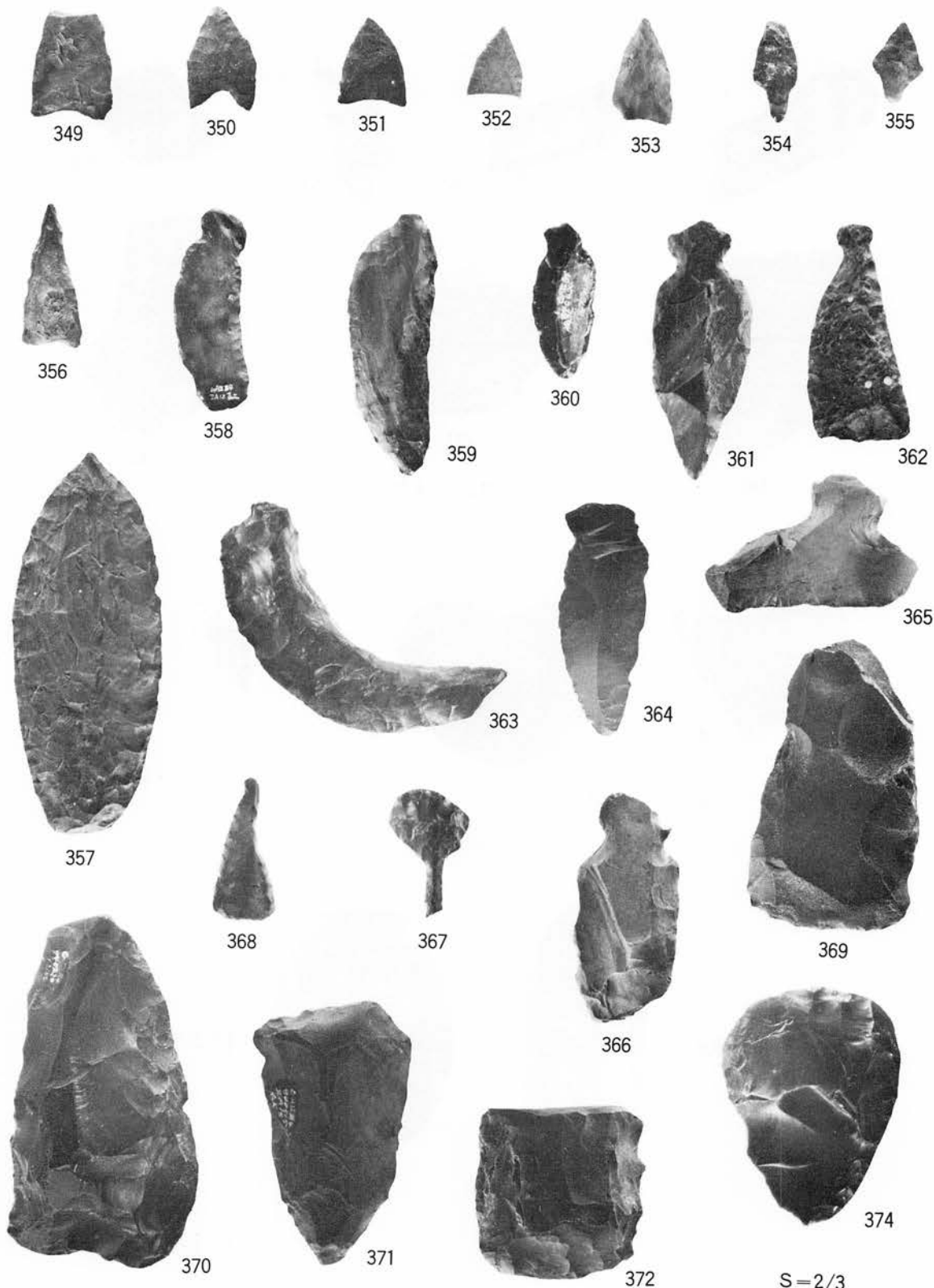
ⅢD21土坑

S=1/2

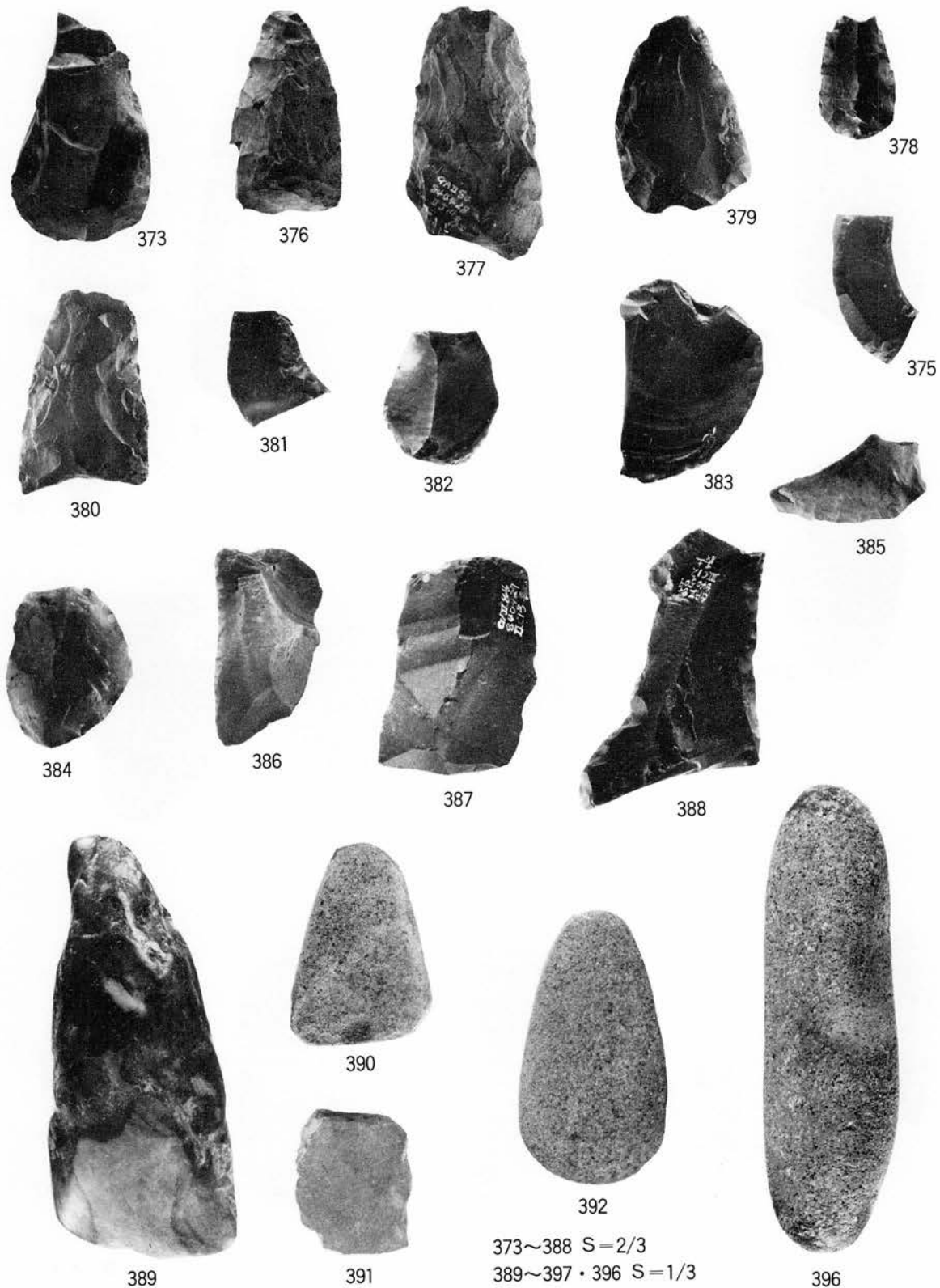
S=1/3

写真图版59 土坑出土遺物⑤





写真図版60 遺構外の遺物(石器)①



写真図版61 遺構外の遺物(石器)②



写真図版62 遺構外の遺物(石器)③



408



409



410



411



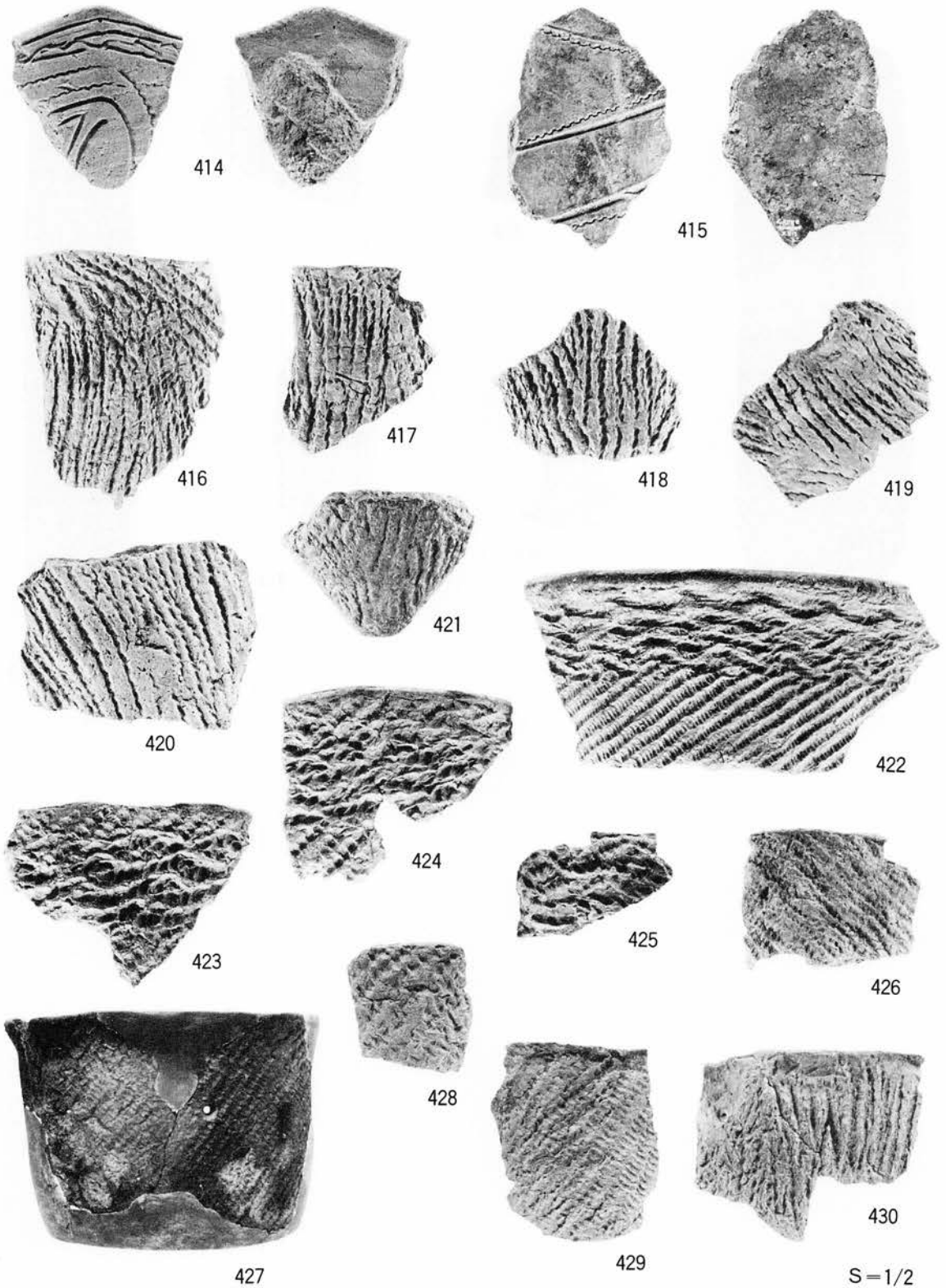
412



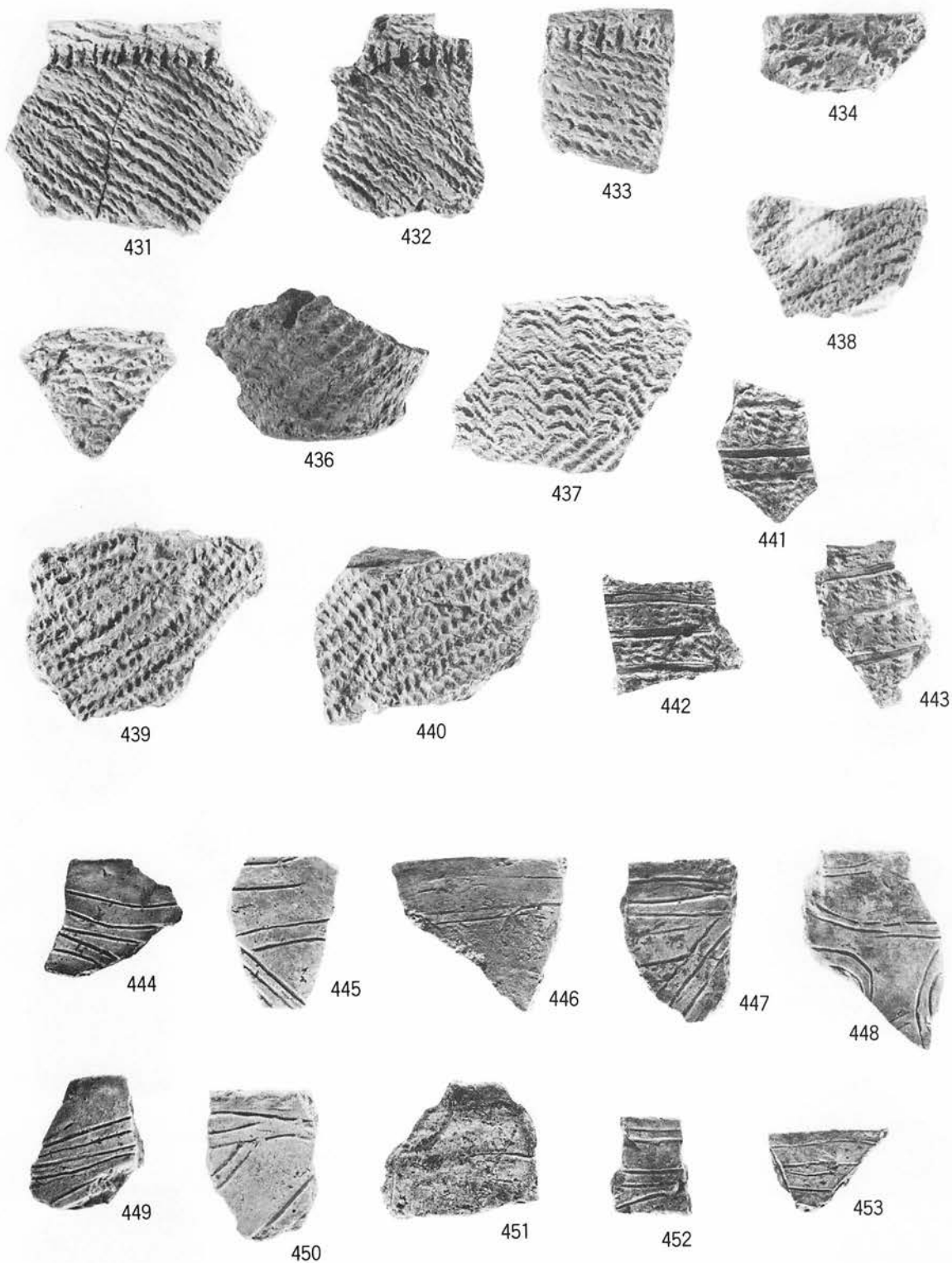
413

S=1/3

写真図版63 遺構外の遺物(石器)④

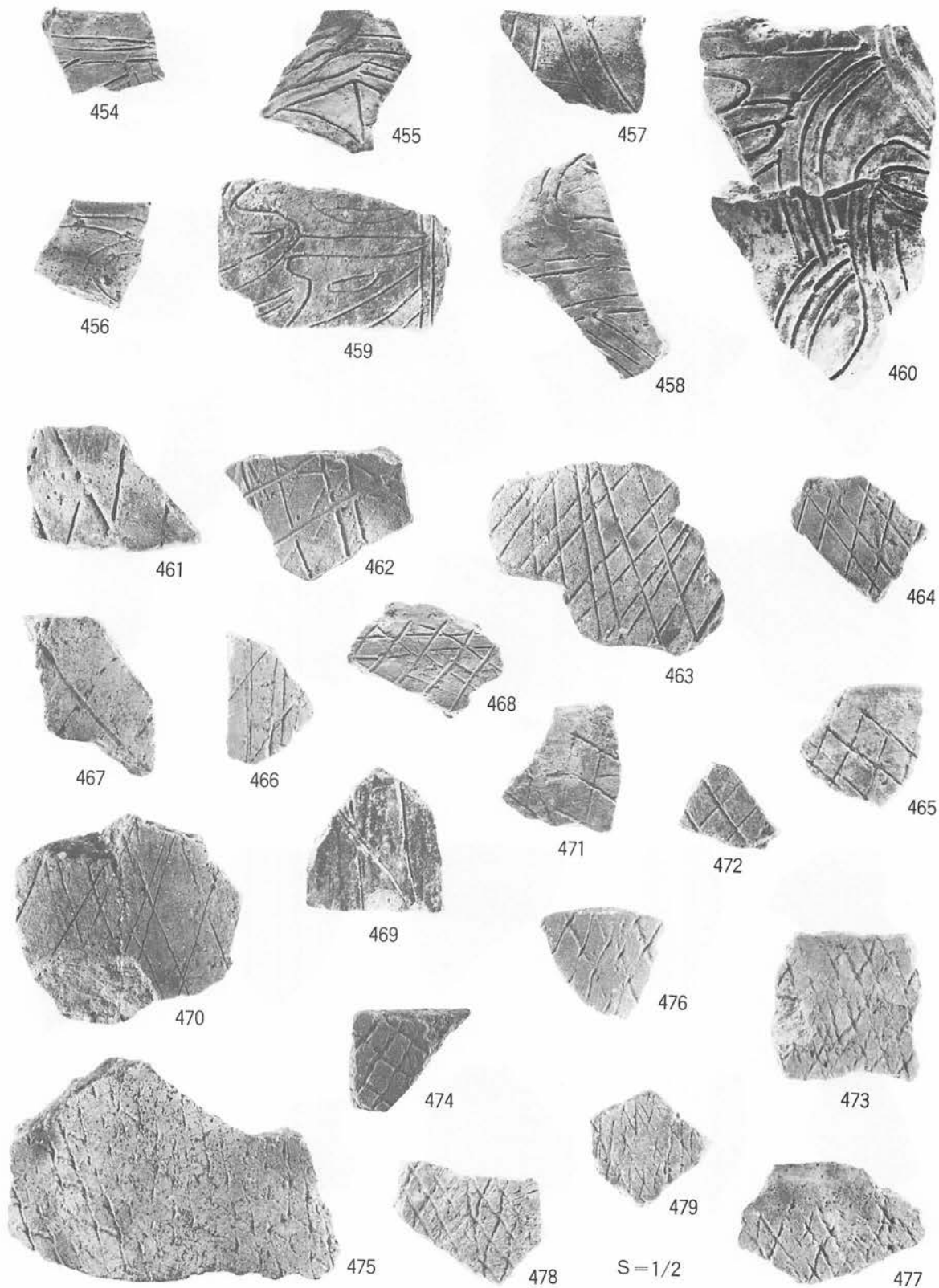


写真図版64 遺構外の遺物(土器)①



S=1/2

写真図版65 遺構外の遺物(土器)②



写真図版66 遺構外の遺物(土器)③



480



481



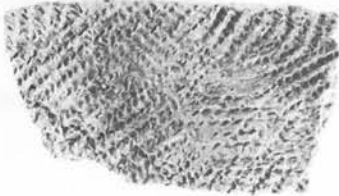
482



483



484



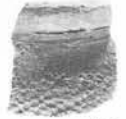
485



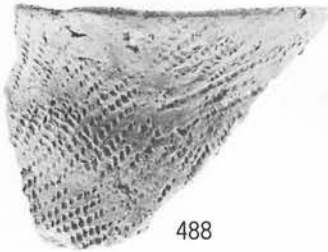
486



492



490



488



491



489



487



493



494



495



496



497



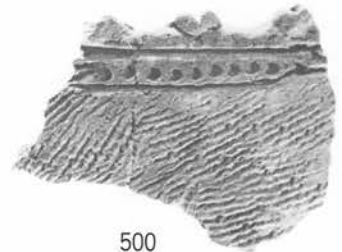
498



499



501

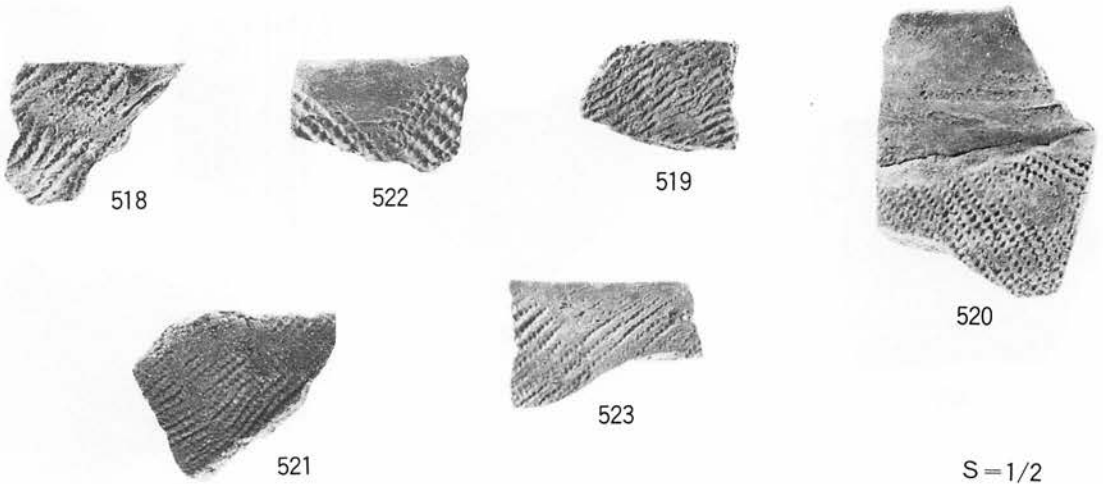
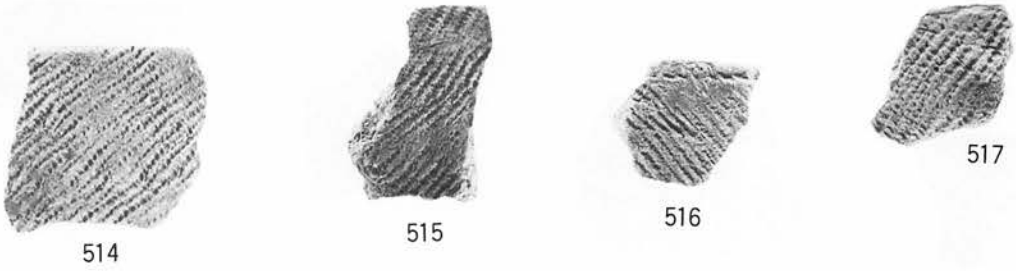
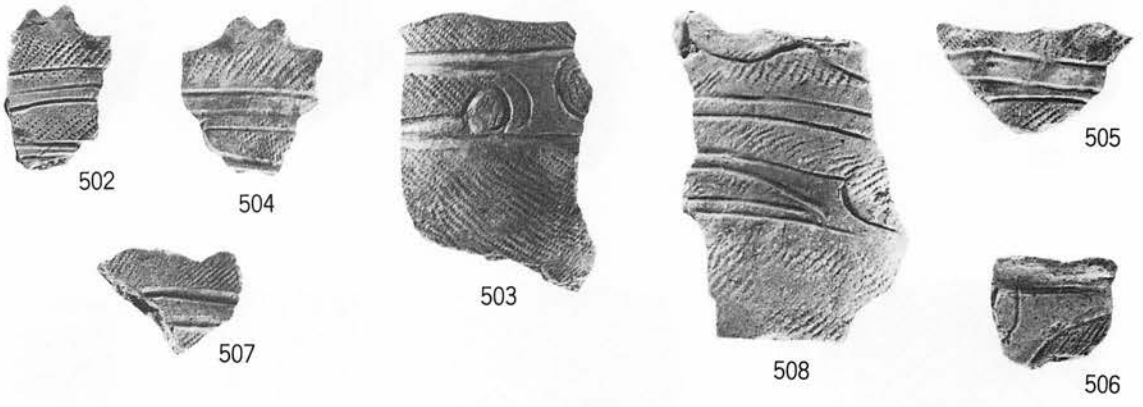


500

S=1/2

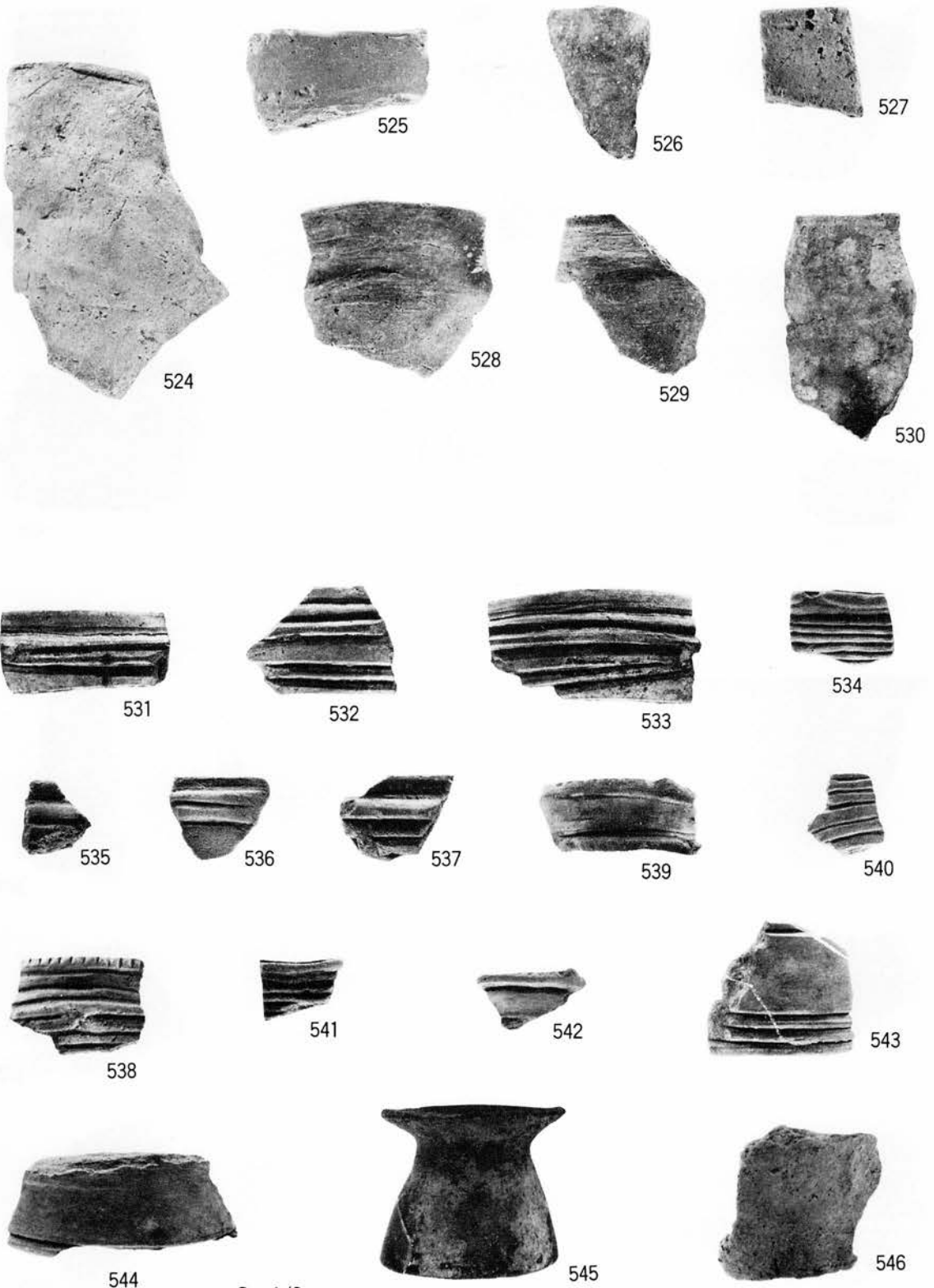
写真図版67 遺構外の遺物(土器)④





S=1/2

写真図版68 遺構外の遺物(土器)⑤



S=1/2

写真図版69 遺構外の遺物(土器)⑥



547



548



549



550



552



551



554



553



556



557



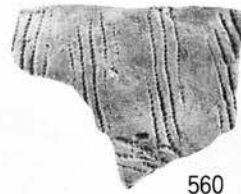
555



558



559



560



561



562



563



564



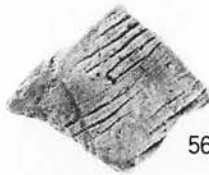
565



566



567



568

S=1/2



569



570

写真図版70 遺構外の遺物(土器)⑦



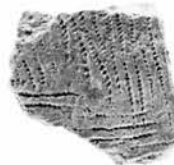
571



572



573



574



575



576



577



578



579



580



581



582



583



584



585



586



587



588



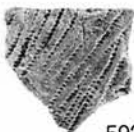
589



590



591



592



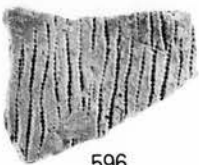
593



594



595



596

S=1/2



597

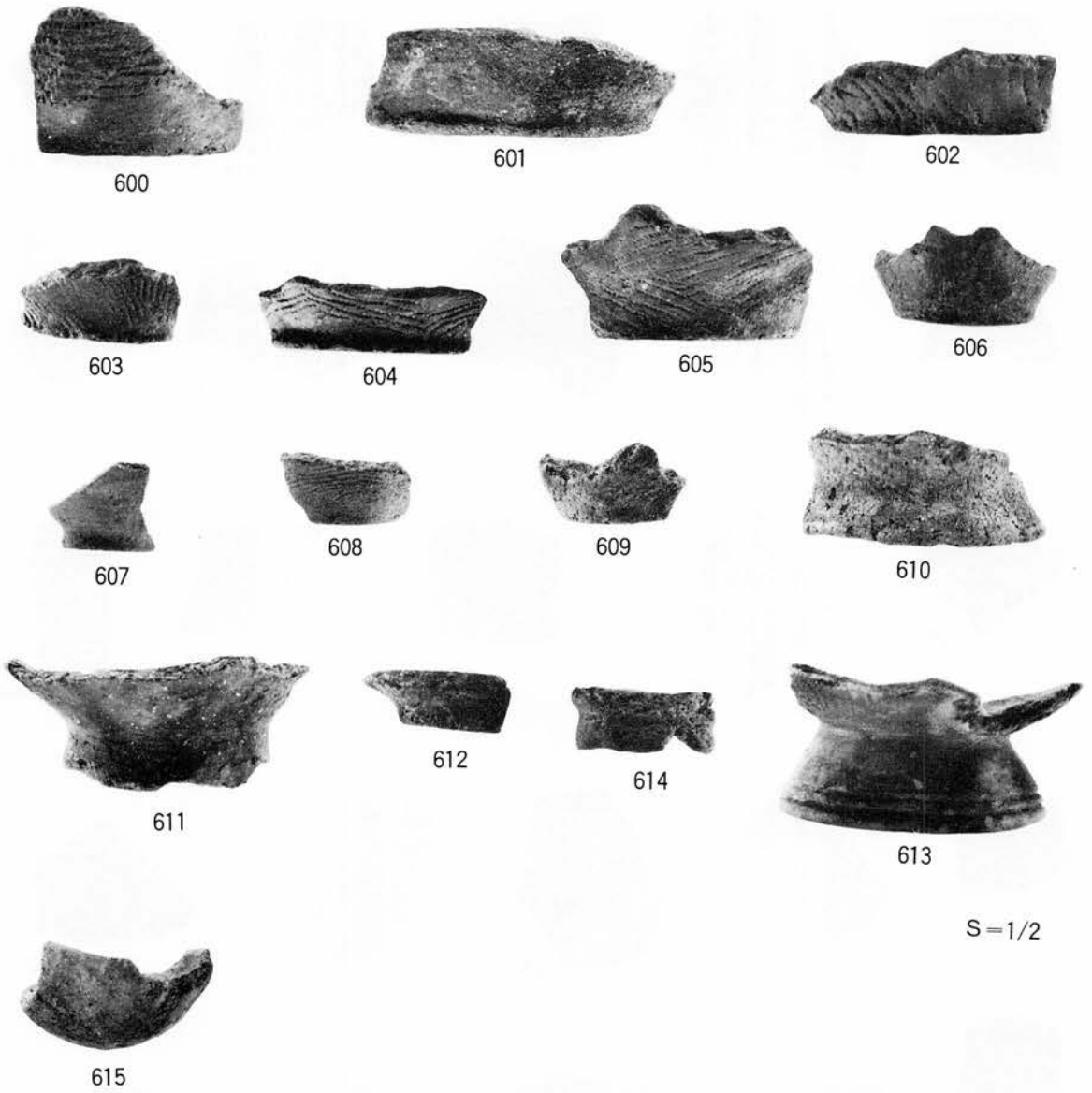


598

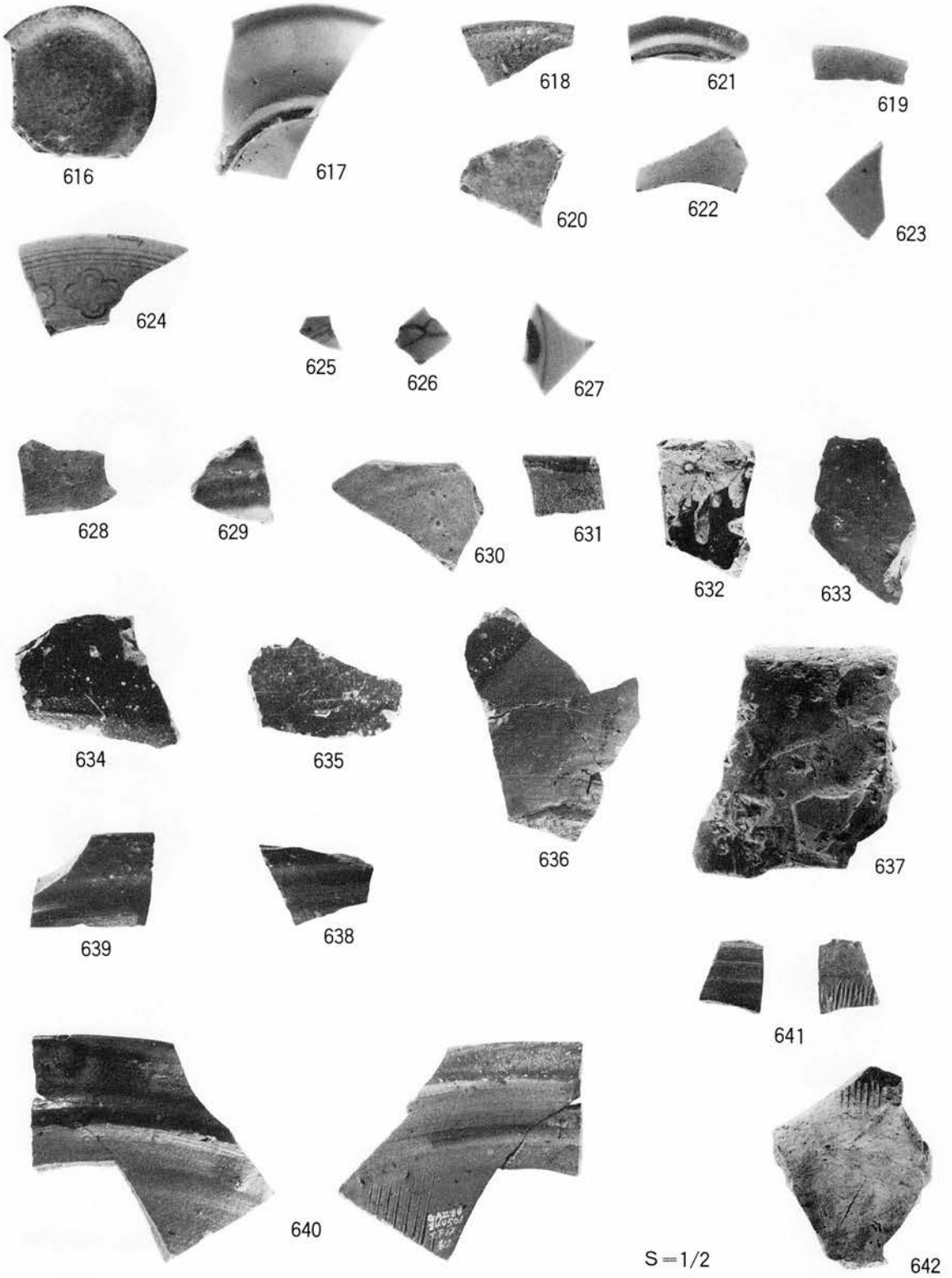


599

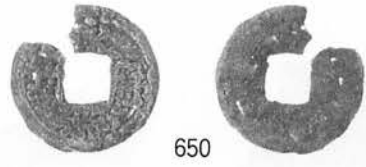
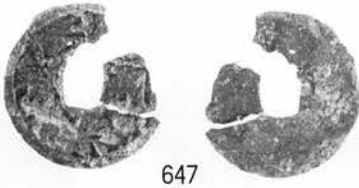
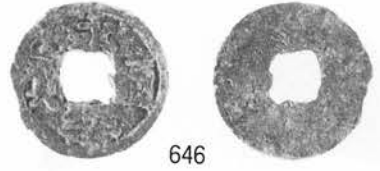
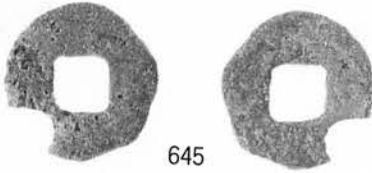
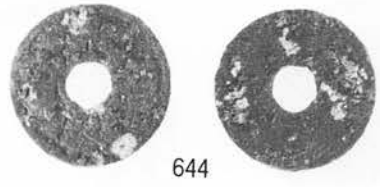
写真図版71 遺構外の遺物(土器)⑧



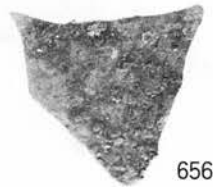
写真図版72 遺構外の遺物(土器)⑨



写真図版73 遺構外の遺物(中・近世)①



643~653 S=1/1  
654~657 S=1/2

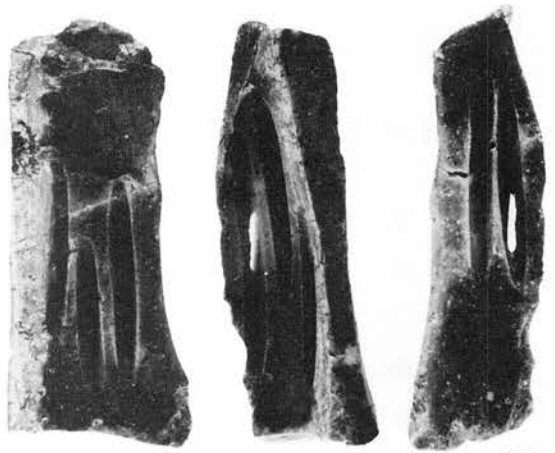


S=1/2

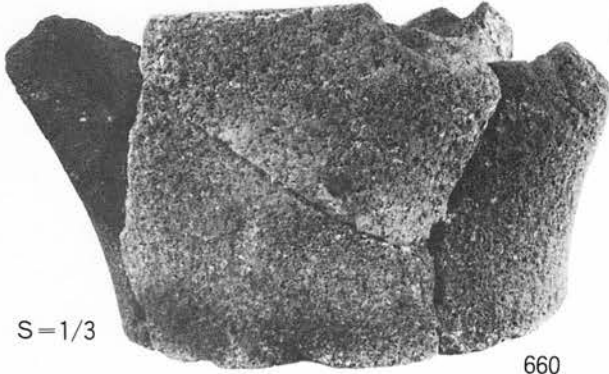
写真図版74 遺構外の遺物(中・近世)②



659



658



S=1/3

660



668

662



665



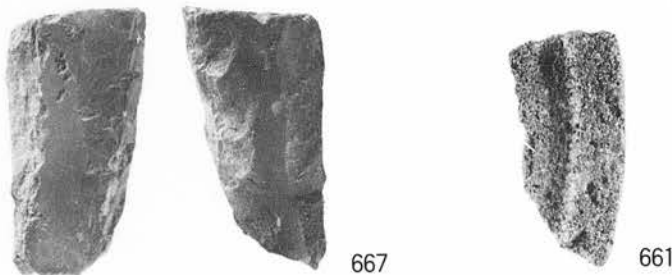
666



663



664



667

661



669

S=1/2

写真図版75 遺構外の遺物(中・近世)③



## 財団法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長 及 川 昌 二  
副 所 長 宮 英 一

## 〔管理課〕

課 長 千 葉 久 夫  
課長補佐 阿 部 詔 夫  
主 事 戸 草 内 幸 男  
〃 立 花 多 加 志  
技 能 員 佐 藤 春 男

## 〔調査課〕

課 長	近 藤 宗 光		
主任文化財専門調査員	昆 野 靖		
文化財専門調査員	片 方 宗 明	文化財専門調査員	光 井 文 行
〃	長 沼 彬	〃	玉 川 英 喜
〃	菊 池 利 和	〃	石 川 長 喜
〃	渡 辺 洋 一	〃	三 浦 謙 一
〃	佐々木 嘉 直	〃	工 藤 利 幸
〃	平 井 進	〃	中 川 重 紀
〃	中 村 良 一	〃	高 橋 与 右 工 門
〃	田 村 壮 一	〃	高 橋 義 介
〃	岩 淵 久	〃	酒 井 宗 孝

## 〔資料課〕

課 長 名 須 川 溢 男  
文化財専門調査員 田 鎖 寿 夫  
〃 佐 々 木 清 文

---

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第94集

## 五庵 II 遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道遺跡発掘調査

印刷 昭和61年1月25日

発行 昭和61年1月31日

発行所 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 岩手県紫波郡都南村大字下飯岡11-185

TEL (0196) 38-9001・9002

印刷所 株式会社 杜陵印刷

〒020-01 盛岡市厨川4丁目2番6号

TEL (0196) 41-8000

---

---